

調布市民福祉ニーズ調査 報告書(案)

令和 8（2026）年 2 月
調布市

目 次

I 調査の概要.....	1
第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 アンケート調査の実施概要.....	1
3 住民懇談会の実施概要.....	3
第2章 報告書の見方.....	7
1 本報告書を読むに当たっての留意事項.....	7
2 居住地域の分類について.....	8
II アンケート調査の結果.....	9
第1章 アンケート調査の調査項目.....	9
第2章 市民（18 歳以上）調査結果.....	14
1 あなた（ご本人）についておたずねします.....	14
2 日頃のコミュニケーションについておたずねします.....	21
3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします.....	29
4 暮らしのことについておたずねします.....	39
5 市民の権利を守る取組についておたずねします.....	53
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします.....	56
第3章 高齢者（65 歳以上）調査結果.....	72
1 あなた（ご本人）についておたずねします.....	72
2 日頃のコミュニケーションについておたずねします.....	75
3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします.....	81
4 就労についておたずねします.....	90
5 健康増進、権利擁護の取組についておたずねします.....	92
6 暮らしのことについておたずねします.....	97
7 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします.....	107
第4章 障害者（18 歳以上）調査結果.....	122
1 あなた（ご本人）についておたずねします.....	122
2 相談支援についておたずねします.....	130
3 日頃のコミュニケーションについておたずねします.....	133
4 災害時の対策についておたずねします.....	139
5 暮らしについておたずねします.....	142
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします.....	159
7 デジタルの活用についておたずねします.....	177
8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします.....	184
9 ご家族におたずねします.....	194
第5章 障害児（18 歳未満）の保護者調査結果.....	199
1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします.....	199
2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします.....	201

3	保護者の方に、相談支援についておたずねします	211
4	保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします	215
5	保護者の方に、災害時の対策についておたずねします	218
6	保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	219
7	保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします	224
8	保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします	227
第6章	調査問での共通質問	234
1	日頃のコミュニケーション	234
2	市民同士の支え合い、地域活動	238
3	相談支援	242
4	活動機会、スポーツ	245
5	外出、ひきこもりの状況	247
6	市民の権利を守る取組	251
7	誰もが暮らしやすいまちづくり	253
8	災害時の対策	262
9	デジタルの活用	263
10	市の障害者福祉施策	264
11	介助者のこと	266
Ⅲ	住民懇談会の結果	268
1	緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域	268
2	第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域	275
3	上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域	281
4	第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域	287
Ⅳ	調査のまとめ	295
第1章	地区別のまとめ	295
第2章	アンケート調査から見えた課題	296
第3章	住民懇談会から見えた課題	297

I 調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、国や調布市の動向を踏まえ、アンケート調査及び住民懇談会により市民の生活実態や福祉に対する意識、意見、ニーズ等を把握し、次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」を策定する際の基礎資料等とすることを目的とする。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査方法

- 調査票の郵送配付
- 調査票による郵送回答／専用ウェブサイトからのインターネット回答（回答者が選択）
- 督促礼状を対象者全員に1回送付

(2) 調査期間

令和7年10月20日（月）～ 令和7年11月4日（火）

(3) 調査の一覧

調査名	対象	調査数	回答数	回答率	(参考)
			(うち、インターネット)		令和4年度
誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の市民（市内在住）	2,000人	924人 (433)	46.2% (21.7)	40.8% (10.7)
高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	65歳以上の市民（市内在住）	1,000人	633人 (89)	63.3% (8.9)	60.2% (3.6)
障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証所持者	2,700人	1,408人 (449)	52.1% (16.6)	54.5% (8.6)
	①身体障害者手帳所持者（64歳以下）	400人	238人 (91)	59.5% (22.5)	53.3% (13.8)
	②身体障害者手帳所持者（65歳以上）	400人	190人 (30)	47.5% (7.5)	59.3% (2.0)
	③愛の手帳所持者	500人	240人 (56)	48.0% (11.2)	60.7% (4.7)
	④精神障害者保健福祉手帳所持者	800人	392人 (151)	49.0% (18.9)	44.3% (12.3)
	⑤難病患者	600人	348人 (121)	58.0% (20.2)	57.3% (9.7)
子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳未満の障害者手帳や児童福祉通所受給者証所持者の保護者	300人	185人 (118)	61.7% (39.3)	65.0% (20.0)
合計		6,000人	3,150人 (1,089)	52.5% (18.2)	52.2% (8.0)

3 住民懇談会の実施概要

(1) 実施概要

実施目的	地域住民，高齢者，障害者の生活実態や福祉に対する意識・意見を把握し，今後の市の福祉施策や次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」の策定の基礎資料等とすることを目的に，地域住民等が日頃の想いや感じていることを話し合い，考え合う場として開催し，住民主体の交流活動の場等を充実させていく契機とする。
実施回数	全 4 回（1 回×2 圏域）
実施時間	2 時間／回
実施手法	○少人数に分かれたグループディスカッション形式の懇談会を実施 ○KJ法により，テーマごとに模造紙にまとめて結果を共有

(2) 開催日程・会場等

圏域	日時	会場
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	令和 7 年 11 月 22 日(土) 午前 10 時～正午	総合福祉センター (小島町 2-47-1) <2 階 201～203 会議室>
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	令和 7 年 11 月 22 日(土) 午後 2 時～午後 4 時	
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	令和 7 年 11 月 9 日(日) 午前 10 時～正午	
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	令和 7 年 11 月 9 日(日) 午後 2 時～午後 4 時	

(3) 参加人数

圏域	地域の活動団体等	自治会	地区協議会	民生委員・児童委員	福祉関係機関	地域住民	その他	合計（人）
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	3	1	1	4	6	4	－	19
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	1	－	2	6	2	1	1	13
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	2	－	4	2	5	2	－	15
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	6	－	2	1	5	5	－	19
合計	12	1	9	13	18	12	1	66

(4) 募集方法

方法	概要
広報	- 市報（令和7年10月5日号） - 市ホームページ（令和7年10月8日～11月22日）
案内チラシ	- 調布市社会福祉協議会（地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員）を通じて配布 - アンケート調査票に同封（令和7年10月16日発送）
その他	- 民生児童委員協議会に周知 - 地域福祉推進会議委員に周知 - 高齢者福祉推進協議会委員に周知 - 自立支援協議会全体会に周知 - 地域活動関係者等に個別に周知

☆案内チラシ



(5) 懇談会のテーマ

懇談会のテーマ	誰もが地域で支え合い安心して暮らすための「つながり」ってどんなもの？
話し合う3つのテーマ	①「つながりがあったよかったことは？（ご自身の経験など）」 ②「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」 ③「②の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

(6) 進行プログラム

プログラム	進行内容
1	開会
2	開会あいさつ
3	オリエンテーション（懇談会の趣旨等）
4	地域福祉コーディネーターによる活動の事例紹介
5	オリエンテーション（懇談会の進行説明）
6	懇談会 テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」
	懇談会 テーブルワーク 2 「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」
	懇談会 テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
7	各テーブルによるワーク内容の発表
8	講評・閉会あいさつ
9	住民懇談会 終了

第2章 報告書の見方

1 本報告書を読むに当たっての留意事項

●「回答者数」について

それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN (Number of cases), それ以外の場合にはnと表記している。

●図表の単位について

回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。

なお、回答者が1つ回答することのできる質問(単数回答)については、％の合計が100.0%になるように調整している。また、回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、％の合計は100.0%にならない場合がある。

●図表における選択肢について

図表の記載に当たっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。省略していない選択肢は、「資料編」の調査票を参照のこと。

●集計方法について

この報告書では、以下の3つの集計を行っている。

①全体集計

回答者全体、又は質問に該当する人全体のみで集計した結果である。

②クロス集計

上記①の全体集計をさらに男女や年代ごとに詳細に集計した結果である。なお、集計の柱となる項目の「無回答」は掲載を省略している。したがって、集計の柱となる項目の回答者数の合計は、全体と一致しない。

③自由回答の整理

自由回答は、項目ごとに分け件数を数えた後、主な意見を抜粋して掲載している。

●クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表で網掛けしている項目は、最も回答の多かった項目である。

●経年比較について

経年比較は過去の調査との比較である。なお、平成19年度から平成28年度までの調査対象は64歳以下であったが、令和元年度から65歳以上も調査対象に含むこととした。そのため、令和元年度以降の調査結果は64歳以下の回答を抽出したもの(n)とし、必要に応じて全体(N)と併せて掲載している。また、令和7年度も65歳以上を調査対象に含むため、回答者のうち、60歳代以下(65～69歳を含む)に絞って再集計した結果を用いて分析している。

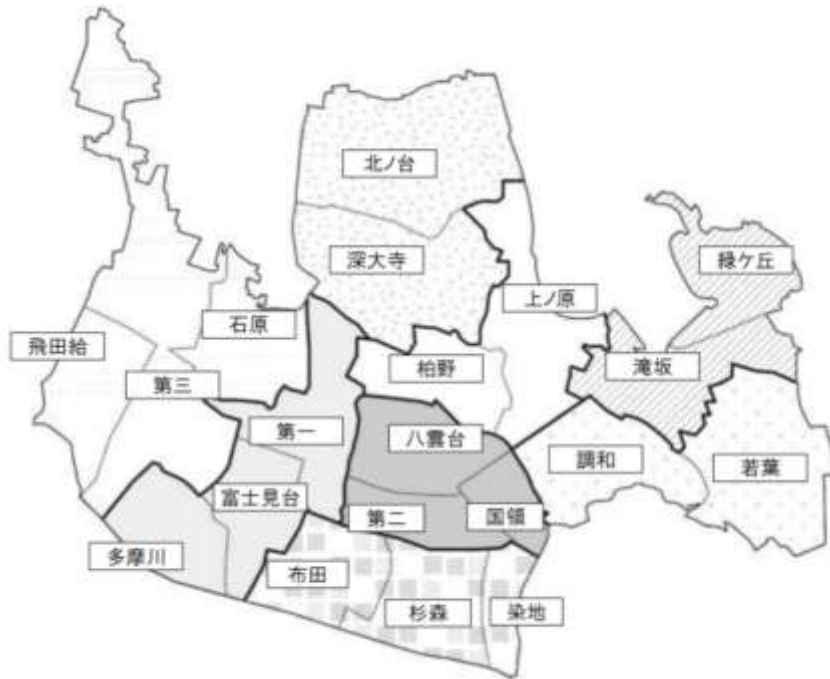
2 居住地域の分類について

市内を8つの福祉圏域に区分している。

なお、実際の福祉圏域は、小学校区を基礎としているため、地番まで区分されている地区もあるが、本調査では、下記表に掲げる地区により集計している。

■福祉圏域の地域区分

下記の□内の記載は小学校区の名称



福祉圏域名	福祉圏域に属する地区			
緑ヶ丘・滝坂 小学校地域	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目	緑ヶ丘	仙川町	
	西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目	若葉町1丁目		
若葉・調和 小学校地域	東つつじヶ丘3丁目	菊野台	入間町	
	西つつじヶ丘4丁目	若葉町2丁目, 3丁目		
上ノ原・柏野 小学校地域	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目	調布ヶ丘3丁目	柴崎	
	深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目	深大寺東町3丁目, 4丁目		
北ノ台・深大寺 小学校地域	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目	深大寺北町		
	深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目	深大寺南町4丁目, 5丁目		
第二・八雲台・国領 小学校地域	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目	佐須町3丁目		
	布田2丁目, 3丁目	調布ヶ丘2丁目	八雲台	
染地・杉森・布田 小学校地域	国領町6丁目, 7丁目	布田5丁目, 6丁目		
	多摩川6丁目, 7丁目	染地		
第一・富士見台・多摩川 小学校地域	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目	調布ヶ丘1丁目, 4丁目		
	布田1丁目, 4丁目	深大寺元町1丁目	下石原1丁目	小島町
第三・石原・飛田給 小学校地域	上石原	富士見町	西町	
	下石原2丁目, 3丁目	飛田給	野水	

Ⅱ アンケート調査の結果

第1章 アンケート調査の調査項目

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

市民（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	職業
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面毎）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い、地域活動	問12	①手助けしてほしいこと，②手助けできること
	問13	助け合いを後押しする取組
	問14	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向
	問15	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 暮らしのこと	問16	経済的に困った経験の有無
	付問	その原因（困っている，困ったことがある方）
	問17	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問18	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問19	複合的な課題を抱えた世帯の認知状況
	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	どこに相談したらいいかわからない生活上の困りごとの有無
	付問	困りごとの内容（あると答えた方）
	問22	地域の中での不安や課題
5 市民の権利を守る取組	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない，わからない方）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問25	災害時の不安や心配ごと
	問26	地域のつながりに対する考え方
	問27	市内のバリアフリー化の状況
	問28	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	更生支援（再犯防止）関係者の認知度
	問31	更生支援（再犯防止）に必要な取組
	問32	今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）
	問33	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

高齢者（65 歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	介護支援の有無
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面毎）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い、地域活動	問12	①手助けしてほしいこと、②手助けできること
	問13	①手助けした経験、②手助けしてもらった経験
	問14	助け合いを後押しする取組
	問15	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況、②今後の取組意向
	問16	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 就労	問17	就労状況
	付問	職業に就いた経緯（会社等で働いている人）
	問18	就業理由
	問19	高齢者の就労に必要な要件
5 健康増進、権利擁護の取組	問20	認知症予防、フレイル予防の取組状況
	問21	人生のエンディングに向けた事柄 ①認知度、②活用意向
	問22	認知症対策の取組
	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない、わからない方）
6 暮らしのこと	問25	外出の目的
	付問	外出の移動手段
	問26	コロナ禍後の暮らしへの影響
	問27	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問28	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問29	困ったときの相談相手（人・機関）
	問30	どこに相談したらいいかわからない困りごとの内容
	問31	サードプレイス（居場所）の有無
	問32	サードプレイス（居場所）の必要性、希望
7 誰もが暮らしやすいまちづくり	問33	地域の暮らしの満足度
	問34	高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度
	問35	市内のバリアフリー化の状況
	問36	共生社会の充実のための法律や考え方、条例の認知度
	問37	今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）
	問38	介護者支援策への意向
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

障害者（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	回答者
	問2	性別
	問3	年齢
	問4	居住地域（福祉圏域）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問8	病気や障害の種類
2 相談支援	問9	困ったときの相談相手（人・機関）
	問10	医療機関の受診で困ること
	問11	今後の居住形態の意向
3 日頃のコミュニケーション	問12	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問13	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
4 災害時の対策	問14	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問15	緊急時の情報入手先
5 暮らしのこと	問16	現在の就労状況
	問17	障害や病気を周囲に伝えたか
	問18	今後の就労意向
	問19	就労の支援策
	問20	生活上の活動機会の有無
	問21	スポーツ・運動をする頻度
	問22	スポーツ・運動をする希望場所
	問23	スポーツ・運動の実施の為に必要な支援
	問24	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問25	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問26	住みやすさの評価
	問27	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問28	外出の移動手段
	問29	市内のバリアフリー化の状況
	問30	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問31	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問32	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問33	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問34	市の保健福祉情報の入手先
	問35	スマートフォン等の利用状況
	問36	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問37	相談窓口・制度の認知度
	問38	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞
9 介助者のこと	問40	（家族介助者のみ）介助者の年齢
	問41	（家族介助者のみ）介助の不安
	問42	（家族介助者のみ）介護者支援策への意向

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート
障害児（18歳未満）の保護者

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	保護者（回答者）とあて名本人（子ども）との関係
	問2	性別（保護者）
	問3	年齢（保護者）
	問4	居住地域（福祉圏域）（保護者）
	問5	健康状態（保護者）
2 あて名のお子さんのこと	問6	あて名本人の就学状況
	問7	あて名本人の性別
	問8	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問9	病気や障害の種類
	問10	学校以外の時間の活動場所（就学後のお子さん）
	問11	放課後活動に求めること（就学後のお子さん）
	問12	生活上の活動機会の有無
	問13	スポーツ・運動をする頻度
	問14	子どもの日常生活に関する不安
	問15	医療機関の受診で困ること
	問16	子どもの進学先の希望
	問17	子どもの将来の働き方の希望
	問18	子どもが就労する上で必要なこと
	問19	今後の居住形態の意向
3 相談支援	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	介助の不安
	問22	本人の介助できょうだいの不安や困りごと
	問23	介護者（保護者）支援策への意向
4 日頃のコミュニケーション	問24	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問25	孤独・孤立の状況（社会的つながりを客観的に測る）
5 災害時の対策	問26	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問27	緊急時の情報入手先
6 誰もが暮らしやすい地域づくり	問28	住みやすさの評価
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	外出の移動手段
	問31	市内のバリアフリー化の状況
	問32	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問33	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問34	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問35	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問36	市の保健福祉情報の入手先
	問37	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問38	「i（あい）-ファイル」の認知度
	問39	相談窓口・制度の認知度
	問40	今後力を入れるべき障害児福祉施策（サービス）
	問41	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【各調査に共通する主なテーマと設問】

- 今後の地域福祉の主なテーマについて、複数の調査間で設問を設定している。
- 以下が主なテーマと共通する設問である。

テーマ	設問	市民調査	高齢者調査	障害者調査	障害児保護者調査
日頃のコミュニケーション	近所付き合いの程度	問 8	問 8	—	—
	近所付き合いの必要性（場面毎）	問 9	問 9	—	—
	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）	問 10	問 10	問 12	問 24
	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）	問 11	問 11	問 13	問 25
市民同士の支え合い，地域活動	①手助けしてほしいこと ②手助けできること	問 12	問 12	—	—
	助け合いを後押しする取組	問 13	問 14	—	—
	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向	問 14	問 15	—	—
	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件	問 15	問 16	—	—
相談支援	困ったときの相談相手（人・機関）	問 20	問 29	問 9	問 20
	医療機関の受診で困ること	—	—	問 10	問 15
	今後の居住形態の意向	—	—	問 11	問 19
活動機会，スポーツ	生活上の活動機会の有無	—	—	問 20	問 12
	スポーツ・運動をする頻度	—	—	問 21	問 13
外出，ひきこもりの状況	外出の移動手段	—	問 25 付問	問 28	問 30
	外出の状況（本人）	問 17	問 27	問 24	—
	ひきこもりの期間（本人）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（本人）	付問 2	付問 2	付問 2	—
	外出の状況（家族）	問 18	問 28	問 25	—
	ひきこもりの期間（家族）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（家族）	付問 2	付問 2	付問 2	—
市民の権利を守る取組	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）	問 23	問 23	—	—
	判断能力が低下した際の各制度の利用意向	問 24	問 24	—	—
	各制度を利用しない理由	付問	付問	—	—
誰もが暮らしやすいまちづくり	住みやすさの評価	—	—	問 26	問 28
	市内のバリアフリー化の状況	問 27	問 35	問 29	問 31
	心のバリアフリーの普及に必要な取組	問 28	—	問 30	問 32
	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無	—	—	問 31	問 33
	①ヘルプカードの所持 ②ヘルプマークの所持	—	—	問 32	問 34
	ヘルプカードやヘルプマークの効果	—	—	問 33	問 35
	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度	問 29	問 36	問 27	問 29
災害時の対策	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況	—	—	問 14	問 26
	緊急時の情報入手先	—	—	問 15	問 27
デジタルの活用	市の保健福祉情報の入手先	—	—	問 34	問 36
市の障害者福祉施策	相談窓口・制度の認知度	—	—	問 37	問 39
	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）	—	—	問 38	問 40
介助者のこと	介助の不安	—	—	問 41	問 21
	介護者支援策への意向	—	問 38	問 42	問 23

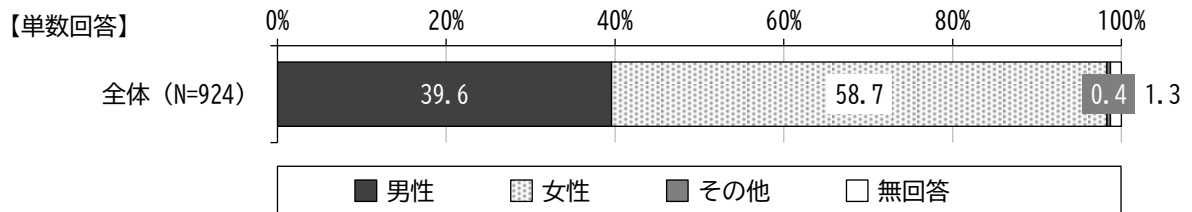
第2章 市民（18歳以上）調査結果

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

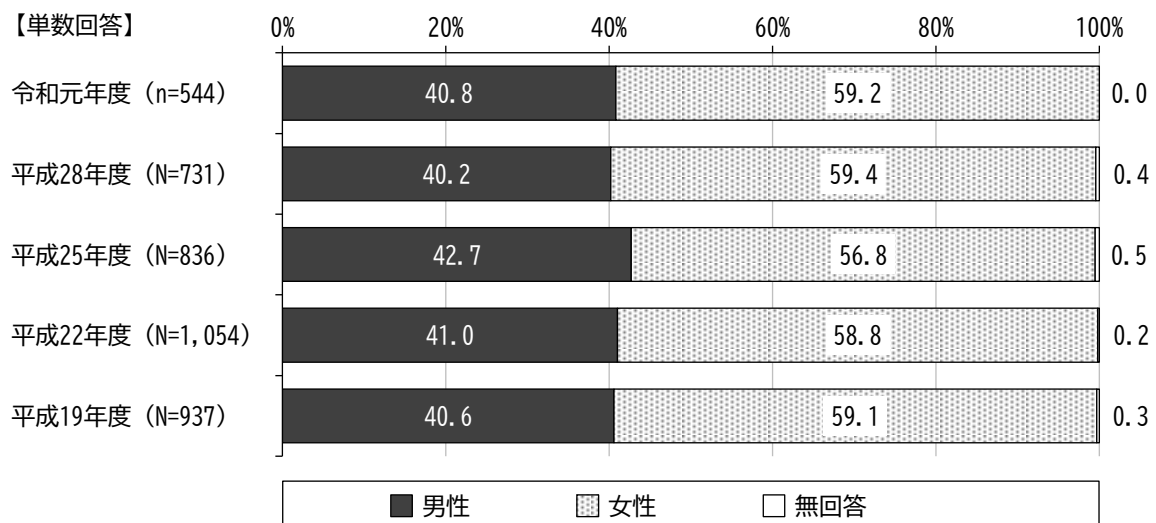
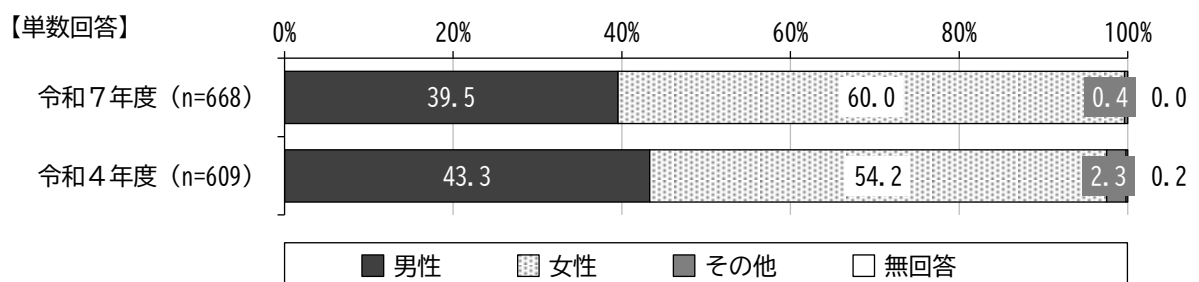
1 あなた（ご本人）についておたずねします

問1 性別を教えてください。（1つに○）

○ 回答者の性別は、「男性（39.6%）」、「女性（58.7%）」、「その他（0.4%）」である。



○ 経年で比較すると、今回の性別比は、これまでの調査のうち、男性割合が最も少なく、女性割合が最も多くなっている。

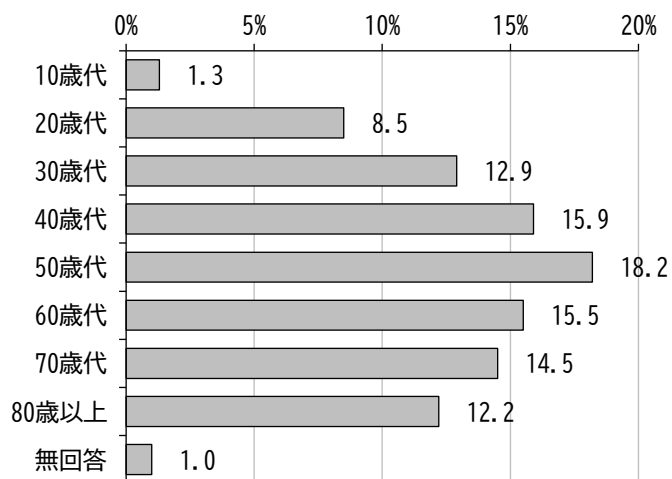


※選択肢「その他」は令和4年度調査では「回答しない」

問2 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

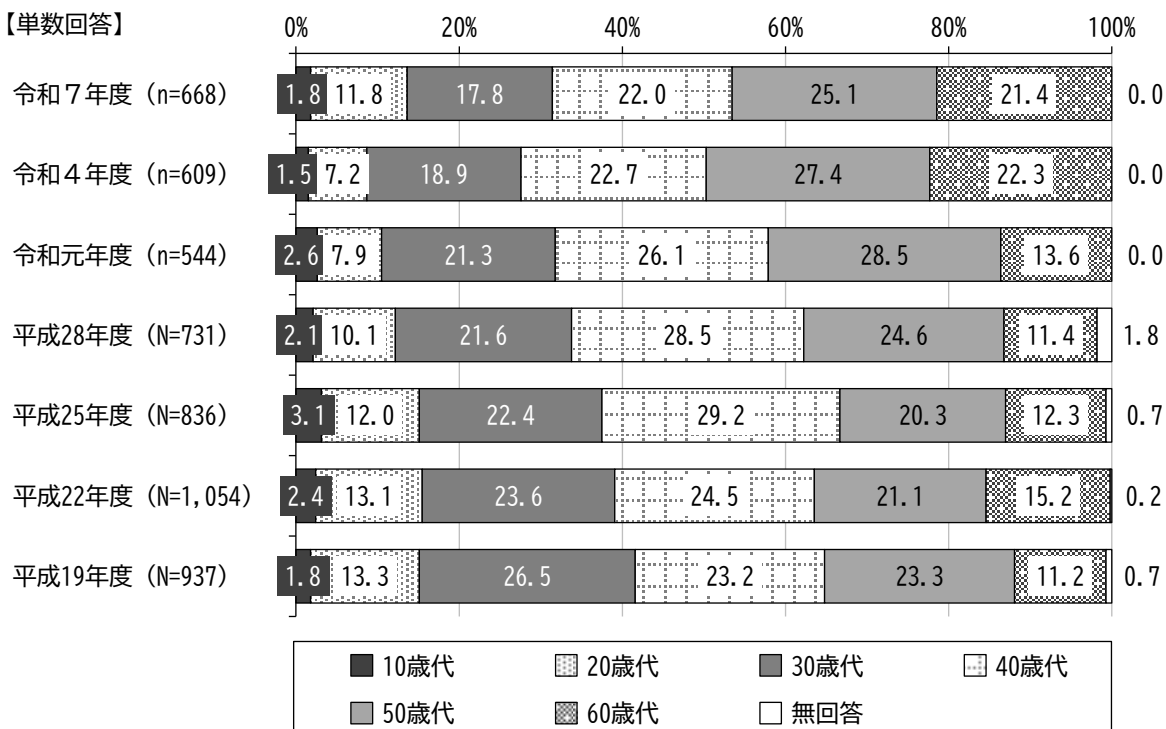
- 年齢は、「50 歳代 (18.2%)」が最も多く、「40 歳代 (15.9%)」,「60 歳代 (15.5%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



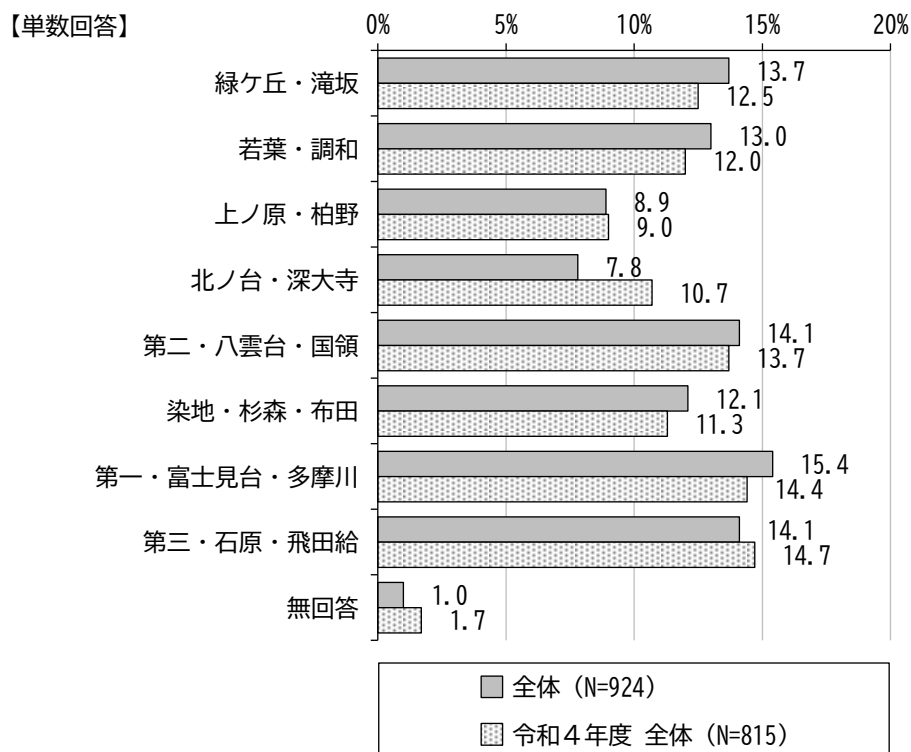
- 経年で比較すると、今回の年齢割合はこれまでの調査に比べて、「30 歳代」と「40 歳代」がやや少なくなっている。

【単数回答】



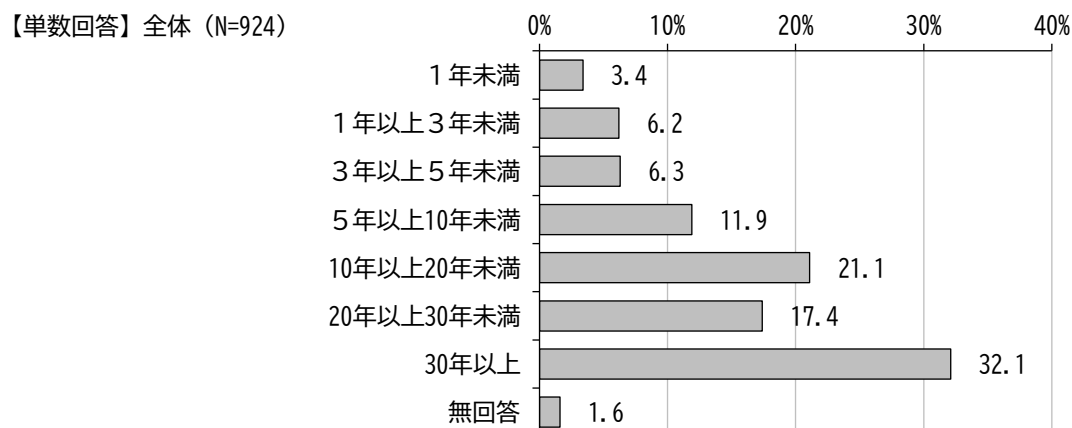
問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域（福祉圏域）は、「第一・富士見台・多摩川（15.4%）」が最も多く、「第二・八雲台・国領（14.1%）」「第三・石原・飛田給（14.1%）」「緑ヶ丘・滝坂（13.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問4 市内での居住年数（市外への転居期間を除く通算年数）を教えてください。(1つに○)

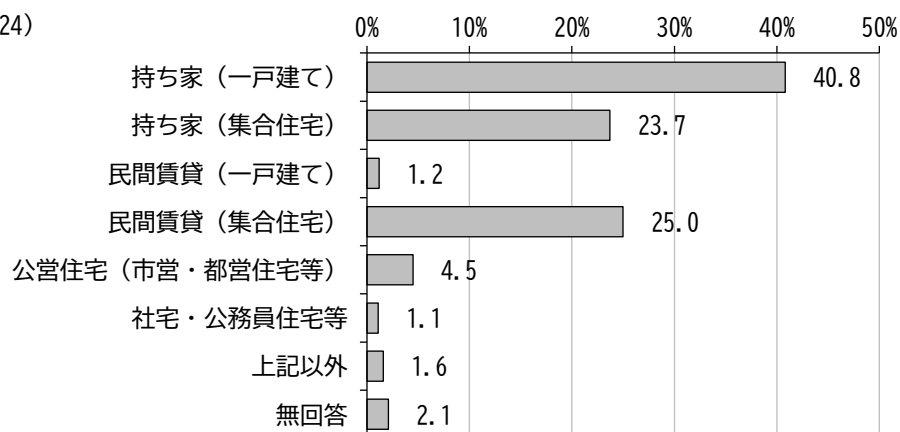
- 居住年数は、「30年以上（32.1%）」が最も多く、「10年以上20年未満（21.1%）」、「20年以上30年未満（17.4%）」が続いている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「持ち家(一戸建て)(40.8%)」が最も多く、「民間賃貸(集合住宅)(25.0%)」,
「持ち家(集合住宅)(23.7%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



－ 回答者属性分析 －

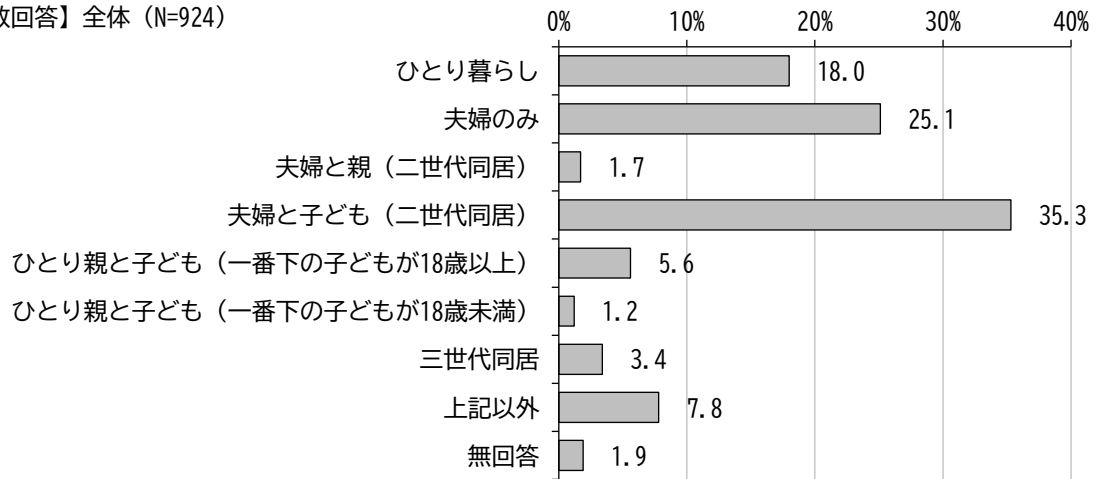
- 住居形態の割合を福祉圏域別にみると、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「持ち家(集合住宅)」, 第二・八雲台・国領小学校地域で「民間賃貸(集合住宅)」, それ以外の地域で「持ち家(一戸建て)」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域で「持ち家(一戸建て)」が8割を超えている。

単位: %		持ち家 (一戸建て)	持ち家 (集合住宅)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (集合住宅)	公営住宅 (市営・都営 住宅等)	社宅・公務員住宅等	左記以外	無回答
全体 (N=924)		40.8	23.7	1.2	25.0	4.5	1.1	1.6	2.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	38.6	23.6	1.6	31.5	1.6	1.6	0.0	1.6
	若葉・調和 (n=120)	45.8	14.2	1.7	26.7	5.0	0.0	5.8	0.8
	上ノ原・柏野 (n=82)	50.0	31.7	0.0	13.4	0.0	2.4	0.0	2.4
	北ノ台・深大寺 (n=72)	81.9	1.4	2.8	8.3	1.4	0.0	1.4	2.8
	第二・八雲台・国領 (n=130)	26.9	26.2	0.0	28.5	12.3	0.0	2.3	3.8
	染地・杉森・布田 (n=112)	37.5	28.6	1.8	17.0	9.8	1.8	0.9	2.7
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	26.1	35.2	0.7	31.7	0.7	2.8	1.4	1.4
第三・石原・飛田給 (n=130)		43.1	20.8	1.5	30.0	3.1	0.0	0.8	0.8

問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 家族構成は、「夫婦と子ども(二世世代同居)(35.3%)」が最も多く、「夫婦のみ(25.1%)」, 「ひとり暮らし(18.0%)」が続いている。

【単数回答】全体(N=924)



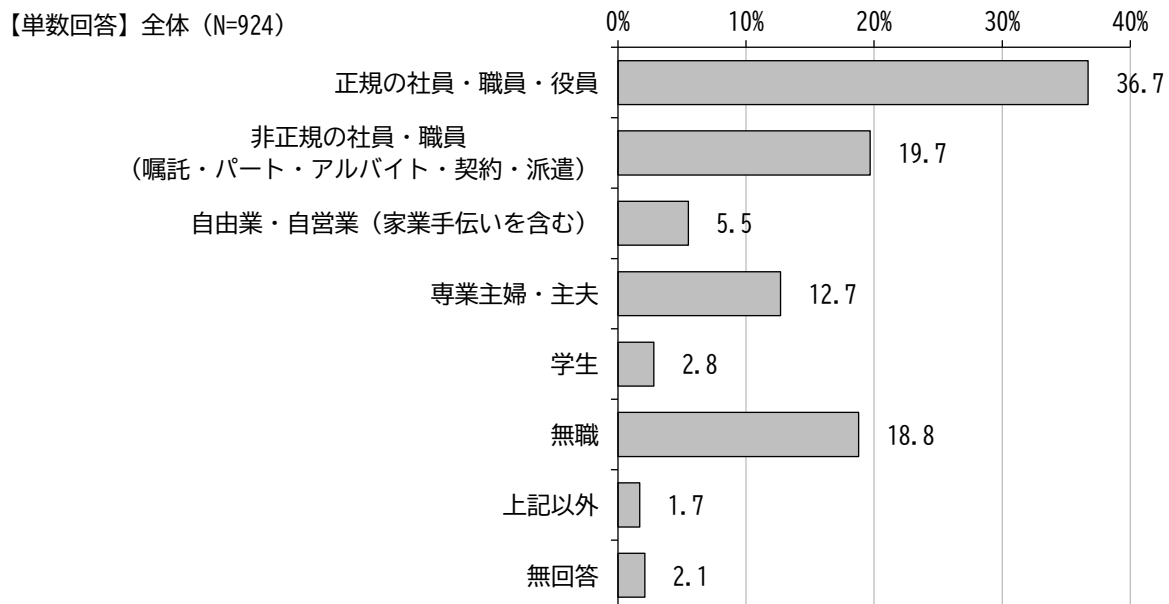
－ 回答者属性分析 －

- 家族構成の割合を年代別にみると、60 歳代、70 歳代、80 歳以上で「夫婦のみ」、それ以外の年代で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、上ノ原・柏野小学校地域で「夫婦のみ」、それ以外の地域で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。また、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「ひとり暮らし」が2割を超えている。

単位：％		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と親（二世世代同居）	夫婦と子ども（二世世代同居）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	三世世代同居	左記以外	無回答
全体（N=924）		18.0	25.1	1.7	35.3	5.6	1.2	3.4	7.8	1.9
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	0.0	58.3	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0
	20歳代（n=79）	22.8	10.1	0.0	35.4	5.1	1.3	6.3	19.0	0.0
	30歳代（n=119）	22.7	15.1	0.8	50.4	0.8	0.8	3.4	5.9	0.0
	40歳代（n=147）	15.6	10.9	2.0	53.7	3.4	3.4	1.4	8.8	0.7
	50歳代（n=168）	10.7	22.6	2.4	45.2	6.0	2.4	1.8	8.3	0.6
	60歳代（n=143）	15.4	40.6	3.5	22.4	7.7	0.0	4.9	2.8	2.8
	70歳代（n=134）	17.9	43.3	1.5	20.9	6.0	0.0	2.2	5.2	3.0
	80歳以上（n=113）	27.4	31.0	0.9	12.4	9.7	0.0	4.4	8.8	5.3
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	18.1	24.4	1.6	37.8	3.1	1.6	5.5	7.1	0.8
	若葉・調和（n=120）	13.3	30.8	1.7	35.0	5.8	0.8	5.0	6.7	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	12.2	35.4	3.7	32.9	7.3	0.0	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	9.7	25.0	0.0	37.5	6.9	1.4	4.2	12.5	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	23.1	23.1	1.5	31.5	7.7	0.8	0.8	7.7	3.8
	染地・杉森・布田（n=112）	17.9	20.5	0.9	33.0	6.3	1.8	5.4	10.7	3.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	23.2	22.5	1.4	39.4	3.5	1.4	1.4	6.3	0.7
	第三・石原・飛田給（n=130）	17.7	23.8	3.1	35.4	5.4	1.5	3.1	9.2	0.8

問7 現在の職業を教えてください。(1つに○)

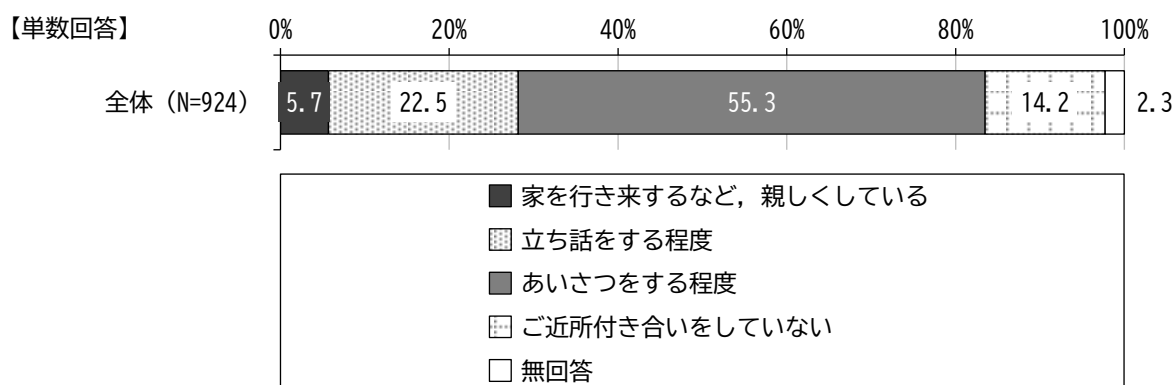
- 職業は、「正規の社員・職員・役員(36.7%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣)(19.7%)」,「無職(18.8%)」が続いている。



2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（55.3%）」が最も多く、「立ち話をする程度（22.5%）」、「ご近所付き合いをしていない（14.2%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は28.2%となっている。

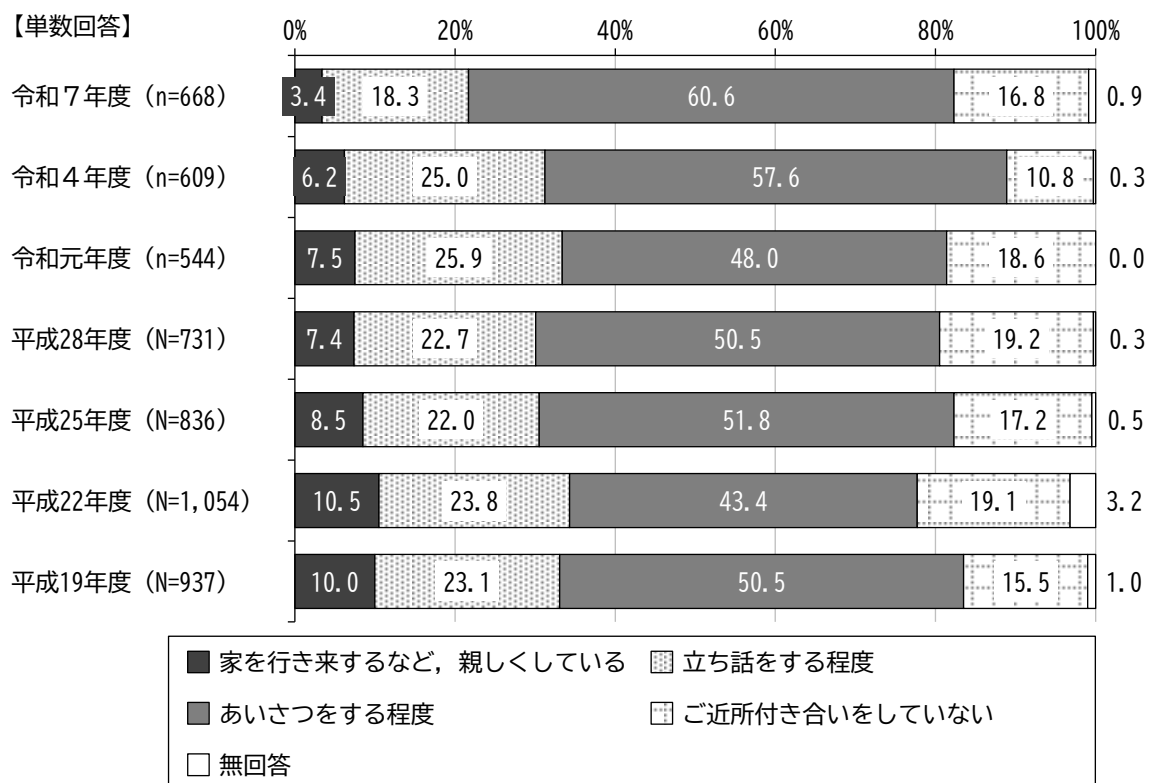


－ 回答者属性分析 －

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、男性で21.6%，女性で32.4%となっている。
- 年代別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、10歳代で25.0%，20歳代以上では年代が上がるほど割合が多くなる傾向がみられ、70歳代、80歳以上では4割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、緑ヶ丘・滝坂小学校地域で16.6%と、それ以外の地域と比べて少なくなっている。
- 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、ひとり暮らしで22.3%，ひとり暮らし以外で30.2%となっている。また、ひとり暮らしでは「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて26.2ポイント高くなっている。
- 住居形態別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、持ち家（一戸建て）で38.8%，持ち家（集合住宅）で30.6%，民間賃貸（集合住宅）で9.5%，公営住宅（市営・都営住宅等）で42.8%となっている。また、民間賃貸（集合住宅）では「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて21.7ポイント高くなっている。

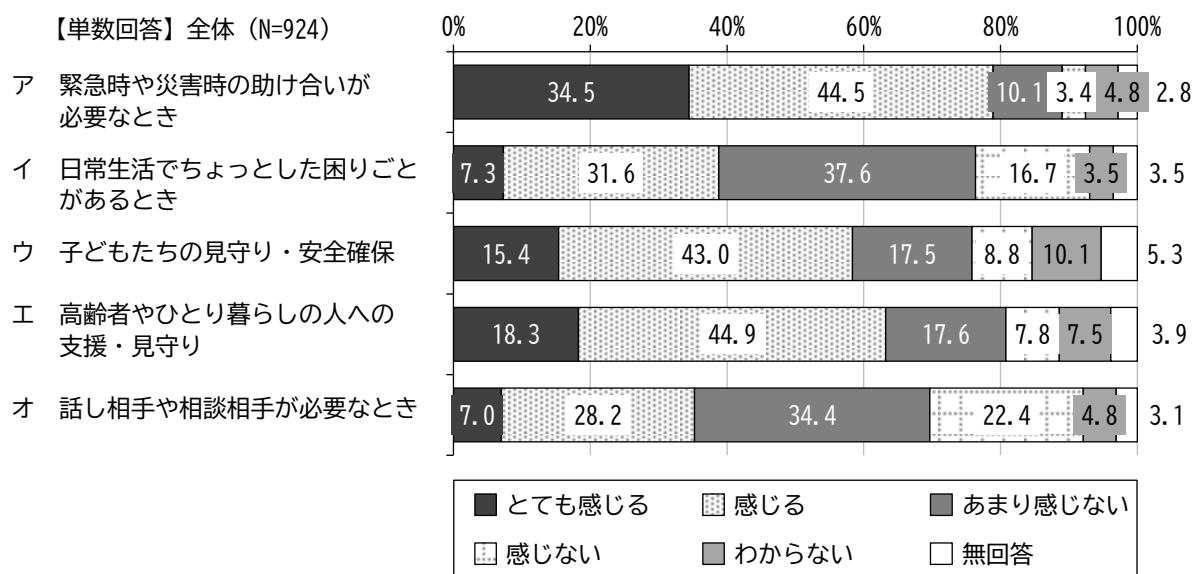
単位：％		親家を行き来するなど、	立ち話をする程度	あいさつをする程度	いご近所付き合いをしていない	無回答	を『親密な近所付き合い』
全体（N=924）		5.7	22.5	55.3	14.2	2.3	28.2
性別	男性（n=366）	4.1	17.5	59.6	16.1	2.7	21.6
	女性（n=542）	6.6	25.8	53.0	13.1	1.5	32.4
	その他（n=4）	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
年代別	10歳代（n=12）	0.0	25.0	58.3	16.7	0.0	25.0
	20歳代（n=79）	0.0	5.1	65.8	29.1	0.0	5.1
	30歳代（n=119）	1.7	11.8	58.0	28.6	0.0	13.5
	40歳代（n=147）	4.1	15.0	66.0	14.3	0.7	19.1
	50歳代（n=168）	4.8	22.6	62.5	9.5	0.6	27.4
	60歳代（n=143）	4.9	28.7	52.4	11.2	2.8	33.6
	70歳代（n=134）	12.7	34.3	45.5	5.2	2.2	47.0
	80歳以上（n=113）	10.6	34.5	36.3	9.7	8.8	45.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	2.4	14.2	63.8	18.9	0.8	16.6
	若葉・調和（n=120）	10.0	28.3	49.2	10.8	1.7	38.3
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	23.2	58.5	11.0	2.4	28.1
	北ノ台・深大寺（n=72）	4.2	30.6	56.9	2.8	5.6	34.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	4.6	20.0	50.0	20.0	5.4	24.6
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	22.3	55.4	12.5	2.7	29.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	6.3	17.6	54.2	21.8	0.0	23.9
	第三・石原・飛田給（n=130）	5.4	28.5	56.9	8.5	0.8	33.9
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	5.4	16.9	37.3	40.4	0.0	22.3
	ひとり暮らし以外（n=740）	5.9	24.3	60.4	8.6	0.7	30.2
住居形態別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.2	31.6	56.0	4.5	0.8	38.8
	持ち家（集合住宅）（n=219）	7.3	23.3	59.4	9.6	0.5	30.6
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	9.1	9.1	72.7	9.1	0.0	18.2
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	1.7	7.8	54.5	35.9	0.0	9.5
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	9.5	33.3	52.4	4.8	0.0	42.8
	社宅・公務員住宅等（n=10）	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	10.0
	上記以外（n=15）	6.7	26.7	40.0	20.0	6.7	33.4

- 経年で比較すると、今回の『親密な近所付き合いをしている』の割合は、これまでの調査のうち、最も少なくなっている。



問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、[ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき (79.0%)] が最も多く、[エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り (63.2%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (58.4%)] が続いている。
- 一方、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』の割合は、[オ 話し相手や相談相手が必要なとき (56.8%)] が最も多く、[イ 日常生活でちょっとした困りごとがあるとき (54.3%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (26.3%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

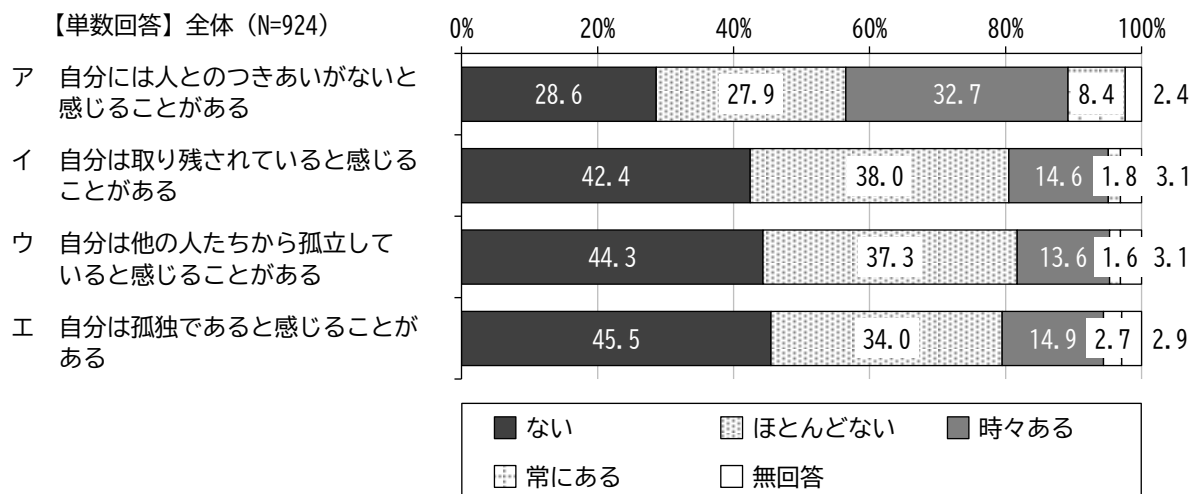
- 近所付き合いの必要性を『感じる』の割合を年代別にみると、すべての年代で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らし、ひとり暮らし以外ともに [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっているが、ひとり暮らしでは全体と比べて 12.7 ポイント低くなっている。
- 住居形態別にみると、公営住宅 (市営・都営住宅等) で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] と [エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り] が同率となっている。それ以外の区分で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。

<『感じる』の割合>

単位：％		ア 合 緊 急 が 必 要 な 時 き	イ た 日 常 生 活 で あ る と き	ウ 安 子 ど も た ち の 見 守 り ・ 保 護	エ の 高 齢 者 や ひ と り 暮 ら し の 支 援 ・ 見 守 り	オ 必 話 し 相 手 や 相 談 相 手 が 必 要 な と き
全体 (N=924)		79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
年 代 別	10歳代 (n=12)	91.7	25.0	75.0	50.0	33.3
	20歳代 (n=79)	81.0	20.2	63.3	50.7	17.7
	30歳代 (n=119)	74.8	32.0	67.2	53.8	31.1
	40歳代 (n=147)	81.0	38.1	64.6	64.6	32.7
	50歳代 (n=168)	84.0	42.2	60.7	74.4	33.9
	60歳代 (n=143)	80.5	46.9	60.9	73.4	41.3
	70歳代 (n=134)	78.4	42.6	50.8	62.6	41.0
	80歳以上 (n=113)	70.0	43.4	40.7	54.9	44.3
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	79.5	37.8	54.4	61.4	29.1
	若葉・調和 (n=120)	80.0	47.5	55.0	60.8	33.4
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.1	26.9	52.4	56.1	28.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	40.3	59.7	66.7	31.9
	第二・八雲台・国領 (n=130)	75.4	31.5	59.2	66.9	30.8
	染地・杉森・布田 (n=112)	81.2	41.1	66.1	67.8	39.2
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	81.0	42.3	54.9	62.0	39.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	80.0	41.5	66.9	65.4	46.9
家 族 構 成 別	ひとり暮らし (n=166)	66.3	29.5	37.9	52.5	29.5
	ひとり暮らし以外 (n=740)	83.7	41.8	64.0	67.1	37.5
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て） (n=377)	85.9	44.3	68.1	67.6	39.5
	持ち家（集合住宅） (n=219)	81.7	43.8	58.0	70.3	42.0
	民間賃貸（一戸建て） (n=11)	91.0	18.2	36.4	54.6	9.1
	民間賃貸（集合住宅） (n=231)	69.3	24.7	49.8	53.3	26.0
	公営住宅（市営・都営住宅等） (n=42)	76.2	69.1	54.8	76.2	47.6
	社宅・公務員住宅等 (n=10)	100.0	40.0	70.0	50.0	20.0
	上記以外 (n=15)	80.0	20.0	33.3	46.7	6.7

問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある (41.1%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (17.6%)], [イ 自分は取り残されていると感じることがある (16.4%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 問 10 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA 孤独感尺度 (日本語版の 3 項目短縮版)」と呼ばれ、間接的な質問 (関節質問) により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和 6 年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を 1 点、「ほとんどない」を 2 点、「時々ある」を 3 点、「常にある」を 4 点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12 点」(常にある)、「7～9 点」(時々ある)、「4～6 点」(ほとんどない)、「3 点」(決してない) の 4 区分に整理した。
- 間接質問のスコア化の結果を性別にみると、男性、女性ともに「ほとんどない」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、70 歳代で「ない」、20 歳代、30 歳代、50 歳代、80 歳以上で「ほとんどない」、40 歳代、60 歳代で「時々ある」が最も多く、10 歳代で「ない」と「時々ある」が同率となっている。

<孤独感尺度>

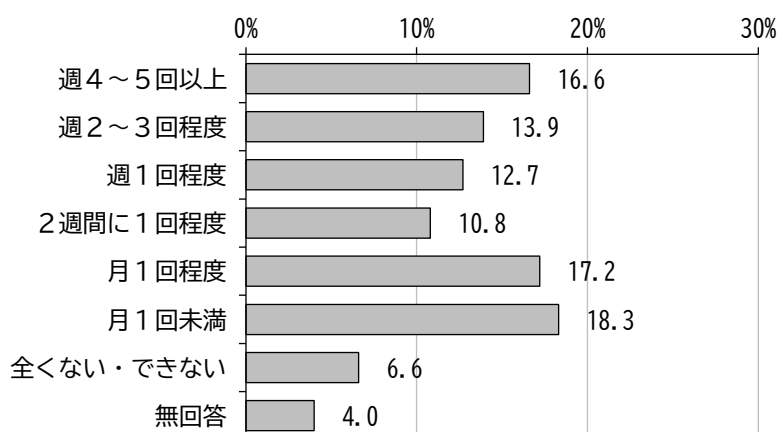
		ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=924)		25.2	37.7	31.3	2.6	3.2
性別	男性 (n=366)	24.9	36.6	32.0	2.7	3.8
	女性 (n=542)	25.6	38.4	31.2	2.6	2.2
	その他 (n=4)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	33.3	8.3	0.0
	20歳代 (n=79)	32.9	40.5	22.8	2.5	1.3
	30歳代 (n=119)	20.2	42.0	37.0	0.8	0.0
	40歳代 (n=147)	21.1	36.1	38.8	3.4	0.7
	50歳代 (n=168)	20.2	36.9	35.7	6.5	0.6
	60歳代 (n=143)	26.6	32.9	35.0	2.1	3.5
	70歳代 (n=134)	38.8	38.1	20.9	0.0	2.2
	80歳以上 (n=113)	20.4	41.6	23.0	0.9	14.2

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す(手話等を含む)

○ 直接会って話す(手話等を含む)頻度は、「月1回未満(18.3%)」が最も多く、「月1回程度(17.2%)」、「週4～5回以上(16.6%)」が続いている。

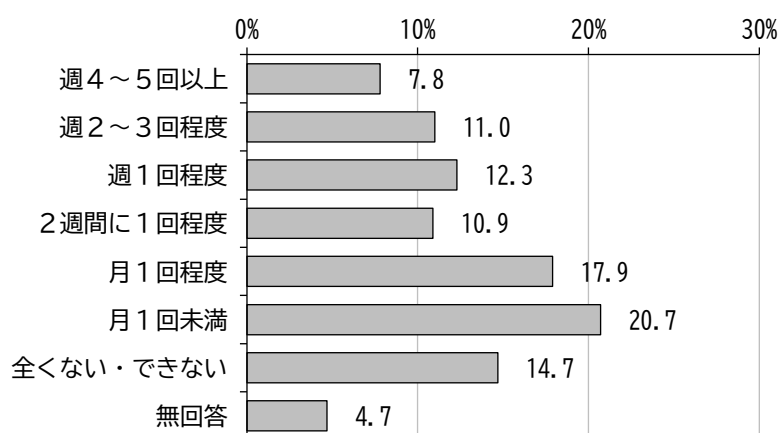
【単数回答】全体 (N=924)



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回未満（20.7%）」が最も多く、「月1回程度（17.9%）」、「全くない・できない（14.7%）」が続いている。

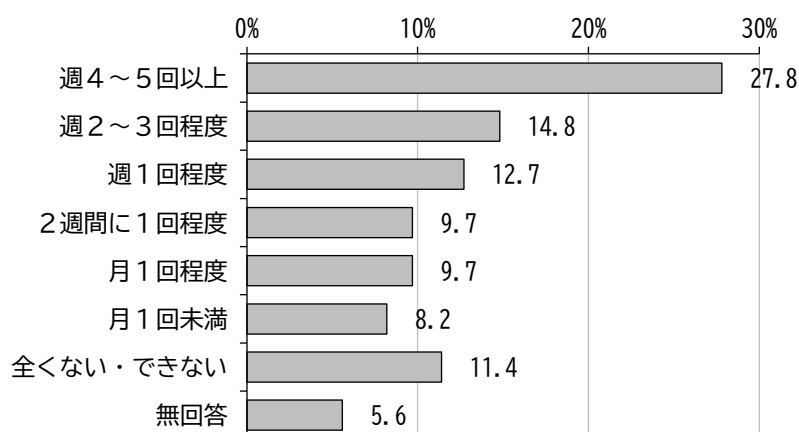
【単数回答】全体（N=924）



ウ SNS や電子メールなど

- SNS や電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（27.8%）」が最も多く、「週2～3回程度（14.8%）」、「週1回程度（12.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）

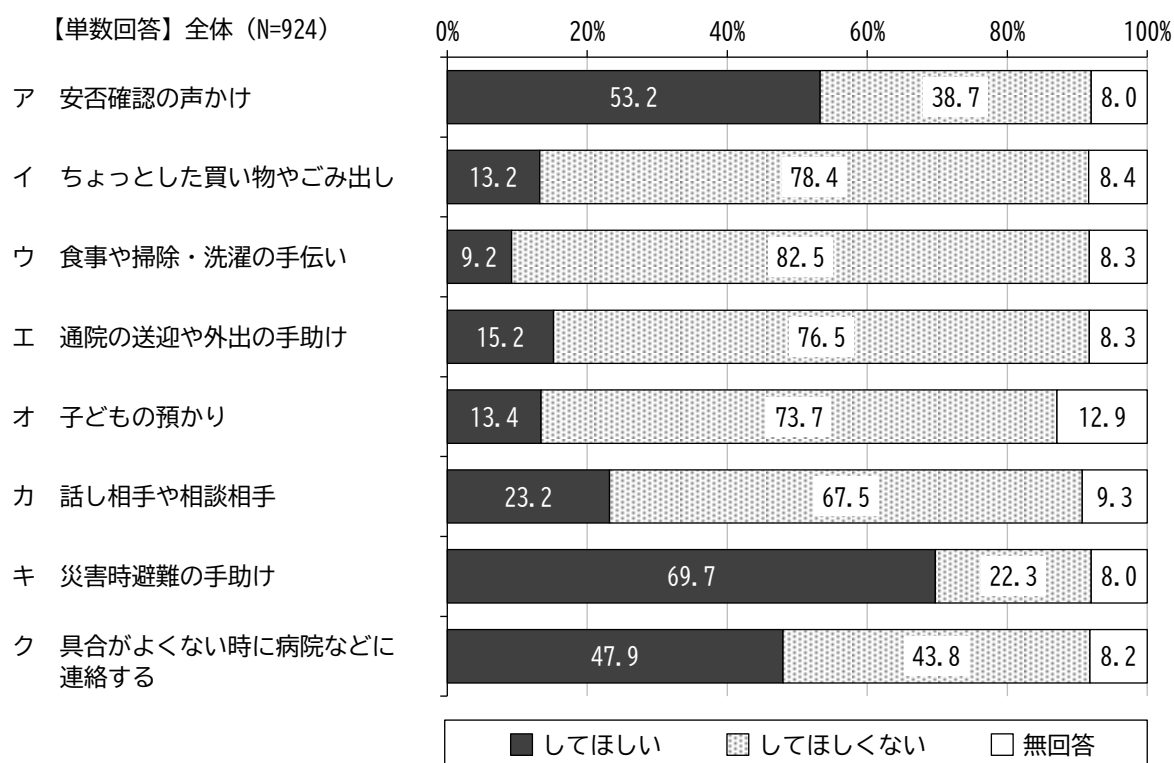


3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問 12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

①手助けしてほしいか

○ 手助けを「してほしい」の割合は、[キ 災害時避難の手助け（69.7%）]が最も多く、[ア 安否確認の声かけ（53.2%）]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する（47.9%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

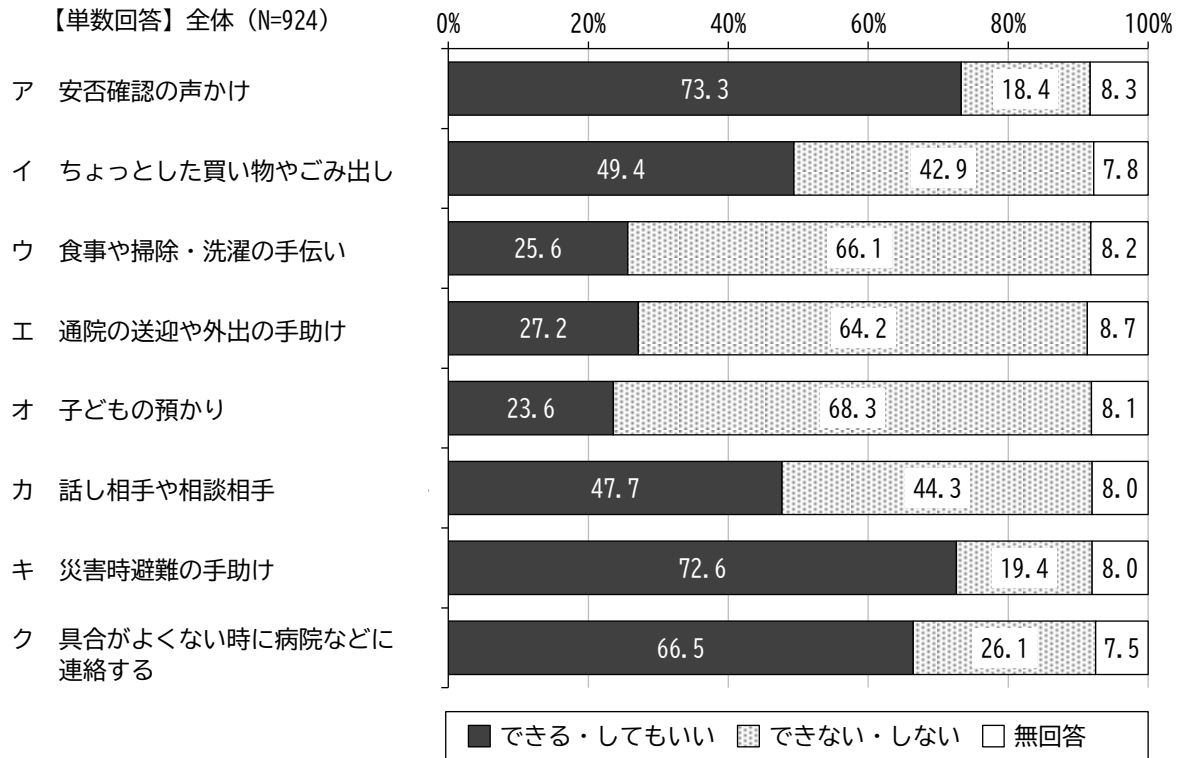
- 手助けを「してほしい」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。

< 「してほしい」の割合 >

単位：％		ア 安否確認の 声かけ	イ ちよつとし た買い物	ウ 食事や掃 除・洗濯の 手伝い	エ 通院の送迎 や外出の手 助け	オ 子どもの預 かり	カ 話し相手や 相談相手	キ 災害時避難 の手助け	ク 具合がよく 連絡するに くい
全体 (N=924)		53.2	13.2	9.2	15.2	13.4	23.2	69.7	47.9
性別	男性 (n=366)	51.4	12.3	10.9	14.8	13.1	24.3	66.7	45.1
	女性 (n=542)	55.0	14.0	7.9	15.3	13.8	22.5	72.7	50.4
	その他 (n=4)	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	75.0	25.0
年代別	10歳代 (n=12)	75.0	50.0	50.0	58.3	50.0	58.3	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	68.4	12.7	7.6	13.9	19.0	22.8	82.3	48.1
	30歳代 (n=119)	65.5	13.4	10.9	16.8	26.1	31.1	84.9	55.5
	40歳代 (n=147)	52.4	15.0	12.2	15.6	24.5	23.8	76.9	49.0
	50歳代 (n=168)	59.5	11.9	9.5	15.5	7.1	19.0	72.0	49.4
	60歳代 (n=143)	47.6	8.4	2.8	7.0	7.0	20.3	63.6	46.2
	70歳代 (n=134)	37.3	7.5	3.7	9.7	3.7	16.4	53.7	36.6
	80歳以上 (n=113)	46.9	23.0	14.2	25.7	7.1	28.3	59.3	48.7
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	55.9	18.1	14.2	16.5	18.9	24.4	78.0	57.5
	若葉・調和 (n=120)	54.2	14.2	10.0	14.2	10.0	17.5	63.3	45.0
	上ノ原・柏野 (n=82)	39.0	14.6	9.8	14.6	7.3	19.5	65.9	45.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	54.2	13.9	8.3	13.9	8.3	23.6	76.4	47.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	50.8	13.1	6.9	14.6	11.5	19.2	67.7	49.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	57.1	10.7	7.1	15.2	18.8	25.0	67.0	47.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	58.5	14.1	12.7	16.2	17.6	31.7	71.1	44.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	53.8	8.5	4.6	16.2	11.5	23.1	72.3	47.7

②手助けできるか

- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、[ア 安否確認の声かけ (73.3%)] が最も多く、[キ 災害時避難の手助け (72.6%)], [ク 具合がよくない時に病院などに連絡する (66.5%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

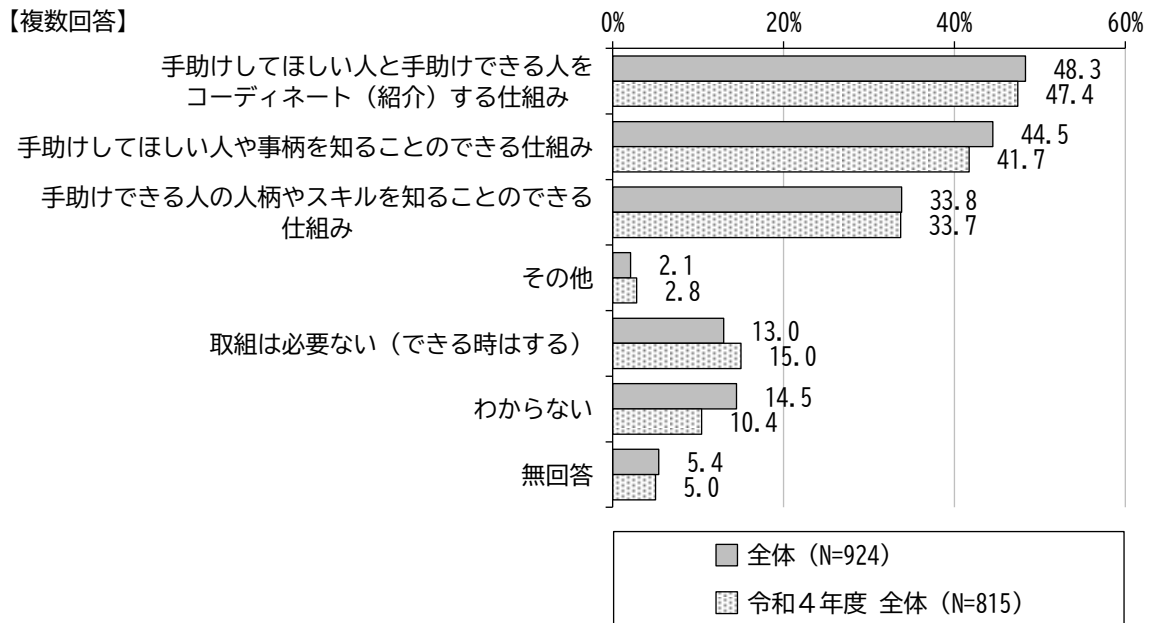
- 手助けを「できる・してもいい」の割合を性別にみると、男性で〔キ 災害時避難の手助け〕、女性で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、30 歳代、60 歳代、70 歳代で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多く、80 歳以上では〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕が最も多くなっている。それ以外の年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、緑が丘・滝坂小学校地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多く、若葉・調和地域、北ノ台・深大寺小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で〔ア 安否確認の声かけ〕と〔キ 災害時避難の手助け〕が同率となっている。それ以外の地域で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。

<「できる・してもいい」の割合>

単位：％		ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く 連 絡 す る に 具 合 が よ く な い 時 に
全体 (N=924)		73.3	49.4	25.6	27.2	23.6	47.7	72.6	66.5
性別	男性 (n=366)	71.9	47.0	27.3	31.7	23.2	45.4	75.4	64.2
	女性 (n=542)	75.1	51.5	24.9	24.7	24.5	50.0	71.4	68.5
	その他 (n=4)	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	100.0	75.0
年代別	10歳代 (n=12)	75.0	83.3	58.3	58.3	41.7	66.7	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	79.7	45.6	22.8	20.3	27.8	44.3	82.3	69.6
	30歳代 (n=119)	85.7	48.7	29.4	26.9	39.5	58.0	84.9	72.3
	40歳代 (n=147)	75.5	49.7	27.9	29.3	29.3	46.3	81.6	68.7
	50歳代 (n=168)	82.1	56.0	32.1	33.9	23.2	52.4	83.9	76.8
	60歳代 (n=143)	78.3	58.7	23.8	27.3	24.5	49.7	78.3	72.7
	70歳代 (n=134)	67.9	45.5	20.1	24.6	12.7	45.5	55.2	56.7
	80歳以上 (n=113)	42.5	32.7	17.7	20.4	8.8	34.5	38.9	43.4
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	74.0	47.2	28.3	26.0	27.6	48.0	75.6	65.4
	若葉・調和 (n=120)	68.3	43.3	17.5	20.8	15.0	40.8	68.3	61.7
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.2	54.9	28.0	26.8	19.5	46.3	72.0	70.7
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	58.3	26.4	29.2	27.8	58.3	80.6	75.0
	第二・八雲台・国領 (n=130)	69.2	49.2	24.6	28.5	24.6	43.8	66.2	65.4
	染地・杉森・布田 (n=112)	75.0	45.5	24.1	29.5	26.8	49.1	71.4	68.8
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	75.4	54.9	30.3	30.3	23.2	53.5	75.4	65.5
	第三・石原・飛田給 (n=130)	76.9	47.7	27.7	28.5	26.2	46.9	76.9	66.2

問 13 家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

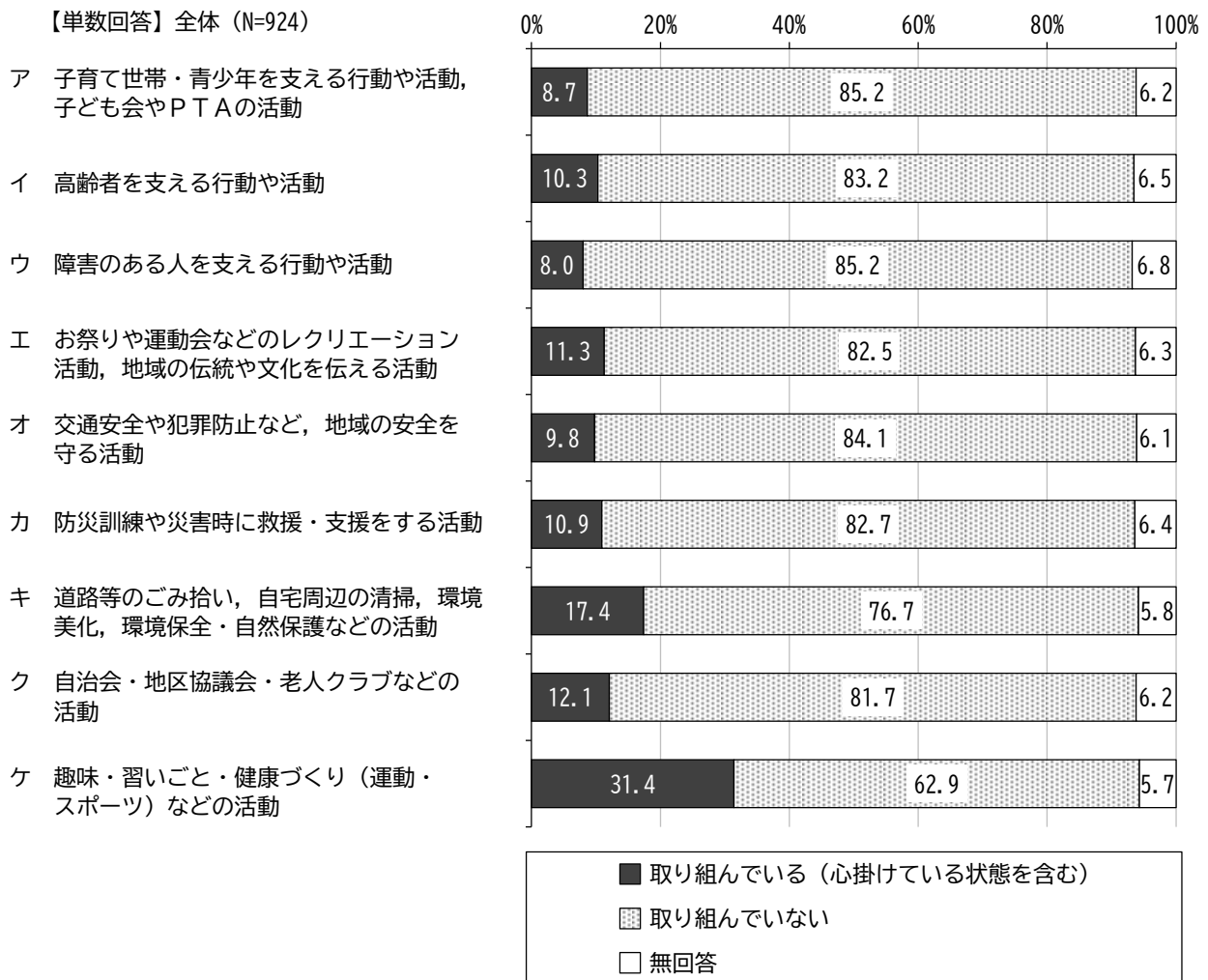
- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組は、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（48.3%）」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（44.5%）」、「手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み（33.8%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 14 あなたは地域での活動に参加したり，地域のために日頃から心掛けていることはありますか。①現在の状況，②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況について，すべての活動で「取り組んでいない」が多くなっている。
- 「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合は，[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（31.4%）]が最も多く，[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（17.4%）]，[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（12.1%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

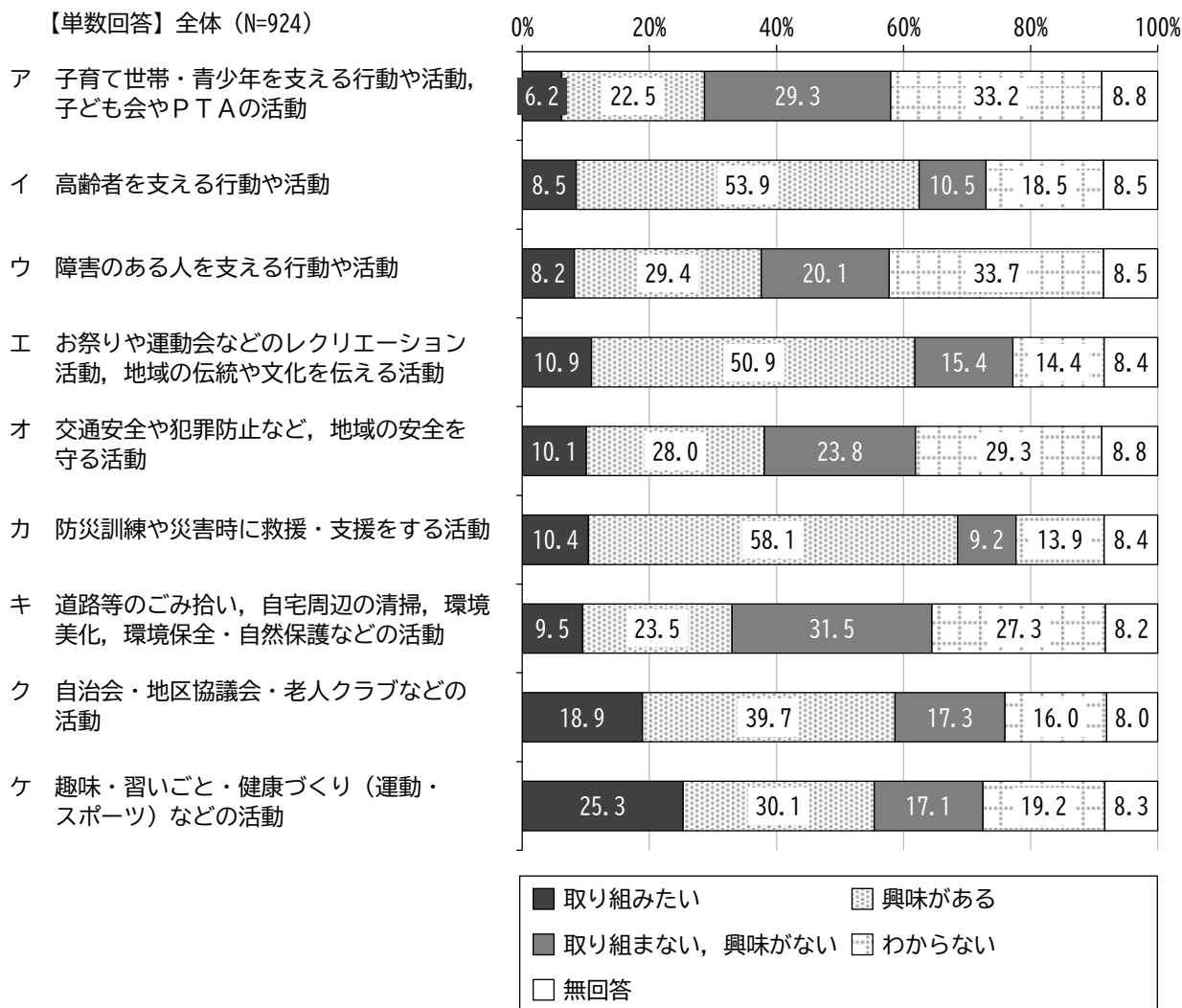
- 地域での活動等の取組状況について、「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。

<「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合>

単位：％		ア P T A の 活 動	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 り お 祭 り や シ ョ ウ な ど の 活 動	オ 地 交 通 の 安 全 を 犯 罪 防 止 な ど	カ 支 援 を 訓 練 や 災 害 時 に 救 援	キ 保 全 の 路 等 の 自 然 環 境 の 美 化 、 自 宅 周 辺 の 清 掃 、 ご み の 保 護 な ど	ク 自 治 会 な ど の 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ご と ・ ス ポ ー ツ ） な ど
全体（N=924）		8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
性 別	男性（n=366）	7.4	8.2	8.7	11.5	8.5	11.2	19.1	11.5	27.3
	女性（n=542）	9.8	12.0	7.7	11.3	10.9	10.7	16.4	12.7	34.1
	その他（n=4）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0
年 代 別	10歳代（n=12）	8.3	33.3	33.3	25.0	33.3	25.0	25.0	8.3	58.3
	20歳代（n=79）	2.5	0.0	1.3	10.1	5.1	5.1	8.9	3.8	22.8
	30歳代（n=119）	12.6	5.0	5.9	12.6	9.2	7.6	11.8	5.9	27.7
	40歳代（n=147）	19.7	8.8	4.8	11.6	8.2	6.8	11.6	6.8	29.9
	50歳代（n=168）	8.3	13.1	11.3	11.9	11.3	13.7	14.9	13.7	29.2
	60歳代（n=143）	6.3	11.2	11.2	11.2	11.2	12.6	22.4	15.4	30.1
	70歳代（n=134）	3.7	14.2	11.2	11.9	10.4	13.4	26.1	17.2	39.6
	80歳以上（n=113）	4.4	13.3	4.4	7.1	9.7	13.3	23.9	20.4	38.1
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	5.5	8.7	5.5	7.1	8.7	6.3	14.2	7.9	26.0
	若葉・調和（n=120）	11.7	12.5	6.7	10.0	11.7	14.2	23.3	16.7	31.7
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	8.5	12.2	6.1	7.3	4.9	15.9	6.1	29.3
	北ノ台・深大寺（n=72）	6.9	13.9	9.7	18.1	13.9	8.3	22.2	18.1	43.1
	第二・八雲台・国領（n=130）	8.5	9.2	7.7	12.3	10.0	12.3	17.7	10.0	29.2
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	7.1	7.1	12.5	8.0	12.5	17.0	11.6	41.1
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	13.4	9.2	11.3	10.6	13.4	12.7	13.4	31.0
	第三・石原・飛田給（n=130）	9.2	10.0	8.5	14.6	10.0	13.1	20.0	14.6	26.9

②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（68.5%）]が最も多く、[イ 高齢者を支える行動や活動（62.4%）]，[エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動（61.8%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合を性別にみると、男性、女性ともに〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、10歳代、20歳代で〔エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動〕、80歳以上で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕、それ以外の年代で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。

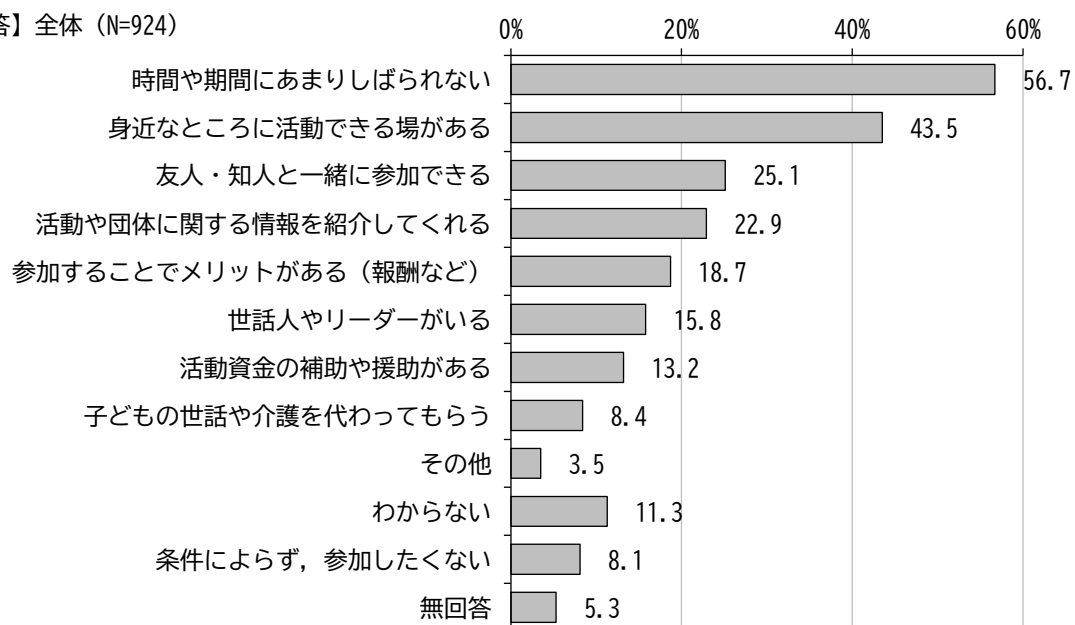
<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

単位：％		ア P T A の 活 動 、 青 少 年 を 支 え る 活 動	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 り お 祭 り や 運 動 会 な ど の レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動	オ 地 交 通 の 安 全 を 犯 罪 防 止 な ど 、	カ 支 防 災 を 訓 練 す る や 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 の 清 掃 、 自 然 保 護 な ど 、 自 活 動	ク 自 治 会 な ど の 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ 運 動 ・ 習 い ご と ・ 健 康 づ く り ）
全体（N=924）		28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
性 別	男性（n=366）	30.6	64.7	39.6	67.0	40.2	71.0	29.8	63.4	51.9
	女性（n=542）	28.3	61.8	37.5	59.8	37.6	67.9	35.4	56.7	58.1
	その他（n=4）	0.0	75.0	0.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	100.0
年 代 別	10歳代（n=12）	41.7	83.4	41.6	100.0	50.0	91.7	25.0	83.3	66.7
	20歳代（n=79）	26.6	79.8	27.9	82.2	26.6	79.7	21.6	74.7	53.2
	30歳代（n=119）	40.4	81.5	49.6	84.1	43.7	86.6	21.9	79.8	63.0
	40歳代（n=147）	37.4	75.5	44.9	74.8	42.1	79.6	24.5	69.4	57.8
	50歳代（n=168）	32.8	73.2	42.8	70.2	45.2	79.2	34.5	65.4	58.3
	60歳代（n=143）	30.1	60.9	44.1	59.5	46.9	71.3	51.1	57.4	65.1
	70歳代（n=134）	20.1	41.8	32.9	38.8	32.1	51.5	42.6	38.8	47.8
	80歳以上（n=113）	9.7	24.8	15.0	25.6	22.1	29.2	29.2	28.3	39.9
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	33.0	66.9	43.3	63.0	40.2	75.6	28.4	65.4	63.0
	若葉・調和（n=120）	23.3	62.5	35.0	55.8	34.2	64.2	32.5	55.0	46.7
	上ノ原・柏野（n=82）	23.2	61.0	36.6	60.9	32.9	65.9	31.7	56.1	53.7
	北ノ台・深大寺（n=72）	36.1	61.2	33.3	63.9	44.4	66.7	37.5	61.1	65.3
	第二・八雲台・国領（n=130）	26.1	54.6	35.4	59.3	40.0	64.6	33.8	50.0	53.8
	染地・杉森・布田（n=112）	29.5	63.4	37.5	66.1	35.7	67.9	34.8	62.5	59.8
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	30.3	71.9	43.7	70.5	39.4	76.8	30.3	65.5	55.7
	第三・石原・飛田給（n=130）	30.8	60.0	36.1	59.3	40.8	66.9	37.7	57.7	51.5

問 15 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない(56.7%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(43.5%)」、「友人・知人と一緒に参加できる(25.1%)」が続いている。

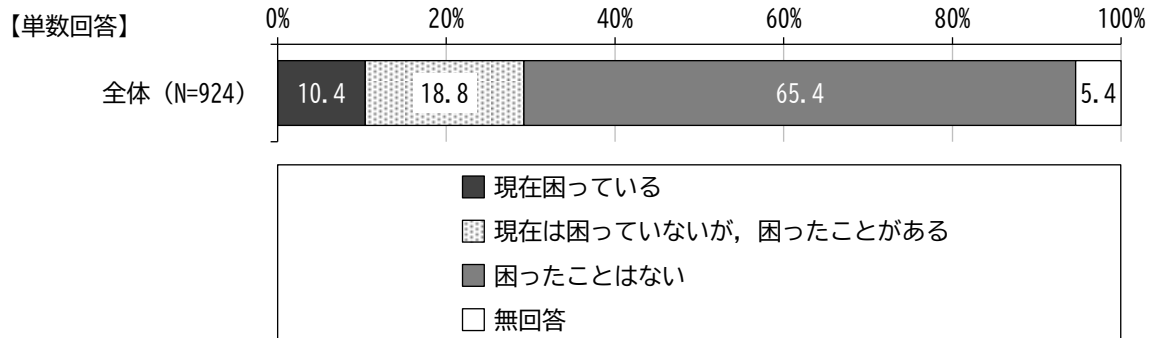
【複数回答】全体 (N=924)



4 暮らしのことについておたずねします

問 16 これまでに経済的に困った経験がありますか。(1つに○)

- 経済的に困った経験は、「困ったことはない(65.4%)」が最も多く、「現在は困っていないが、困ったことがある(18.8%)」、「現在困っている(10.4%)」が続いている。
- 「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」を合わせた『困ったことがある』は29.2%となっている。



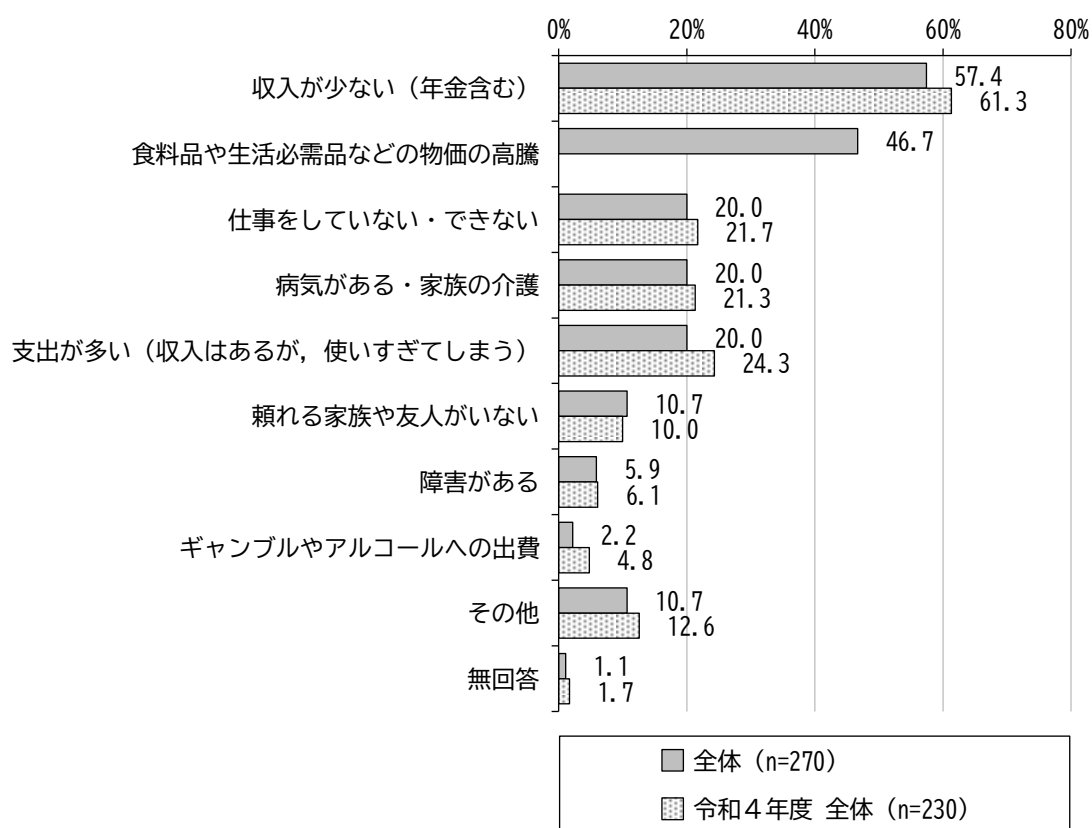
－ 回答者属性分析 －

- 経済的に困った経験を年代別にみると、すべての年代で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、20歳代、40歳代、50歳代、80歳以上で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 住居形態別にみると、公営住宅（市営・都営住宅等）で「現在は困っていないが、困ったことがある」と「困ったことはない」が同率となっている。それ以外の区分で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、民間賃貸（一戸建て）、民間賃貸（集合住宅）、公営住宅（市営・都営住宅等）で『困ったことがある』が4割を超えている。

単位：％		現在困っている	が現在、困ったことはない	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』	『困ったことはない』
全体（N=924）		10.4	18.8	65.4	5.4	29.2	65.4
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	20歳代（n=79）	15.2	16.5	67.1	1.3	31.7	67.1
	30歳代（n=119）	10.9	16.8	71.4	0.8	27.7	71.4
	40歳代（n=147）	16.3	19.0	63.9	0.7	35.3	63.9
	50歳代（n=168）	11.9	25.6	61.9	0.6	37.5	61.9
	60歳代（n=143）	6.3	18.2	68.5	7.0	24.5	68.5
	70歳代（n=134）	4.5	14.2	71.6	9.7	18.7	71.6
	80歳以上（n=113）	9.7	22.1	52.2	15.9	31.8	52.2
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	11.0	17.3	66.9	4.7	28.3	66.9
	若葉・調和（n=120）	10.8	13.3	73.3	2.5	24.1	73.3
	上ノ原・柏野（n=82）	6.1	11.0	74.4	8.5	17.1	74.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	12.5	20.8	59.7	6.9	33.3	59.7
	第二・八雲台・国領（n=130）	7.7	30.8	53.8	7.7	38.5	53.8
	染地・杉森・布田（n=112）	12.5	14.3	69.6	3.6	26.8	69.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	18.3	65.5	2.8	31.7	65.5
	第三・石原・飛田給（n=130）	8.5	22.3	63.8	5.4	30.8	63.8
住居形態別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.4	11.7	76.9	4.0	19.1	76.9
	持ち家（集合住宅）（n=219）	6.4	20.5	66.7	6.4	26.9	66.7
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	18.2	27.3	45.5	9.1	45.5	45.5
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	18.6	26.0	52.8	2.6	44.6	52.8
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	11.9	38.1	38.1	11.9	50.0	38.1
	社宅・公務員住宅等（n=10）	10.0	10.0	80.0	0.0	20.0	80.0
	上記以外（n=15）	6.7	20.0	66.7	6.7	26.7	66.7

付問 問16で「1～2（困っている、困ったことがある）」と答えた人におたずねします。
困っている（困った）原因は何ですか。（いくつでも○）

- 困っている（困った）原因は、「収入が少ない（年金含む）（57.4%）」が最も多く、「食料品や生活必需品などの物価の高騰（46.7%）」、「仕事をしていない・できない（20.0%）」
「病気がある・家族の介護（20.0%）」「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）（20.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



※「食料品や生活必需品などの物価の高騰」は今回調査のみの選択肢

－ 回答者属性分析 －

- 困っている（困った）原因の割合を年代別にみると、すべての年代で「収入が少ない（年金含む）」が最も多くなっている。また、20歳代で「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）」が3割を超えているほか、50歳代以上で「病気がある・家族の介護」が2割を超えている。

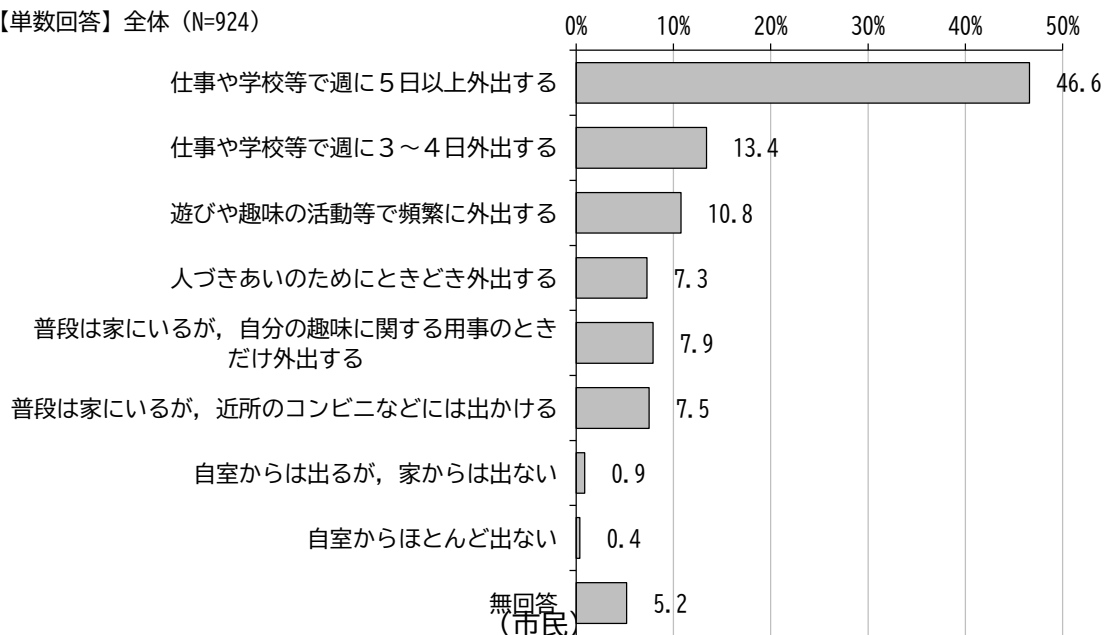
単位：％		仕事を していない・ できない	収入が 少ない（年 金含む）	頼れる 家族や友 人がいない	病気がある ・家族の 介護	障害がある	支出が多い （収入はある が、使い すぎてしま う）	ギャンブル やアルコール への 出費	食料品や 生活必需品 などの物 価の高騰	その他	無 回 答
全体（n=270）		20.0	57.4	10.7	20.0	5.9	20.0	2.2	46.7	10.7	1.1
年代別	20歳代（n=25）	24.0	68.0	4.0	4.0	0.0	36.0	0.0	44.0	8.0	0.0
	30歳代（n=33）	18.2	63.6	3.0	15.2	12.1	24.2	3.0	54.5	12.1	0.0
	40歳代（n=52）	19.2	59.6	21.2	13.5	5.8	17.3	3.8	55.8	13.5	0.0
	50歳代（n=63）	22.2	46.0	12.7	25.4	4.8	28.6	1.6	36.5	11.1	1.6
	60歳代（n=35）	8.6	51.4	8.6	25.7	5.7	14.3	2.9	40.0	14.3	0.0
	70歳代（n=25）	24.0	68.0	12.0	24.0	0.0	8.0	4.0	52.0	4.0	4.0
	80歳以上（n=36）	25.0	58.3	5.6	27.8	11.1	8.3	0.0	50.0	8.3	2.8

※10歳代はn=0のため省略

問 17 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
（1つに○）

- 外出の状況は、「仕事や学校等で週に5日以上外出する（46.6%）」が最も多く、「仕事や学校等で週に3～4日外出する（13.4%）」、「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（10.8%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



無回答
(市民)

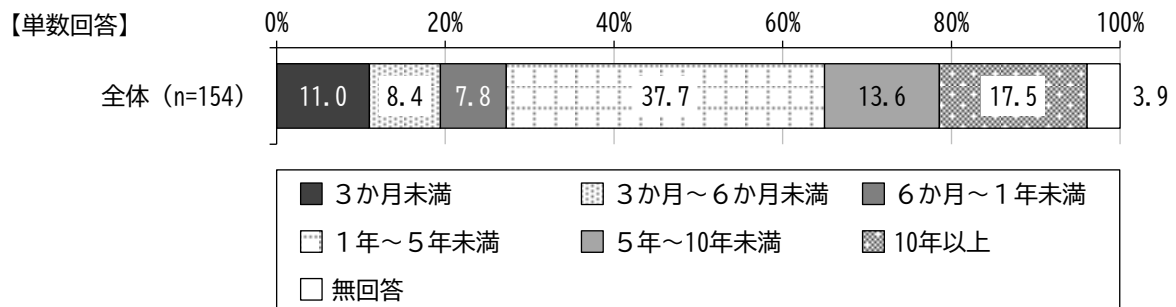
－ 回答者属性分析 －

- 外出の状況の割合を年代別にみると、70 歳代で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」、80 歳以上で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多くなっている。それ以外の年代で「仕事や学校等で週に 5 日以上外出する」が最も多くなっている。

単位：％		仕事や学校等で週に 5 日以上外出する	仕事や学校等で週に 3～4 日外出する	遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	自分の趣味だけに外出するが、用事自	普段は家にいるが、近所はコンビニなどには近	普段は家にいるが、家	自室からは出ないが、	自室からほとんど出ない	無回答
全体 (N=924)		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2	
年代別	10歳代 (n=12)	83.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20歳代 (n=79)	74.7	12.7	1.3	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	
	30歳代 (n=119)	68.1	14.3	4.2	4.2	2.5	5.0	0.0	0.0	1.7	
	40歳代 (n=147)	66.0	19.7	6.8	2.7	2.0	1.4	0.0	0.0	1.4	
	50歳代 (n=168)	58.9	15.5	3.6	4.2	6.0	8.3	0.0	0.6	3.0	
	60歳代 (n=143)	39.2	19.6	14.0	5.6	9.1	3.5	0.0	0.0	9.1	
	70歳代 (n=134)	14.9	6.7	25.4	18.7	13.4	9.7	0.7	1.5	9.0	
	80歳以上 (n=113)	7.1	3.5	21.2	12.4	17.7	23.0	6.2	0.9	8.0	
職業別	正規の社員・職員・役員 (n=339)	76.1	12.7	2.4	2.1	2.4	2.1	0.0	0.0	2.4	
	非正規の社員・職員 (n=182)	53.8	33.0	2.7	1.1	1.1	3.8	0.0	0.5	3.8	
	自由業・自営業 (n=51)	60.8	13.7	7.8	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	
	専業主婦・主夫 (n=117)	12.0	1.7	31.6	19.7	17.1	10.3	0.9	0.0	6.8	
	学生 (n=26)	73.1	15.4	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無職 (n=174)	2.3	2.3	25.3	15.5	19.0	21.8	4.0	1.1	8.6	
	上記以外 (n=16)	37.5	0.0	6.3	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8	

付問1 問17で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1 年～5 年未満（37.7%）」が最も多く、「10 年以上（17.5%）」、「5 年～10 年未満（13.6%）」が続いている。

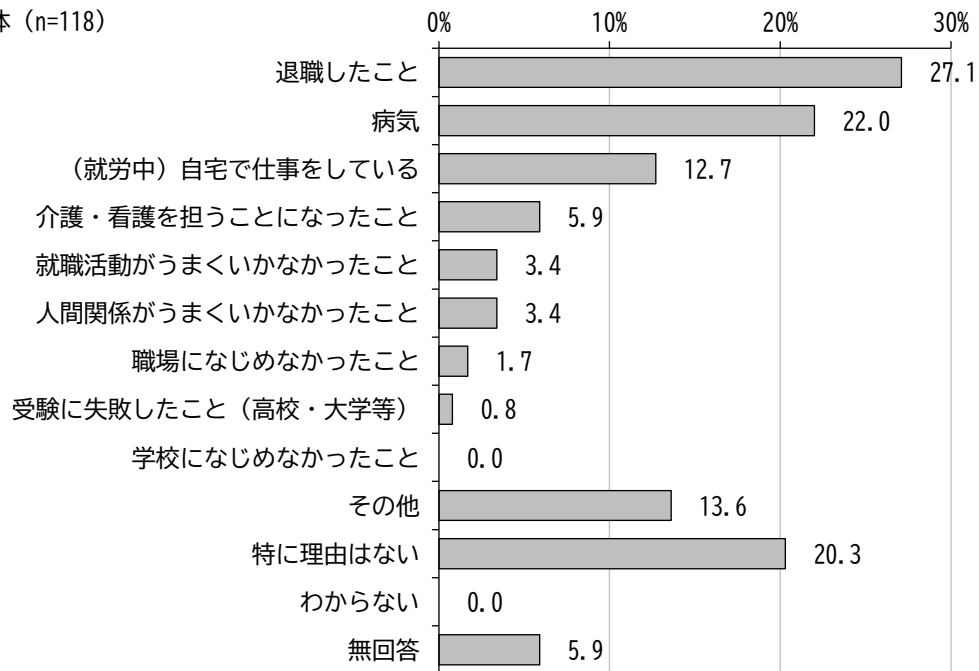


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（27.1%）」が最も多く、「病気（22.0%）」、「特に理由はない（20.3%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=118）



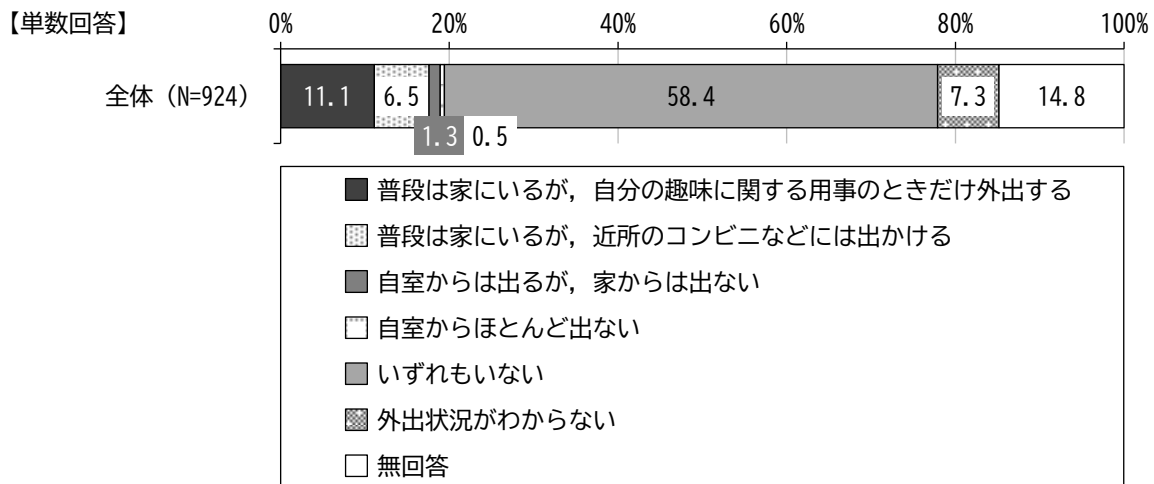
－ 回答者属性分析 －

- 外出状況が現在の状態になった主な理由の割合を年代別にみた結果は以下の表のとおりです（サンプル（n）数が少ないため、コメントは割愛）。

単位：%		病気	に介護・看護を担うこと	を（就労中）自宅で仕事	学校になじめなかったこと	職場になじめなかったこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
全体（N=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
年代別	10歳代（n=1）	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代（n=5）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	30歳代（n=9）	0.0	0.0	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
	40歳代（n=2）	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	50歳代（n=22）	31.8	4.5	27.3	0.0	4.5	0.0	9.1	9.1	13.6	18.2	9.1	0.0	0.0
	60歳代（n=15）	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.3	6.7	33.3	0.0	0.0
	70歳代（n=26）	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.3	3.8	23.1	0.0	7.7
	80歳以上（n=36）	25.0	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	19.4	25.0	0.0	11.1

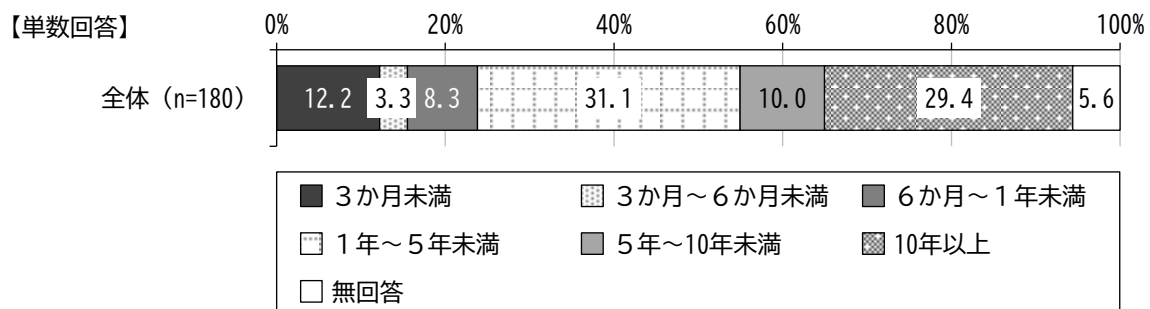
問 18 あなた以外で，市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は，「いずれもいない（58.4%）」が最も多く，「普段は家にいるが，自分の趣味に関する用事するときだけ外出する（11.1%）」，「外出状況がわからない（7.3%）」が続いている。



付問1 問 18 で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経つかは，「1年～5年未満（31.1%）」が最も多く，「10年以上（29.4%）」，「3か月未満（12.2%）」が続いている。

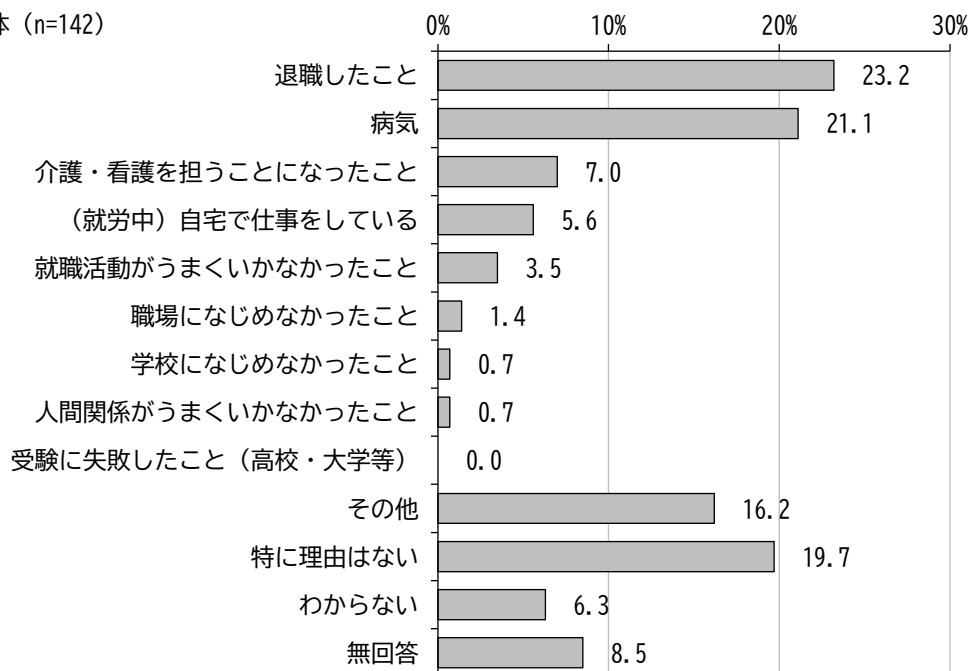


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

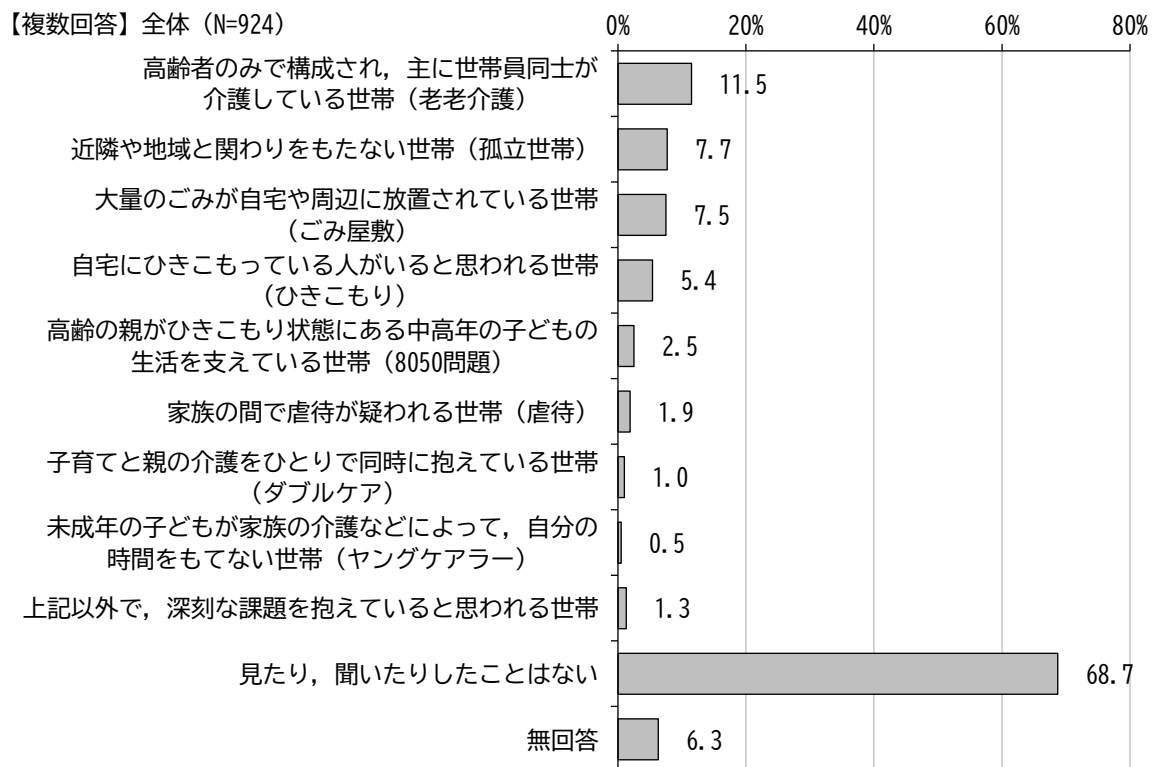
- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（23.2%）」が最も多く、「病気（21.1%）」、「特に理由はない（19.7%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=142）



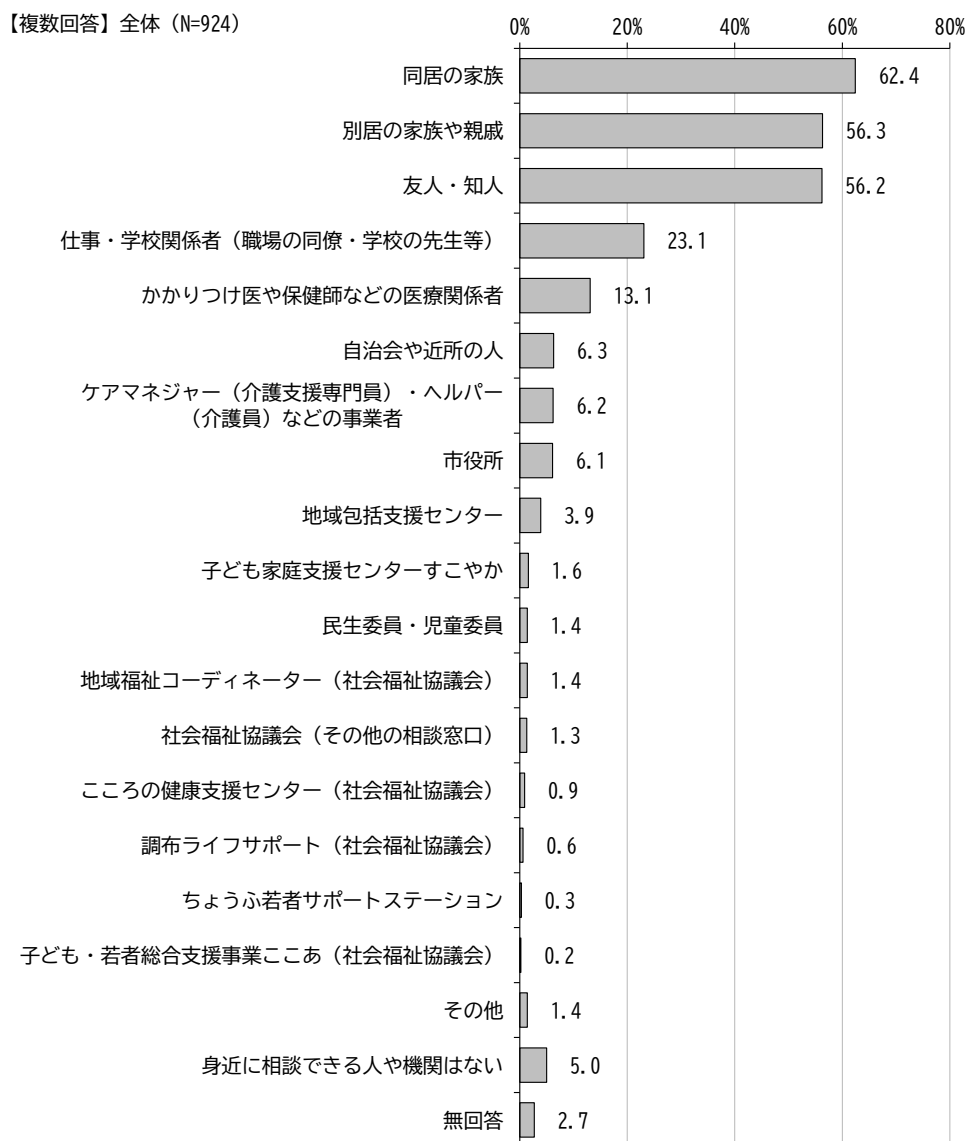
問 19 あなたの地域で次のような世帯を見たり，聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

- 複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況は，「見たり，聞いたりしたことはない(68.7%)」が最も多く，「高齢者のみで構成され，主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.5%)」，「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(7.7%)」が続いている。



問 20 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)は、「同居の家族(62.4%)」が最も多く、「別居の家族や親戚(56.3%)」、「友人・知人(56.2%)」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

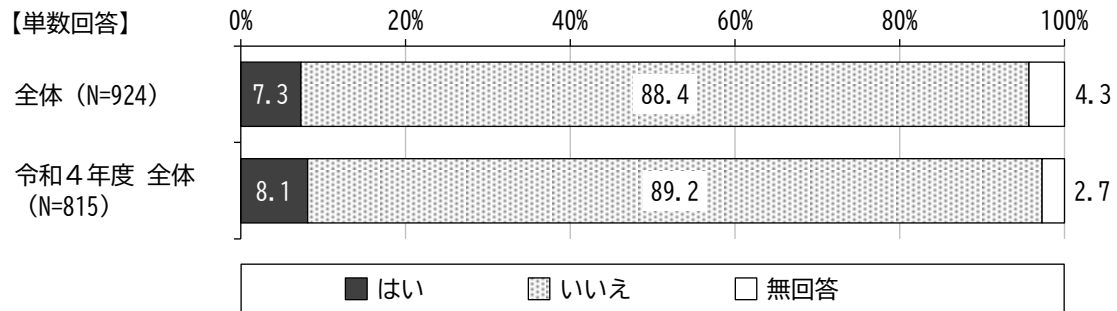
- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)の割合を性・年代別にみると、男性：30～40歳代，女性：70歳以上で「別居の家族や親戚」，女性：10～20歳代，女性：30～40歳代で「友人・知人」が最も多く，男性：10～20歳代で「同居の家族」と「友人・知人」が同率となっている。それ以外の区分で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると，緑ヶ丘・滝坂小学校地域で「別居の家族や親戚」，第一・富士見台・多摩川小学校地域で「友人・知人」，それ以外の地域で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると，ひとり暮らしで「別居の家族や親戚」，ひとり暮らし以外で「同居の家族」が最も多くなっている。

単位：％		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護専門員）・ヘルパー（介護支援専門員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）
全体（N=924）		62.4	56.3	6.3	56.2	23.1	1.4	6.2	13.1	6.1	1.4
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	65.8	31.6	2.6	65.8	36.8	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	56.5	59.8	2.2	51.1	35.9	2.2	1.1	9.8	9.8	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	59.7	55.2	6.7	45.5	19.4	0.7	4.5	13.4	7.5	1.5
	男性：70歳以上（n=101）	52.5	42.6	11.9	36.6	3.0	5.0	15.8	25.7	5.9	3.0
	女性：10～20歳代（n=53）	66.0	39.6	1.9	71.7	34.0	0.0	0.0	9.4	5.7	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	75.1	67.6	6.4	75.7	38.7	0.6	1.7	10.4	4.6	0.0
	女性：50～60歳代（n=175）	69.1	61.1	8.0	65.7	27.4	0.6	6.9	10.3	6.9	0.0
	女性：70歳以上（n=141）	53.2	59.6	5.7	42.6	1.4	0.7	12.1	17.0	4.3	3.5
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	58.3	60.6	0.0	55.1	22.0	0.0	6.3	11.0	7.9	1.6
	若葉・調和（n=120）	70.0	57.5	6.7	55.0	24.2	0.8	7.5	14.2	4.2	1.7
	上ノ原・柏野（n=82）	72.0	54.9	1.2	50.0	25.6	1.2	4.9	12.2	2.4	1.2
	北ノ台・深大寺（n=72）	65.3	52.8	12.5	56.9	16.7	1.4	4.2	13.9	5.6	1.4
	第二・八雲台・国領（n=130）	52.3	50.8	7.7	51.5	22.3	1.5	6.2	14.6	6.9	1.5
	染地・杉森・布田（n=112）	64.3	52.7	10.7	60.7	18.8	2.7	8.0	14.3	4.5	1.8
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	60.6	57.0	7.0	63.4	26.1	2.1	4.9	13.4	7.0	1.4
	第三・石原・飛田給（n=130）	64.6	61.5	6.2	56.9	26.9	1.5	6.2	11.5	7.7	0.0
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	1.2	59.0	2.4	49.4	20.5	1.2	6.6	10.8	4.2	2.4
	ひとり暮らし以外（n=740）	76.4	56.2	6.8	58.1	24.2	1.5	5.9	13.6	6.6	1.2

単位：％		（調布ライフサポート（社会福祉協議会）	子ども・若者総合支援事業（社会福祉協議会）	このころの健康支援センター（社会福祉協議会）	社会福祉協議会（その他の相談窓口）	地域包括支援センター	ちようふ若者サポートステーション	子ども家庭支援センター（すこやか）	その他	身近に相談できる人や機関はない	無回答
全体（N=924）		0.6	0.2	0.9	1.3	3.9	0.3	1.6	1.4	5.0	2.7
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	7.9	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	1.1	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.0	8.7	1.1
	男性：50～60歳代（n=134）	1.5	0.0	1.5	0.0	2.2	0.0	0.7	0.7	8.2	0.7
	男性：70歳以上（n=101）	1.0	1.0	2.0	4.0	8.9	1.0	1.0	1.0	8.9	5.9
	女性：10～20歳代（n=53）	1.9	1.9	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.8	2.3	0.0	0.6
	女性：50～60歳代（n=175）	0.0	0.0	1.7	0.6	5.1	0.0	1.1	0.6	6.3	0.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	0.0	0.0	2.1	7.8	0.0	0.0	2.1	2.1	7.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	0.8	0.0	0.0	0.8	3.1	0.0	0.8	0.0	3.9	3.1
	若葉・調和（n=120）	0.8	0.0	1.7	1.7	3.3	0.0	1.7	1.7	5.8	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	1.4	0.0	0.0	2.8	8.3	0.0	0.0	1.4	8.3	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	0.8	0.0	0.8	1.5	3.1	0.0	0.8	1.5	5.4	4.6
	染地・杉森・布田（n=112）	0.9	0.9	3.6	1.8	4.5	0.9	2.7	0.9	5.4	0.9
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	0.7	0.7	0.7	0.7	4.9	0.7	3.5	1.4	4.2	2.1
	第三・石原・飛田給（n=130）	0.0	0.0	0.0	0.8	3.1	0.8	1.5	1.5	4.6	2.3
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	0.0	0.0	0.6	1.8	4.8	0.6	0.0	1.2	8.4	4.8
	ひとり暮らし以外（n=740）	0.8	0.3	0.9	1.2	3.8	0.3	2.0	1.4	4.3	1.8

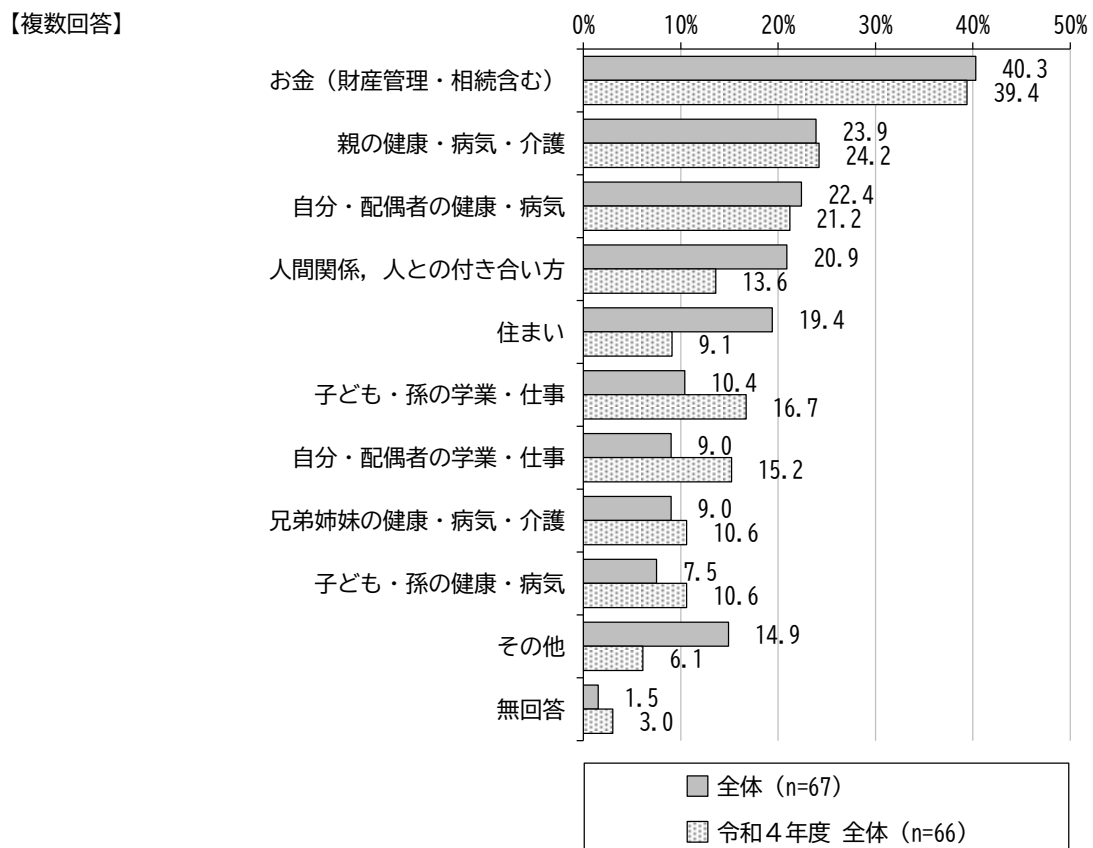
問 21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

- どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかは、「はい (7.3%)」, 「いいえ (88.4%)」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



付問 問 21 で「1 はい」と答えた方におたずねします。
差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

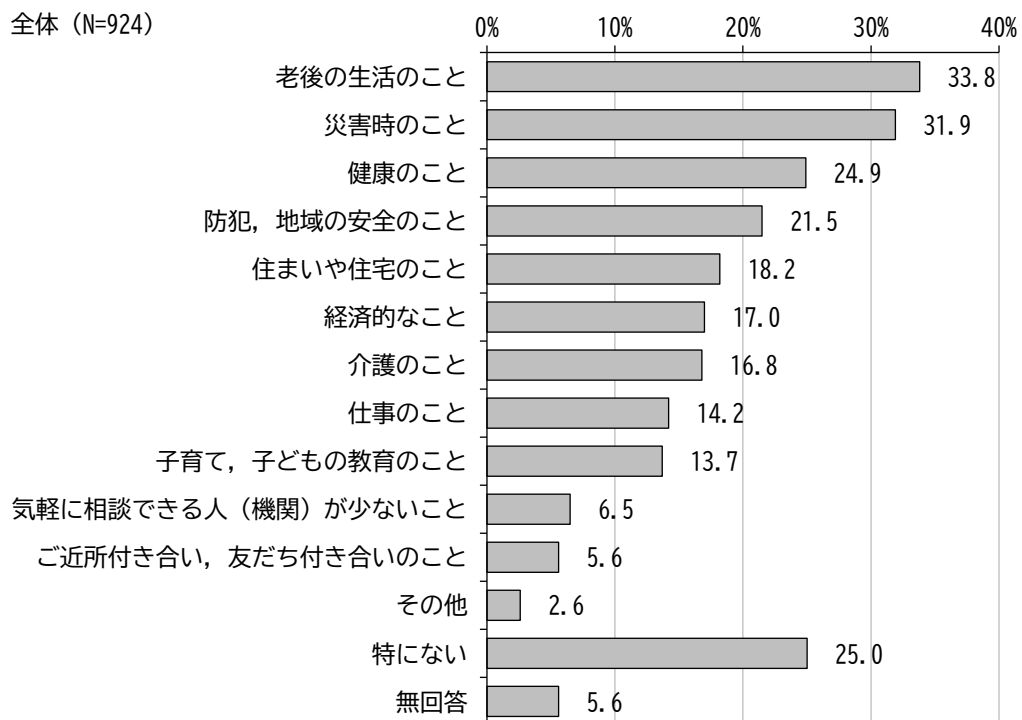
- 相談先がわからない生活上の困りごとの内容は、「お金(財産管理・相続含む) (40.3%)」が最も多く、「親の健康・病気・介護 (23.9%)」, 「自分・配偶者の健康・病気 (22.4%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「住まい」が10.3ポイント, 「人間関係, 人との付き合い方」が7.3ポイント高く, 「子ども・孫の学業・仕事」が6.3ポイント, 「自分・配偶者の学業・仕事」が6.2ポイント低くなっている。



問 22 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- 地域の中で不安や課題と感じていることは、「老後の生活のこと（33.8%）」が最も多く、「災害時のこと（31.9%）」、「特にない（25.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=924）



－ 回答者属性分析 －

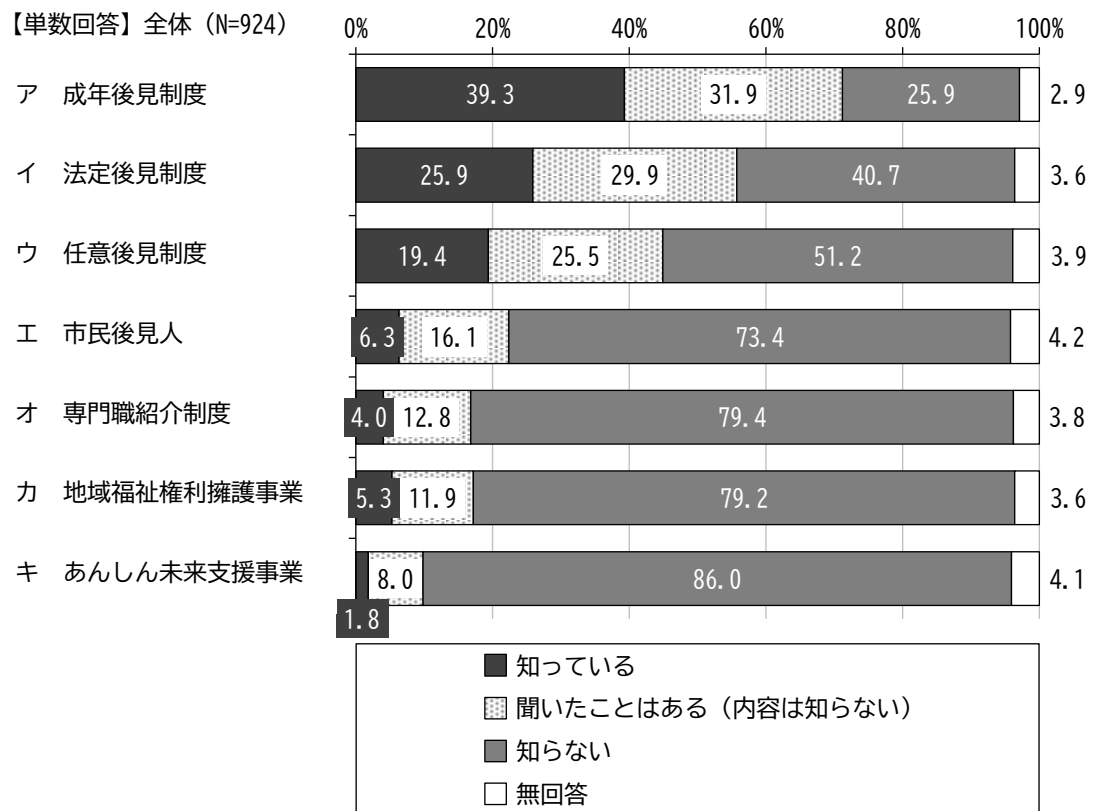
- 地域の中で不安や課題と感じていることの割合を性・年代別にみると、「特にない」を除くと、男性は、10～20歳代で「経済的なこと」、30～40歳代、50～60歳代で「老後の生活のこと」が最も多く、70歳以上で「防犯、地域の安全のこと」と「災害時のこと」が同率となっている。女性は、10～20歳代、30～40歳代で「災害時のこと」、50～60歳代、70歳以上で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で「災害時のこと」、それ以外の地域で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。

単位：％		子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	ご近所付き合い、友だち	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）		13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	13.2	18.4	2.6	10.5	10.5	18.4	21.1	7.9	7.9	13.2	5.3	2.6	36.8	5.3
	男性：30～40歳代（n=92）	31.5	26.1	14.1	33.7	27.2	25.0	26.1	13.0	23.9	29.3	5.4	1.1	26.1	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	4.5	28.4	21.6	41.0	19.4	14.9	18.7	1.5	16.4	29.1	3.0	2.2	26.1	2.2
	男性：70歳以上（n=101）	0.0	25.7	12.9	19.8	9.9	1.0	7.9	0.0	26.7	26.7	9.9	2.0	32.7	10.9
	女性：10～20歳代（n=53）	18.9	9.4	13.2	15.1	13.2	20.8	15.1	1.9	18.9	28.3	3.8	1.9	30.2	1.9
	女性：30～40歳代（n=173）	38.2	31.2	16.2	36.4	27.2	23.1	20.2	11.0	27.2	38.7	4.6	2.3	16.8	1.7
	女性：50～60歳代（n=175）	5.1	21.1	26.3	52.0	18.3	13.7	19.4	6.3	20.6	44.0	9.1	4.0	16.0	4.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	25.5	11.3	26.2	9.2	2.1	9.2	2.8	22.0	25.5	9.2	3.5	34.0	10.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	15.7	26.8	16.5	40.2	18.1	21.3	20.5	7.1	22.0	33.1	7.1	1.6	22.0	6.3
	若葉・調和（n=120）	14.2	20.8	15.8	30.8	18.3	10.8	20.0	4.2	20.8	27.5	8.3	0.8	29.2	4.2
	上ノ原・柏野（n=82）	7.3	26.8	17.1	30.5	11.0	9.8	7.3	4.9	15.9	29.3	1.2	2.4	28.0	4.9
	北ノ台・深大寺（n=72）	8.3	22.2	13.9	29.2	13.9	6.9	11.1	2.8	30.6	33.3	5.6	4.2	27.8	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	13.8	24.6	21.5	28.5	13.8	10.8	13.1	6.2	21.5	31.5	6.2	2.3	26.2	8.5
	染地・杉森・布田（n=112）	15.2	24.1	16.1	31.3	21.4	16.1	25.0	8.0	20.5	28.6	8.9	3.6	27.7	5.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	16.2	28.9	16.9	43.7	22.5	18.3	18.3	6.3	20.4	36.6	9.9	2.1	16.9	4.2
	第三・石原・飛田給（n=130）	14.6	24.6	16.2	32.3	21.5	14.6	16.2	4.6	23.8	35.4	3.1	4.6	25.4	4.6

5 市民の権利を守る取組についておたずねします

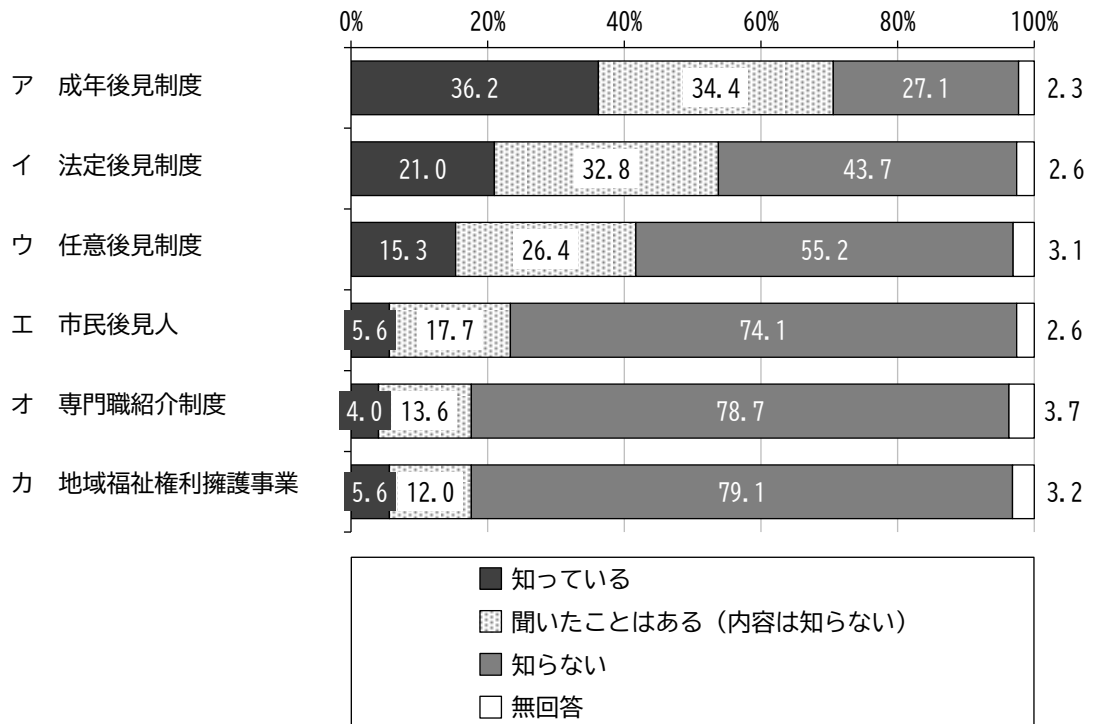
問 23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は,[ア 成年後見制度(39.3%)]が最も多く,[イ 法定後見制度(25.9%)],[ウ 任意後見制度(19.4%)]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると,大きな変化はみられない。



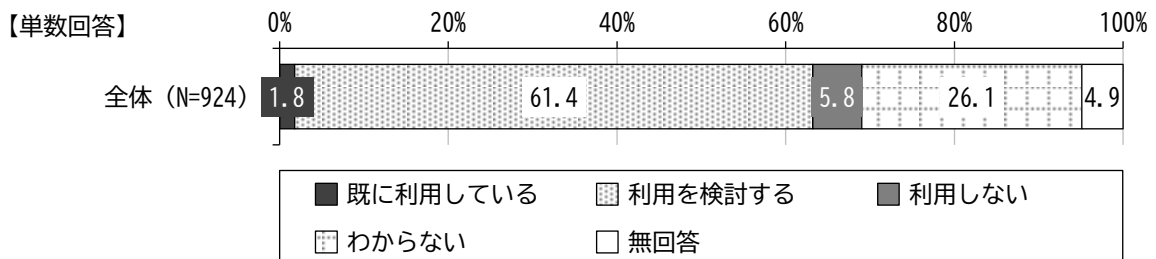
※ [キ あんしん未来支援事業] は今回調査のみの項目

【単数回答】令和4年度 全体 (N=815)



問24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問23）のいずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。（1つに○）

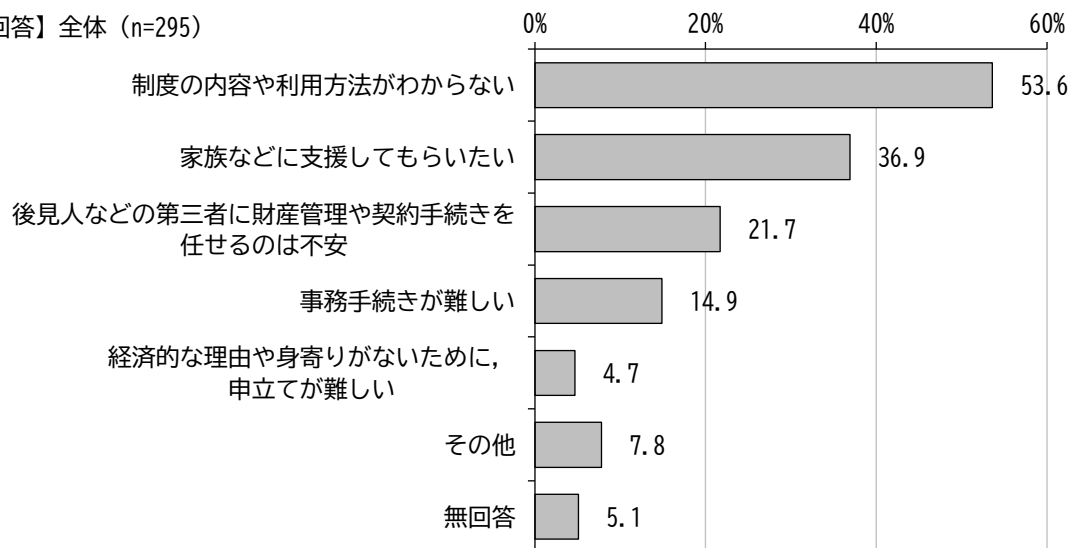
○ 問23の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（61.4%）」が最も多く、「わからない（26.1%）」、「利用しない（5.8%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」, 「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない, または, わからないと答えた主な理由は何ですか。
(いくつでも○)

- 制度を利用しない, または, わからないと答えた主な理由は, 「制度の内容や利用方法がわからない (53.6%)」が最も多く, 「家族などに支援してもらいたい (36.9%)」, 「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安 (21.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=295)

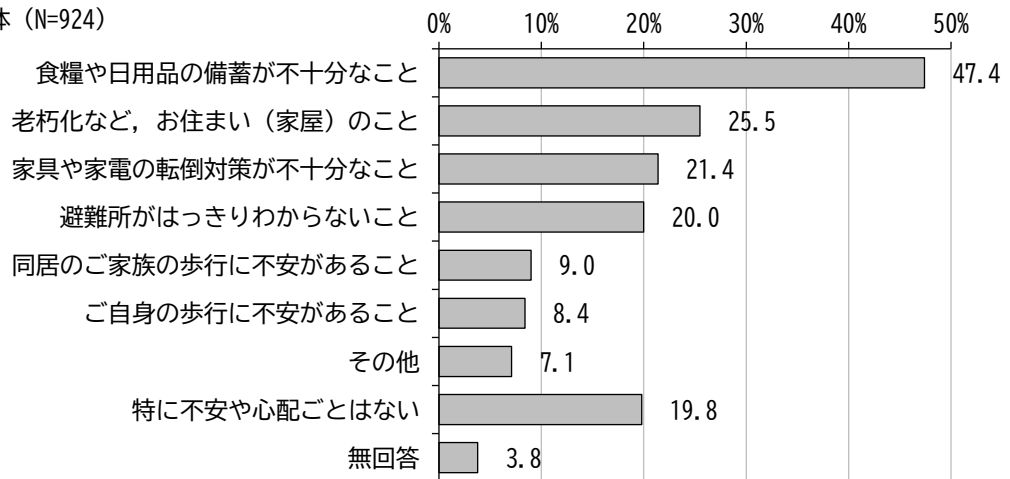


6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 25 災害時についての不安や心配ごとはありますか。(いくつでも○)

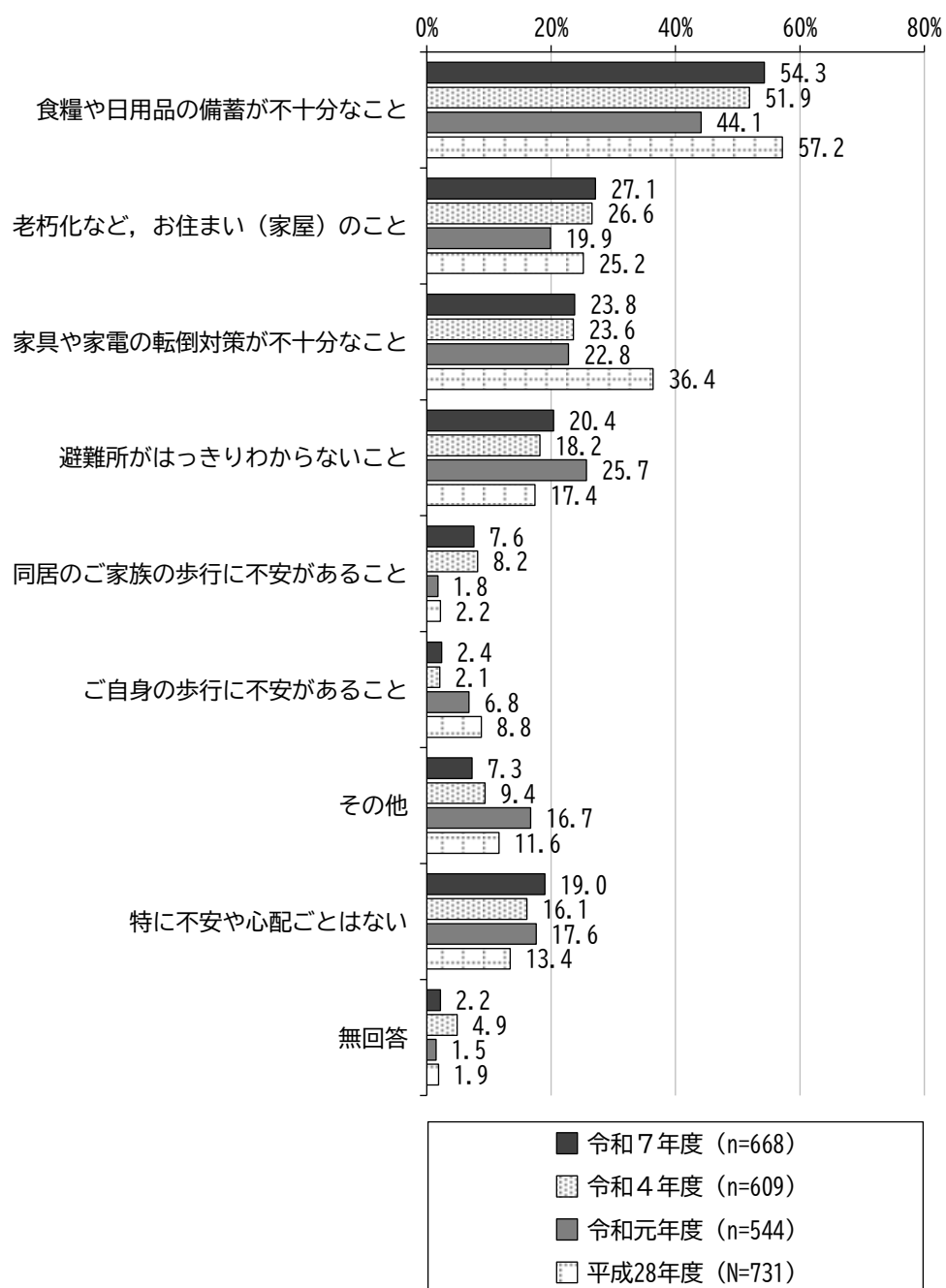
- 災害時についての不安や心配ごとは、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと(47.4%)」が最も多く、「老朽化など、お住まい(家屋)のこと(25.5%)」、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと(21.4%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=924)



- 経年で比較すると、令和7年度も平成28年度、令和元年度、令和4年度と同様に「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多くなっている。また、令和4年度と同様に「老朽化など、お住まい（家屋）のこと」が2番目に多くなっている。

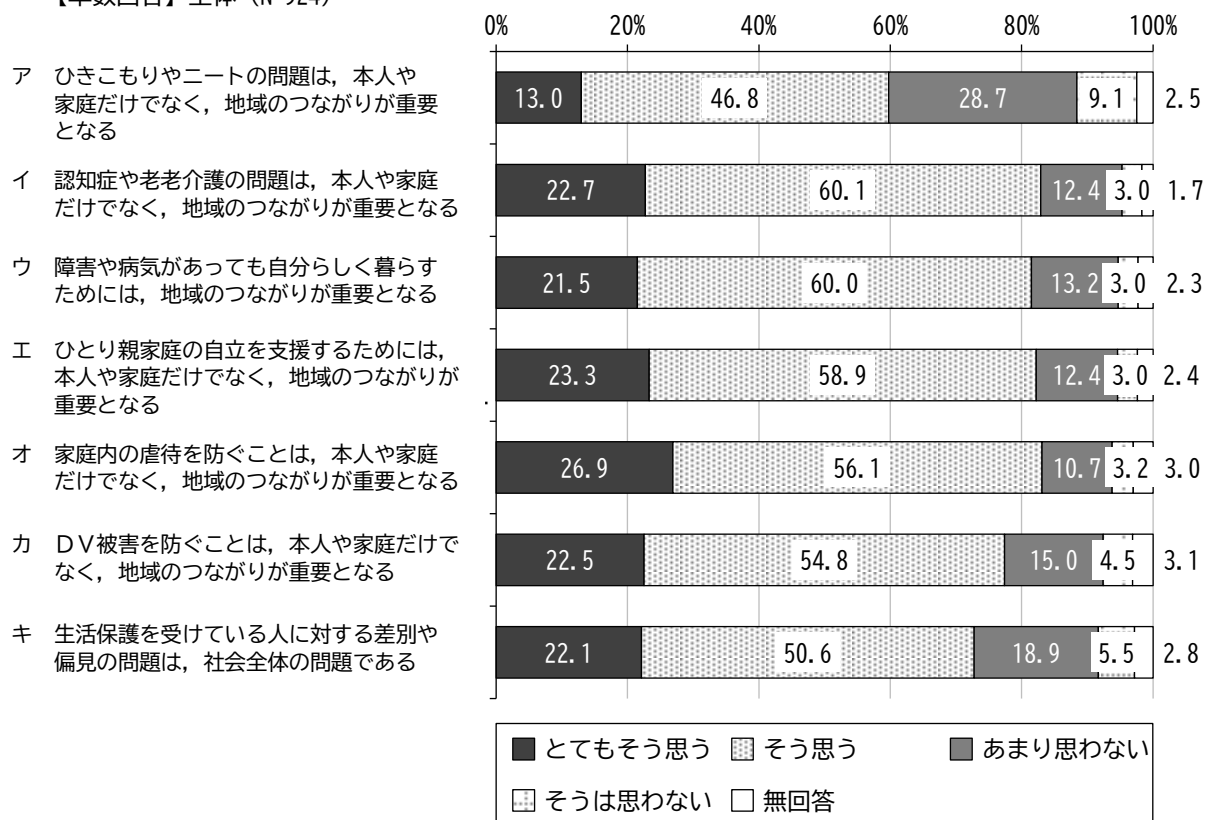
【複数回答】



問 26 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域のつながりに対する考え方について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、[オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (83.0%)] が最も多く、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.8%)], [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.2%)] が続いている。
- 一方、「あまり思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (37.8%)] が最も多く、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である (24.4%)], [カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (19.5%)] が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



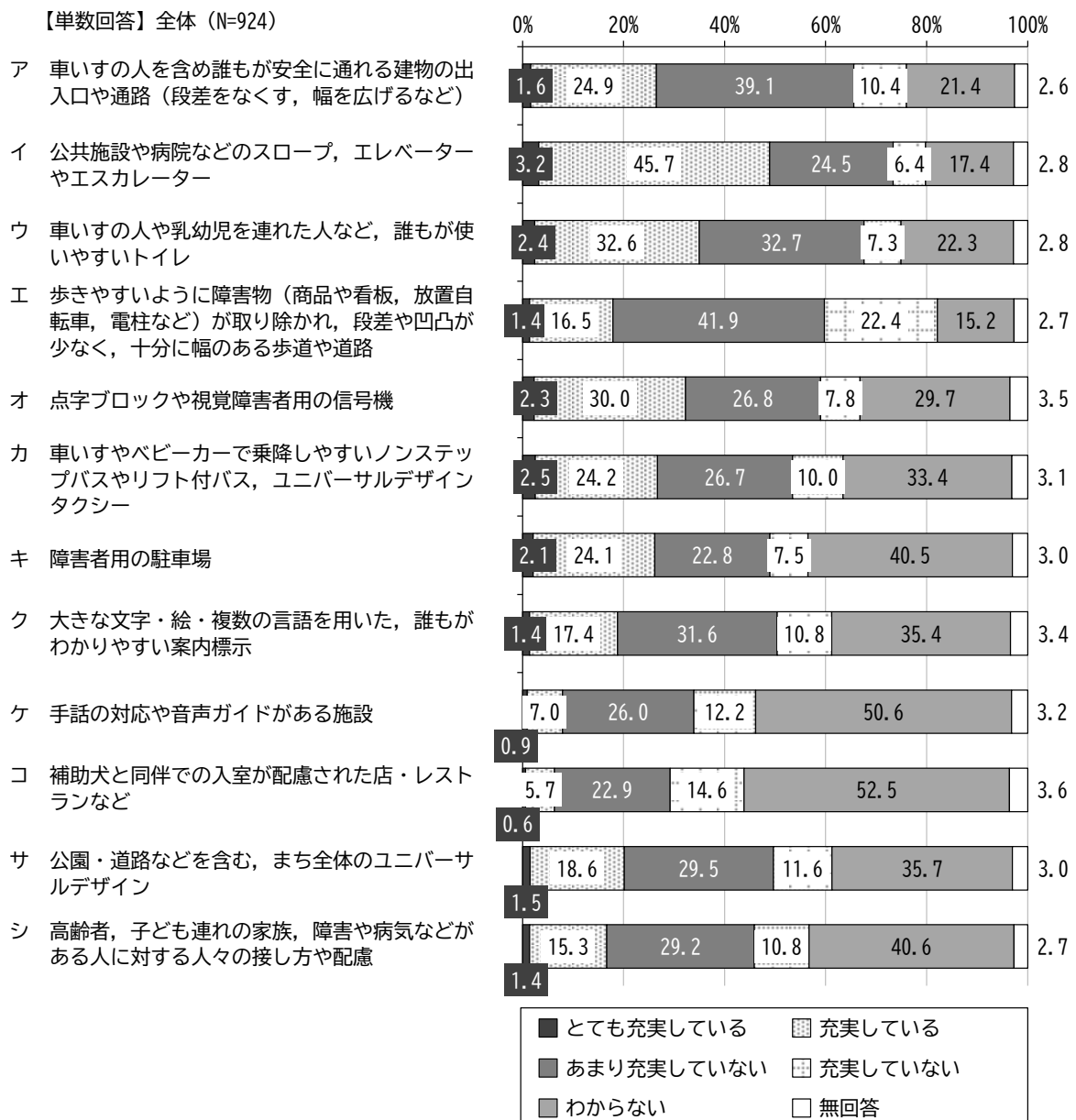
- 経年で比較する（令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目を除く）と、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる]と [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思う』割合がこれまでで最も多くなっている。
- 一方、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思わない』割合がこれまでで最も多くなっている。

単位：％		とても そう思う	そう 思う	あまり 思わない	そうは 思わない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	12.4	44.2	32.2	10.3	0.9	56.6	42.5
	令和4年度（n=609）	14.1	37.6	36.6	10.7	1.0	51.7	47.3
	令和元年度（n=544）	14.0	42.0	33.1	9.4	1.5	56.0	42.5
	平成28年度（N=731）	10.0	36.9	39.1	9.7	4.2	46.9	48.8
イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.1	60.3	12.4	3.6	0.6	83.4	16.0
	令和4年度（n=609）	32.3	53.0	11.3	2.0	1.3	85.3	13.3
	令和元年度（n=544）	27.2	58.9	10.1	2.9	0.9	86.1	13.0
	平成28年度（N=731）	21.6	62.2	11.2	1.4	3.6	83.8	12.6
ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる	令和7年度（N=924）	21.5	60.0	13.2	3.0	2.3	81.5	16.2
	令和4年度（N=815）	24.9	55.3	14.6	1.7	3.4	80.2	16.3
エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.7	60.2	12.1	3.3	0.7	83.9	15.4
	令和4年度（n=609）	27.4	54.8	14.0	2.8	1.0	82.2	16.8
	令和元年度（n=544）	22.8	59.2	14.5	2.0	1.5	82.0	16.5
	平成28年度（N=731）	19.2	58.8	15.2	2.9	4.0	78.0	18.1
オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	29.5	56.6	9.9	3.1	0.9	86.1	13.0
	令和4年度（n=609）	28.1	47.5	18.4	4.6	1.5	75.6	23.0
	令和元年度（n=544）	38.8	50.6	7.5	1.8	1.3	89.4	9.3
	平成28年度（N=731）	27.6	57.6	9.0	1.9	3.8	85.2	10.9
カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.2	56.1	15.6	4.2	0.9	79.3	19.8
	令和4年度（n=609）	22.5	47.3	22.8	6.2	1.1	69.8	29.0
	令和元年度（n=544）	27.0	53.5	15.1	3.3	1.1	80.5	18.4
	平成28年度（N=731）	19.3	52.0	21.1	3.3	4.4	71.3	24.4
キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である	令和7年度（N=924）	22.1	50.6	18.9	5.5	2.8	72.7	24.4
	令和4年度（N=815）	17.2	49.2	24.7	5.0	3.9	66.4	29.7

※ [ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる], [キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である] は令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目

問 27 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

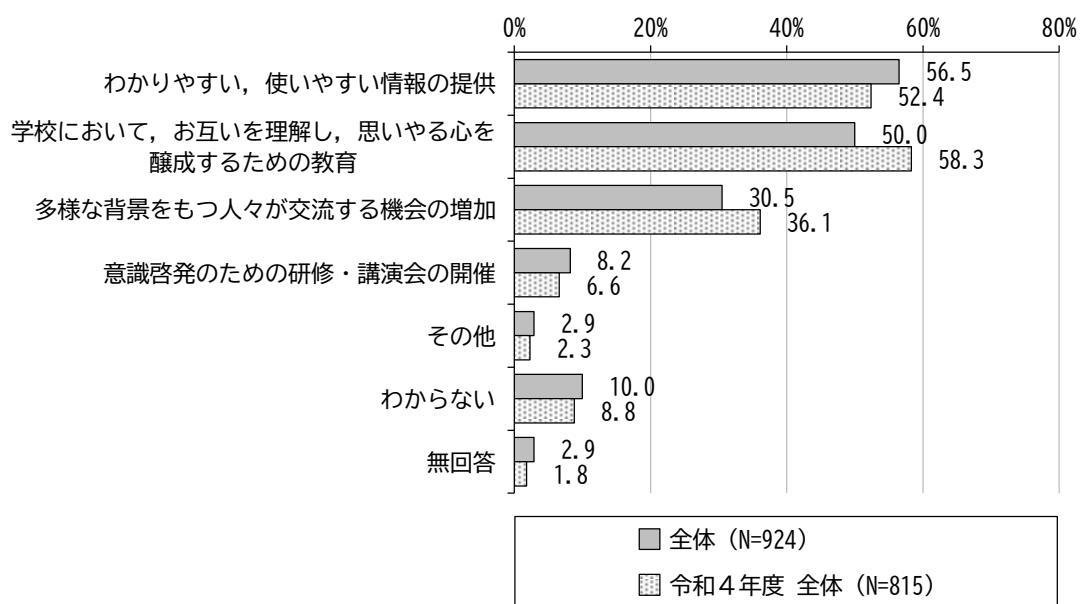
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (48.9%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ (35.0%)], [オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機 (32.3%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路 (64.3%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど） (49.5%)], [ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示 (42.4%)] が続いている。



問 28 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

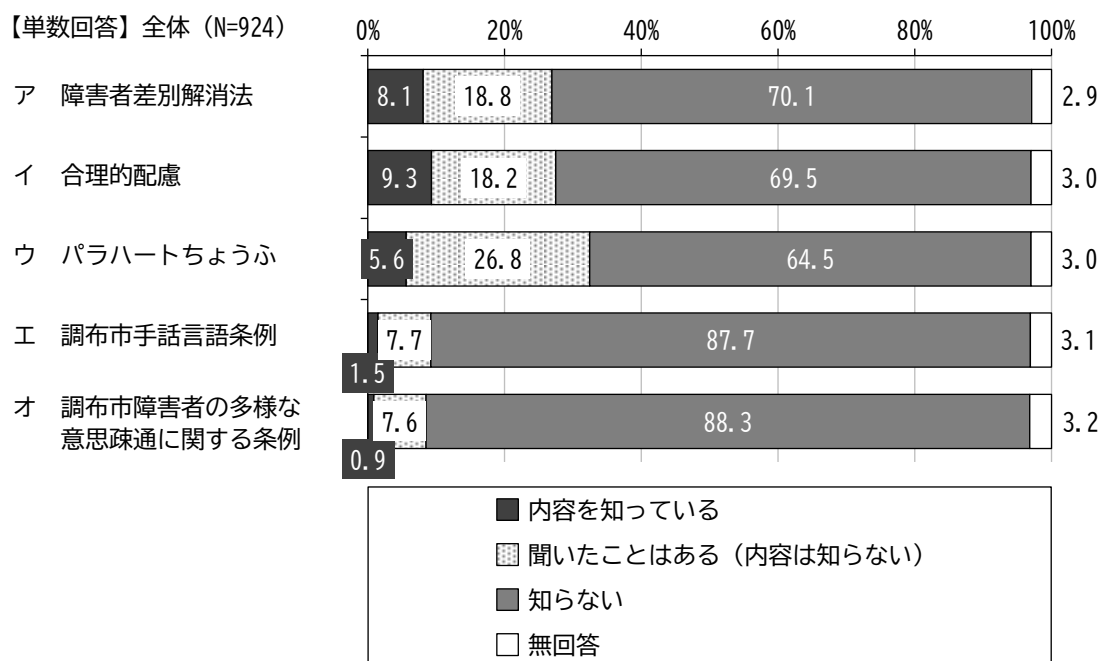
- 心のバリアフリー化に向けた取組は、「わかりやすい、使いやすい情報の提供（56.5%）」が最も多く、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育（50.0%）」、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加（30.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育」が8.3ポイント、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加」が5.6ポイント低くなっている。

【複数回答】



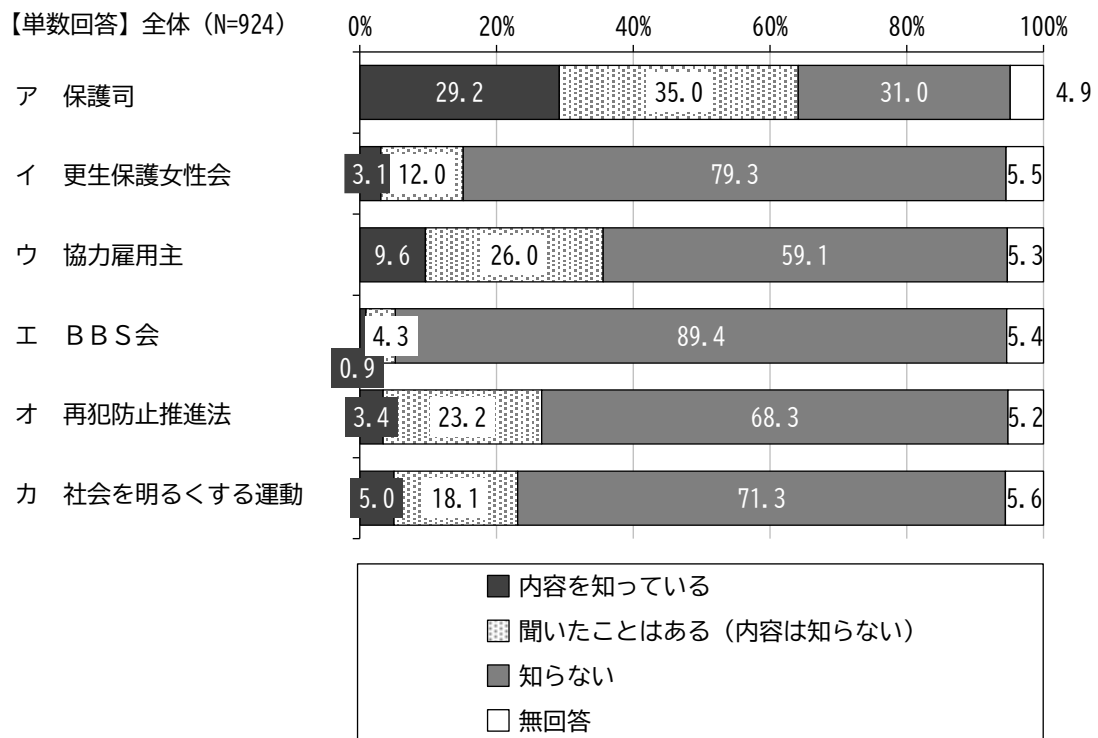
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方，市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（9.3%）]が最も多く，[ア 障害者差別解消法（8.1%）]，[ウ パラハートちょうふ（5.6%）]が続いている。それ以外の項目は「知らない」が8割を超えている。



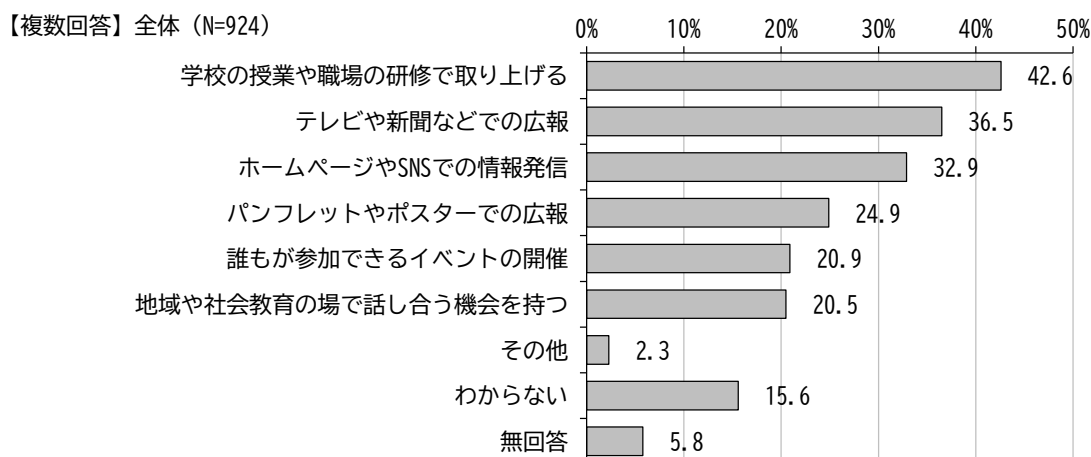
問 30 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する下記の民間協力者や活動などを知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する民間協力者や活動などの認知度について、「内容を知っている」の割合は，[ア 保護司（29.2%）]が最も多く，[ウ 協力雇用主（9.6%）]が続いている。それ以外の項目は「知らない」が6割を超えている。



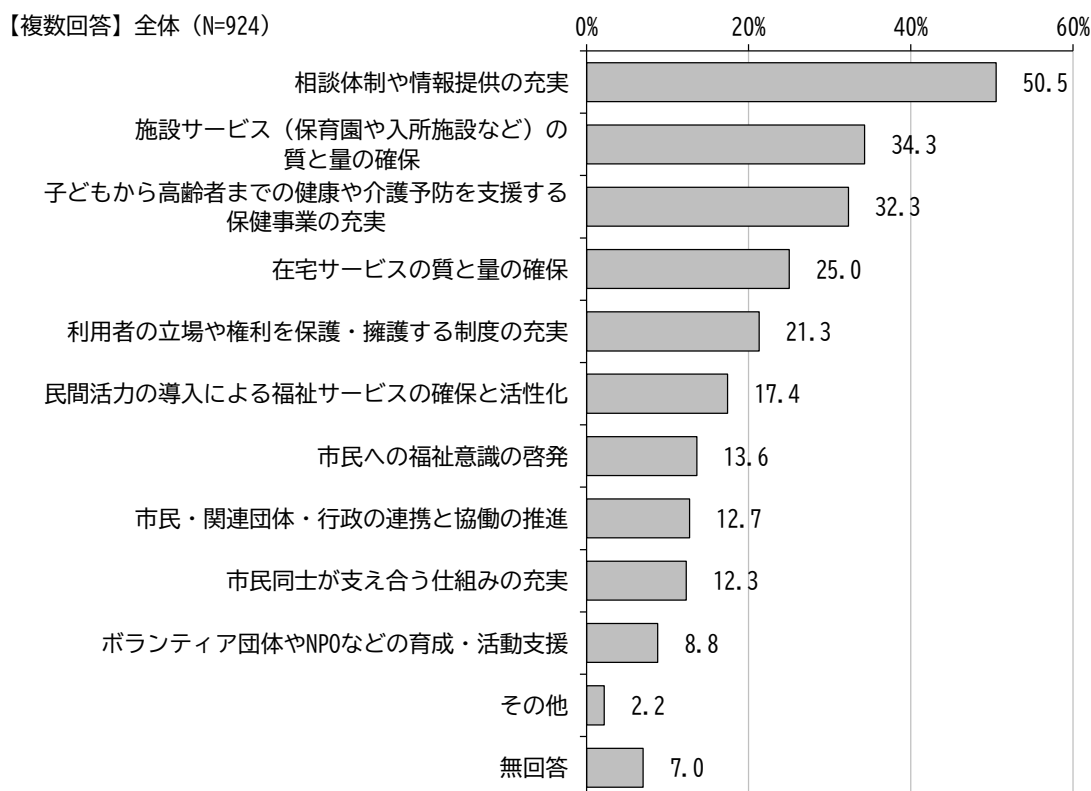
問 31 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。（3つまで○）

- 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるために必要な取組は、「学校の授業や職場の研修で取り上げる（42.6%）」が最も多く、「テレビや新聞などでの広報（36.5%）」、「ホームページや SNS での情報発信（32.9%）」が続いている。



問 32 調布市の福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（3つまで○）

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（50.5%）」が最も多く、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（34.3%）」、「子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実（32.3%）」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組の割合を年代別にみると、10 歳代、30 歳代で「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保」、それ以外の年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 性・年代別にみると、男性、女性ともにすべての年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。

単位：％		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実や介	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	ボランテニア団体やNPOなどの育成・活動支援	市民同士が支え合う仕組みの充実	民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=924)		50.5	21.3	32.3	25.0	34.3	8.8	12.3	17.4	12.7	13.6	2.2	7.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	8.3	25.0	50.0	16.7	16.7	8.3	33.3	0.0	0.0	8.3
	20歳代 (n=79)	57.0	36.7	32.9	17.7	32.9	2.5	7.6	17.7	21.5	10.1	2.5	0.0
	30歳代 (n=119)	44.5	25.2	37.8	17.6	54.6	4.2	16.0	14.3	10.1	12.6	2.5	1.7
	40歳代 (n=147)	50.3	19.7	33.3	19.0	32.7	12.2	9.5	20.4	15.0	12.9	2.7	3.4
	50歳代 (n=168)	54.8	22.0	36.3	25.6	31.0	7.7	14.9	19.6	13.1	19.0	1.2	0.6
	60歳代 (n=143)	53.8	15.4	30.8	29.4	33.6	10.5	14.7	21.0	14.0	15.4	1.4	9.1
	70歳代 (n=134)	55.2	20.1	29.1	29.9	29.9	11.2	10.4	14.2	8.2	10.4	3.0	13.4
	80歳以上 (n=113)	39.8	17.7	27.4	33.6	25.7	9.7	11.5	14.2	8.0	14.2	2.7	18.6
性・年代別	男性：10～20歳代 (n=38)	47.4	31.6	23.7	18.4	31.6	2.6	10.5	23.7	28.9	7.9	2.6	0.0
	男性：30～40歳代 (n=92)	46.7	27.2	31.5	17.4	39.1	12.0	13.0	14.1	13.0	16.3	3.3	3.3
	男性：50～60歳代 (n=134)	50.7	21.6	33.6	25.4	26.9	11.2	12.7	21.6	10.4	17.9	1.5	2.2
	男性：70歳以上 (n=101)	51.5	12.9	33.7	28.7	30.7	11.9	8.9	14.9	7.9	14.9	3.0	14.9
	女性：10～20歳代 (n=53)	58.5	37.7	34.0	18.9	37.7	5.7	7.5	11.3	18.9	9.4	1.9	1.9
	女性：30～40歳代 (n=173)	48.0	19.7	37.6	19.1	43.9	6.9	12.1	19.7	12.7	11.0	2.3	2.3
	女性：50～60歳代 (n=175)	57.7	16.0	34.3	28.6	36.0	7.4	16.6	19.4	16.0	16.6	1.1	6.3
	女性：70歳以上 (n=141)	46.1	24.1	24.8	34.8	26.2	9.2	12.1	13.5	8.5	10.6	2.1	15.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	49.6	18.1	38.6	26.0	39.4	7.1	13.4	18.9	14.2	10.2	1.6	4.7
	若葉・調和 (n=120)	47.5	25.0	26.7	24.2	36.7	6.7	15.0	11.7	10.0	20.8	1.7	8.3
	上ノ原・柏野 (n=82)	51.2	24.4	26.8	34.1	29.3	9.8	8.5	20.7	9.8	9.8	0.0	8.5
	北ノ台・深大寺 (n=72)	45.8	30.6	40.3	19.4	30.6	13.9	12.5	12.5	11.1	9.7	4.2	4.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	56.2	16.9	31.5	22.3	31.5	11.5	10.8	15.4	16.2	13.1	2.3	9.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	45.5	25.0	33.9	25.0	33.0	6.3	9.8	17.9	16.1	9.8	3.6	6.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	57.0	20.4	29.6	26.1	33.1	8.5	17.6	23.2	13.4	16.2	2.8	4.9
	第三・石原・飛田給 (n=130)	48.5	17.7	32.3	23.8	37.7	9.2	10.0	17.7	10.0	16.9	1.5	7.7

問 33 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、401 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会活動の活性化 イ 地域活動の活性化 ウ 地域活動の情報 エ 近所のつながり	95
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実	108
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災の強化 エ 防犯の強化	95
取組番号の選択なし		23
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境 イ 市の施策 ウ 医療、福祉、子育て、防災 エ アンケート	80
合計		401

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会活動の活性化

- 自治会活動などを通じて、多数の人が気軽に参加出来るような体制をつくり運営できると良い。（男性、60 歳代）
- 自治会に参加していますが役員がお年寄りだらけで不安です。我が家は古いマンションのため、マンションごと加入が必須となっていますが、周りの新しいマンションの方は、自治会の存在すら知らないだろうし、当然入り方も分からないと思います。マンション管理組合もほぼ外注のような時代ですが「自治会」はもっと分かりやすく、参加メリットと入会方法を各自治会やったほうが良いのだろうと思います。（女性、40 歳代）

- 自治会への加入率を上げるための施策がほしいところ。災害等があったときにも、結局自治会のような組織がしっかりしていないと支援もなかなか届かない。(男性, 50 歳代)

イ 地域活動の活性化

- 同じ地域内で組に分かれて運動会を行う等、一緒に活動する機会、顔を合わせれる機会があればいいのではないかと思います。(女性, 30 歳代)
- 障害のある人, 中学生, 高校生, 子供, 赤ちゃん連れの人, 高齢の人, 誰もが立ち寄れるホットスペース的な所があって, たまにイベント的な何かを作ってみようみたいな催しがある。お互いにコミュニケーションを取れる様な場所作りがあったらいいと思います。居場所のない人にとっては, 居場所も出来てよいのでは。ただ管理人的な人が居ないと難しい, アドバイスをしてもらって管理する人の育成もしなくてはいいと思います。例えば編物, 縫物を高齢の人に教えてもらうとか。そういう所で相談, サービスにつなげていけたら良いと思います。(女性, 60 歳代)
- 運営する為の資金をもう少し欲しい。道具や設備を整えるための対応を早くして欲しい。(男性, 20 歳代)

ウ 地域活動の情報

- 地域活動は特定の人にしか認知されていないように感じます。子どもが小学生のときには, 地域運動会があり地域の人と交流したりしましたが, 子どもが大きくなると, 特に私たちのような外から来た人には, 地域活動に参加する機会がないように感じます。どんな活動があるのか知らないので, もっと広報していただけたらありがたいです。(女性, 40 歳代)
- 調布のパンフレット等に色々な情報を載せているが, 情報が多すぎて, 読む気になれない。その都度情報を絞って配信した方が, 分散されずに認知度が高まるのではないか。(女性, 40 歳代)
- 地域活動に一時参加したことがあるが, 「時間的な制約を受ける」ことが参加の足かせになると感じた。活動・会合の動画配信があれば, その場でどのような発言があったのか, 活動方向性がどうなっているのかが, リアルタイムでなくても知ることができる。対面や実際に会合に参加して得られる情報や体験・提供できる活動もあるだろうが, 活動を知ってもらう・参加意識を持ってもらうために, もっと技術を活用する余地はあるのではないかと思います。すでにやっていたらすみません。(男性, 60 歳代)

エ 近所のつながり

- どんどん無くなっている自治体や学校エリアでの地域の繋がり復活。自身や災害時に助け合うことが出来るよう基盤づくり。お金を出して支援していく! 地区のお祭りなどを通してやる。(女性, 50 歳代)
- 都会的な生活により, 居住者の出入りがあるのは仕方ないが, それにより近所付き合いが減って防犯の目も薄くなることを危惧している。また, 災害発生時の即時互助の関係を作れるかも不安に感じる。(男性, 30 歳代)
- 色々な背景をもつご家庭が増えている今, 家族の安心安全のためにも交流を深めることに抵抗があることも事実です。昔のようにいかないと思うことも多くあります。(女性, 30 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- 福祉サービス等、こちらから調べて聞きに行かない限り案内がない。福祉サービスを利用したいと思っても、手続きが複雑、時間と労力を要し利用しづらい。(男性, 30 歳代)
- 今の時代は、ご近所付き合いというものを嫌う傾向にあると思うので(私自身も出来るだけ近所の人とは関わりたくない)、それよりも個人の権利を保障するような制度やサービスを充実させた方がより住みやすく快適な環境を作る事が出来るのではないかと考えます。(女性, 10 歳代)
- 私は入間町に住んでいる為、調布市のサービスや相談窓口と言うと、調布駅近くの市役所などの施設に行かないと、受けられないというイメージがあります。調布市のはずれに住んでいる人達は、調子の中心迄行かないと具体的なサービスが受けられないという事です。入間町にも支所はありますが、わざわざ行かないとたどり着かない場所にあり、何かのついでと言う事が出来ません。提案したいのは、23 区でも見られる様な駅に行政サービスを受けられる支所を置いては如何でしょうか。入間町近辺だと仙川か、つつじが丘の駅に行政の窓口があるとサービスを受けられる、情報をキャッチ出来る、市民の意見も聞く事が出来て、市としても活性化するのではないかと思います。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- ②相談・サービスの充実だけでなくどのようにその情報を周知するか?を検討する事を重要視する事が大事と考えている。ホームページ・SNS へ載せる事で満足しても見たい人や知っている人のみへの周知となってしまう。頻繁に目に入るようなもの(広報誌や駅・バス広告等)で、周知が大事だと思う(あと、地域の掲示板等)。広報誌は誰向けのお知らせかを大きく記載し、詳細は本文(字のみだけは避けられる為、分かり易くする必要ありだが)、費用面の相談も必要とは思いますが。③にも関連だが、災害関連情報や事件(以前頻発していた強盗等)も周知して欲しい。近隣で発生しても気付かず過ごし…となるといざという時に対策、検討も出来なくなる為。(女性, 30 歳代)
- 何を何処に相談すればよいか分からない時、最初にワンストップで何でも相談出来る所の連絡先、情報が広く周知されていると良いと思う。警察は 110 番、火事は 119 番の様に。CSW やサポーターについての周知が足りないと思う。(女性, 70 歳代)
- 日頃、必要に感じていない福祉やそれに関する市としての活動について、知らない人や興味のない人にも広く知れるような広報(知る機会)にもう少し取り組んでいただけるとありがたいです。(このようなアンケートもひとつの機会、きっかけになると思いました)(男性, 60 歳代)

ウ 相談体制の充実

- 市の相談窓口を増やし、相談しやすい環境を作って欲しい。(男性, 70 歳代)
- 相談できる環境への取り組みはとても重要だと思いますが、相談したい内容・個人の状況は人それぞれのため、例えば「福祉サービス」の相談窓口といった専門窓口でなく、何でも相談できる窓口があれば良いと思う。まず、状況をヒアリングすることで

そこから適切な窓口を紹介するほうが様々なサービスに連携しやすいと思うし、どこに相談すべきか分からない人もとりあえず助けを求めやすくなると思う。実際私も相談したい内容があっても HP に記載してある内容ではなくこれは相談して良いのか、そもそも分からない…ということがあった。お年寄り等はなおさらだと思う。

(女性, 30 歳代)

- 行政の相談やサービスを利用したいときに、実際に行動を起こすにはハードルを感じます。スマホで出来る、軽い内容でも相談できるなど、気軽に利用できるような仕組みや周知があるといいなと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談したいとき、情報を取りたいとき、市役所の営業時間外でもチャットや AI によってある程度の情報が得られるシステムがあるといいと思います。(女性, 50 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 小さい子供がいる為、交差点の見守り、旗振りの方とかを小学校の下校に合わせてお願いしたい。公園のパトロール、地域のパトロール強化。道路が狭いし、歩道が危ない所があるので(旧甲州街道)安全対策をして欲しい。(女性, 40 歳代)
- 調布は幹線も住居の周りの道路も、歩道がなかったり道自体が狭かったりという状況。バリアフリーや子育て環境の観点で早く対応を充実させるべきです。(女性, 60 歳代)
- 歩道や車道が狭い、でこぼこ。広い公園、大きい遊具が少ない。街灯が少ない。交通ルールが守られていない。(男性, 30 歳代)

イ バリアフリー化

- 高齢者や心身障がい者が住みやすい便利なやさしい町づくりに努力して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 車椅子での移動の時、段差をなるべく少なくして欲しい!!実際バスには乗りづらいです!!(女性, 70 歳代)

ウ 防災の強化

- 調布市は災害発生時の対策について積極的に取り組んでいるが、避難した経験からすると量の点で十分ではないように思う。(男性, 40 歳代)
- 調布市からの警報アナウンスが時々流れますが、家中でも外に出ても聞き取れない(音はきこえるが内容が分からない)スマホで聞ければと思います。地震警報は鳴りますが。(女性, 70 歳代)
- 防犯や災害への取り組み。例えば水害が多く発生しているにも関わらず、自宅前の排水溝等にカバーを掛けている住宅が散見される。市では市報等で周知していると言うが、発信すれば良いと言うことではなく個別にチラシを入れたり対話が必要だと思います。防犯面からも野川河川周辺の除草等の整備が必要。またすぐに伸びてしまうので三鷹市のように石での整備をした方が良くと思います。サイクリング道路にしても東京都との協議の上整備してほしいと思います。(男性, 60 歳代)

エ 防犯の強化

- 街灯が少なく、夜間は防犯面で恐怖を感じます。特に裏道は真っ暗です。(女性, 70 歳代)
- 見回りの実施の強化。(男性, 30 歳代)
- 景気の悪化に伴い様々な犯罪が増えており、知識がないと対応を誤ってしまう可能性も高まります。高齢になるにつれ、新しい技術などには疎くなっていくことが予想されるので、最新の犯罪の手法を常に周知することは必要なのかなと感じます。(女性, 40 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境

- タバコを吸う人が多いので取り締まりを強化して欲しいです。条例による受動喫煙禁止のエリア内でも散見されます。(男性, 40 歳代)
- 自転車専用レーンをたくさん作ってください。(男性, 10 歳代)
- 市民を増やすだけ増やしても、そこに追いつかないものが多い。駅前の駐輪場が少ないとか。(女性, 40 歳代)

イ 市の施策

- 調布駅前の開発が行きあたりばったりに感じており、特に助けが必要な人たちや子どもたちにとってより良いものを作ろうという意識が感じられない。また、社会福祉協議会の施設を移設するという話を聞いたことがあるのですが、それも利用者を第一に考えて選択をしてほしいと思います。(女性, 30 歳代)
- 地域の繋がり深化をターゲットにするという意味では、市役所前でよく行われている青空マーケットのような催事を各地域で年一回でも開催するのも良いのかなと思います。(飛田給駅の FC 東京とタッグを組んだイベント等は効果ありだと感じています。) 調布市は他地方公共団体よりも恵まれている点が沢山あるので、人との繋がりを持ちたいと思わない人へも自然とアプローチできる方法を模索していきたいですね。(男性, 40 歳代)
- 様々な取り組みが本当に必要な人に届く仕組みづくりを考えて欲しい。取り組みに対し、深く理解をし、必要性を感じさせる事ができなければ、ボランティアを募るのは困難かと思います。(女性, 50 歳代)

ウ 医療、福祉、子育て、防災

- 学校に行けていない子、不登校の子どもに対しての支援が乏しい。学校の先生の負担大の為、専門に対応する人を学校に置く事。(女性, 50 歳代)
- 私は四肢障害ではないので利用はしないが、市内の様々な駐車場の障害者用駐車スペースに、明らかに健常者が駐車しているのをよく見かける。障害者用だという事を誰もが気づくようにハッキリ表示してほしい。(女性, 50 歳代)

エ アンケート

- 今回のアンケートで調布市がいろいろな取り組みを行っていることがわかったが、ほとんど認知していなかった。機関誌等は読まずに捨ててしまうため、他の広報が必要だと思う。(男性, 30 歳代)
- 市役所からのアンケートが多過ぎる。回答率を上げたいのであれば、質問項目を減らした方がいい。10 分程度のアンケートであれば苦にならない。(女性, 40 歳代)

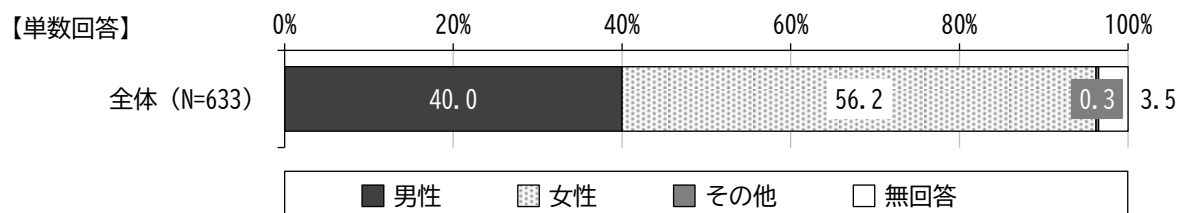
第3章 高齢者（65歳以上）調査結果

【調査名】 高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 あなた（ご本人）についておたずねします

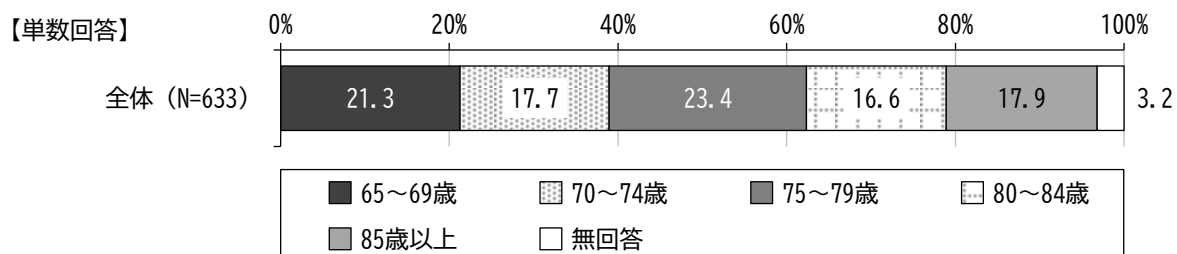
問1 性別を教えてください。（1つに○）

○ 性別は、「男性（40.0%）」、「女性（56.2%）」、「その他（0.3%）」である。



問2 年齢を教えてください。（1つに○）（令和7年10月1日現在）

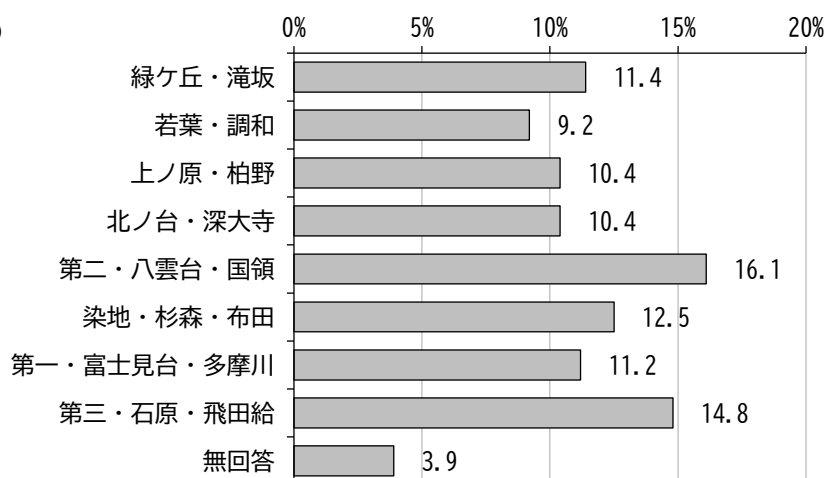
○ 年齢は、「75～79歳（23.4%）」が最も多く、「65～69歳（21.3%）」、「85歳以上（17.9%）」が続いている。



問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域(福祉圏域)は、「第二・八雲台・国領(16.1%)」が最も多く、「第三・石原・飛田給(14.8%)」、「染地・杉森・布田(12.5%)」が続いている。

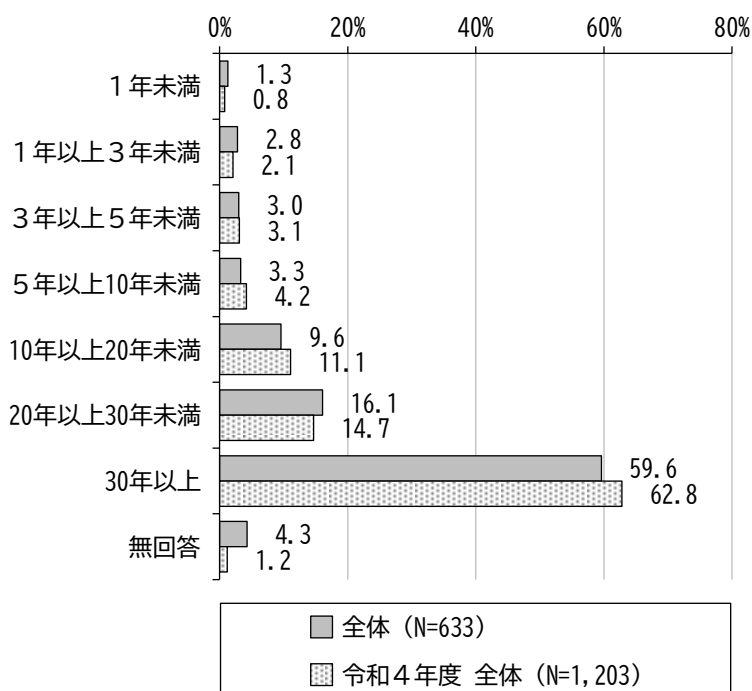
【単数回答】全体(N=633)



問4 市内での居住年数(市外への転居期間を除く通算年数)を教えてください。(1つに○)

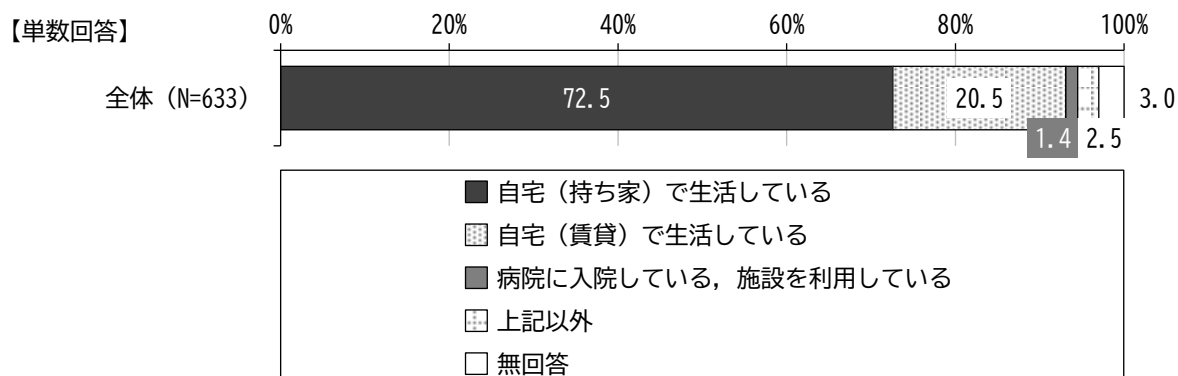
- 居住年数は、「30年以上(59.6%)」が最も多く、「20年以上30年未満(16.1%)」、「10年以上20年未満(9.6%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

【単数回答】



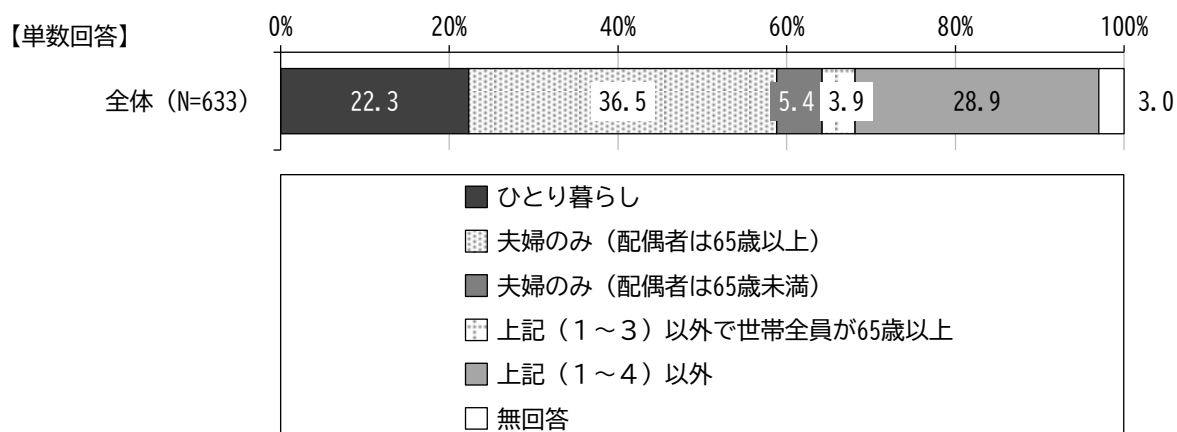
問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「自宅（持ち家）で生活している（72.5%）」が最も多く、「自宅（賃貸）で生活している（20.5%）」、「上記以外（2.5%）」が続いている。



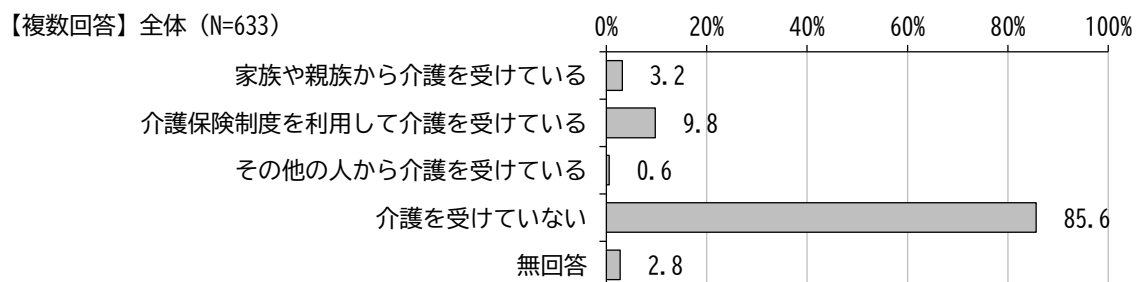
問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 家族構成は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）（36.5%）」が最も多く、「上記（1～4）以外（28.9%）」、「ひとり暮らし（22.3%）」が続いている。



問7 あなたは現在，介護を受けていますか。(いくつでも○)

- 介護の状況は、「介護を受けていない（85.6%）」が最も多く、「介護保険制度を利用して介護を受けている（9.8%）」、「家族や親族から介護を受けている（3.2%）」が続いている。

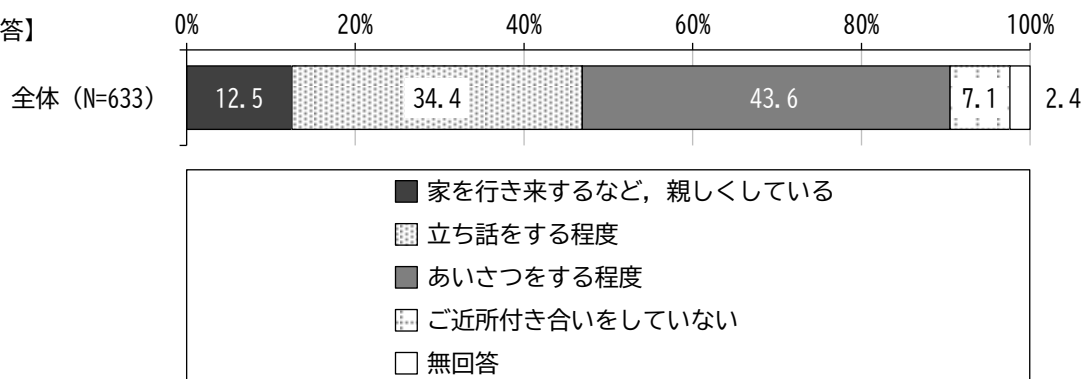


2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（43.6%）」が最も多く、「立ち話をする程度（34.4%）」、「家を行き来するなど、親しくしている（12.5%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』割合は46.9%となっている。

【単数回答】



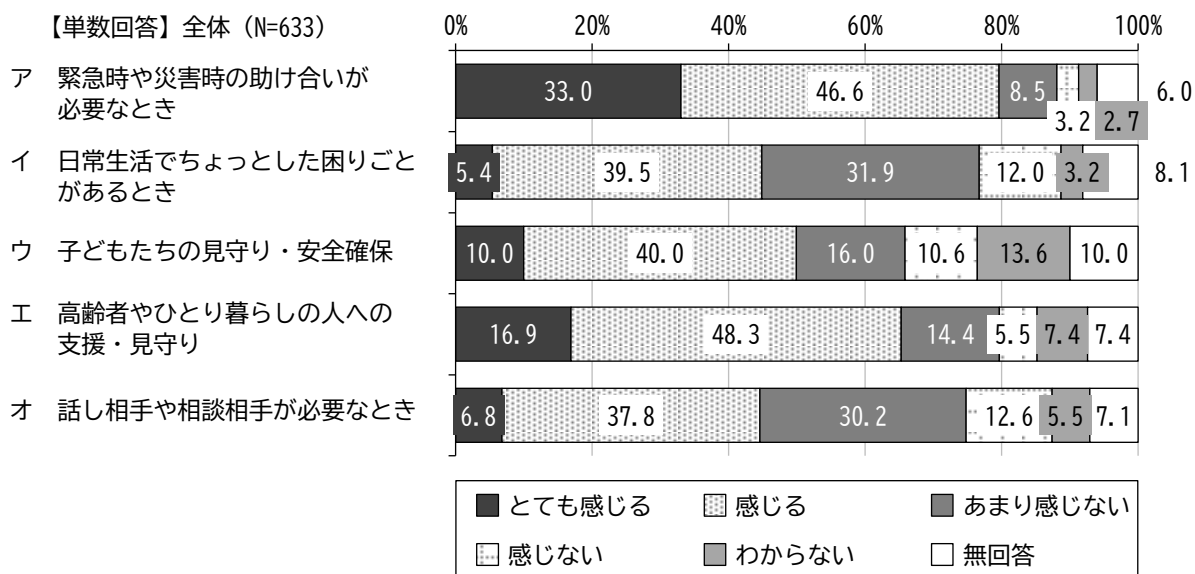
－ 回答者属性分析 －

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、男性で38.0％、女性で53.9％となっている。
- 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、上ノ原・柏野小学校地域で31.8％と、それ以外の地域と比べて少なくなっている。
- 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、ひとり暮らしで52.5％、夫婦のみで45.6％、その他の世帯で48.1％となっている。

単位：％		親家 しく きて する など ，	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	い ご 近 所 付 き 合 い を し て	無 回 答	を『親 密な 近 所 付 き 合 い 』
全体 (N=633)		12.5	34.4	43.6	7.1	2.4	46.9
性 別	男性 (n=253)	9.1	28.9	49.8	8.7	3.6	38.0
	女性 (n=356)	14.3	39.6	38.5	6.2	1.4	53.9
	その他 (n=2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=72)	12.5	31.9	43.1	8.3	4.2	44.4
	若葉・調和 (n=58)	12.1	34.5	46.6	6.9	0.0	46.6
	上ノ原・柏野 (n=66)	1.5	30.3	63.6	3.0	1.5	31.8
	北ノ台・深大寺 (n=66)	16.7	36.4	37.9	7.6	1.5	53.1
	第二・八雲台・国領 (n=102)	10.8	37.3	40.2	9.8	2.0	48.1
	染地・杉森・布田 (n=79)	20.3	36.7	36.7	2.5	3.8	57.0
	第一・富士見台・多摩川 (n=71)	8.5	35.2	45.1	9.9	1.4	43.7
構 成 別 家 族	第三・石原・飛田給 (n=94)	11.7	38.3	39.4	8.5	2.1	50.0
	ひとり暮らし (n=141)	15.6	36.9	37.6	9.9	0.0	52.5
	夫婦のみ (n=265)	11.3	34.3	48.3	6.0	0.0	45.6
構 成 別 家 族	その他の世帯 (n=208)	12.5	35.6	43.8	7.2	1.0	48.1

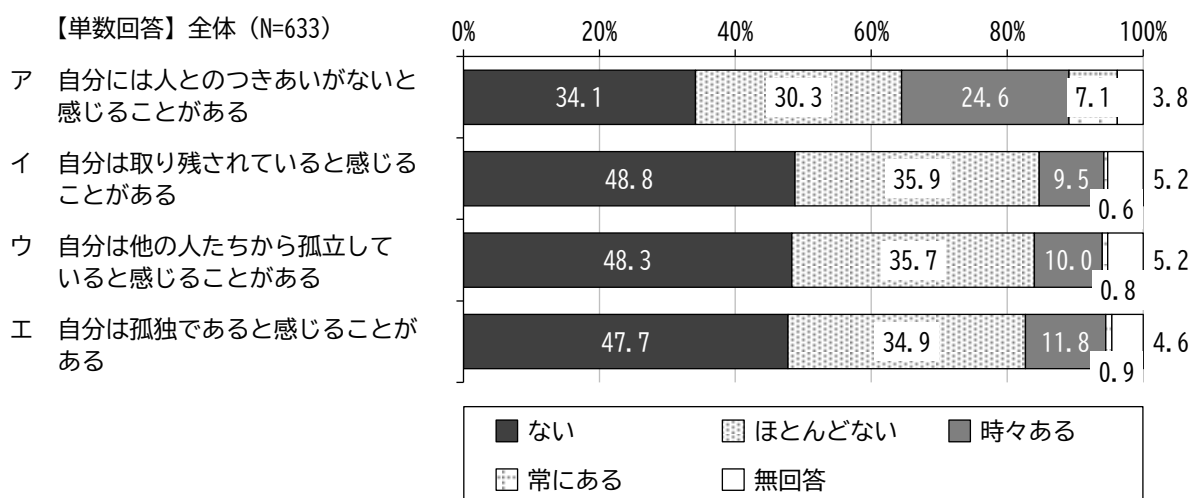
問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、[ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき (79.6%)] が最も多く、[エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り (65.2%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (50.0%)] が続いている。
- 一方、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』の割合は、[イ 日常生活でちょっとした困りごとがあるとき (43.9%)] が最も多く、[オ 話し相手や相談相手が必要なとき (42.8%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (26.6%)] が続いている。



問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある (31.7%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (12.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある (10.8%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA 孤独感尺度 (日本語版の3項目短縮版)」(本編 26 ページ参照) による間接質問のスコア化の結果を年代別にみると、65～69 歳で [ない] が最も多く、それ以外の年代で [ほとんどない] が最も多くなっている。

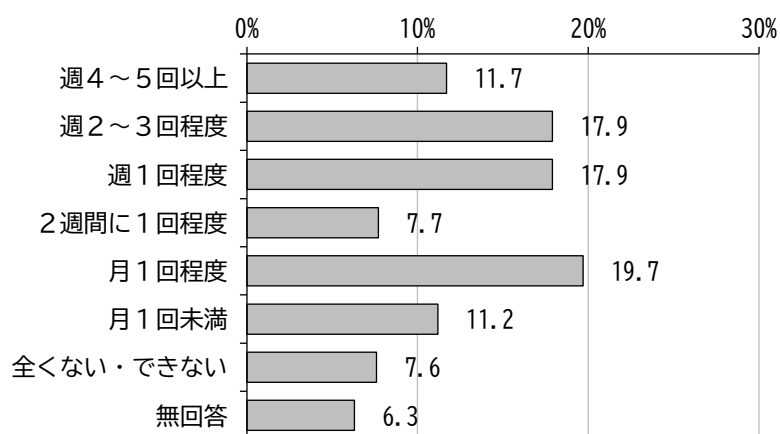
単位：%		ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=633)		30.8	40.3	21.6	1.6	5.7
年代別	65～69歳 (n=135)	36.3	34.1	25.2	1.5	3.0
	70～74歳 (n=112)	26.8	44.6	25.9	1.8	0.9
	75～79歳 (n=148)	33.1	38.5	22.3	1.4	4.7
	80～84歳 (n=105)	28.6	41.9	20.0	1.0	8.6
	85歳以上 (n=113)	25.7	44.2	15.0	2.7	12.4

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。（それぞれ1つに○）

ア 直接会って話す（手話等を含む）

○ 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月1回程度（19.7%）」が最も多く、「週2～3回程度（17.9%）」「週1回程度（17.9%）」が続いている。

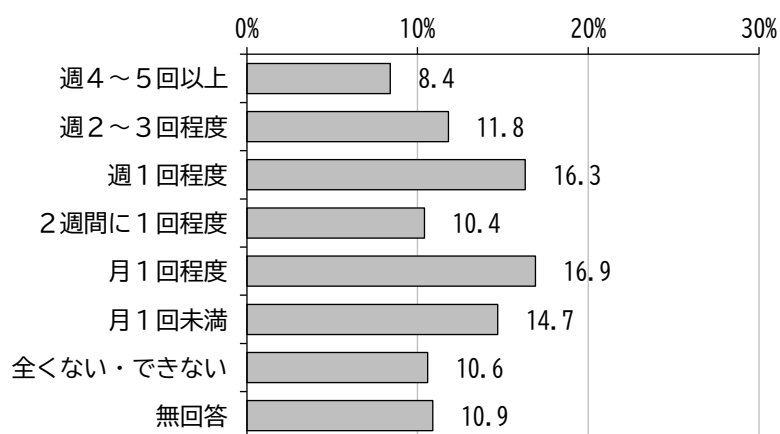
【単数回答】全体（N=633）



イ 電話（ビデオ通話含む）

○ 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（16.9%）」が最も多く、「週1回程度（16.3%）」、「月1回未満（14.7%）」が続いている。

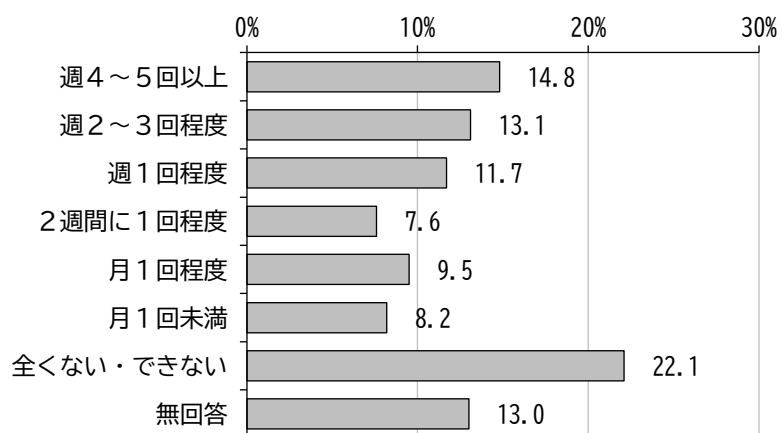
【単数回答】全体（N=633）



ウ SNS や電子メールなど

- SNS や電子メールなどの頻度は、「全くない・できない (22.1%)」が最も多く、「週4～5回以上 (14.8%)」, 「週2～3回程度 (13.1%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=633)

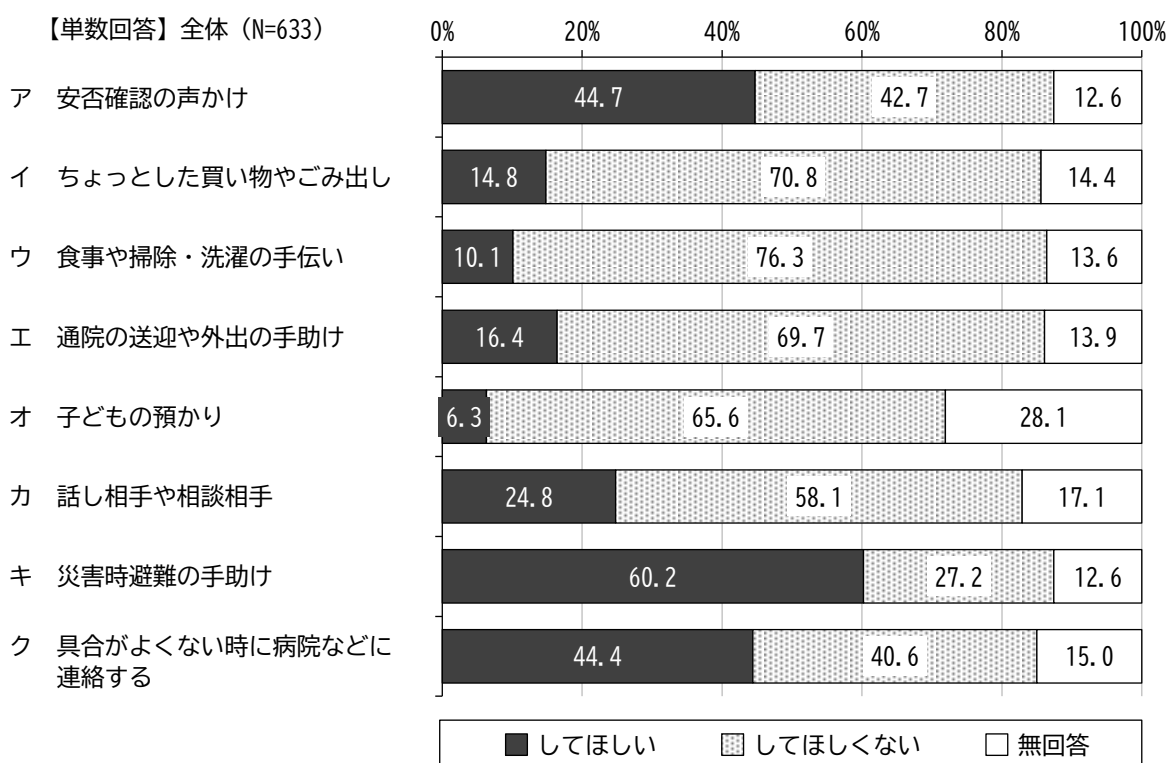


3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問 12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

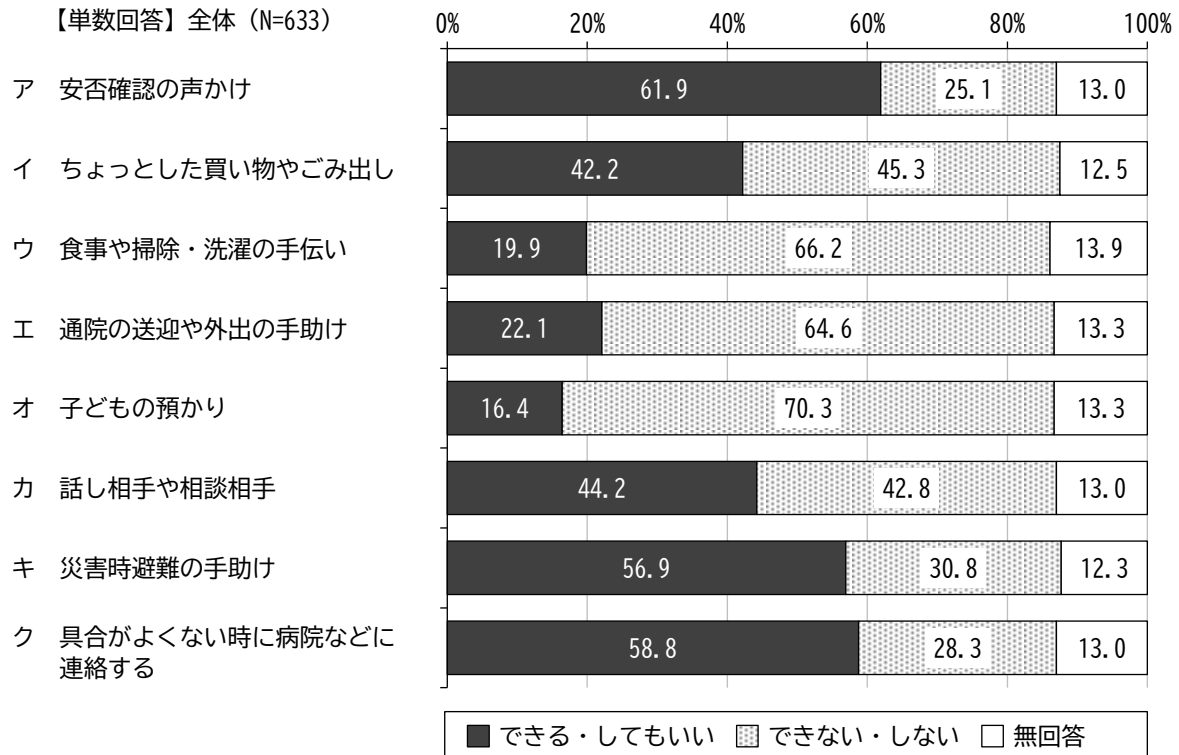
①手助けしてほしいか

○ 手助けを「してほしい」の割合は、[キ 災害時避難の手助け（60.2%）]が最も多く、[ア 安否確認の声かけ（44.7%）]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する（44.4%）]が続いている。



②手助けできるか

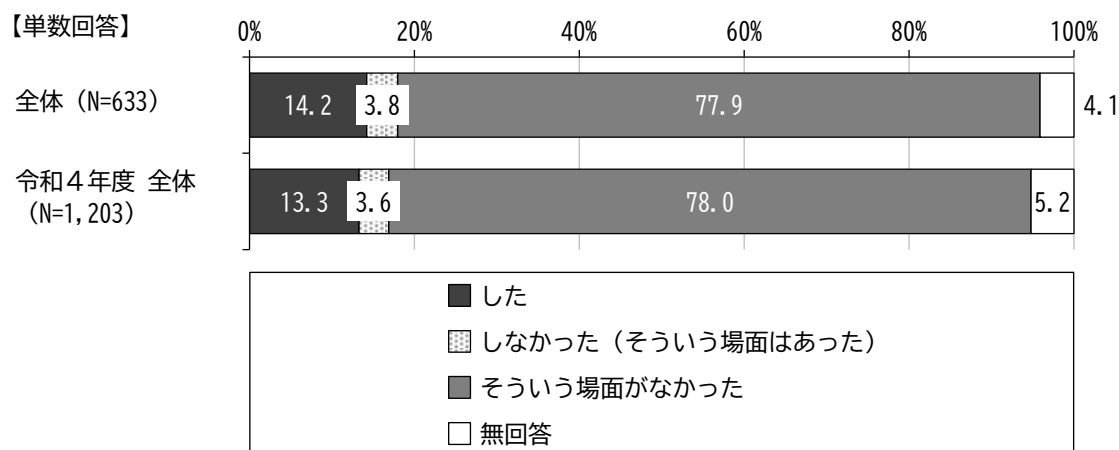
- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、[ア 安否確認の声かけ (61.9%)] が最も多く、[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する (58.8%)], [キ 災害時避難の手助け (56.9%)] が続いている。



問 13 この1年で、家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをしましたか。また、手伝いや手助けをしてもらいましたか。(それぞれ1つに○)

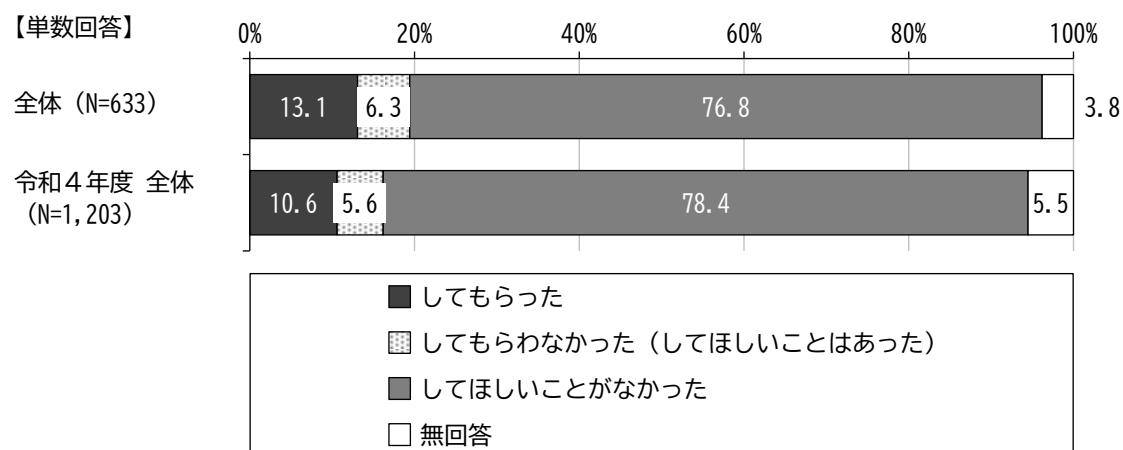
①手伝いや手助けをしたか

- この1年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをした経験は、「そういう場面がなかった(77.9%)」が最も多く、「した(14.2%)」,「しなかった(そういう場面はあった)(3.8%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



②手伝いや手助けをしてもらったか

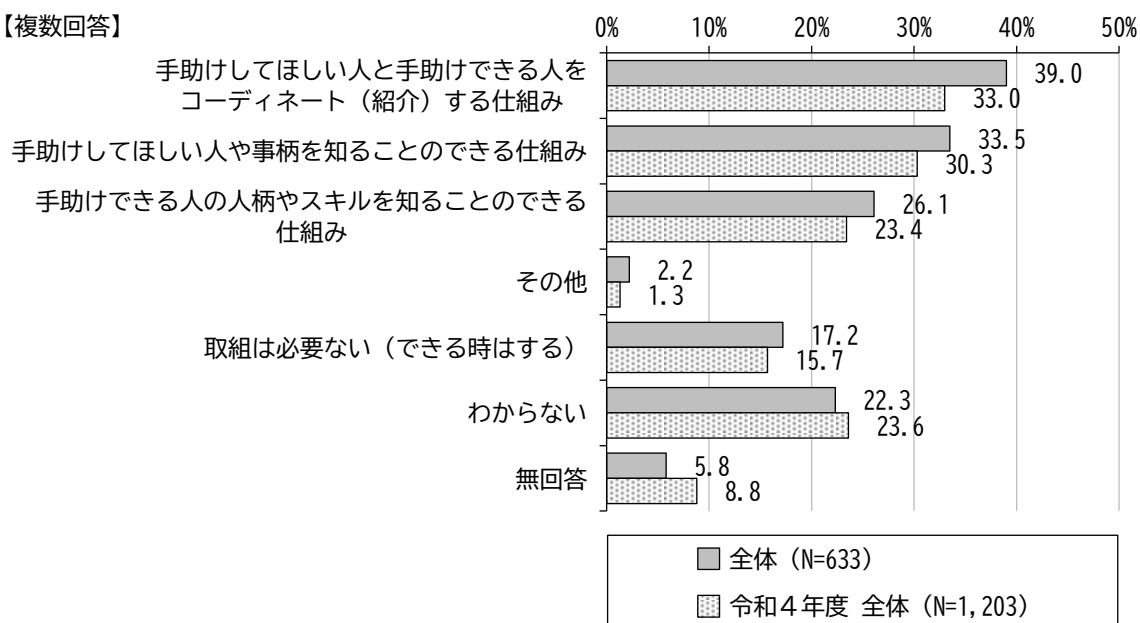
- この1年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをしてもらった経験は、「してほしいことがなかった(76.8%)」が最も多く、「してもらった(13.1%)」,「してもらわなかった(してほしいことはあった)(6.3%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 14 家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、あるとよい取組は、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（39.0%）」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（33.5%）」、「手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み（26.1%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が6.0ポイント高くなっている。

【複数回答】

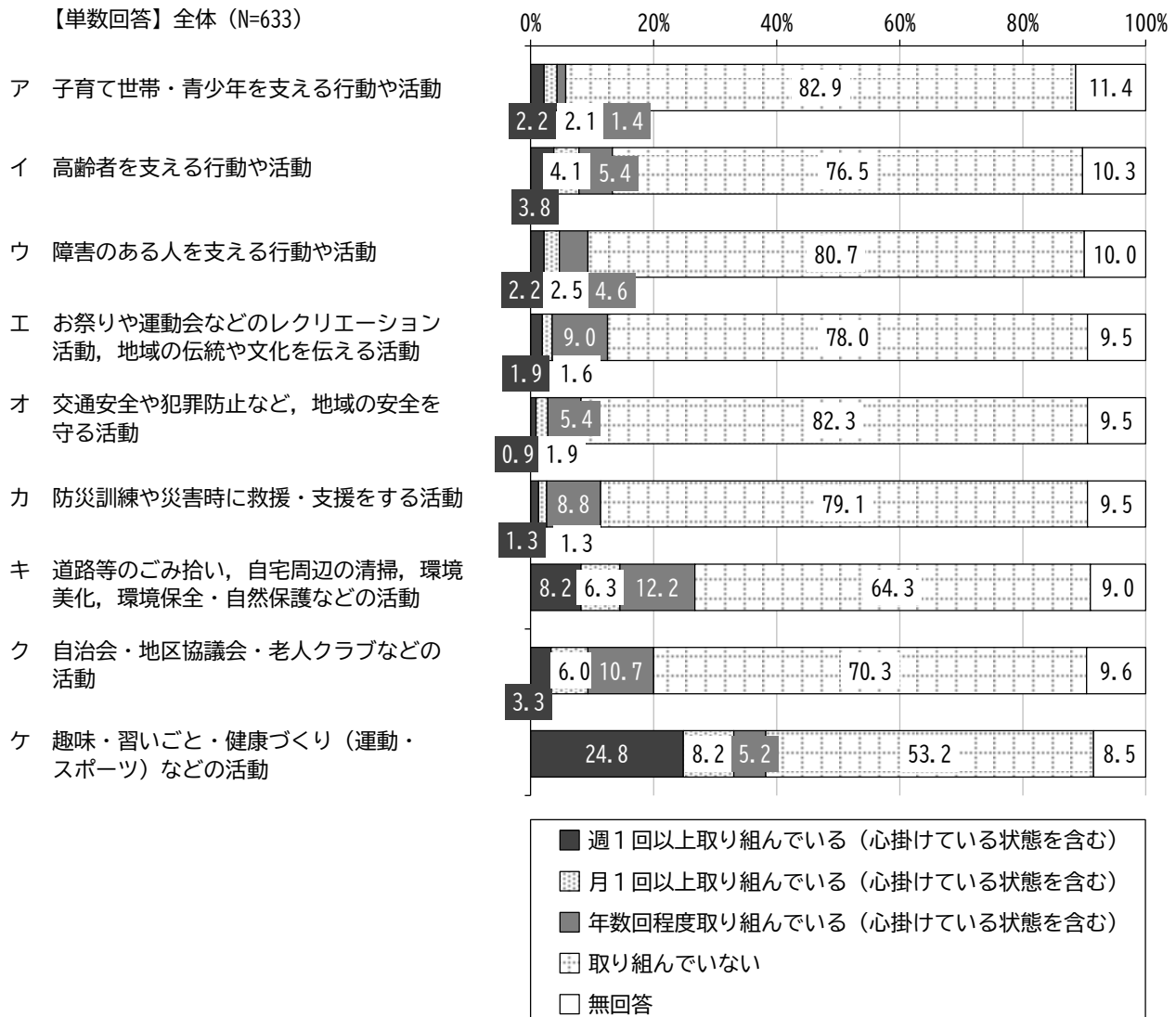


問 15 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていますか。①現在の状況、②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動]を除くすべての活動で「取り組んでいない」が6割を超えている。
- 「週1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「月1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「年数回程度取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」を合わせた『取り組んでいる』の割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（38.2%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動（26.7%）]、[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（20.0%）]が続いている。

【単数回答】全体（N=633）



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等に『取り組んでいる』の割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で
[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動] が最も多くなっている。

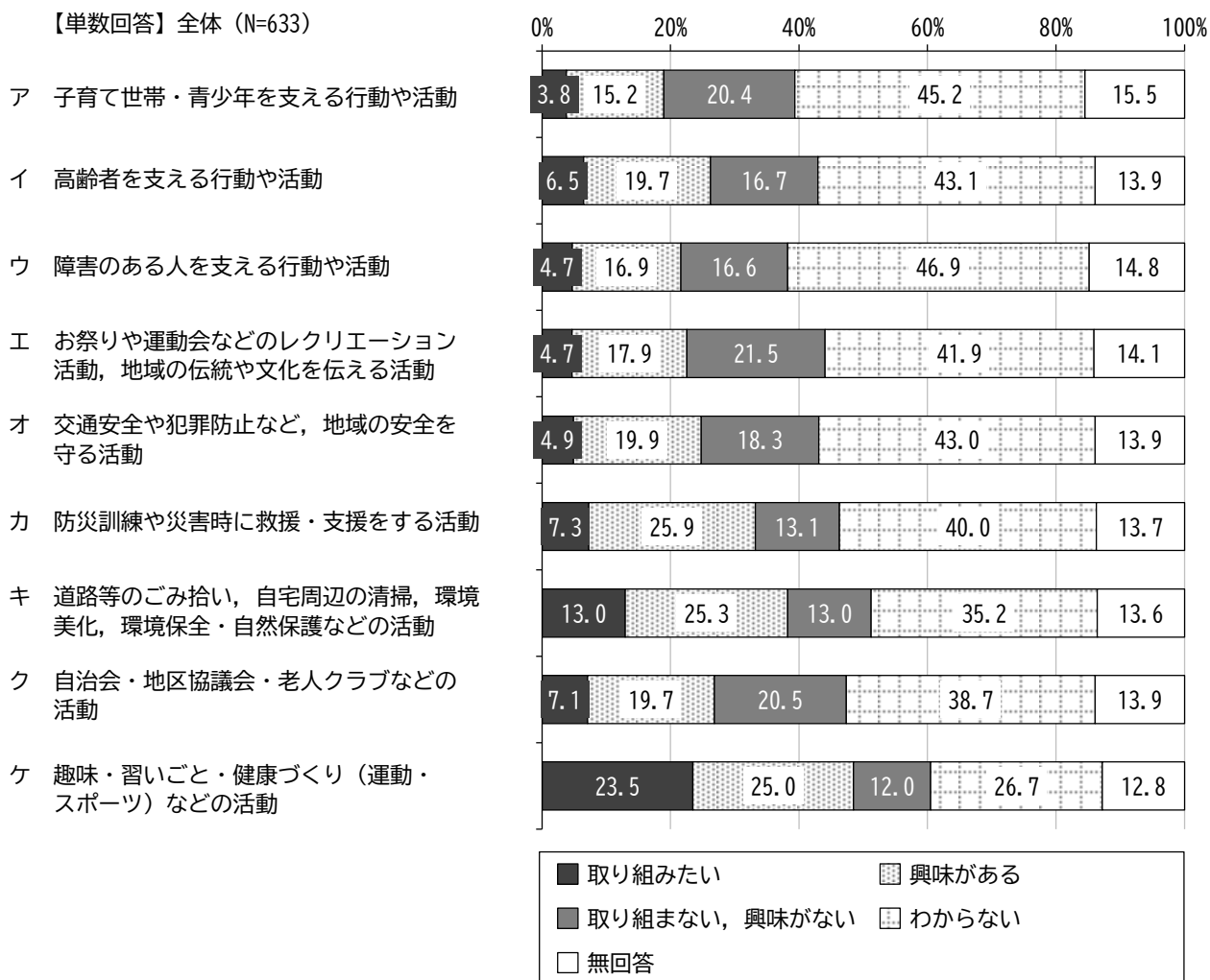
<『取り組んでいる』の割合>

単位：％		ア 子育 て世帯・ 行 動や活 動・青 少 年を 支 え	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 的 な 文 化 を 伝 え る 活 動 の レ ク ス	オ お 祭 り や 運 動 会 な ど の レ ク ス	カ 地 域 の 安 全 や 犯 罪 防 止 な ど の 活 動	キ 防 災 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・ 支 援 す る 活 動	ク 保 全 ・ 自 然 ・ 環 境 美 化 の 活 動	ク 道 路 等 の ご み 拾 い の 活 動	ク 自 治 会 な ど の 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動	ケ の 活 動
全体（N=633）		5.7	13.3	9.3	12.5	8.2	11.4	26.7	20.0	38.2			
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	4.2	15.3	12.5	12.5	8.3	11.1	26.4	18.1	36.1			
	若葉・調和（n=58）	5.1	13.8	6.8	15.5	8.6	12.0	22.3	20.6	44.8			
	上ノ原・柏野（n=66）	7.5	6.0	6.0	10.6	7.5	7.5	21.1	15.1	40.9			
	北ノ台・深大寺（n=66）	6.0	18.2	6.0	10.6	9.1	10.6	36.3	27.2	46.9			
	第二・八雲台・国領（n=102）	6.0	15.7	14.7	7.8	9.8	14.7	30.3	14.6	35.3			
	染地・杉森・布田（n=79）	7.6	13.9	6.3	15.2	6.4	11.4	26.6	26.5	34.2			
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	5.6	11.2	5.6	15.5	9.9	9.9	28.1	19.7	39.4			
	第三・石原・飛田給（n=94）	5.3	13.9	13.9	14.9	8.5	12.8	21.3	23.4	38.3			

②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（48.5%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（38.3%）]，[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（33.2%）]が続いている。

【単数回答】全体（N=633）



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。

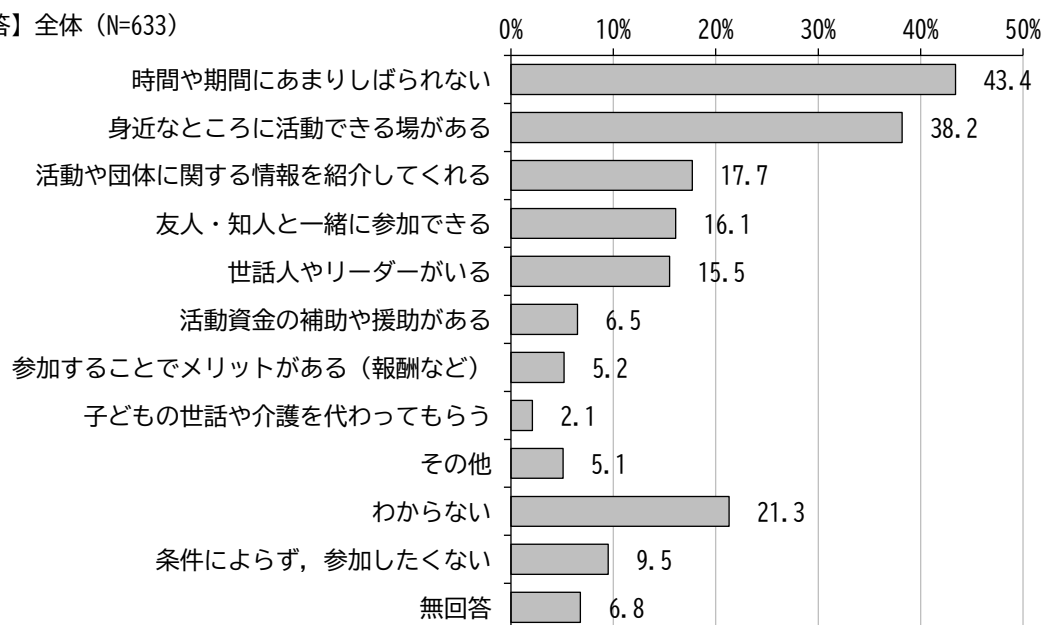
<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

単位：％		ア 子育 て世 帯・ 活 動・ 青 少 年 を 支 え	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 的 な 文 化 を 伝 え る 活 動 の ク	オ お祭 りや 運動 会な ど、 防犯 活動 など	カ 防 災 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・ 支 援 を す る 活 動	キ 保 全・ 自然 環境 の美 化、 自 宅 周 辺の 清 掃 な ど	ク 道 路等 の 活 動 の 協 議 会・ 老 人	ケ の 活 動 （ 趣 味・ 運 動・ 習 い ご と・ 健 康 づ く り な ど
全体（N=633）		19.0	26.2	21.6	22.6	24.8	33.2	38.3	26.8	48.5
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	20.9	25.0	25.0	30.5	25.0	33.4	43.0	36.1	55.6
	若葉・調和（n=58）	17.3	22.4	17.2	22.4	24.1	34.4	37.9	29.3	50.0
	上ノ原・柏野（n=66）	15.1	22.7	22.7	22.7	24.2	40.9	37.9	22.7	50.0
	北ノ台・深大寺（n=66）	21.2	30.3	27.2	28.8	33.3	37.9	46.9	37.9	57.6
	第二・八雲台・国領（n=102）	19.6	28.4	26.5	18.6	26.5	30.4	35.3	21.5	44.1
	染地・杉森・布田（n=79）	17.7	22.8	12.7	19.0	21.6	29.1	35.5	26.6	44.3
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	22.5	29.6	21.1	23.9	25.3	35.3	45.1	22.5	49.3
	第三・石原・飛田給（n=94）	20.3	28.7	22.3	19.2	24.4	33.0	30.8	24.5	44.6

問 16 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない(43.4%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(38.2%)」、「わからない(21.3%)」が続いている。

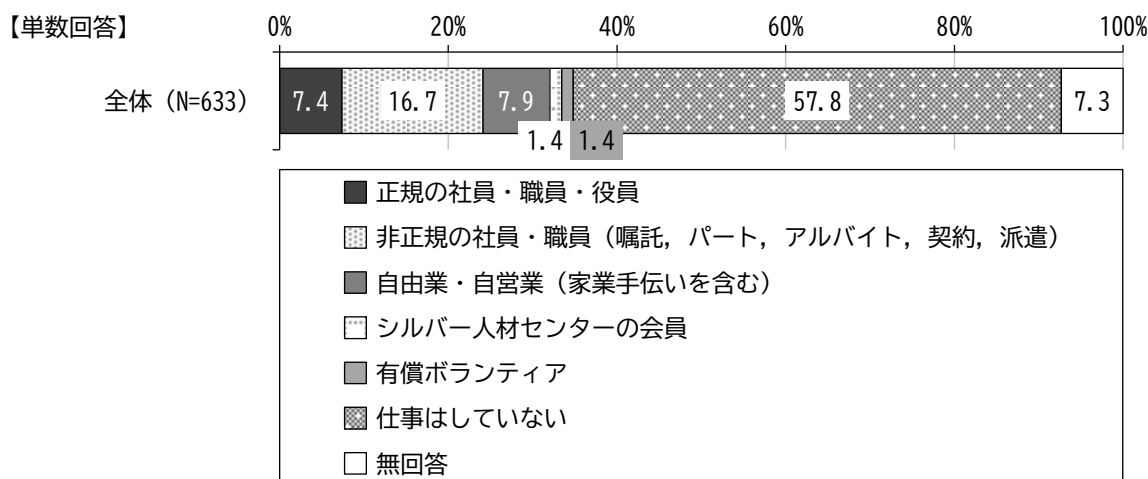
【複数回答】全体 (N=633)



4 就労についておたずねします

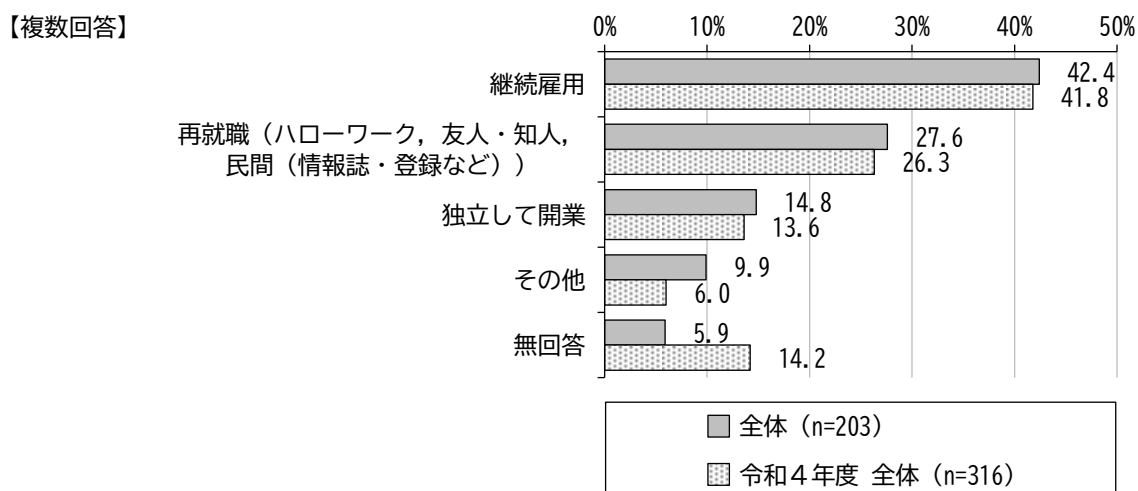
問 17 現在の職業を教えてください。(1つに○)

- 現在の職業は、「仕事はしていない (57.8%)」が最も多く、「非正規の社員・職員 (嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣) (16.7%)」, 「自由業・自営業 (家業手伝いを含む) (7.9%)」が続いている。



付問 問 17 で「1～3 (会社などで働いている)」と答えた方におたずねします。 現在の職業に就いている経緯を教えてください。(いくつでも○)

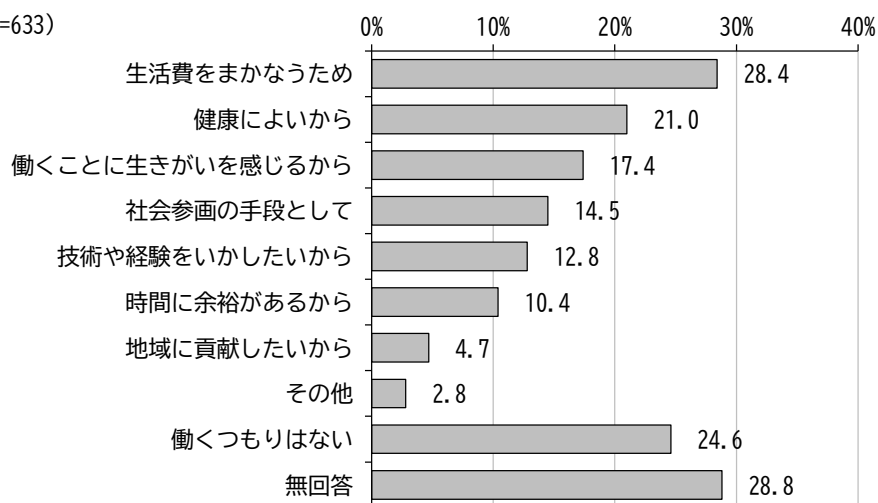
- 現在の職業に就いている経緯は、「継続雇用 (42.4%)」が最も多く, 「再就職 (ハローワーク, 友人・知人, 民間 (情報誌・登録など)) (27.6%)」, 「独立して開業 (14.8%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると, 大きな変化はみられない。



問 18 あなたが仕事をする（したいと思う）主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 仕事をする（したいと思う）理由は、「生活費をまかなうため（28.4%）」が最も多く、「働くつもりはない（24.6%）」、「健康によいから（21.0%）」が続いている。

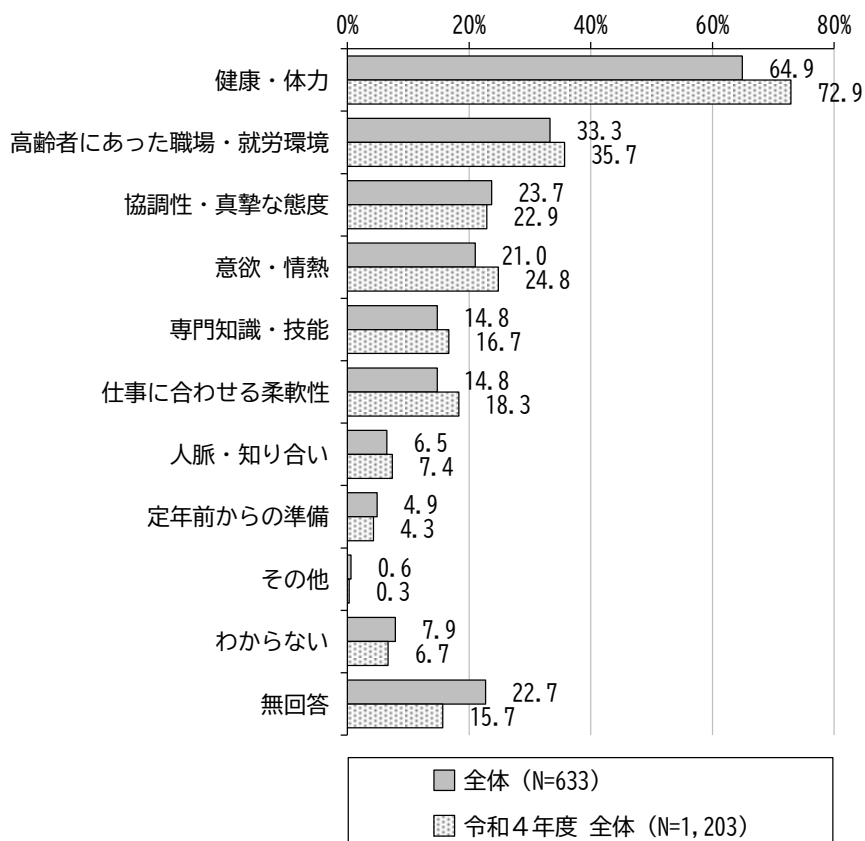
【複数回答】全体（N=633）



問 19 高齢者が就労する（続ける）ために特に必要なことは何ですか。（3つまで○）

- 高齢者が就労する（続ける）ために必要なことは、「健康・体力（64.9%）」が最も多く、「高齢者にあった職場・就労環境（33.3%）」、「協調性・真摯な態度（23.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「健康・体力」が 8.0 ポイント低くなっている。

【複数回答】

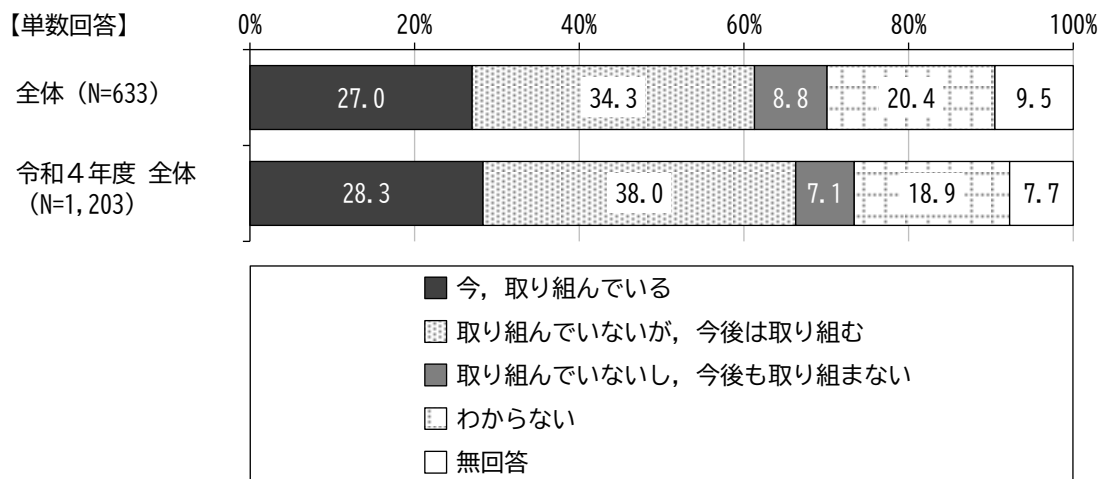


5 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

問 20 あなたは，健やかに暮らすために，次のことに取り組んでいますか。
(それぞれ1つに○)

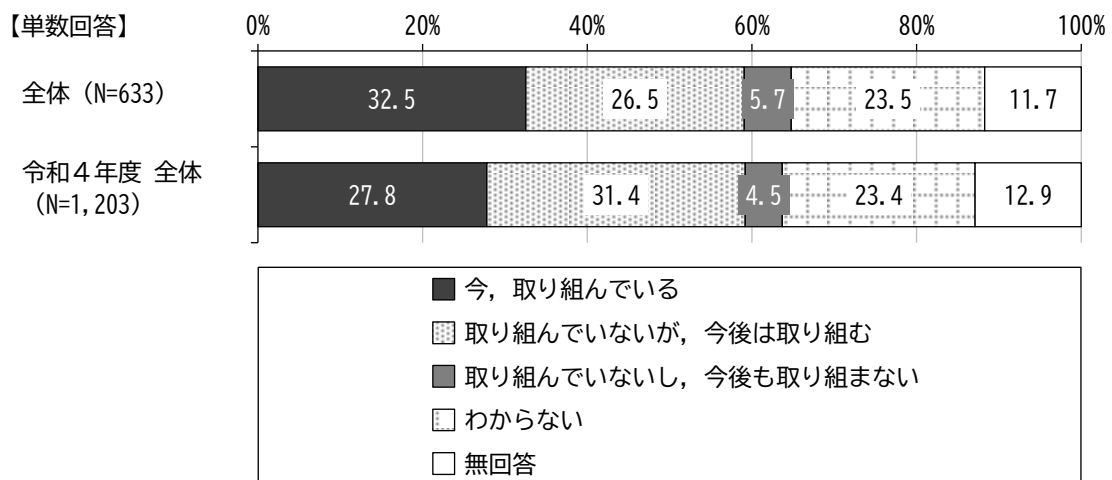
ア 認知症予防

- 認知症予防の取組状況は，「取り組んでいないが，今後は取り組む（34.3%）」が最も多く，「今，取り組んでいる（27.0%）」，「わからない（20.4%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，大きな変化はみられない。



イ フレイル予防

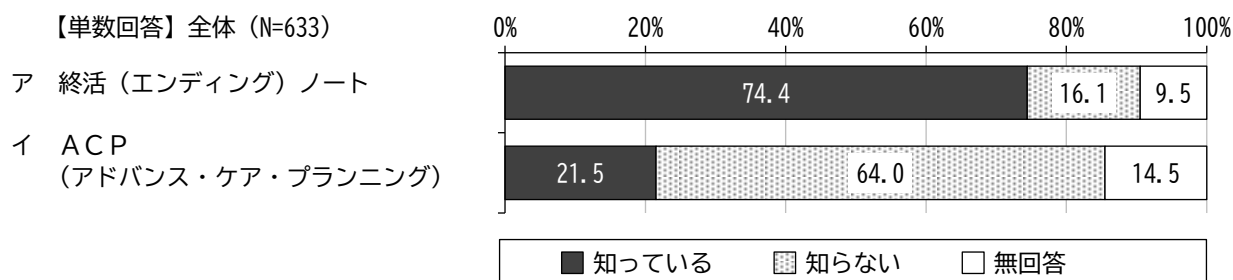
- フレイル予防の取組状況は，「今，取り組んでいる（32.5%）」が最も多く，「取り組んでいないが，今後は取り組む（26.5%）」，「わからない（23.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，大きな変化はみられない。



問 21 近年、人生のエンディングに向けて、元気なうちからさまざまな準備をする活動が広がっています。①あなたは、次のような事柄をご存知でしたか。②今後、次のような事柄を活用したいと思いますか。(それぞれ1つに○)

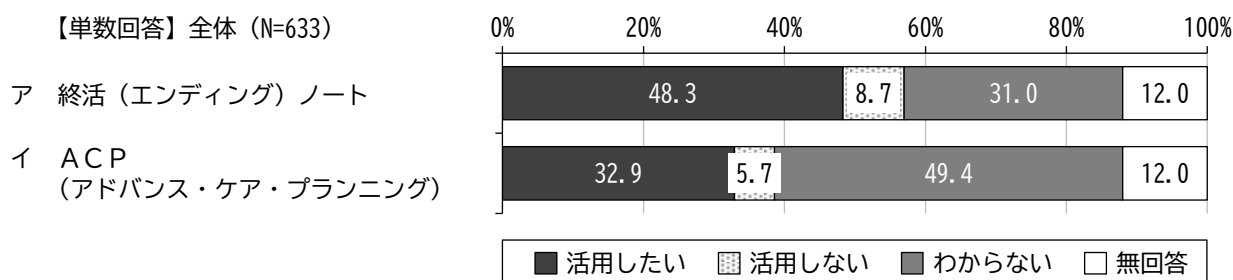
①認知状況

- 人生のエンディングに向けた事柄の認知度について、[ア 終活（エンディング）ノート] は、「知っている（74.4%）」、「知らない（16.1%）」である。
- [イ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）] は、「知っている（21.5%）」、「知らない（64.0%）」である。



②今後の意向

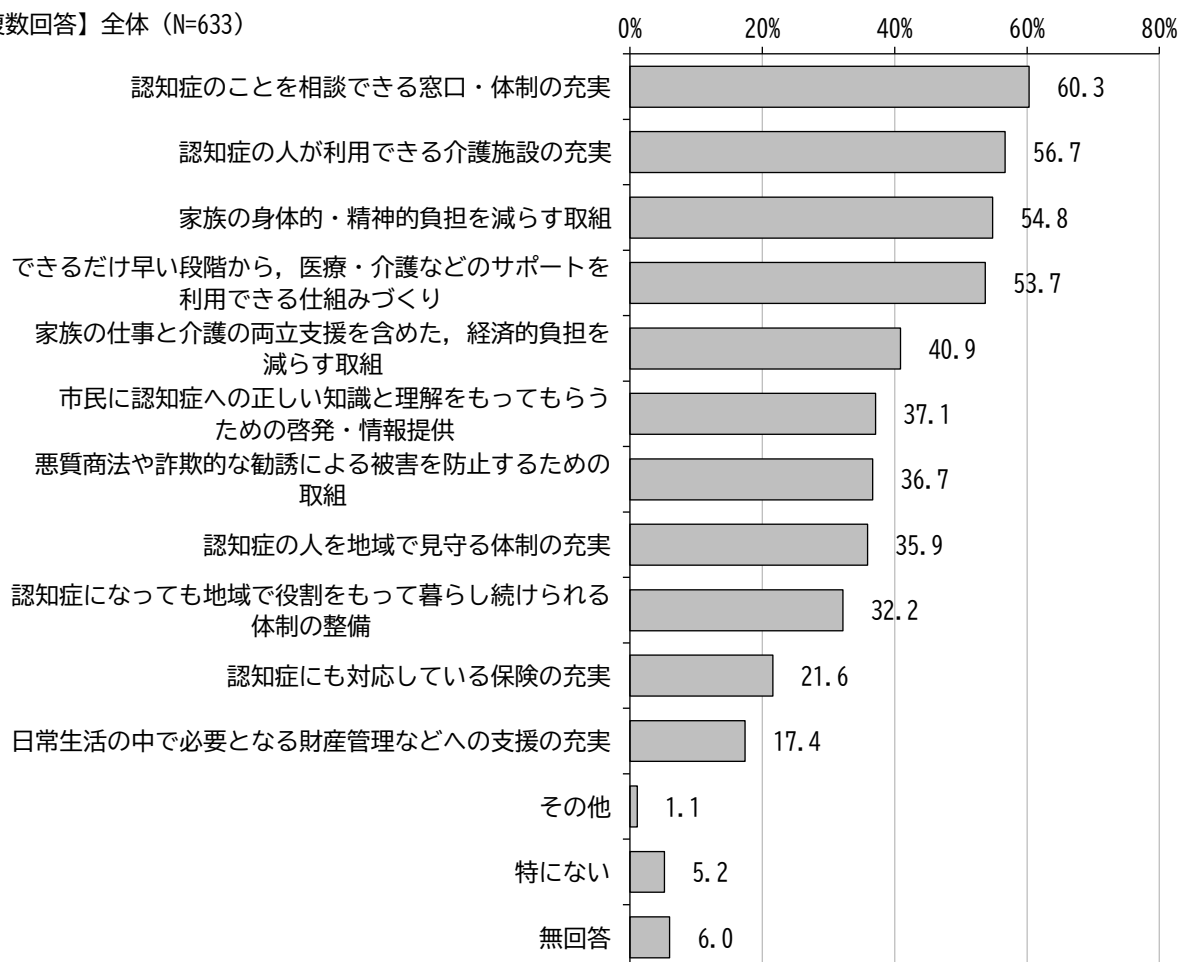
- 人生のエンディングに向けた事柄の利用意向について、[ア 終活（エンディング）ノート] は、「活用したい（48.3%）」が最も多く、「わからない（31.0%）」、「活用しない（8.7%）」が続いている。
- [イ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）] は、「わからない（49.4%）」が最も多く、「活用したい（32.9%）」、「活用しない（5.7%）」が続いている。



問 22 認知症の人やその家族を支えるため、どのような取組に力を入れる必要があると思いますか。(いくつでも○)

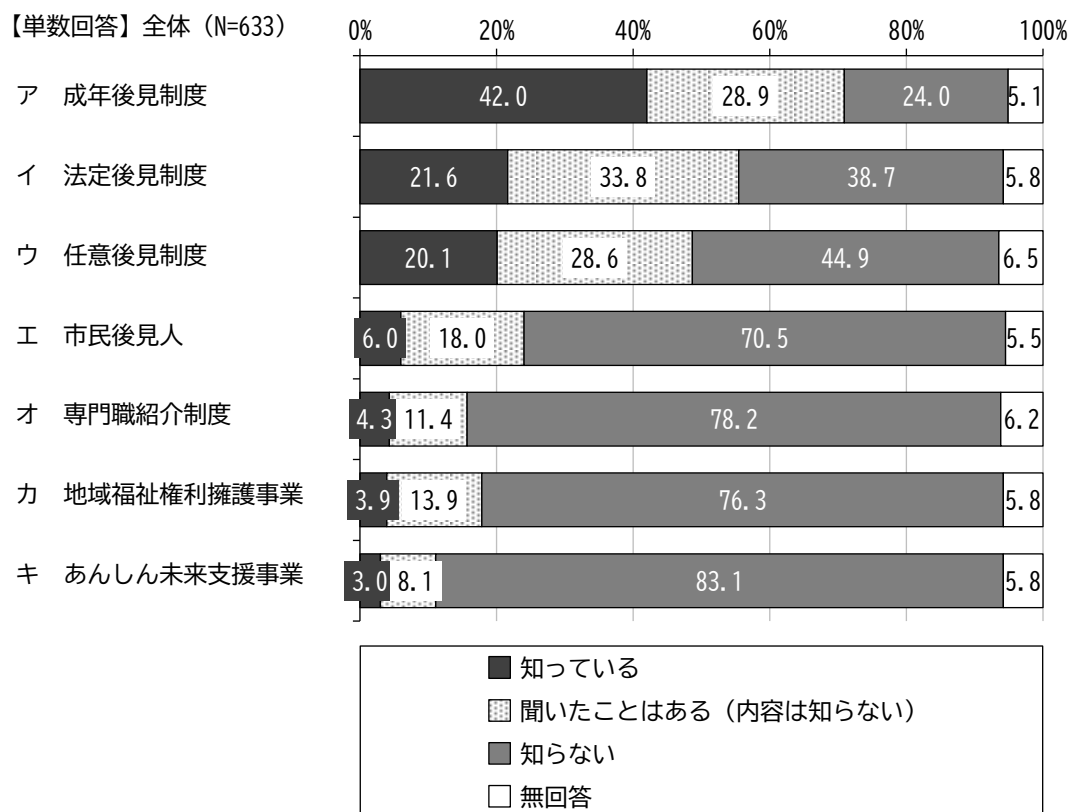
- 認知症の人やその家族を支えるために力を入れる必要がある取組は、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実 (60.3%)」が最も多く、「認知症の人が利用できる介護施設の充実 (56.7%)」,「家族の身体的・精神的負担を減らす取組 (54.8%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



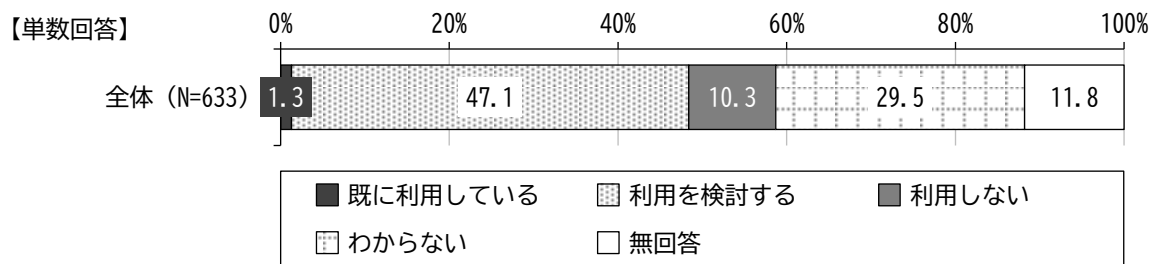
問 23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は,[ア 成年後見制度(42.0%)]が最も多く,[イ 法定後見制度(21.6%)],
[ウ 任意後見制度 (20.1%)]が続いている。



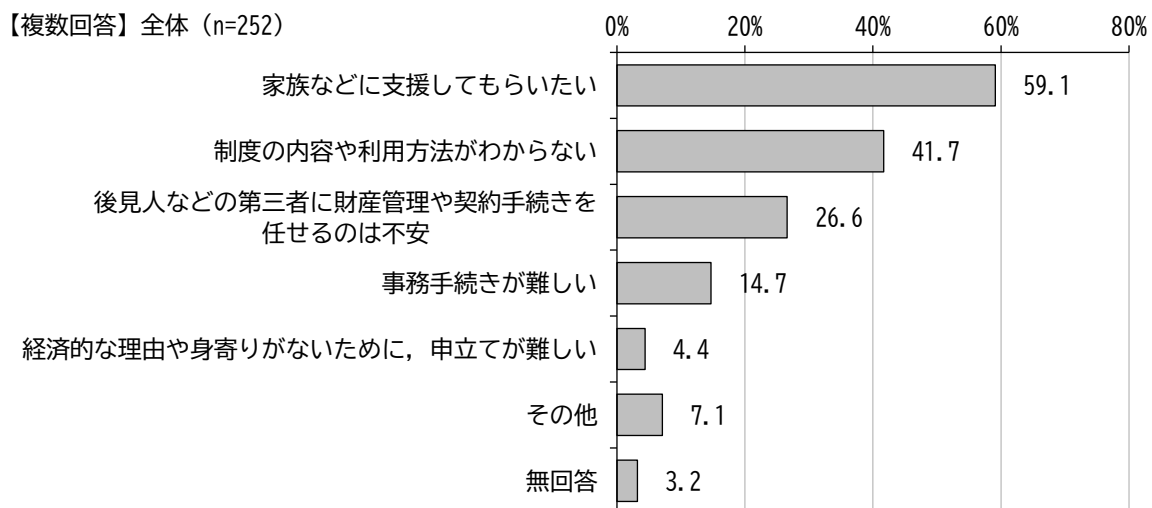
問 24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問 23）のいずれかの制度を利用したいと思いますか。（1 つに○）

- 問 23 の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（47.1%）」が最も多く、「わからない（29.5%）」、「利用しない（10.3%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」、「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。
（いくつでも○）

- 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、「家族などに支援してもらいたい（59.1%）」が最も多く、「制度の内容や利用方法がわからない（41.7%）」、「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安（26.6%）」が続いている。

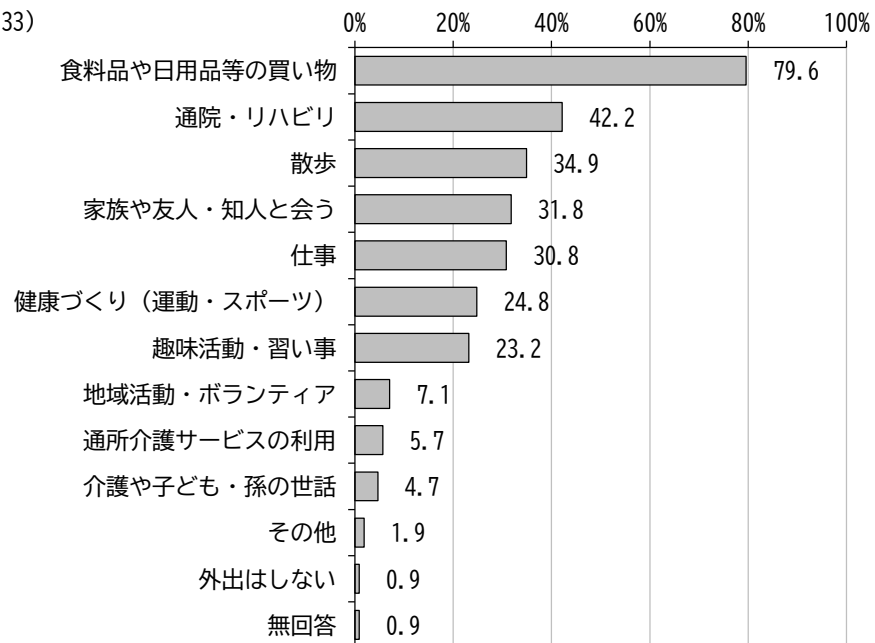


6 暮らしのことについておたずねします

問 25 あなたは主にどのような目的で外出をしますか。(3つまで○)

- 外出の目的は、「食料品や日用品等の買い物 (79.6%)」が最も多く、「通院・リハビリ (42.2%)」、「散歩 (34.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)

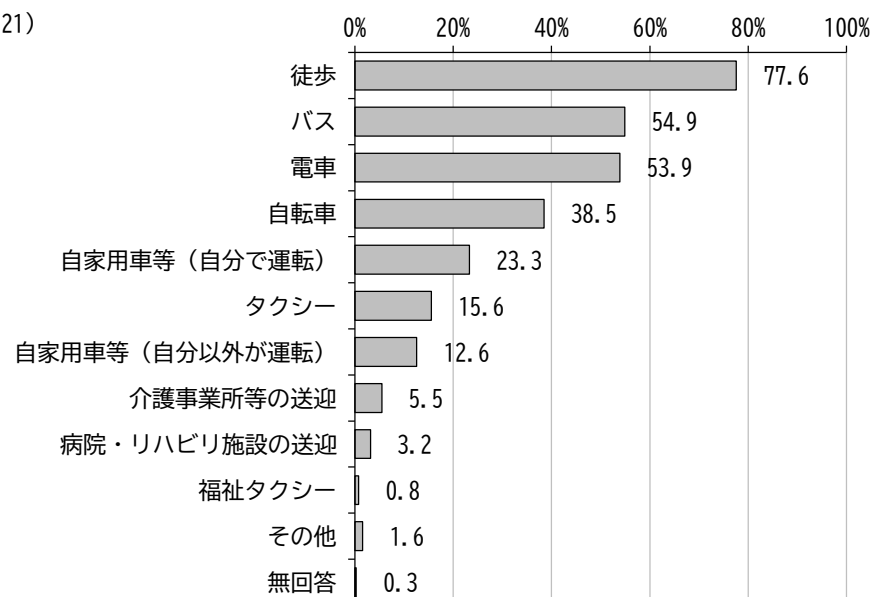


付問 前問 (問 25) で「1～11 (様々な目的で外出をする)」のいずれかに答えた方におたずねします。

利用している移動手段は何ですか。(いくつでも○)

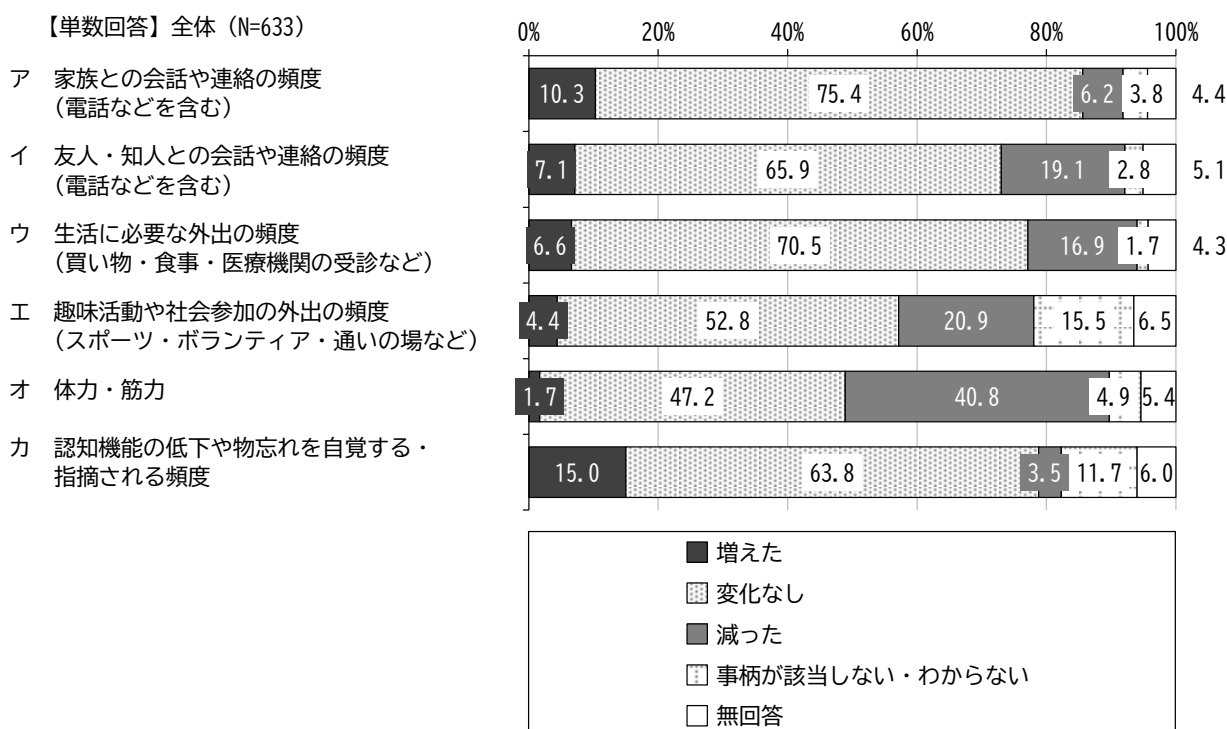
- 利用している移動手段は、「徒歩 (77.6%)」が最も多く、「バス (54.9%)」、「電車 (53.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=621)

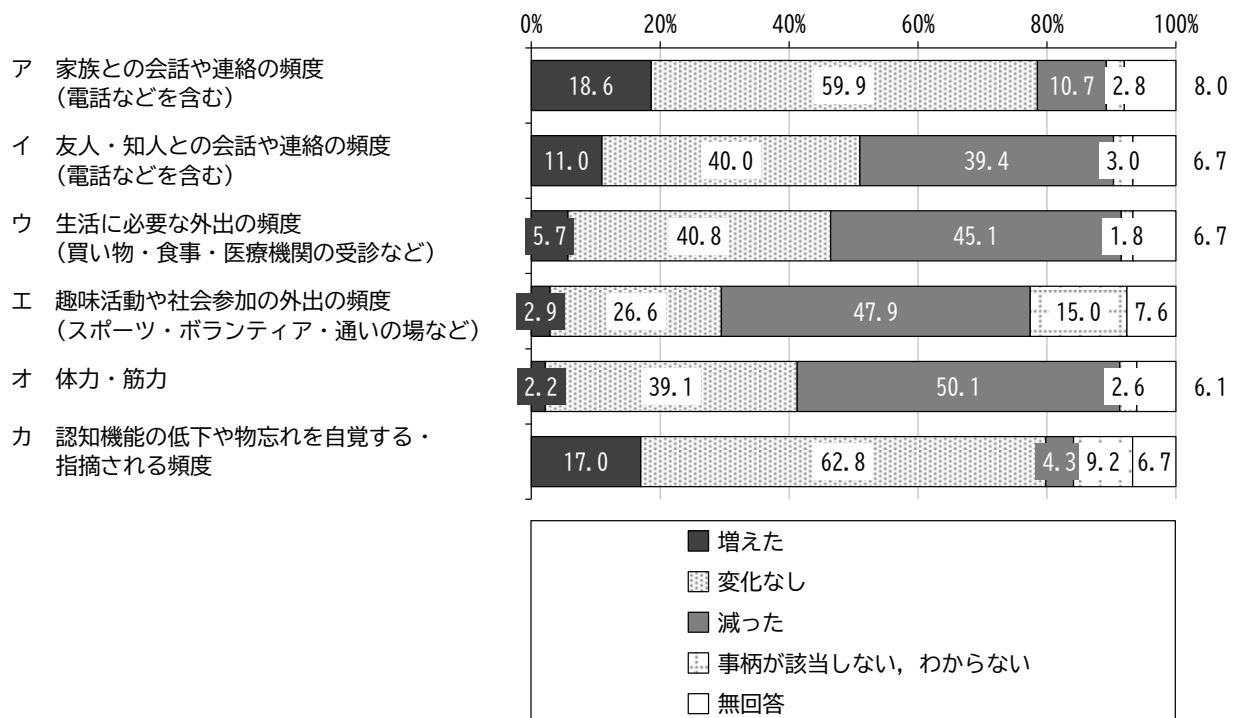


問 26 新型コロナウイルス感染症の流行後、現在のあなたの暮らしにどのような影響がありますか。(それぞれ1つに○)

- 新型コロナウイルス感染症の流行後の暮らしへの影響について、「増えた」の割合は、[カ 認知機能の低下や物忘れを自覚する・指摘される頻度 (15.0%)] が最も多く、[ア 家族との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (10.3%)], [イ 友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (7.1%)] が続いている。
- 一方、「減った」の割合は、[オ 体力・筋力 (40.8%)], [エ 趣味活動や社会参加の外出の頻度 (スポーツ・ボランティア・通いの場など) (20.9%)], [イ 友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (19.1%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「増えた」の割合は、[家族との会話や連絡の頻度 (電話などを含む)] で 8.3 ポイント低くなっている。また、「減った」の割合は、[生活に必要な外出の頻度 (買い物・食事・医療機関の受診など)] で 28.2 ポイント、[趣味活動や社会参加の外出の頻度 (スポーツ・ボランティア・通いの場など)] で 27.0 ポイント、[友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む)] で 20.3 ポイント、[体力・筋力] で 9.3 ポイント低くなっている。



【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)

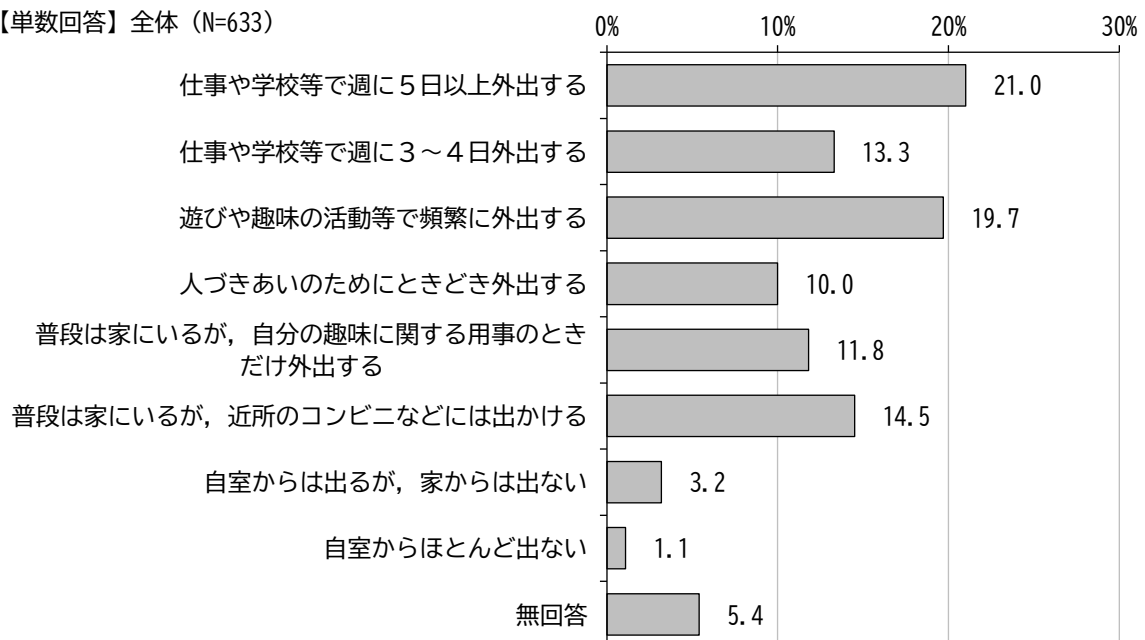


※令和4年度調査は今回調査と項目数が異なるため、記号を省略している。

問 27 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

○ 外出の状況は、「仕事や学校等で週に5日以上外出する (21.0%)」が最も多く、「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する (19.7%)」、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける (14.5%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=633)



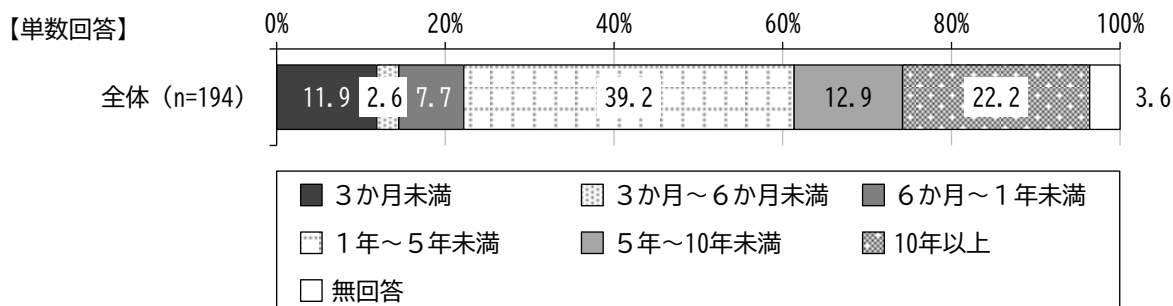
－ 回答者属性分析 －

- 外出状況の結果の割合を年代別にみると、65～69歳、70～74歳で「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、75～79歳で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」、85歳以上で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多く、80～84歳で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」と「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が同率となっている。
- 職業別にみると、正規の社員・職員・役員、非正規の社員・職員、自由業・自営業で「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、無職（仕事はしていない）で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」が最も多くなっている。

単位：％		仕事や学校等で週に5日以上外出する	仕事や学校等で週に3～4日外出する	遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	趣味に関する用事が、ときどき外出する	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	普段は家には出ないが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答
全体（N=633）		21.0	13.3	19.7	10.0	11.8	14.5	3.2	1.1	5.4
年代別	65～69歳（n=135）	43.7	24.4	17.8	4.4	4.4	3.0	0.0	0.0	2.2
	70～74歳（n=112）	27.7	22.3	14.3	12.5	9.8	8.9	0.0	1.8	2.7
	75～79歳（n=148）	16.2	10.1	27.0	10.1	12.8	15.5	0.7	0.7	6.8
	80～84歳（n=105）	11.4	6.7	21.0	15.2	17.1	21.0	1.9	0.0	5.7
	85歳以上（n=113）	1.8	1.8	18.6	8.8	16.8	24.8	14.2	3.5	9.7
職業別	正規の社員・職員・役員（n=47）	66.0	17.0	4.3	2.1	2.1	6.4	0.0	0.0	2.1
	非正規の社員・職員（n=106）	48.1	46.2	2.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	自由業・自営業（n=50）	46.0	18.0	12.0	2.0	4.0	12.0	2.0	0.0	4.0
	シルバー人材センターの会員（n=9）	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有償ボランティア（n=9）	11.1	22.2	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	仕事はしていない（n=366）	4.6	2.7	27.6	14.2	17.5	20.2	4.9	1.9	6.3

付問1 問27で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1年～5年未満（39.2%）」が最も多く、「10年以上（22.2%）」が続いている。

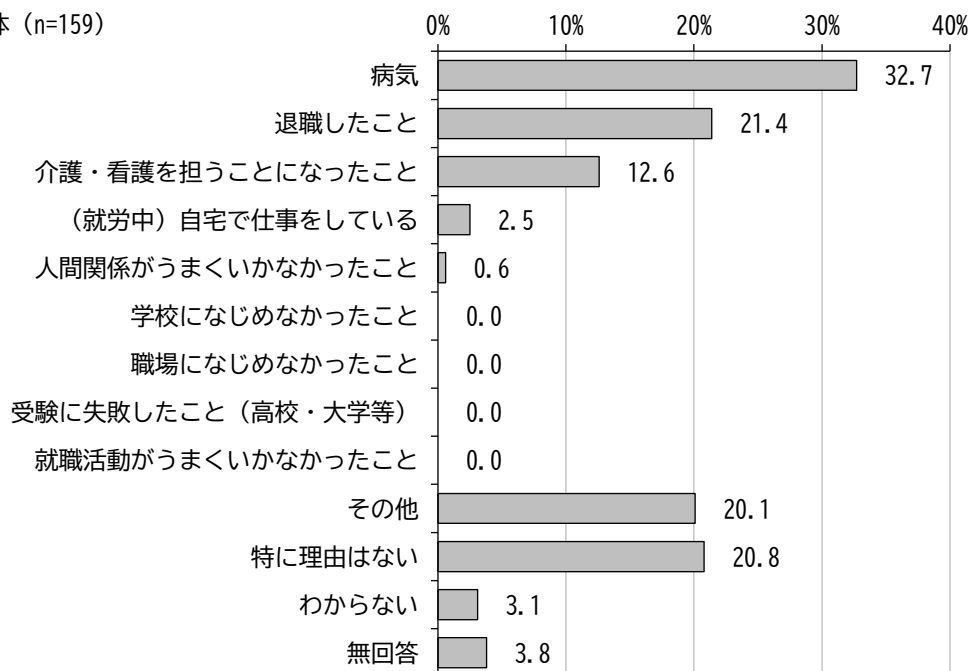


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、「病気（32.7%）」が最も多く、「退職したこと（21.4%）」、「特に理由はない（20.8%）」が続いている。

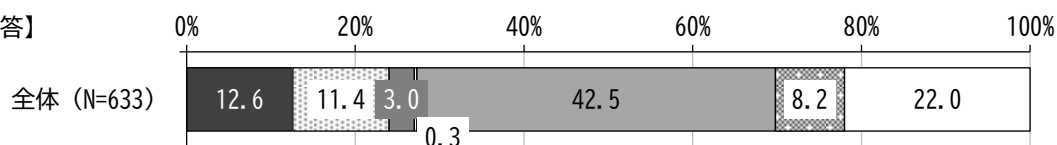
【複数回答】全体（n=159）



問28 あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、「いずれもいない（42.5%）」が最も多く、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する（12.6%）」、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける（11.4%）」が続いている。

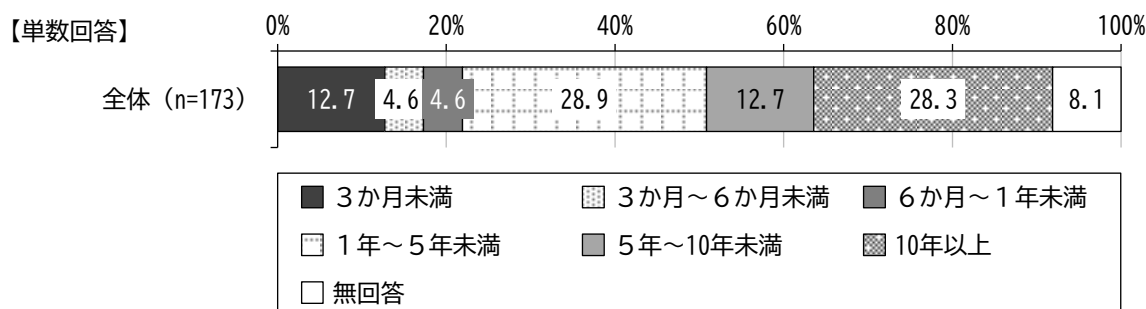
【単数回答】



- 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する
- ▨ 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 自室からは出るが、家からは出ない
- 自室からほとんど出ない
- いずれもいない
- ▨ 外出状況がわからない
- 無回答

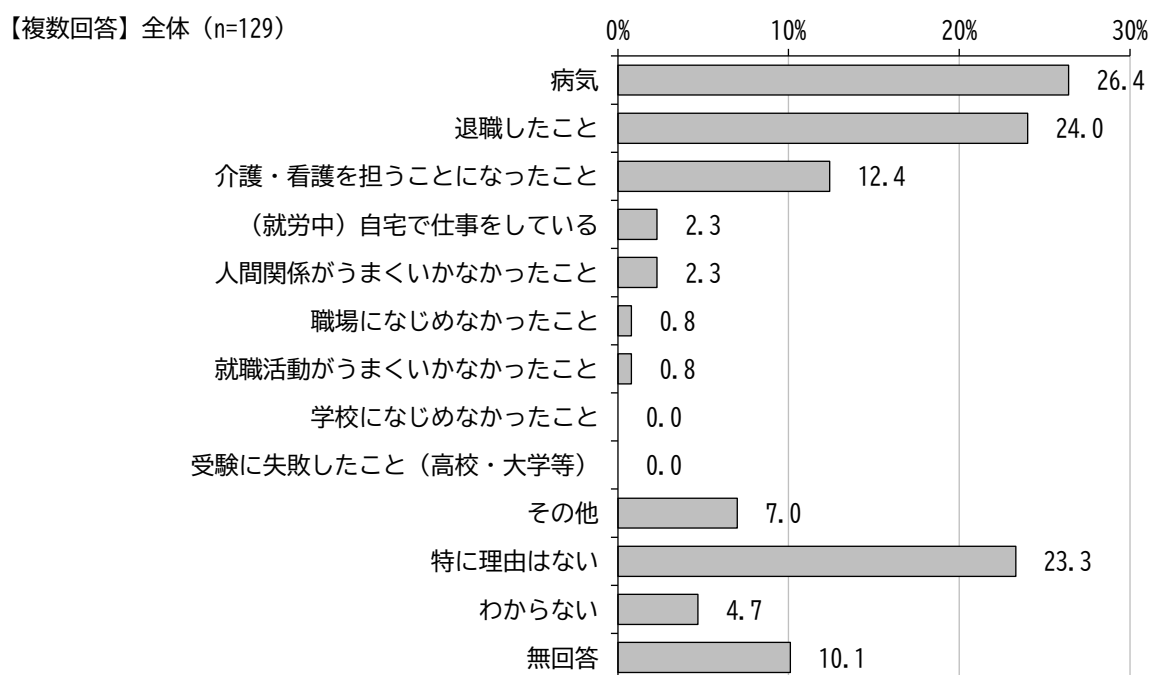
付問1 問28で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1年～5年未満（28.9%）」が最も多く、「10年以上（28.3%）」、「3か月未満（12.7%）」「5年～10年未満（12.7%）」が続いている。



付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

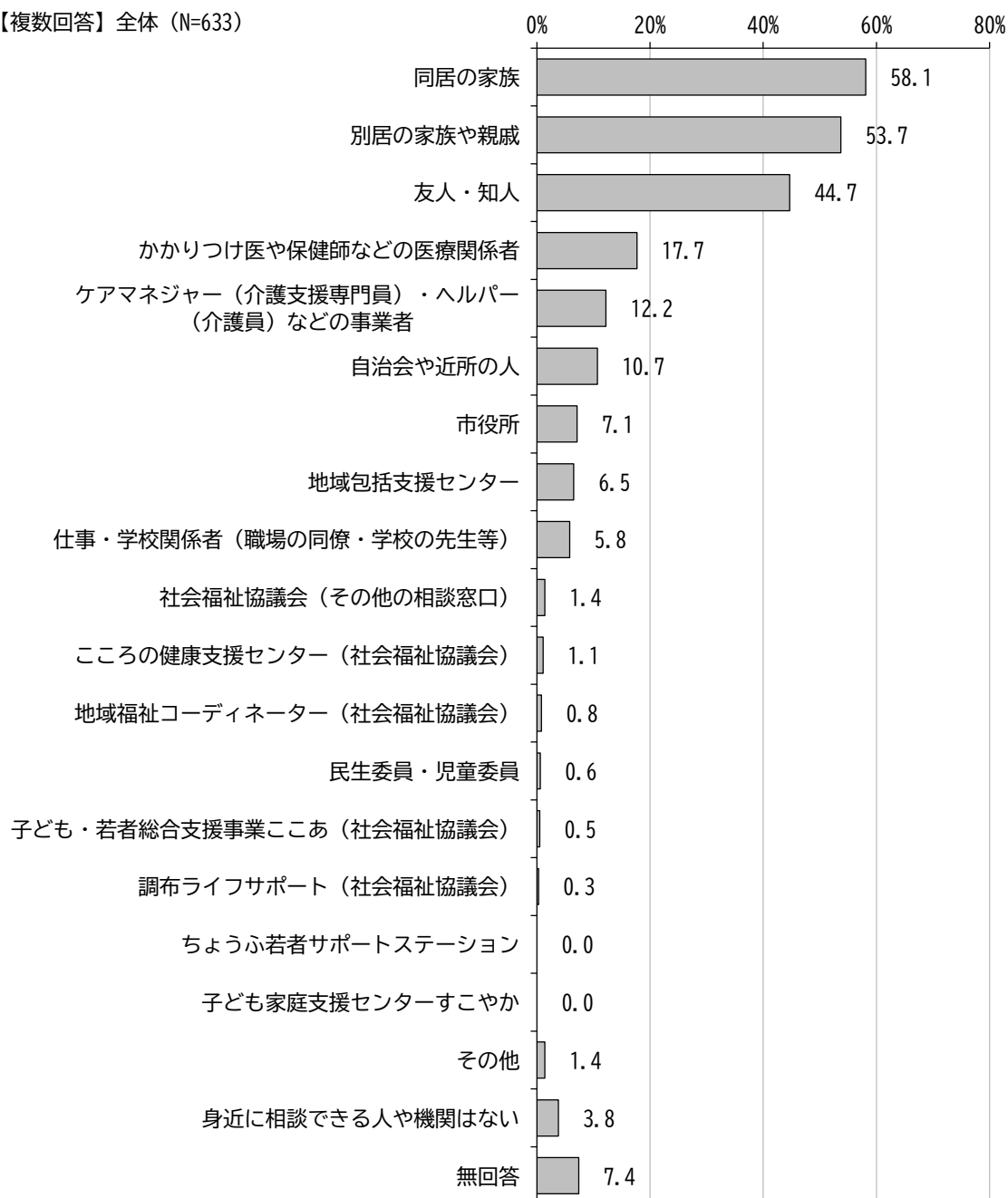
- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、「病気（26.4%）」が最も多く、「退職したこと（24.0%）」、「特に理由はない（23.3%）」が続いている。



問 29 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 日常生活での困りごとを相談できる人や機関は、「同居の家族 (58.1%)」が最も多く、「別居の家族や親戚 (53.7%)」,「友人・知人 (44.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



－ 回答者属性分析 －

- 日常生活での困りごとを相談できる人や機関の割合を年代別にみると、65～74 歳、85 歳以上で「同居の家族」、75～84 歳で「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。また、85 歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」が2割を超えている。
- 性・年代別にみると、男性はすべての年代で「同居の家族」、女性はすべての年代で「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。また、女性：85 歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」が3割を超えており、男性：85 歳以上の1割台に比べて多くなっている。

- 福祉圏域別にみると、若葉・調和小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で「別居の家族や親戚」、それ以外の地域で「同居の家族」が最も多くなっている。

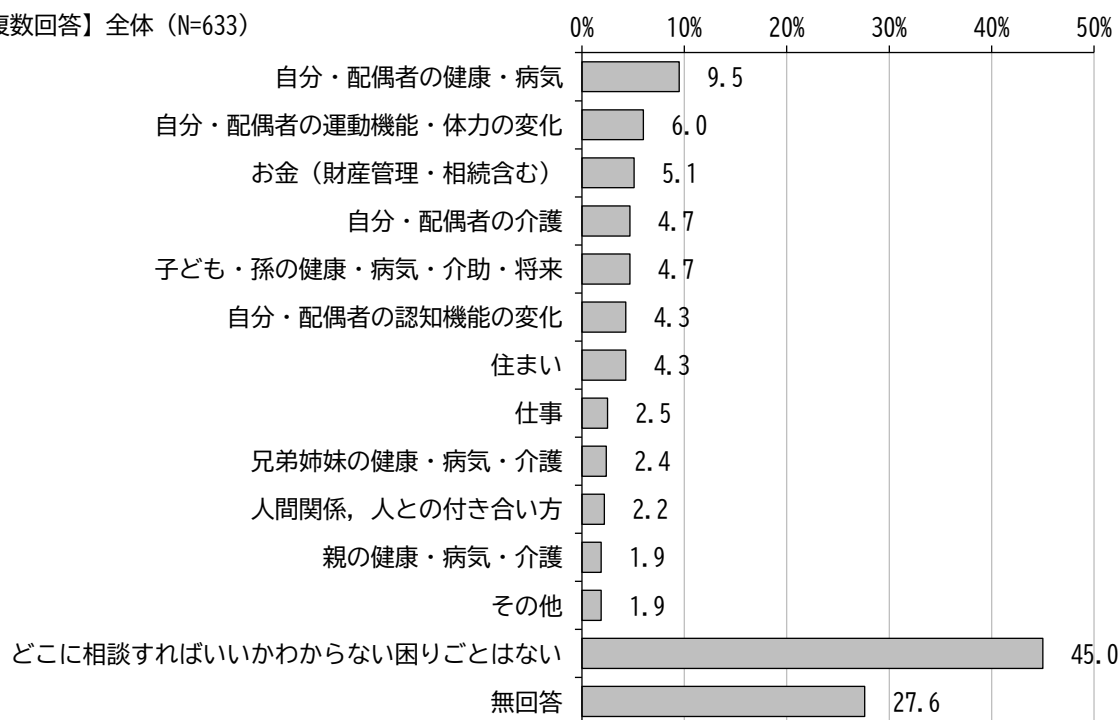
単位：％		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）
全体（N=633）		58.1	53.7	10.7	44.7	5.8	0.6	12.2	17.7	7.1	0.8
年代別	65～74歳（n=247）	65.2	53.4	8.9	52.6	10.9	0.4	5.7	15.8	7.7	1.2
	75～84歳（n=253）	55.3	56.1	13.0	45.5	3.6	0.8	11.5	19.0	7.1	0.8
	85歳以上（n=113）	49.6	48.7	9.7	26.5	0.0	0.9	28.3	19.5	3.5	0.0
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	69.0	44.4	7.9	43.7	11.1	0.8	2.4	19.0	10.3	1.6
	男性：75～84歳（n=93）	65.6	45.2	14.0	43.0	6.5	1.1	8.6	22.6	11.8	0.0
	男性：85歳以上（n=34）	52.9	44.1	11.8	23.5	0.0	2.9	17.6	17.6	2.9	0.0
	女性：65～74歳（n=120）	61.7	62.5	10.0	61.7	10.8	0.0	9.2	12.5	5.0	0.8
	女性：75～84歳（n=158）	49.4	63.3	12.7	46.2	1.9	0.6	13.3	16.5	4.4	1.3
	女性：85歳以上（n=78）	48.7	51.3	9.0	28.2	0.0	0.0	33.3	20.5	3.8	0.0
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	62.5	52.8	9.7	47.2	5.6	0.0	9.7	12.5	6.9	0.0
	若葉・調和（n=58）	56.9	63.8	13.8	51.7	3.4	1.7	13.8	19.0	10.3	1.7
	上ノ原・柏野（n=66）	66.7	56.1	6.1	39.4	3.0	0.0	9.1	16.7	3.0	0.0
	北ノ台・深大寺（n=66）	57.6	54.5	10.6	47.0	6.1	1.5	6.1	12.1	4.5	0.0
	第二・八雲台・国領（n=102）	57.8	52.0	12.7	46.1	5.9	0.0	14.7	25.5	9.8	0.0
	染地・杉森・布田（n=79）	54.4	43.0	10.1	53.2	7.6	0.0	11.4	20.3	6.3	3.8
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	50.7	47.9	2.8	36.6	4.2	0.0	7.0	11.3	8.5	0.0
	第三・石原・飛田給（n=94）	62.8	63.8	17.0	41.5	9.6	2.1	22.3	21.3	3.2	1.1

単位：％		福祉調布ライフサポート（社会福祉協議会）	子ども・若者総合支援事業（社会福祉協議会）	こころの健康支援センター（社会福祉協議会）	社会福祉協議会（その他の相談窓口）	地域包括支援センター	テラス・若者サポートステーション	子ども家庭支援センターすこやか	その他	身近に相談できる人や機関	無回答
全体（N=633）		0.3	0.5	1.1	1.4	6.5	0.0	0.0	1.4	3.8	7.4
年代別	65～74歳（n=247）	0.0	0.8	0.8	1.6	4.9	0.0	0.0	1.2	4.5	4.0
	75～84歳（n=253）	0.8	0.0	1.6	1.6	5.9	0.0	0.0	1.2	3.6	6.7
	85歳以上（n=113）	0.0	0.9	0.9	0.9	9.7	0.0	0.0	2.7	3.5	15.0
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	0.0	0.8	0.8	2.4	5.6	0.0	0.0	1.6	7.1	4.0
	男性：75～84歳（n=93）	1.1	0.0	2.2	2.2	6.5	0.0	0.0	1.1	6.5	3.2
	男性：85歳以上（n=34）	0.0	0.0	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	5.9	2.9	17.6
	女性：65～74歳（n=120）	0.0	0.8	0.8	0.8	4.2	0.0	0.0	0.8	1.7	4.2
	女性：75～84歳（n=158）	0.6	0.0	1.3	1.3	5.7	0.0	0.0	1.3	1.9	8.9
	女性：85歳以上（n=78）	0.0	1.3	1.3	0.0	9.0	0.0	0.0	1.3	3.8	12.8
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	0.0	0.0	1.4	0.0	5.6	0.0	0.0	1.4	4.2	4.2
	若葉・調和（n=58）	0.0	1.7	3.4	1.7	5.2	0.0	0.0	1.7	6.9	3.4
	上ノ原・柏野（n=66）	1.5	0.0	1.5	1.5	6.1	0.0	0.0	1.5	3.0	7.6
	北ノ台・深大寺（n=66）	0.0	0.0	0.0	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	3.0	12.1
	第二・八雲台・国領（n=102）	0.0	0.0	0.0	3.9	9.8	0.0	0.0	1.0	4.9	5.9
	染地・杉森・布田（n=79）	0.0	0.0	2.5	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	5.1	8.9
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	0.0	1.4	0.0	1.4	5.6	0.0	0.0	4.2	2.8	9.9
	第三・石原・飛田給（n=94）	1.1	1.1	1.1	1.1	6.4	0.0	0.0	2.1	2.1	3.2

問 30 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。
(いくつでも○)

- 相談先がわからない生活上の困りごとは、「どこに相談すればいいかわからない困りごとはない (45.0%)」が最も多く、「自分・配偶者の健康・病気 (9.5%)」、「自分・配偶者の運動機能・体力の変化 (6.0%)」、「自分・配偶者の運動機能・体力の変化 (6.0%)」が続いている。

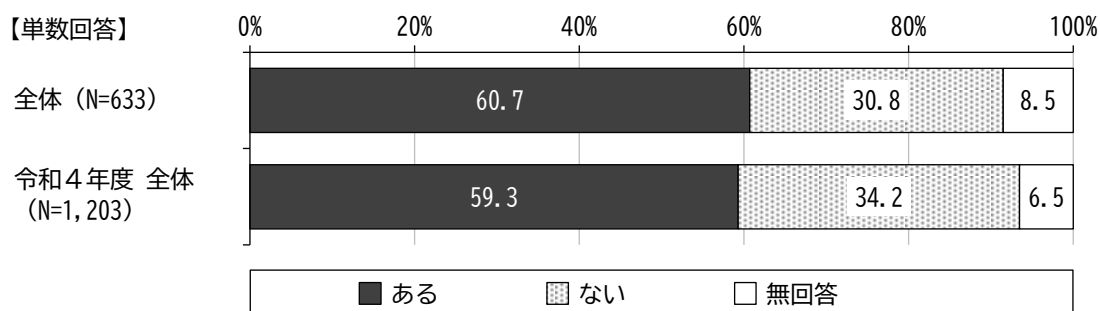
【複数回答】全体 (N=633)



問 31 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場所がありますか。(1つに○)

- 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場所の有無は、「ある (60.7%)」、「ない (30.8%)」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

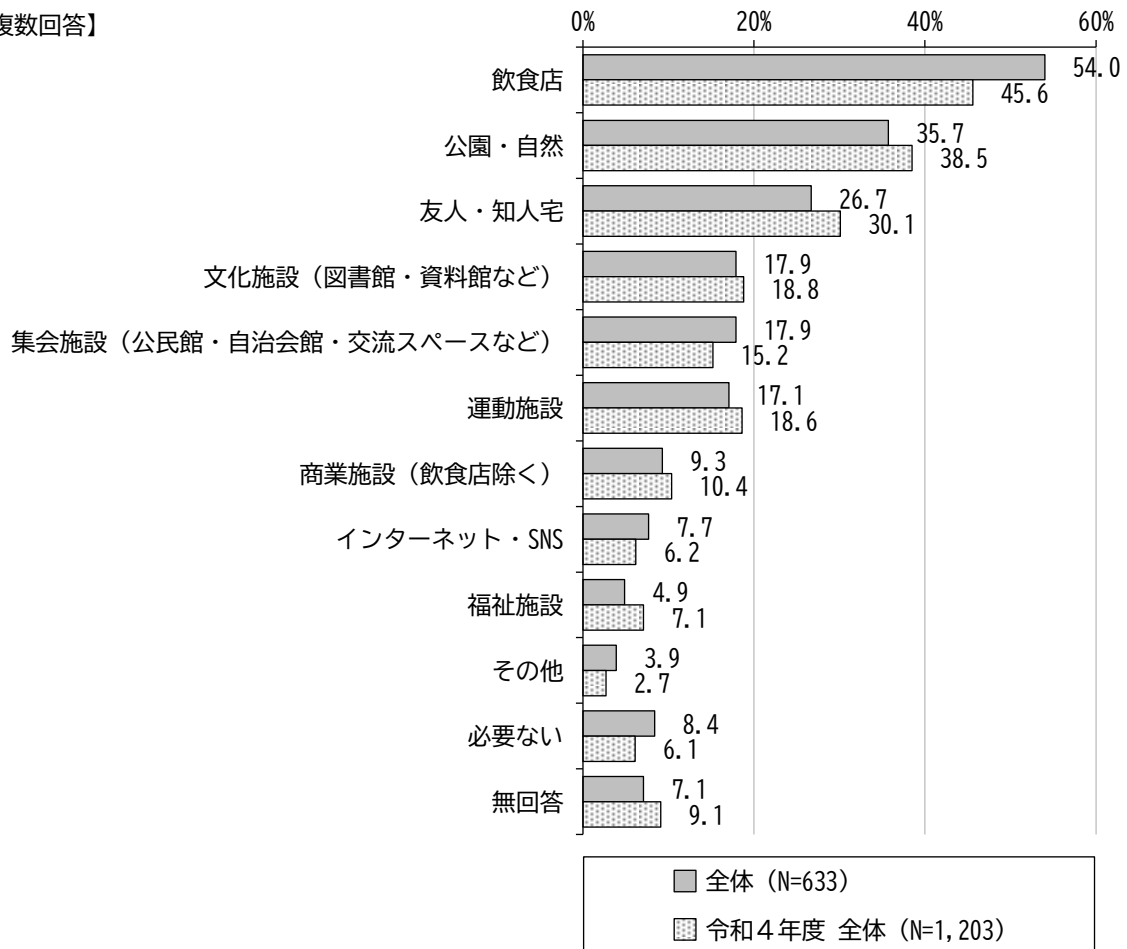
【単数回答】



問 32 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場合、どのような場所を望みますか。(いくつでも○)

- 自宅以外に一人ひとりで、あるいは友人・知人と過ごしたい場所は、「飲食店(54.0%)」が最も多く、「公園・自然(35.7%)」、「友人・知人宅(26.7%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「飲食店」が8.4ポイント高くなっている。

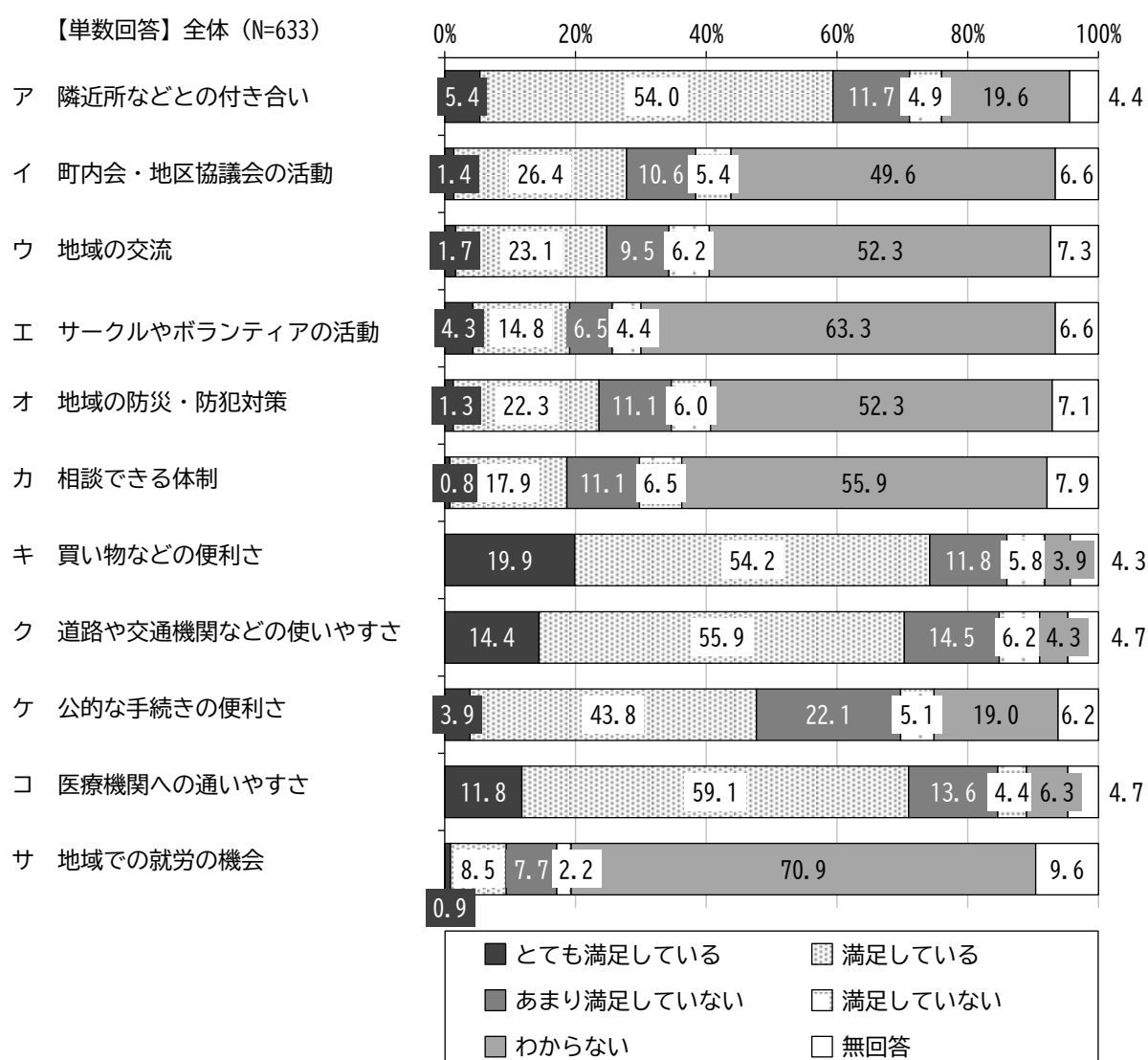
【複数回答】



7 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

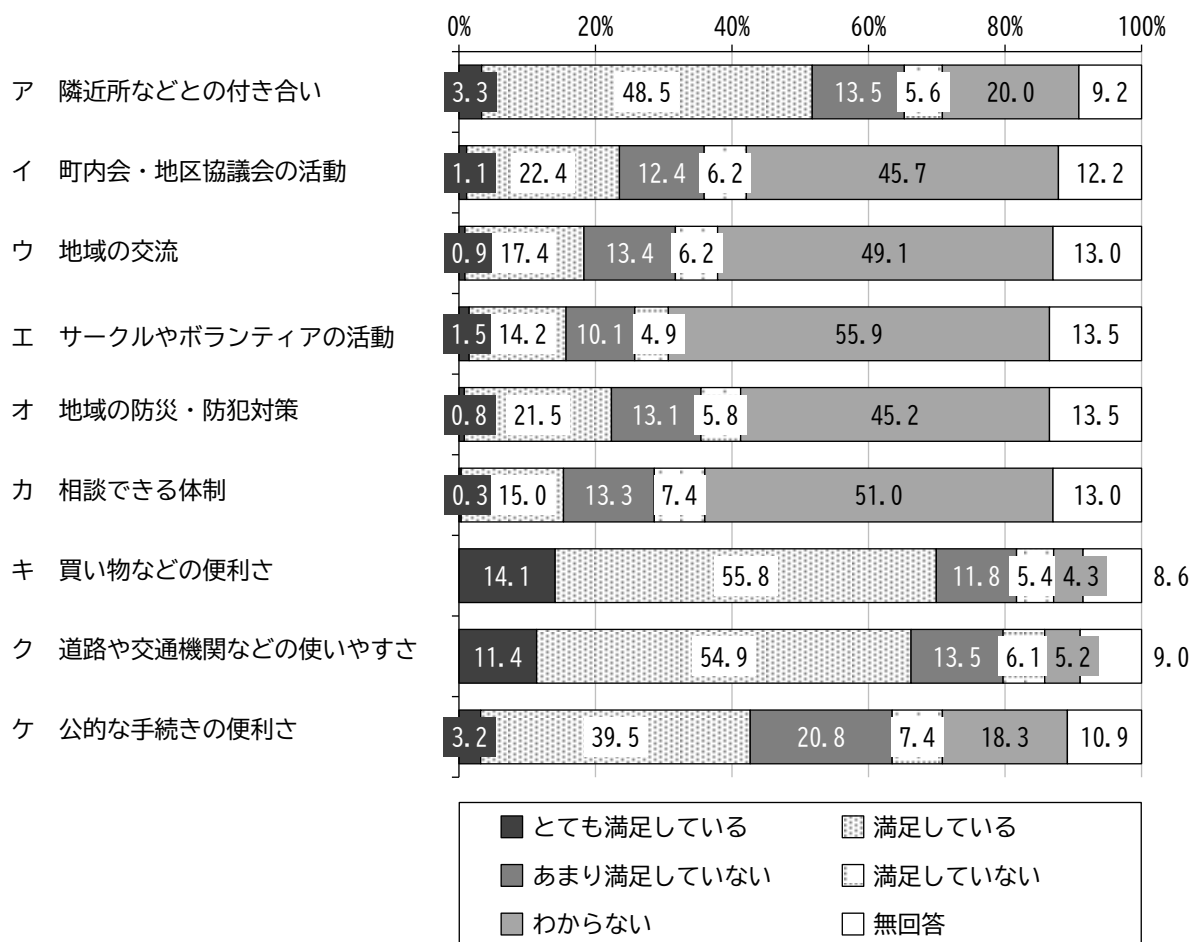
問 33 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域の暮らしやすさの状況について、「とても満足している」と「満足している」を合わせた『満足している』の割合は、[キ 買い物などの便利さ (74.1%)] が最も多く、[コ 医療機関への通いやすさ (70.9%)], [ク 道路や交通機関などの使いやすさ (70.3%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、『満足している』の割合は、[ア 隣近所などとの付き合い] で7.6ポイント、[ウ 地域の交流] で6.5ポイント高くなっている。



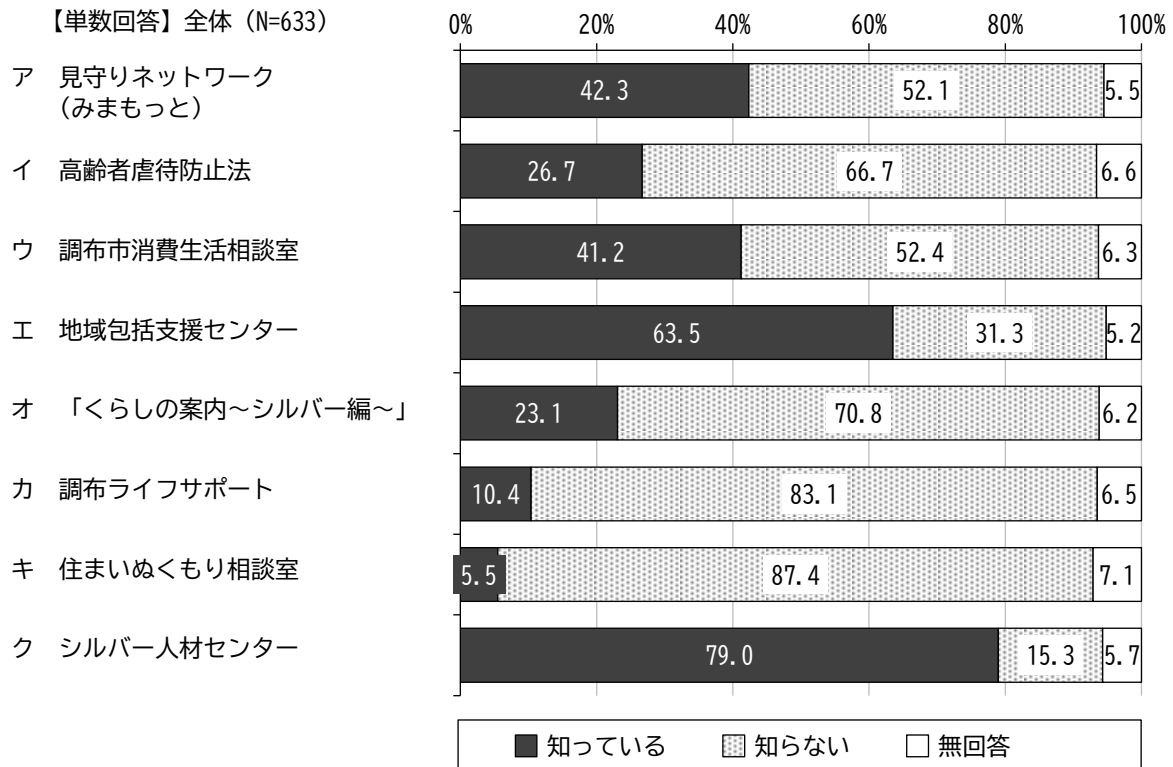
※ [コ 医療機関への通いやすさ], [サ 地域での就労の機会] は今回調査のみの項目

【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)



問 34 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

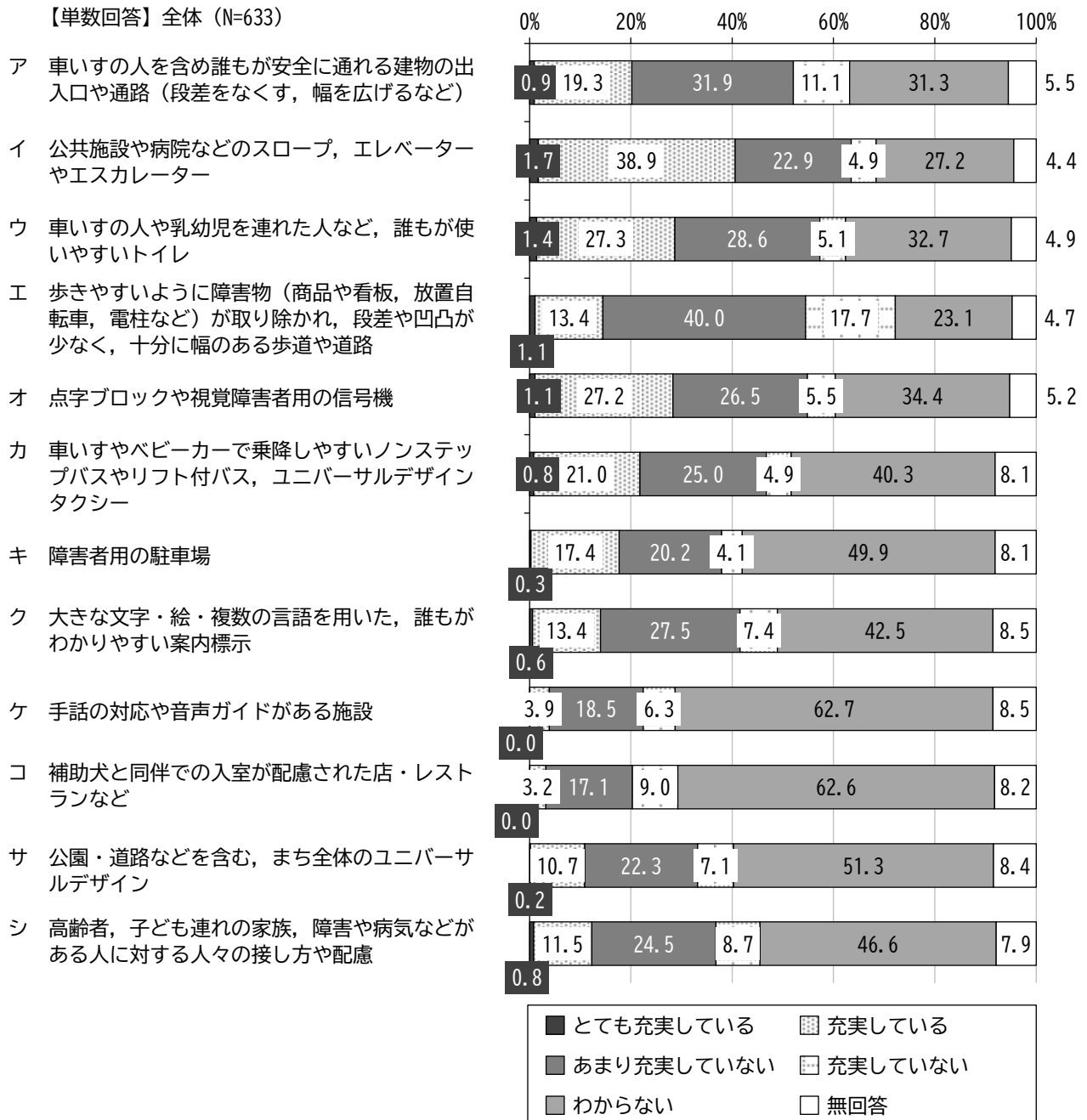
- 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などの認知状況について、「知っている」の割合は、
[ク シルバー人材センター (79.0%)] が最も多く，[エ 地域包括支援センター (63.5%)]，
[ア 見守りネットワーク (みまもっと) (42.3%)] が続いている。



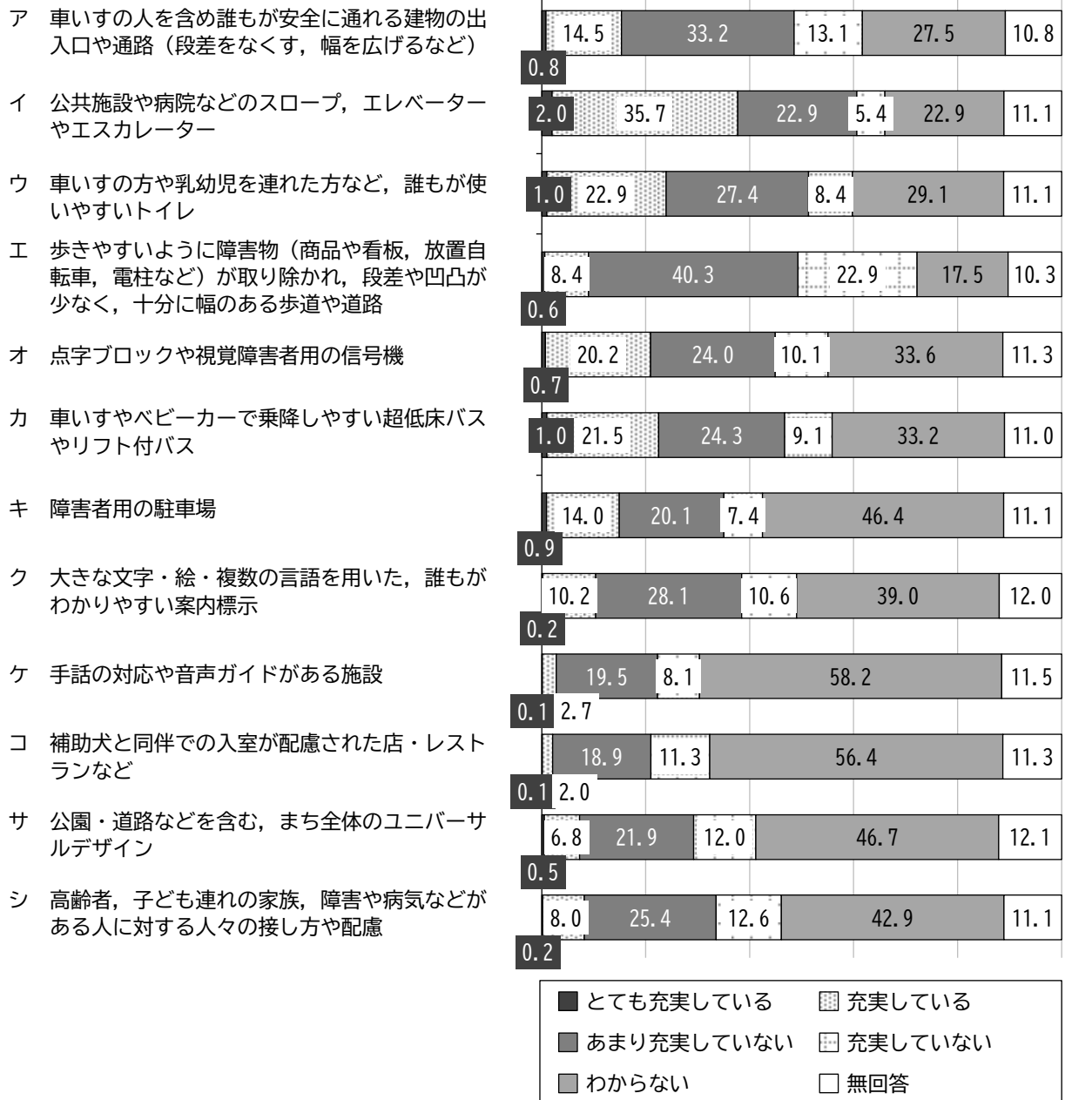
問 35 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（40.6%）]が最も多く，[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など，誰もが使いやすいトイレ（28.7%）]，[オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機（28.3%）]が続いている。
- 一方，「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は，[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく，十分に幅のある歩道や道路（57.7%）]が最も多く，[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）（43.0%）]，[ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた，誰もがわかりやすい案内標示（34.9%）]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，『充実している』の割合は，[オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機]で7.4ポイント，[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく，十分に幅のある歩道や道路]で5.5ポイント高くなっている。

【単数回答】全体 (N=633)

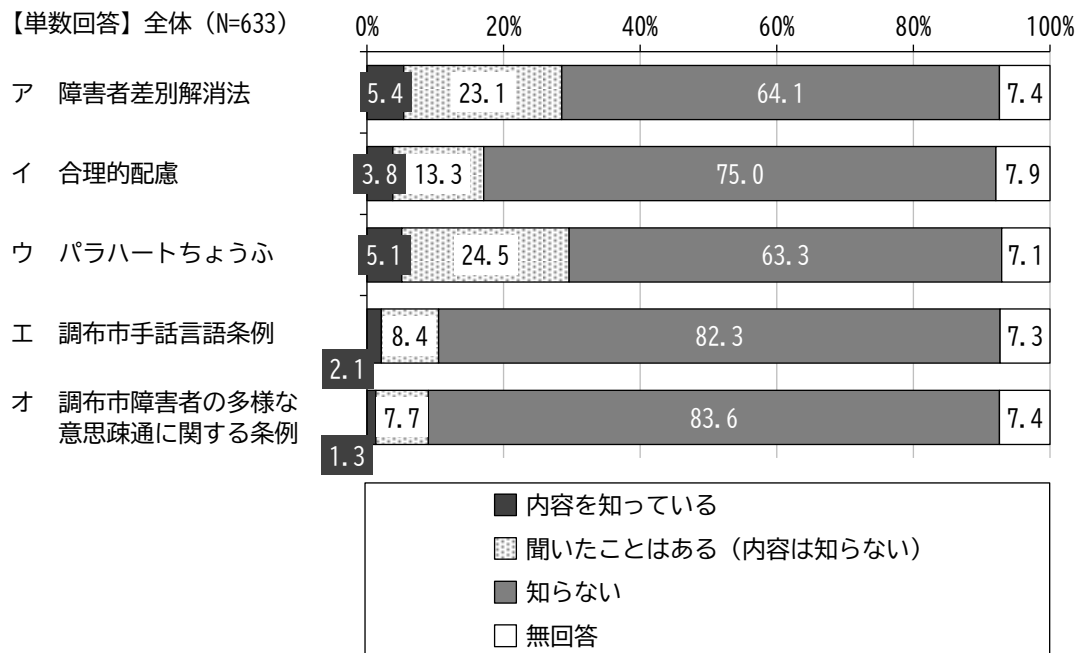


【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)



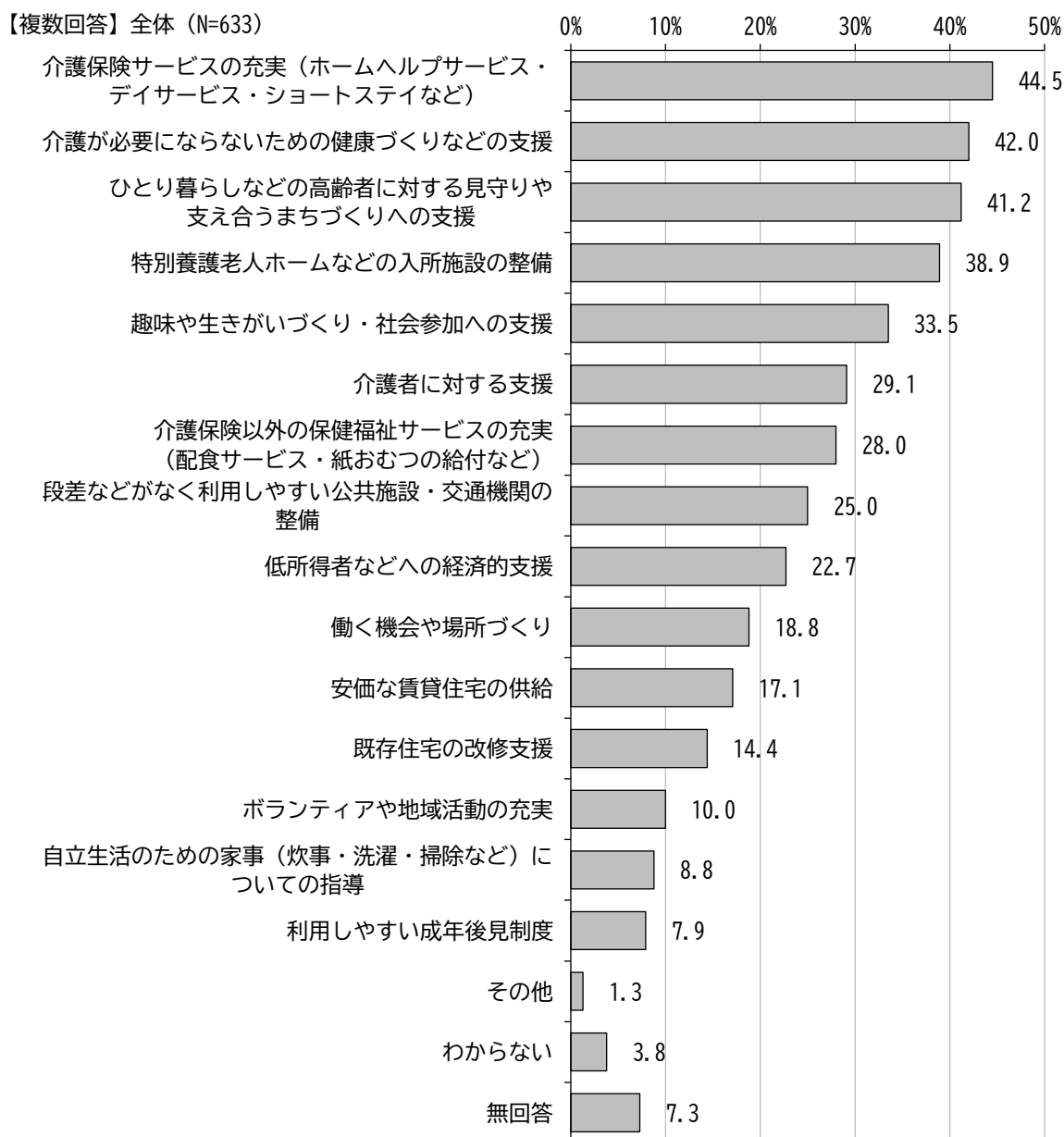
問 36 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方，市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[ア 障害者差別解消法（5.4%）] が最も多く，[ウ パラハートちょうふ（5.1%）] が続いている。それ以外の項目は「知らない」が7割を超えている。



問 37 調布市の高齢者保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（5つまで○）

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）（44.5%）」が最も多く、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援（42.0%）」、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（41.2%）」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組の割合を性・年代別にみると、男性は、65～74 歳で「働く機会や場所づくり」、85 歳以上で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多く、75～84 歳で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」と「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が同率となっている。女性は、65～74 歳で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」、75～84 歳で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」、85 歳以上で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、緑ヶ丘・滝坂小学校地域、北ノ台・深大寺小学校地域で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多く、若葉・調和小学校地域で「趣味や生きがいづくり・社会参加への支援」と「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」と「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」、第三・石原・飛田給小学校地域で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率となっている。それ以外の地域で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が最も多くなっている。

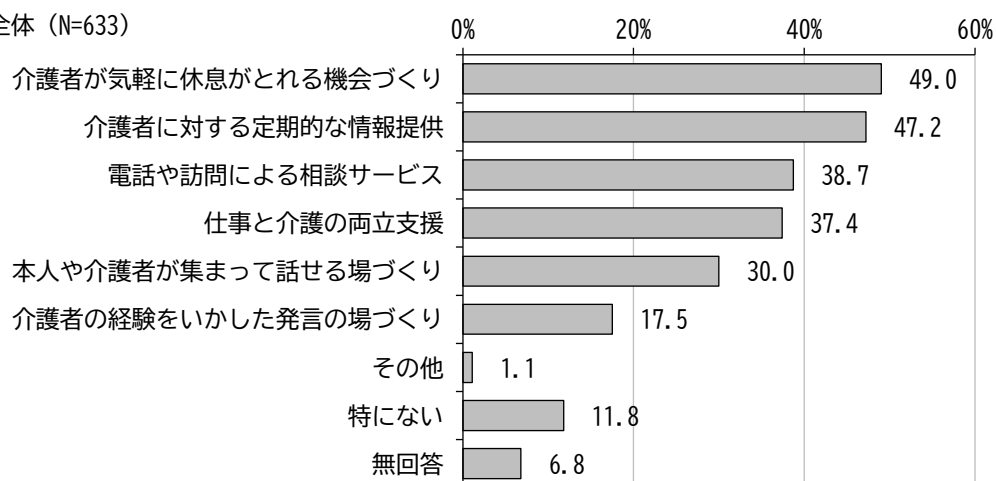
単位：％		趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	導	洗濯・掃除などの家事（炊事・指	自立生活のための家事（炊事・指	ス・シヨートサービス・デイサービス・ホ	介	む	ス	介	ボ	り	す	ひ	低
単位：％		趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	導	洗濯・掃除などの家事（炊事・指	自立生活のための家事（炊事・指	ス・シヨートサービス・デイサービス・ホ	介	む	ス	介	ボ	り	す	ひ	低
全体（N=633）		33.5	18.8	42.0	8.8	44.5	28.0	10.0	41.2	22.7							
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	38.9	39.7	37.3	11.9	37.3	27.8	14.3	31.0	27.0							
	男性：75～84歳（n=93）	36.6	15.1	44.1	14.0	44.1	22.6	7.5	40.9	24.7							
	男性：85歳以上（n=34）	35.3	2.9	50.0	2.9	44.1	38.2	5.9	38.2	23.5							
	女性：65～74歳（n=120）	38.3	25.8	39.2	10.0	49.2	30.8	7.5	51.7	15.8							
	女性：75～84歳（n=158）	30.4	9.5	47.5	5.7	46.8	29.1	9.5	44.9	22.2							
	女性：85歳以上（n=78）	21.8	5.1	41.0	6.4	46.2	23.1	12.8	38.5	25.6							
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	29.2	19.4	43.1	18.1	40.3	22.2	4.2	38.9	15.3							
	若葉・調和（n=58）	41.4	20.7	41.4	8.6	39.7	27.6	12.1	39.7	22.4							
	上ノ原・柏野（n=66）	30.3	21.2	37.9	9.1	43.9	31.8	6.1	37.9	18.2							
	北ノ台・深大寺（n=66）	48.5	18.2	50.0	4.5	47.0	19.7	13.6	40.9	27.3							
	第二・八雲台・国領（n=102）	26.5	18.6	41.2	11.8	51.0	34.3	8.8	40.2	28.4							
	染地・杉森・布田（n=79）	29.1	17.7	44.3	6.3	45.6	30.4	13.9	40.5	24.1							
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	38.0	22.5	40.8	8.5	42.3	26.8	11.3	42.3	25.4							
	第三・石原・飛田給（n=94）	33.0	14.9	43.6	5.3	44.7	27.7	12.8	47.9	18.1							

単位：％		既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	機や段の差の公共有が施なく利交通し	ど特の別入養護老人ホームな	制利用しやすい成年後見	介	そ	わ	無
単位：％		既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	機や段の差の公共有が施なく利交通し	ど特の別入養護老人ホームな	制利用しやすい成年後見	介	そ	わ	無
全体（N=633）		14.4	17.1	25.0	38.9	7.9	29.1	1.3	3.8	7.3
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	15.1	20.6	21.4	33.3	7.1	26.2	0.8	4.8	4.8
	男性：75～84歳（n=93）	17.2	20.4	24.7	35.5	6.5	25.8	1.1	2.2	8.6
	男性：85歳以上（n=34）	5.9	14.7	29.4	38.2	8.8	23.5	0.0	11.8	2.9
	女性：65～74歳（n=120）	12.5	15.0	20.0	48.3	6.7	35.8	0.8	1.7	4.2
	女性：75～84歳（n=158）	17.1	17.1	34.2	38.0	12.0	29.1	2.5	1.9	8.9
	女性：85歳以上（n=78）	12.8	11.5	19.2	42.3	5.1	26.9	1.3	7.7	10.3
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	8.3	16.7	19.4	38.9	12.5	31.9	1.4	1.4	9.7
	若葉・調和（n=58）	17.2	27.6	19.0	37.9	0.0	25.9	0.0	1.7	3.4
	上ノ原・柏野（n=66）	18.2	7.6	27.3	40.9	6.1	36.4	3.0	3.0	6.1
	北ノ台・深大寺（n=66）	21.2	15.2	27.3	34.8	7.6	25.8	0.0	1.5	3.0
	第二・八雲台・国領（n=102）	15.7	21.6	29.4	37.3	5.9	26.5	2.0	2.9	7.8
	染地・杉森・布田（n=79）	13.9	22.8	21.5	38.0	7.6	31.6	1.3	10.1	6.3
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	8.5	14.1	26.8	33.8	8.5	26.8	0.0	4.2	8.5
	第三・石原・飛田給（n=94）	14.9	11.7	28.7	47.9	13.8	25.5	1.1	3.2	8.5

問 38 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。
(いくつでも○)

- 必要だと思う介護者支援策は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり (49.0%)」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供 (47.2%)」,「電話や訪問による相談サービス (38.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、211 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会活動の活性化 イ 支え合い、ボランティア ウ 地域活動の情報 エ 近所のつながり オ 声がけ	37
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実	52
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ 防災の強化 ウ 防犯の強化	38
取組番号の選択なし		29
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境 イ 市の施策 ウ 医療、福祉、子育て、防災 エ 交通の利便性 オ アンケート	55
合計		211

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会活動の活性化

- ほどよく他者に関心や協力のできる関係が大事だと思います。そのためには自治会活動が大きな役割を持っています。市内のユニークな自治会活動を伝える手段があるといいと思います。（男性、75～79 歳）
- 自治会会員が少なくなり、消滅した所もあります。古い方は年を取って辞めていくし、引っ越して来た新しい方はまず入会しません。どうすればいいのか私には分かりませんが、魅力ある自治会を考えていけばと思います。（女性、70～74 歳）

イ 支え合い、ボランティア

- 市民同士の支え合いの仕組みづくりには自治会の力が大事に思えますが、自治会に入っている家が少ないと思えます。調布市へ転入の際に自治会へ入る案内、様々な相

談に応える市役所の支援組織の紹介などされては。高齢者施設、保育園の近くに高齢者の集まれる場所（高齢者の仕事場、憩いの場）を交流目的に設置し、可能な人は介護士、保育士の手伝いをする（早朝、夜の預かり、食事、掃除など）。シルバー人材センターの充実。覗いてみようかなと思わせるようなコマーシャル。（女性、75～79歳）

- いつでも年金に関係なくふらりと立ち寄れる様な場があると年を重ねた人や子供や例えば障がいがある人などその中には最低限のルールがあり、それらを支える人も高齢者などという、自由な場が欲しい。常に自然と支える人が居てと。高齢者も関係的には無視ができないながらも役に立ちたいという思いは常に頭の中には持っている。シニアパワーを大いに利用して欲しいもので有る。（女性、80～84歳）
- シルバー人材の活用。ボランティアの参加の簡単さ。（女性、65～69歳）

ウ 地域活動の情報

- 地域活動は各地域で色々あるようですが、私はよく知らず、一人暮らしになり知り合いに何かやりたいと話した所、老人会に誘って下さり入りました。市でももう少し広報に力を入れてはと思います。東町のランチはあまり利用されていない様子に見えます。もっと気軽に誰でも行かれる居場所にできないでしょうか。どういうコンセプトでどう運営をすれば皆の気楽な居場所になるのか、私には考えても分かりません。中身が大事だと思うのですが…。（女性、75～79歳）

エ 近所のつながり

- 市民活動までは望まないが、災害時に助け合える、声かけができるなど、また昨今の闇バイトなどの被害防止等も含め、開かれた地域づくり、コミュニティづくりは必要ではないかと思う。昔は町内会が有り、近所の人付き合いがあったが、今はなくなった。（男性、65～69歳）
- マンション住まい長いがポストに氏名、玄関表札もない。「隣は何をする人ぞ」強く感じます。民生委員一度も来訪なし。（女性、80～84歳）
- 30代までは、地域、近所で昔からの隣人同士で交流、助け合う交流があった。自らが、高齢者となった今、つくづく思うのが子供、児童を含めた若者の人口が減り、接触すら無くなっている。介護施設等で学校児童、生徒達が交流の機会あるのは知っているが、その親世代さらには成長した若者達がまず交流、接触する機会、イベントが全く無いように思える。もし、あったとしても見聞きしていない。中高年よりも、若い世代から地域で交流継続していく事業が個人的には必要と思う。（男性、65～69歳）

オ 声かけ

- 見守りパトロール隊があったら良い。1.安心、安全の確認。2.困った時に相談が出来る。3.安否確認をする。4.話し相手になってもらう。（男性、70～74歳）

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- 複雑な手続きを要さず、予約や長時間の待ち時間がいない、気軽に相談できるサービス体制を希望します。（男性、65～69歳）

- 一層のサービスの充実と、利用しやすい、相談しやすい環境整備が必要。(男性, 65～69 歳)
- 可能な限り自立した生活をしたいが、それが難しくなったとき、手続き等複雑でなく緊急時簡便に利用できる行政のサービス (女性, 70～74 歳)

イ サービス等の情報提供

- 相談・サービスをどこに連絡すれば良いか分かりやすく案内してほしいです。(女性, 65～69 歳)
- 調布市が提供している各種サービスの一覧表があると便利だと思います。(男性, 70～74 歳)

ウ 相談体制の充実

- 支援が必要となった時、一番最初に相談できる窓口が市役所にあってほしい。その後のニーズにあった相談先を指示してくれる、新規の相談者に寄り添える窓口があると安心です。(女性, 65～69 歳)
- 相談窓口が複数ある現状は一定のメリットがありますが、複数の悩みが絡む複雑なケースに対応するため、窓口を一本化し、相談の一次受付と内容分析を行った後に、専門の窓口へ連携する仕組みを推奨します。(男性, 65～69 歳)
- 気軽に相談できる場所をもっと増やして欲しい。(女性, 70～74 歳)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 歩道が狭く、段差や斜めになっている場所が多いと思う。自転車の利用率が高く、歩道歩行マナーも悪い為、危険を感じる事が多々あり。対策整備が必要と思う。(女性, 70～74 歳)
- 駅周辺の歩道は整備されていますが、住まいの近くは歩道が狭く左右傾斜、車道との段差が大きい。狭い道は路面が荒れているなど、歩くにも車椅子にも困難があります。バスの乗り降りも大変な所もあります。それらが改善されれば外出が楽になります。段差の大きいバス停には、歩道上に柵やポールがあると助かります。(女性, 75～79 歳)
- 高齢者だからという訳でなく、居住地により大きな差がある。歩道(狭い、区分なし)、自転車通行路(狭い車道、歩道)、街灯(疎ら)の整備を推進してほしい。(男性, 65～69 歳)

イ 防災の強化

- 事前の備蓄、避難計画、防災意識の向上、情報収集、家族で避難場所や連絡方法を常日頃話し合う。又、地域の防災訓練に参加、ハザードマップを確認、防災情報を常に確認できる仕組みを準備する。(男性, 70～74 歳)
- 町内会への不加入所帯が多くなっており、ネットワーク(災害時の安心安全の確保・普段の見守り等)としての機能が低下していると思う。緊急時に町内会不加入で町内会費も払っていないことを理由にその所帯を排除・見放すわけにもいかず、いざという時の対応に苦慮するのではと考える。(男性, 80～84 歳)

ウ 防犯の強化

- 高齢者をねらった詐欺にひっかからないように近所の高齢者の方々とのコミュニケーションが最も大切だと思います。健康にも気をつけて話し合う機会をもとうと思っています。(男性, 70~74 歳)
- 高齢者の 1 人住まいの安全・安心の確保はとても難しい。地域の民生委員の方は, 数年前に 1 度来られましたが, その後何の連絡もない。どういう働きをされているのでしょうか。せっかく地域の方なのでもっと身近に接して欲しい。(女性, 85 歳以上)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境

- 商業施設が駅周辺に集中しています。高齢者には自転車での移動も難しくなったり, バスの乗り降りが大変になる方もいます。コンビニでの生活食品のバラエティは限られ徒歩圏内ミニスーパーやドラックストアがあると便利です。朝食や昼食喫茶を設置(有料で)してくれる場も併設されていると友人とのおしゃべりの場になると思います。(女性, 75~79 歳)
- 高齢になると, 部屋を借りづらくなる。(持ち家ではないので。)(女性, 75~79 歳)

イ 市の施策

- 災害に強い町づくりの一環として私道の市道への変更手続き支援をお願いしたい。(上下水道等のインフラの強化, 道路の補強等が進まない。)(男性, 65~69 歳)
- 加齢とともに外出が困難になるが学びの場が欲しい。公民館や図書館で行われているようなものが自宅で出来れば良いと思う。(思いつくのはパソコンのようもので双方向で話が出来るもの。他に色々あるのではと。)(女性, 85 歳以上)
- ずっと元気で澁刺とした人として生きていきたいと皆願っていると思う。病気になってからではなく, 元気な内から体力作りや食事に気を付け, 健康な身体で生きていきたい。その為の参加型健康作りの催し, 企画を進めて欲しい。(女性, 70~74 歳)

ウ 医療, 福祉, 子育て, 防災

- 年を取ると外出する機会がなく運動不足になるので近くに気軽に行ける広場がほしいです(そこに行けば必ず, 誰かいておしゃべり出来るところ。)(女性, 80~84 歳)
- ケアマネージャーのスキルアップ。認知症について詳しく説明。(男性, 80~84 歳)
- 介護士さんの給与及び待遇改善。(男性, 70~74 歳)

エ 交通の利便性

- 通院のためにタクシーを利用しているが, 混んでいてタクシーが来てくれないことがある。介護度合いに関係なく高齢者が優先的に利用できるタクシーがあるとよいと思います。(女性, 85 歳以上)
- 巡回バスの増便希望, 切望!(男性, 65~69 歳)

オ アンケート

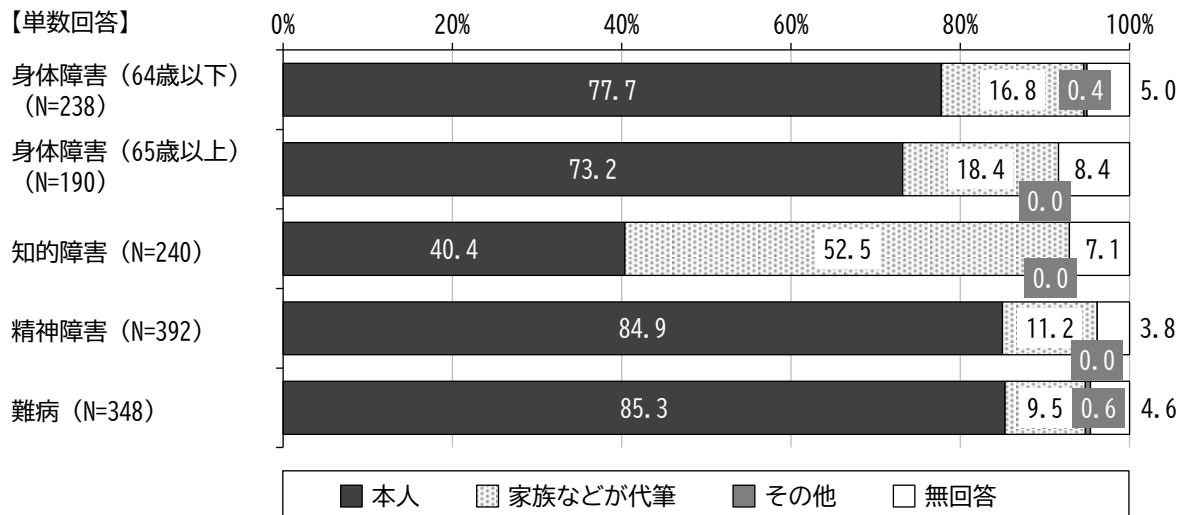
- アンケートの量が多すぎて記入に苦労した。簡単に整理すべき。(男性, 75~79 歳)

第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

問1 この調査に回答していただく人を教えてください。（1つに○）

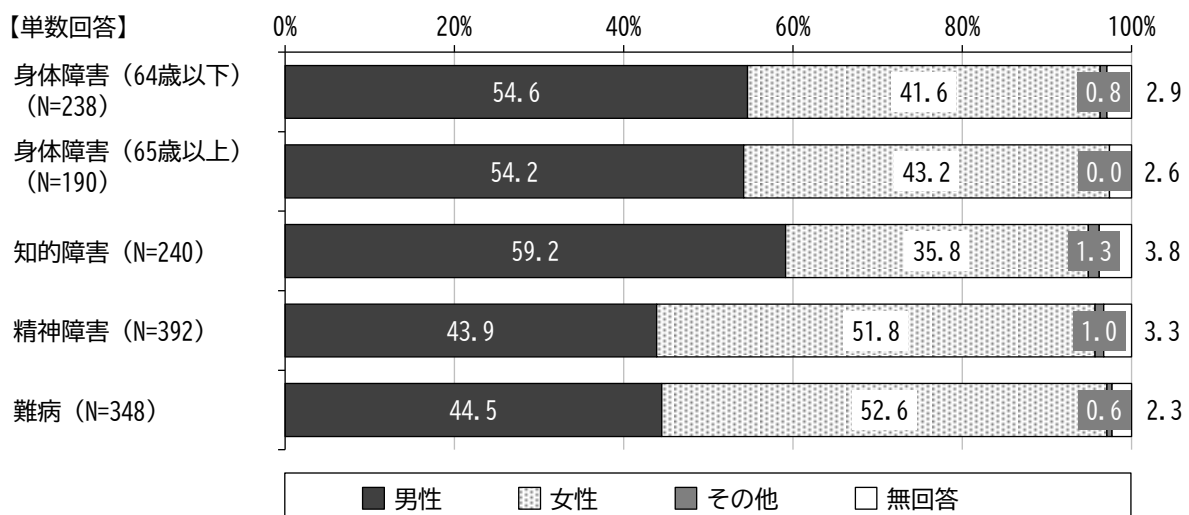
- 回答者は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「本人」が最も多く、それぞれの割合は77.7%、73.2%、84.9%、85.3%となっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.5%）」が最も多くなっている。



1 あなた（ご本人）についておたずねします

問2 性別を教えてください。（1つに○）

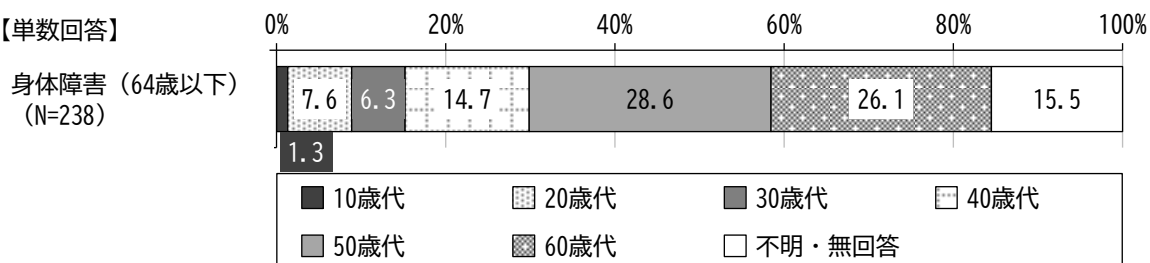
- 性別は、身体障害（64歳以下）は「男性（54.6%）」、「女性（41.6%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（54.2%）」、「女性（43.2%）」である。
- 知的障害は「男性（59.2%）」、「女性（35.8%）」である。
- 精神障害は「男性（43.9%）」、「女性（51.8%）」である。
- 難病は「男性（44.5%）」、「女性（52.6%）」である。



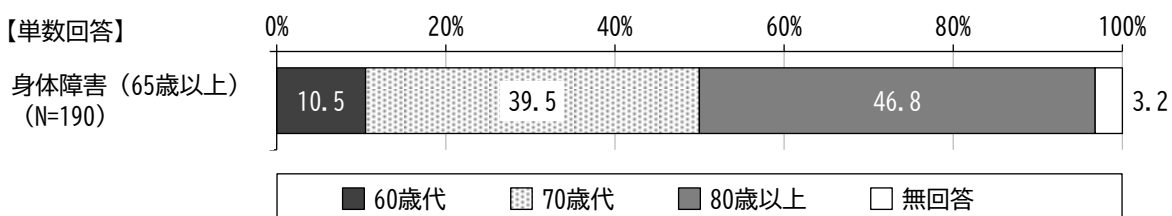
問3 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

- 年齢は、身体障害(64歳以下)は「50歳代(28.6%)」が最も多くなっている。
- 身体障害(65歳以上)は「80歳以上(46.8%)」が最も多くなっている。
- 知的障害は「20歳代(37.5%)」, 精神障害は「50歳代(26.0%)」, 難病は「70歳代(24.4%)」が最も多くなっている。

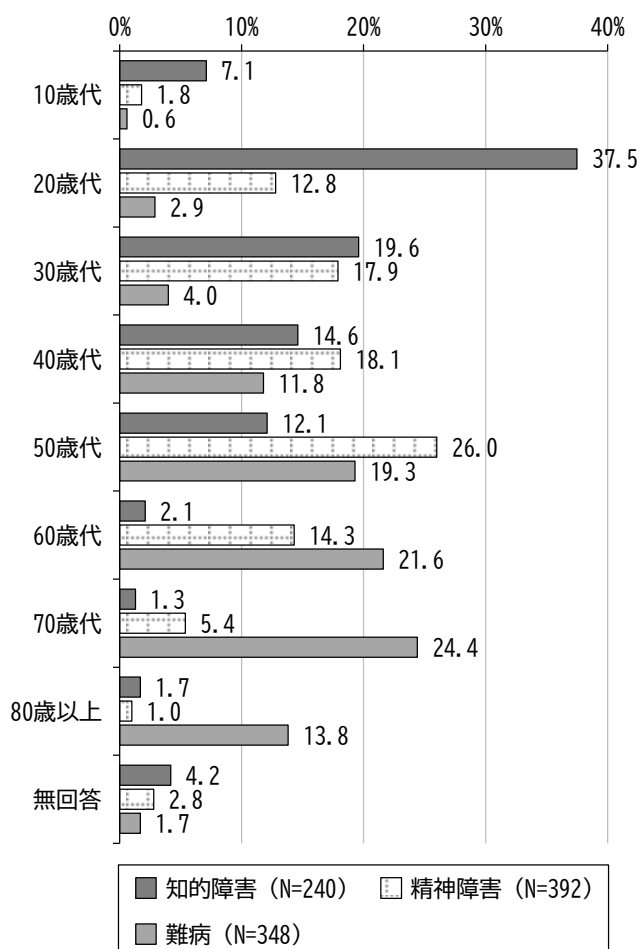
【単数回答】



【単数回答】

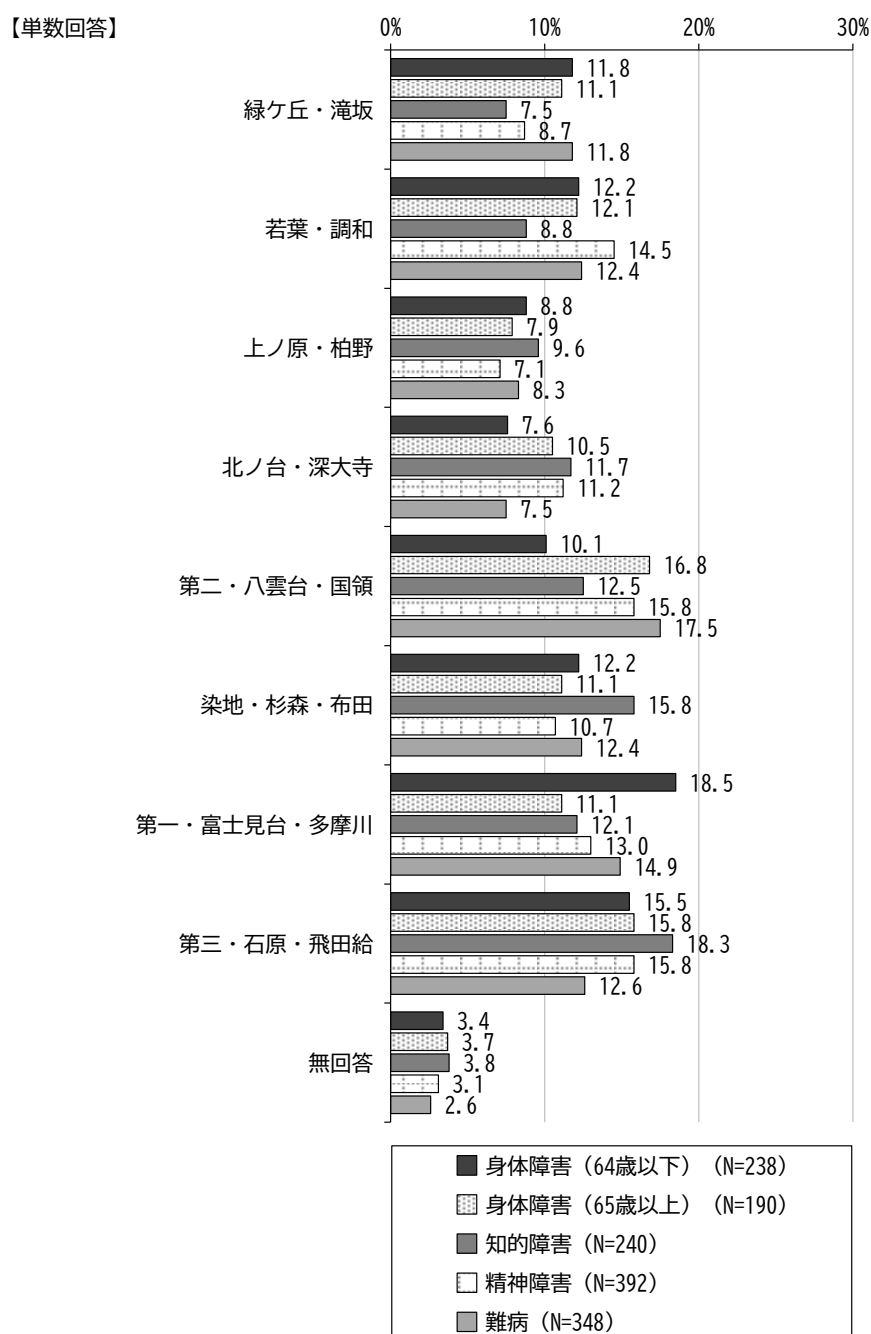


【単数回答】



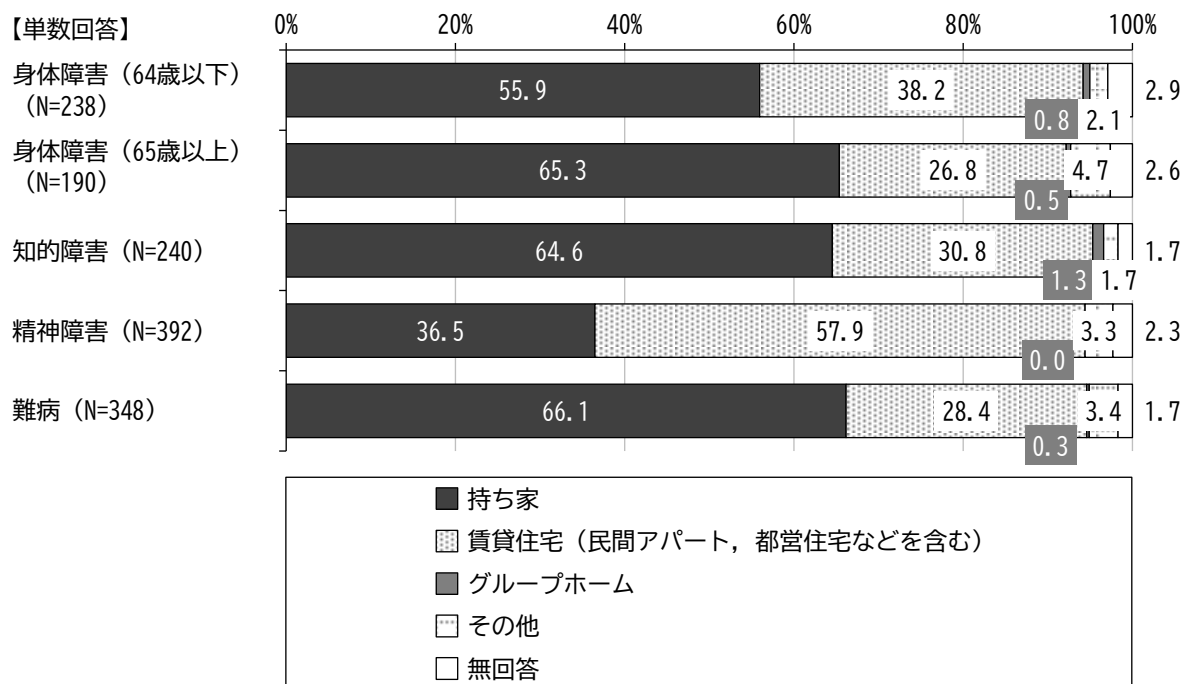
問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域（福祉圏域）は、身体障害（64歳以下）は「第一・富士見台・多摩川（18.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、難病は「第二・八雲台・国領」が最も多く、それぞれの割合は16.8%、17.5%となっている。
- 知的障害は「第三・石原・飛田給（18.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は「第二・八雲台・国領」「第三・石原・飛田給」（15.8%）が同率となっている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

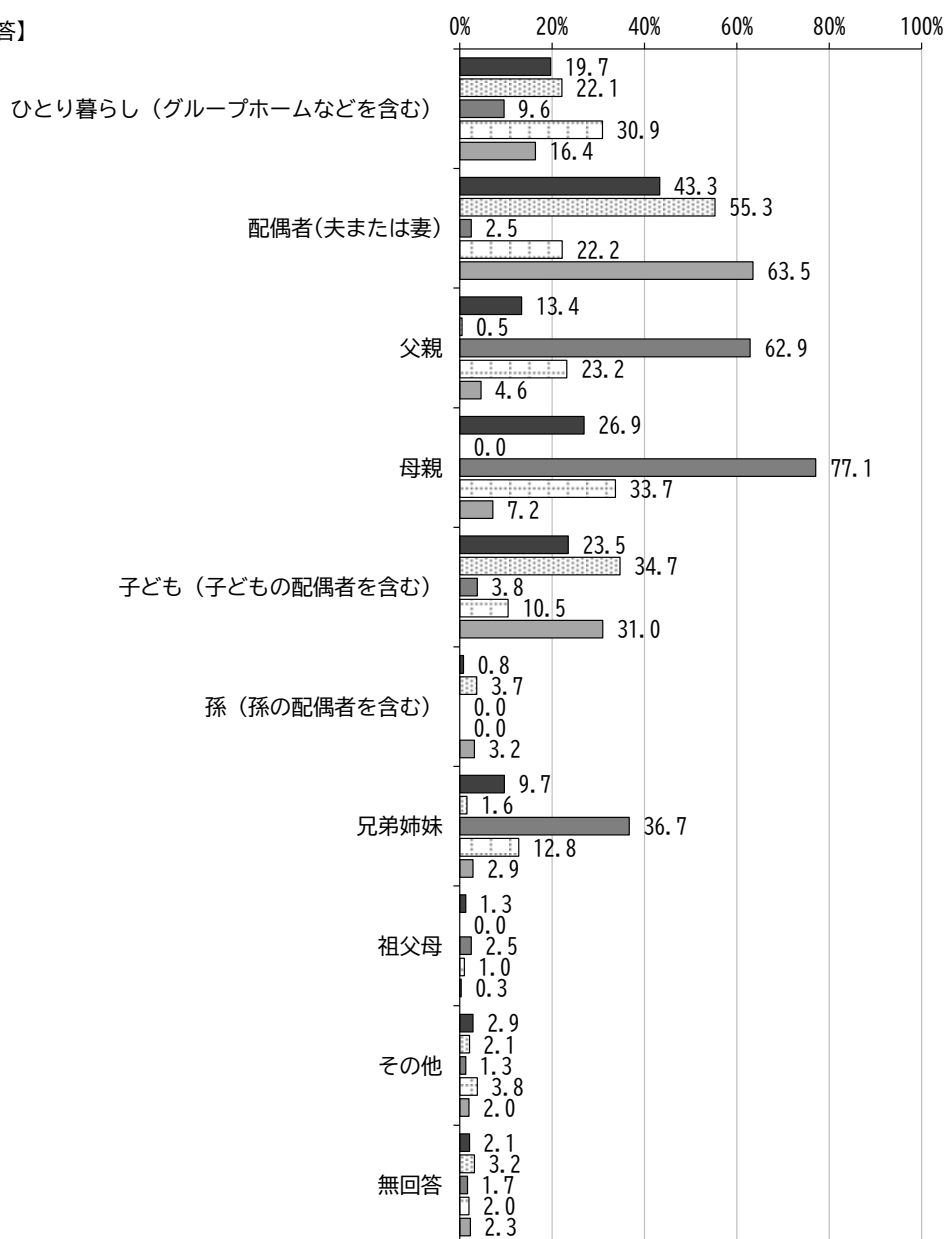
- 住居形態は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「持ち家」が最も多く、それぞれの割合は55.9%、65.3%、64.6%、66.1%となっている。
- 精神障害は「賃貸住宅（民間アパート、都営住宅などを含む）（57.9%）」が最も多くなっている。



問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 同居家族は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「配偶者（夫または妻）」が最も多く、それぞれの割合は43.3%，55.3%，63.5%となっている。
- 知的障害、精神障害は「母親」が最も多く、それぞれの割合は77.1%，33.7%となっている。
- また、知的障害では「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

【複数回答】



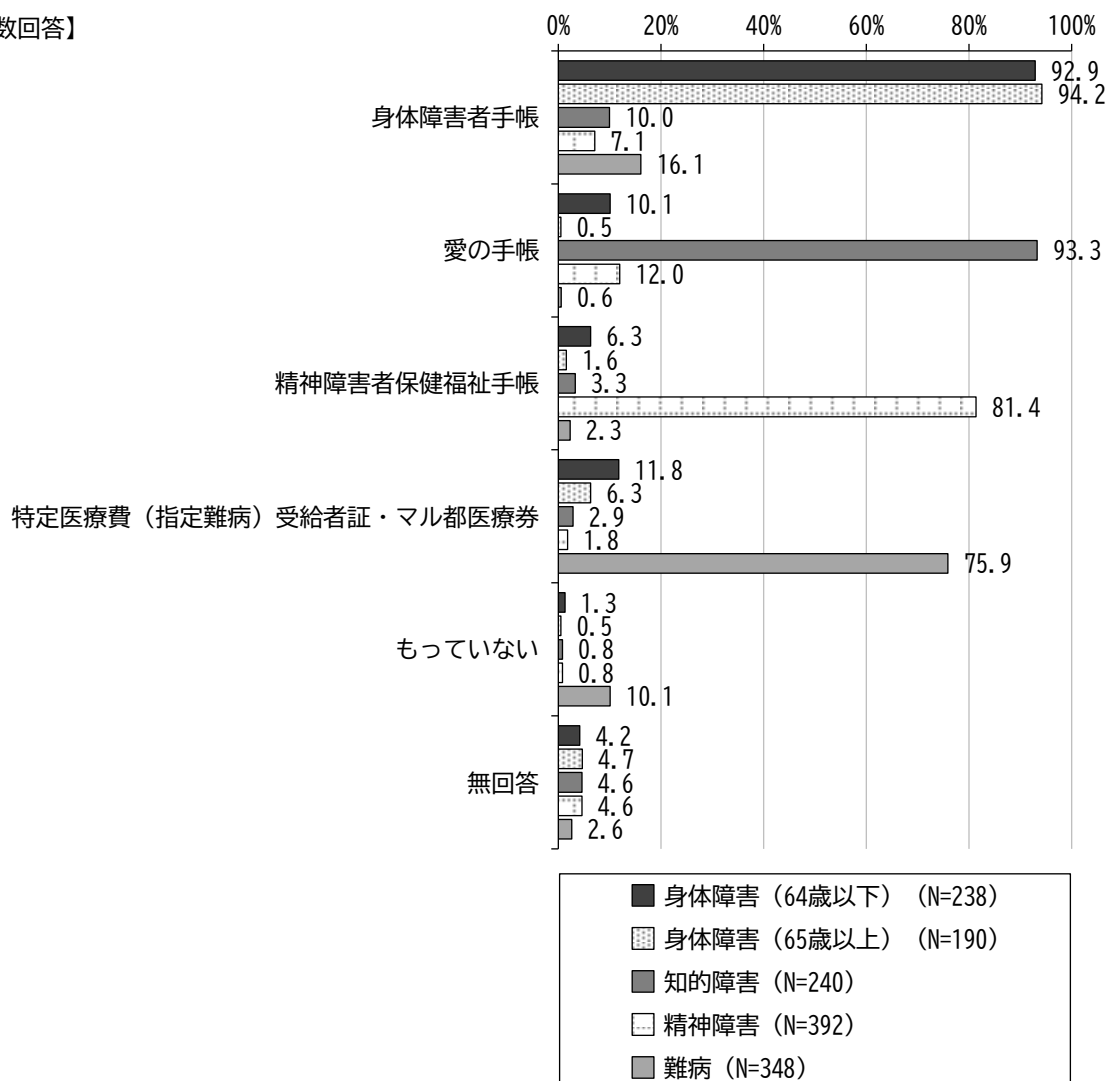
■ 身体障害（64歳以下）（N=238）
 ▨ 身体障害（65歳以上）（N=190）
 ■ 知的障害（N=240）
 ▨ 精神障害（N=392）
 ■ 難病（N=348）

問7 おもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①もっている手帳の種類

- もっている手帳の種類は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）は「身体障害者手帳」が最も多く、それぞれの割合は92.9%，94.2%となっている。
- 知的障害は「愛の手帳（93.3%）」、精神障害は「精神障害者保健福祉手帳（81.4%）」、難病は「特定医療費（指定難病）受給者証・マル都医療券（75.9%）」が最も多くなっている。

【複数回答】

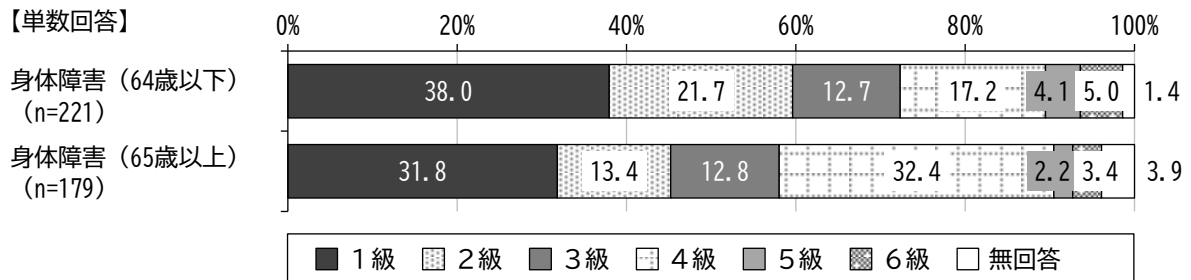


②もっている手帳の等級

- もっている手帳の等級は、身体障害（64 歳以下）は身体障害者手帳の「1 級（38.0%）」、身体障害（65 歳以上）は身体障害者手帳の「4 級（32.4%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は、愛の手帳の「4 度（51.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は、精神障害者保健福祉手帳の「2 級（50.8%）」が最も多くなっている。

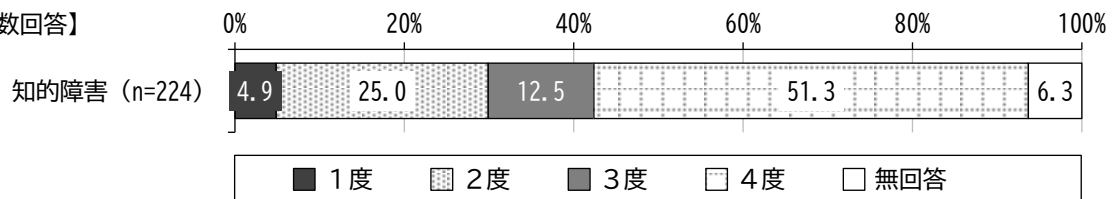
・身体障害者手帳

【単数回答】



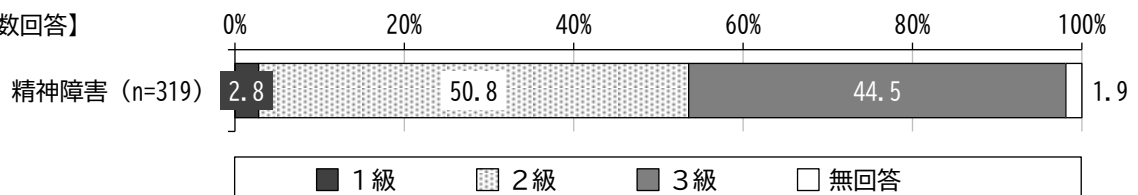
・愛の手帳

【単数回答】



・精神障害者保健福祉手帳

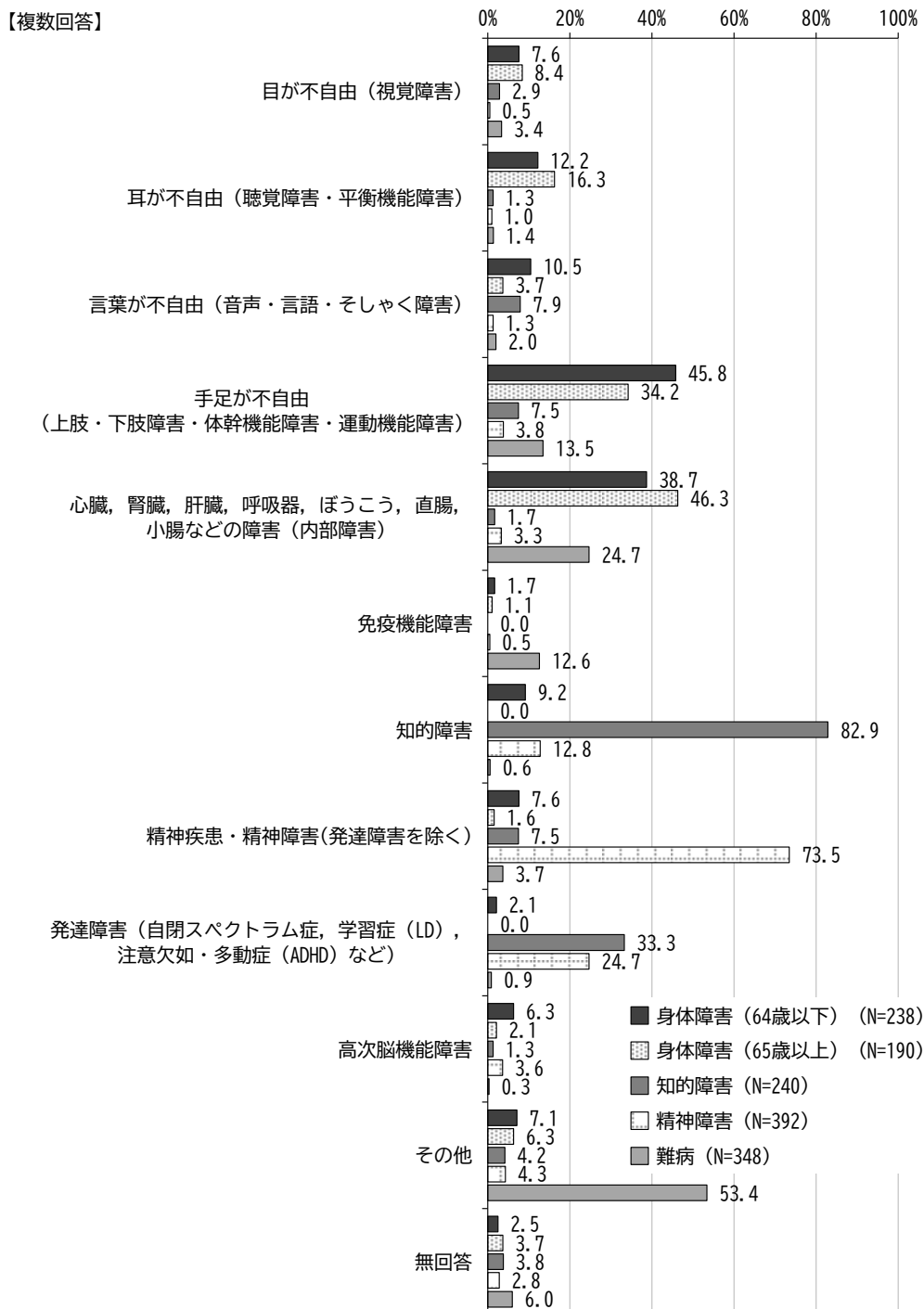
【単数回答】



問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)

※特定医療費（指定難病）受給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

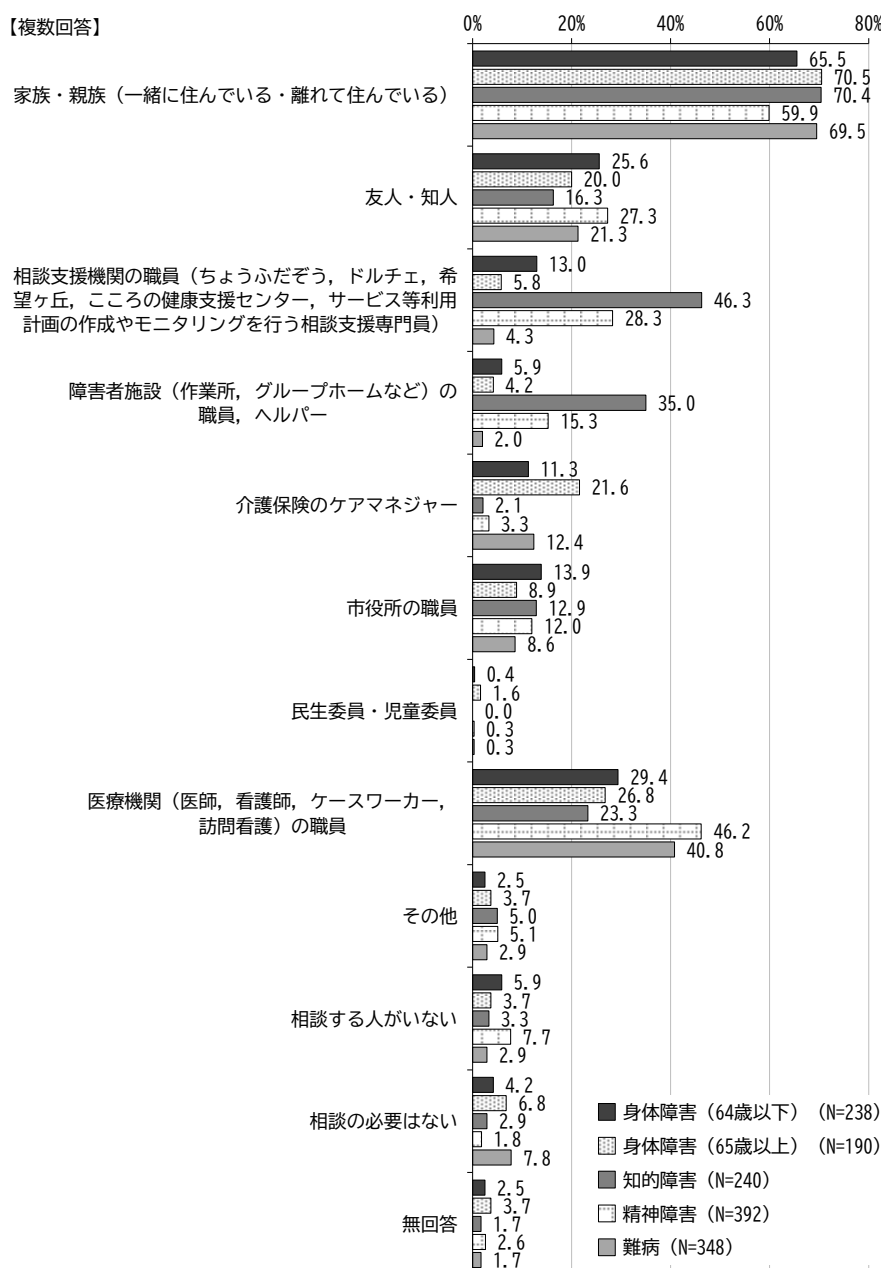
- 病気や障害の種類は、身体障害（64歳以下）は「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）（45.8%）」，身体障害（65歳以上）は「心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）（46.3%）」，知的障害は「知的障害（82.9%）」，精神障害は「精神疾患・精神障害（発達障害を除く）（73.5%）」，難病は「その他（53.4%）」が最も多くなっている。



2 相談支援についておたずねします

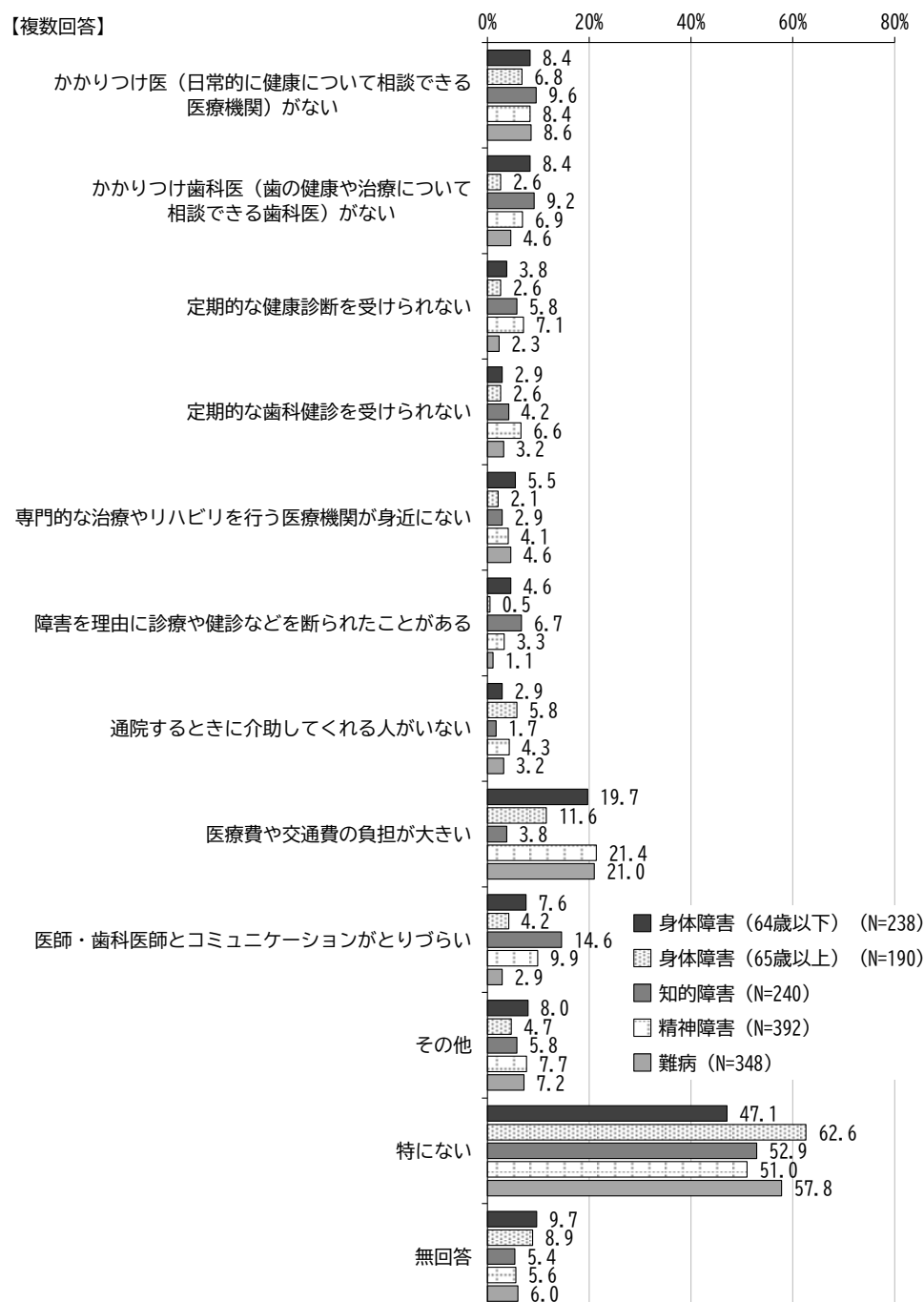
問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)

- 悩みや困りごとがある場合の相談相手は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多く、それぞれの割合は 65.5%，70.5%，70.4%，59.9%，69.5%となっている。
- また、知的障害は「相談支援機関の職員（ちょうふだぞう，ドルチェ，希望ヶ丘，こころの健康支援センター，サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員）（46.3%）」も多くなっている。精神障害，難病は「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員」も多く、それぞれの割合は 46.2%，40.8%となっている。



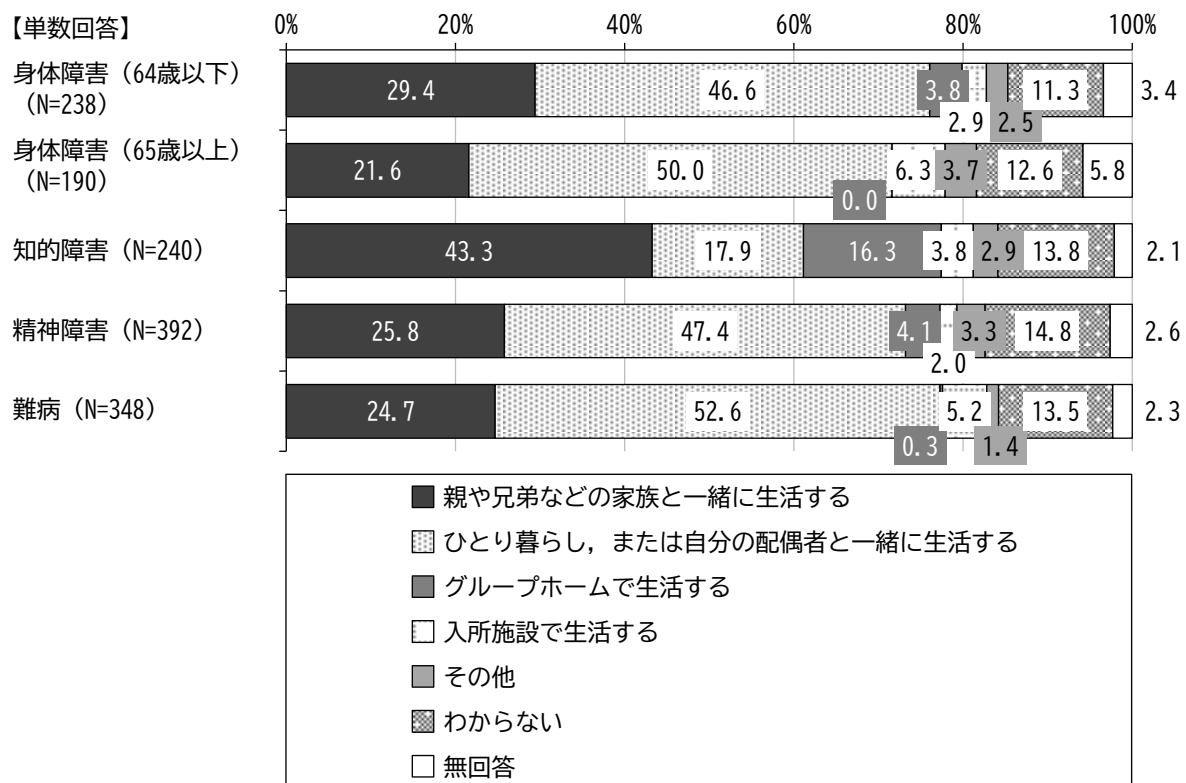
問 10 あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。
（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「特にない」が最も多く、それぞれの割合は 47.1%，62.6%，52.9%，51.0%，57.8%となっている。
- また、「特にない」を除くと、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害、難病は「医療費や交通費の負担が大きい」が多く、それぞれの割合は 19.7%，11.6%，21.4%，21.0%となっている。知的障害は「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい（14.6%）」が多くなっている。



問 11 今後、どのように生活したいですか。(1つに○)

- 希望する暮らし方は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多く、それぞれの割合は46.6%，50.0%，47.4%，52.6%となっている。
- 知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「グループホームで生活する」が1割を超えている。

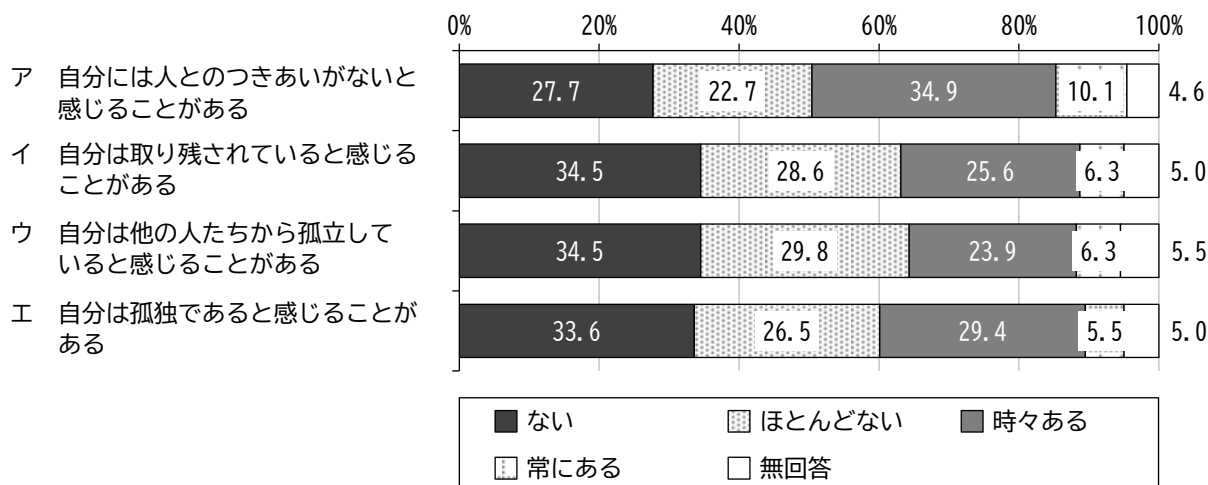


3 日頃のコミュニケーションについておたずねします

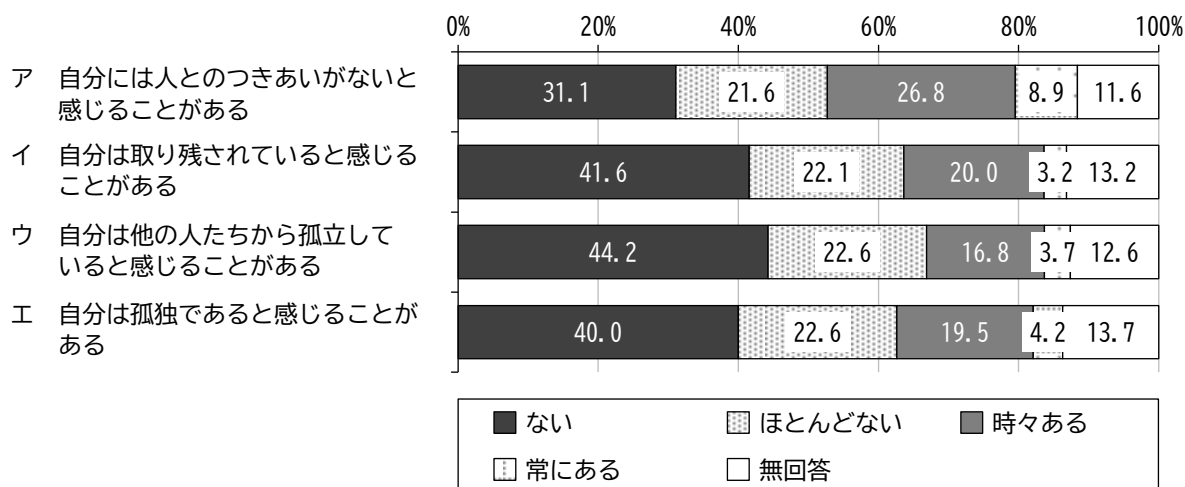
問 12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」が最も多く、それぞれの割合は45.0%, 35.7%, 43.7%, 34.8%となっている。
- 精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある（60.8%）」が最も多く、「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」, 「ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」, 「エ 自分は孤独であると感じることがある」も5割を超えている。

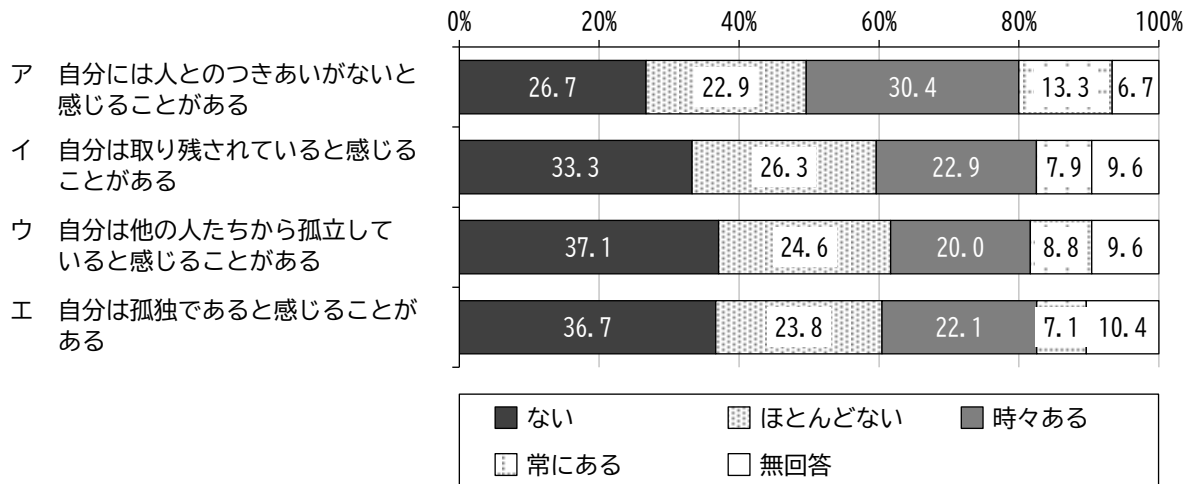
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



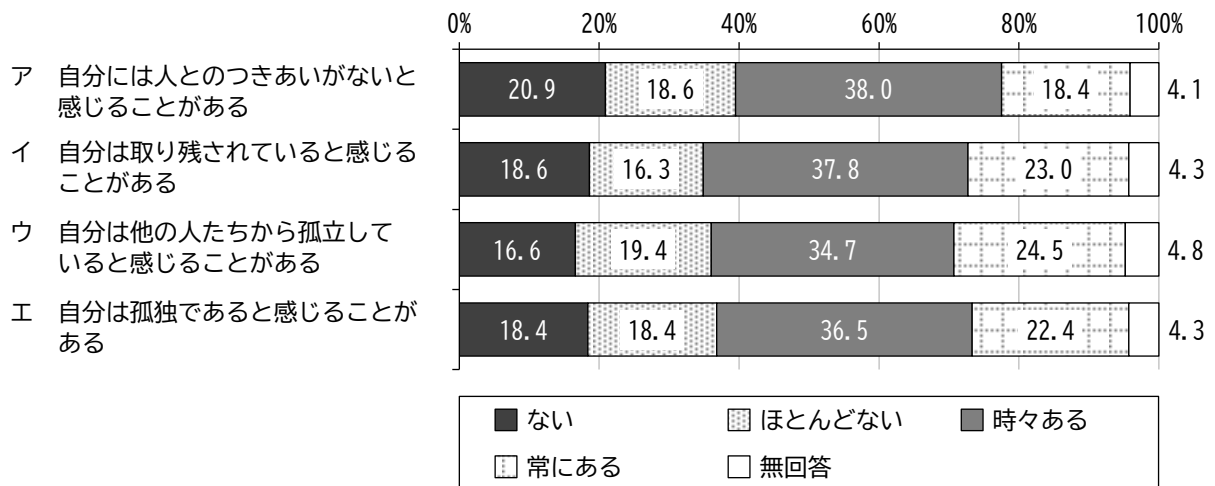
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



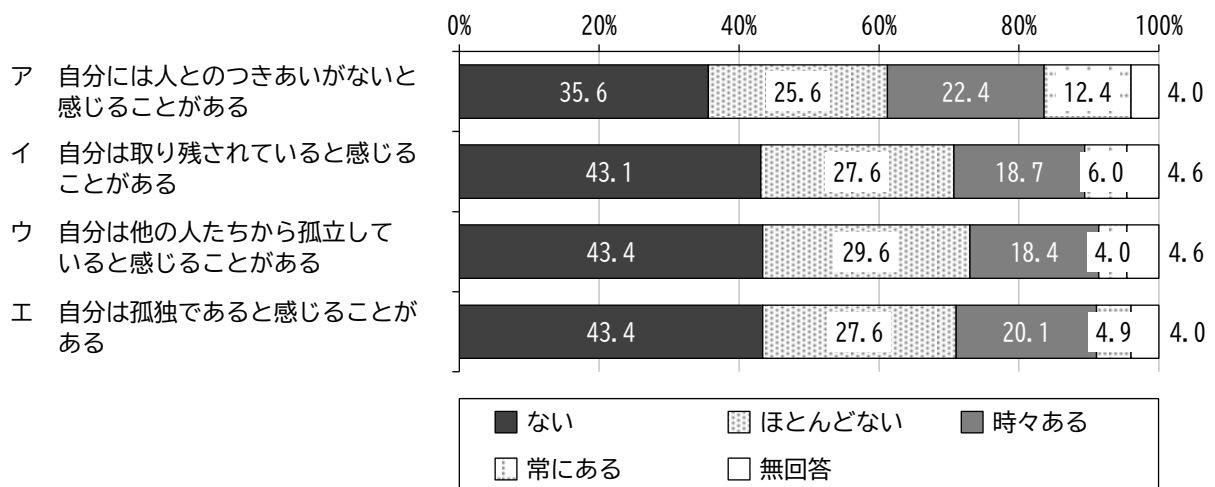
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

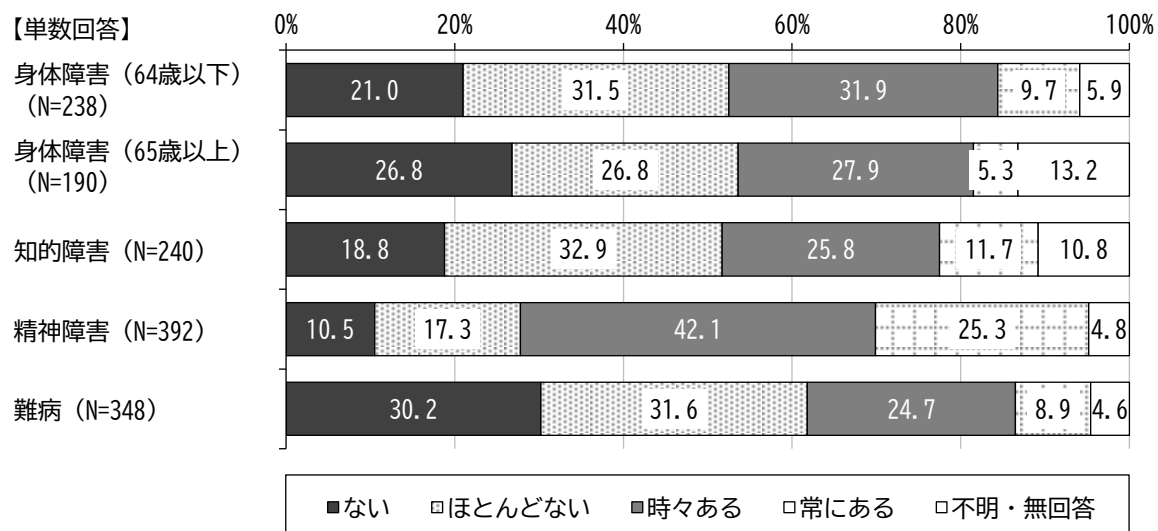


【単数回答】難病（N=348）



－ 孤独感尺度 －

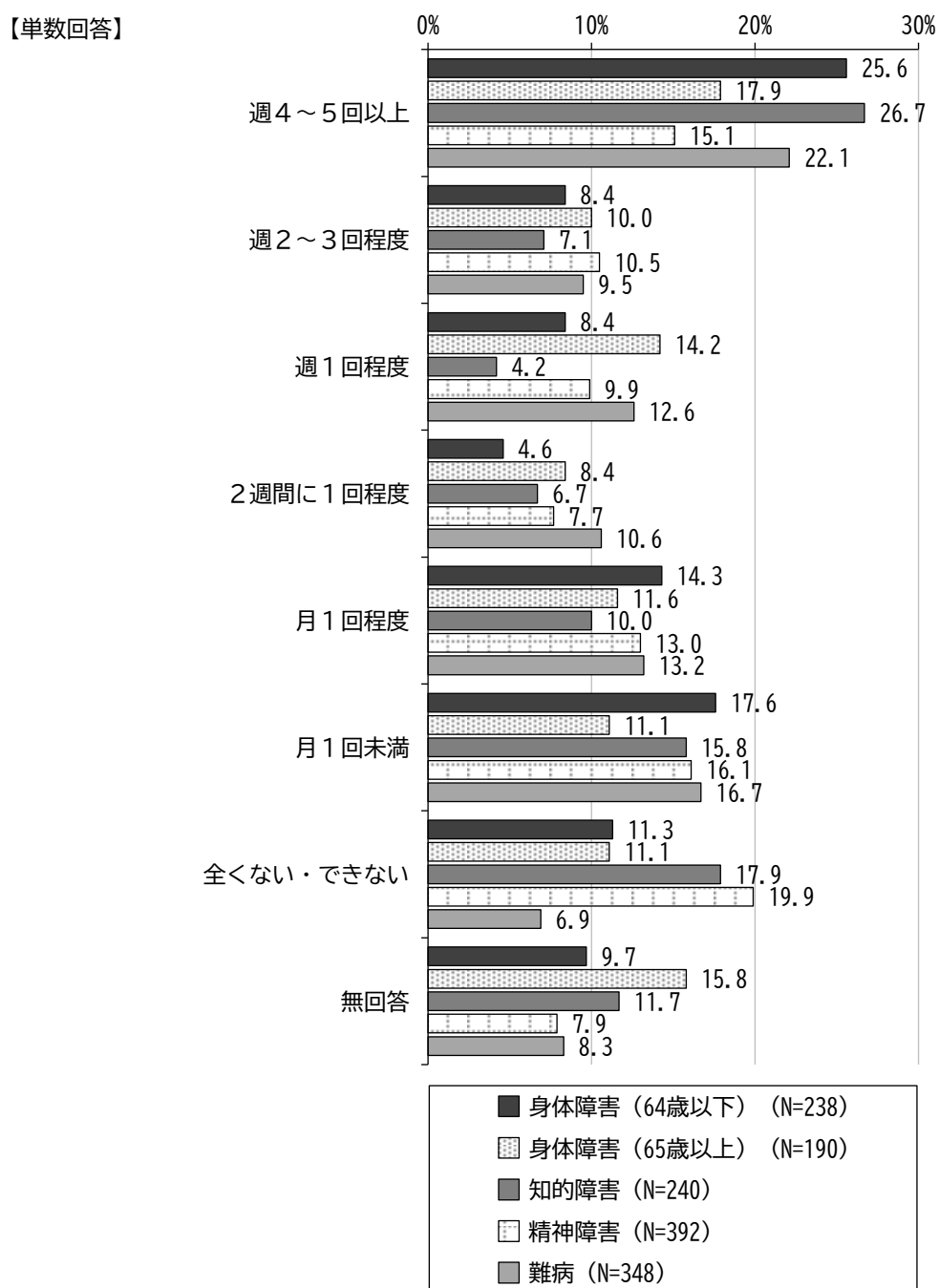
- 「UCLA 孤独感尺度（日本語版の 3 項目短縮版）」（本編 26 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果を障害種別にみると，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），精神障害で [時々ある]，知的障害，難病で [ほとんどない] が最も多くなっている。



問 13 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

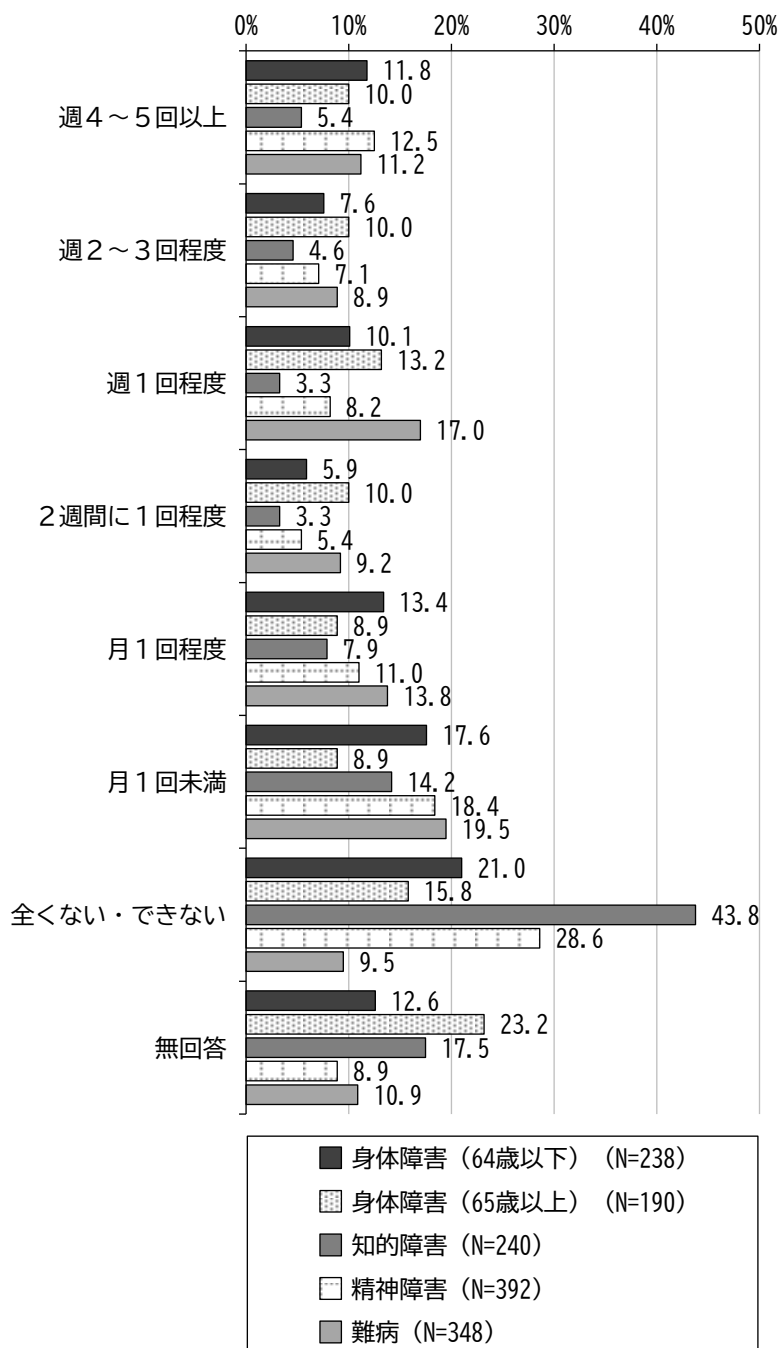
- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、難病は「週 4～5 回以上」が最も多く、それぞれの割合は 25.6%、17.9%、26.7%、22.1%となっている。
- 精神障害は「全くない・できない（19.9%）」が最も多くなっている。



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は 21.0%、15.8%、43.8%、28.6%となっている。
- 難病は「月1回未満（19.5%）」が最も多くなっている。

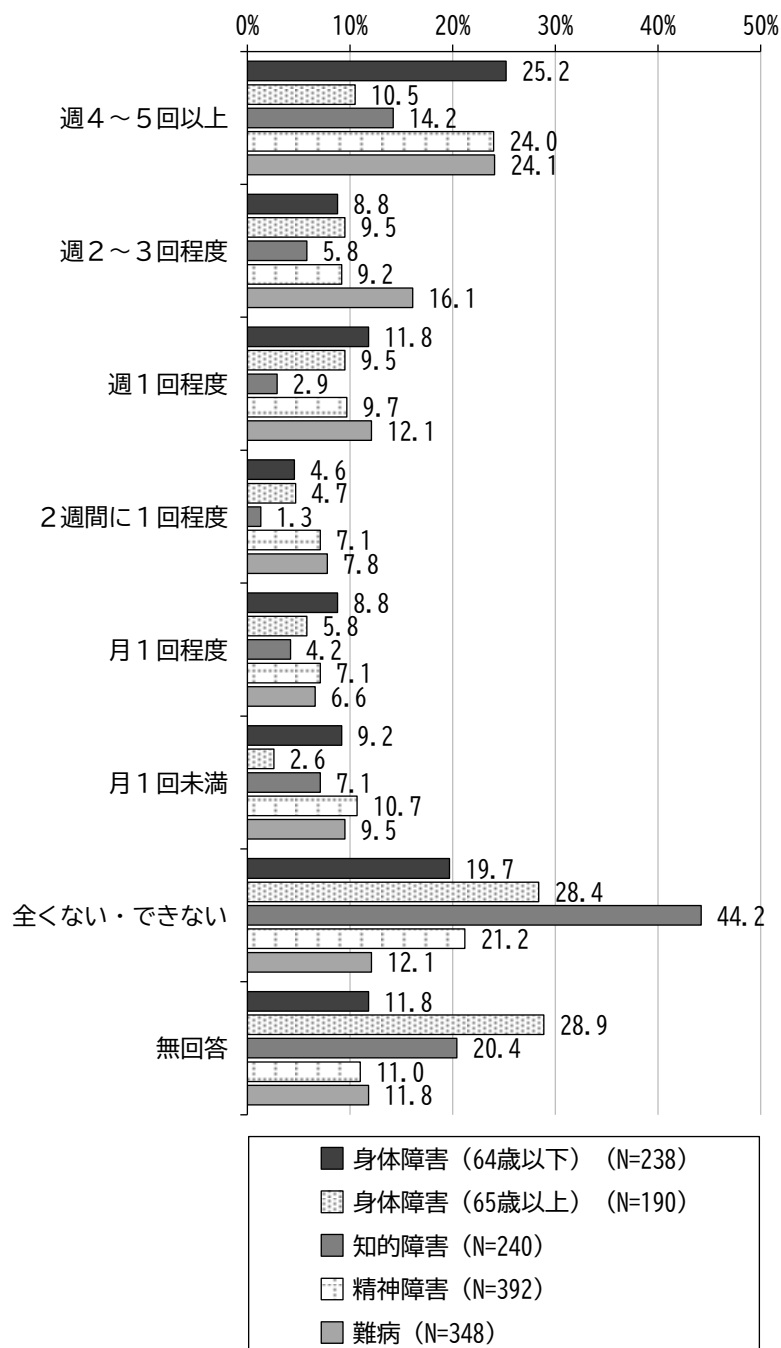
【単数回答】



ウ SNS や電子メールなど

- SNS や電子メールなどの頻度は、身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病は「週 4 ～ 5 回以上」が最も多く、それぞれの割合は 25.2%，24.0%，24.1%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は 28.4%，44.2%となっている。

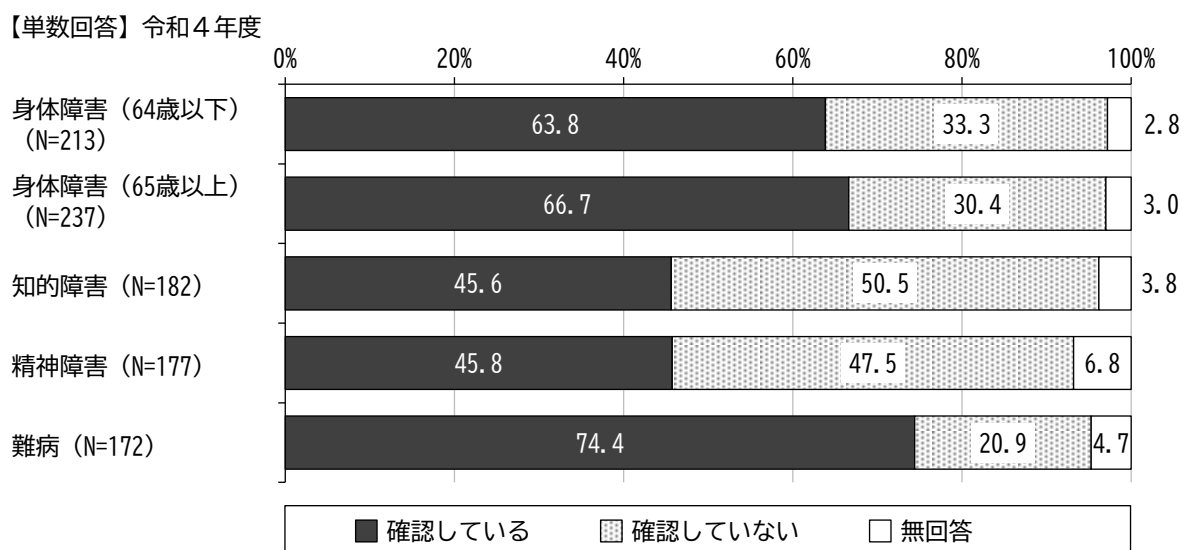
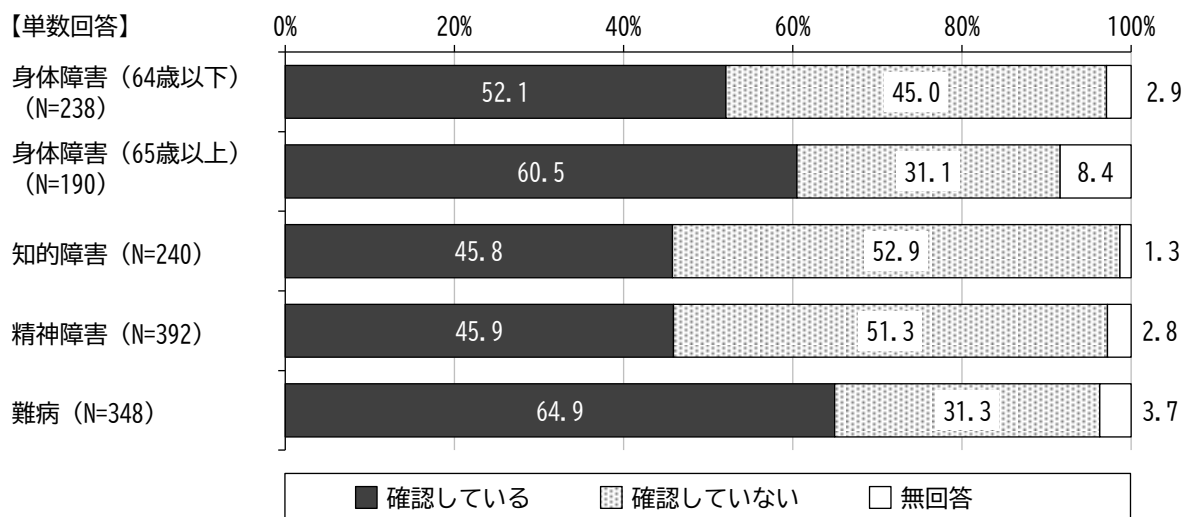
【単数回答】



4 災害時の対策についておたずねします

問 14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

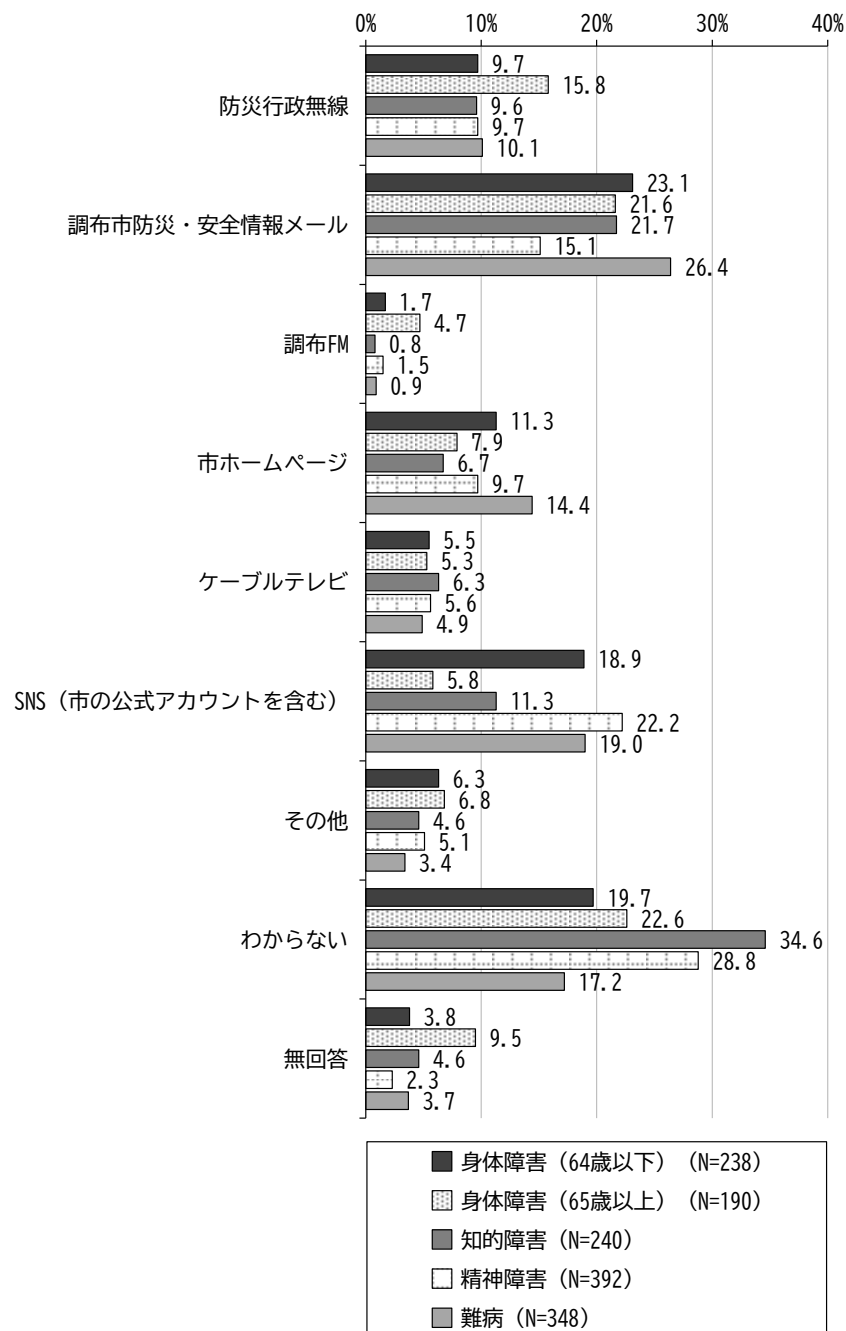
- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「確認している」が多く、それぞれの割合は52.1%，60.5%，64.9%となっている。
- 知的障害、精神障害は「確認していない」が多く、それぞれの割合は52.9%，51.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認している」が身体障害（64歳以下）で11.7ポイント、身体障害（65歳以上）で6.2ポイント、難病で9.5ポイント低くなっている。



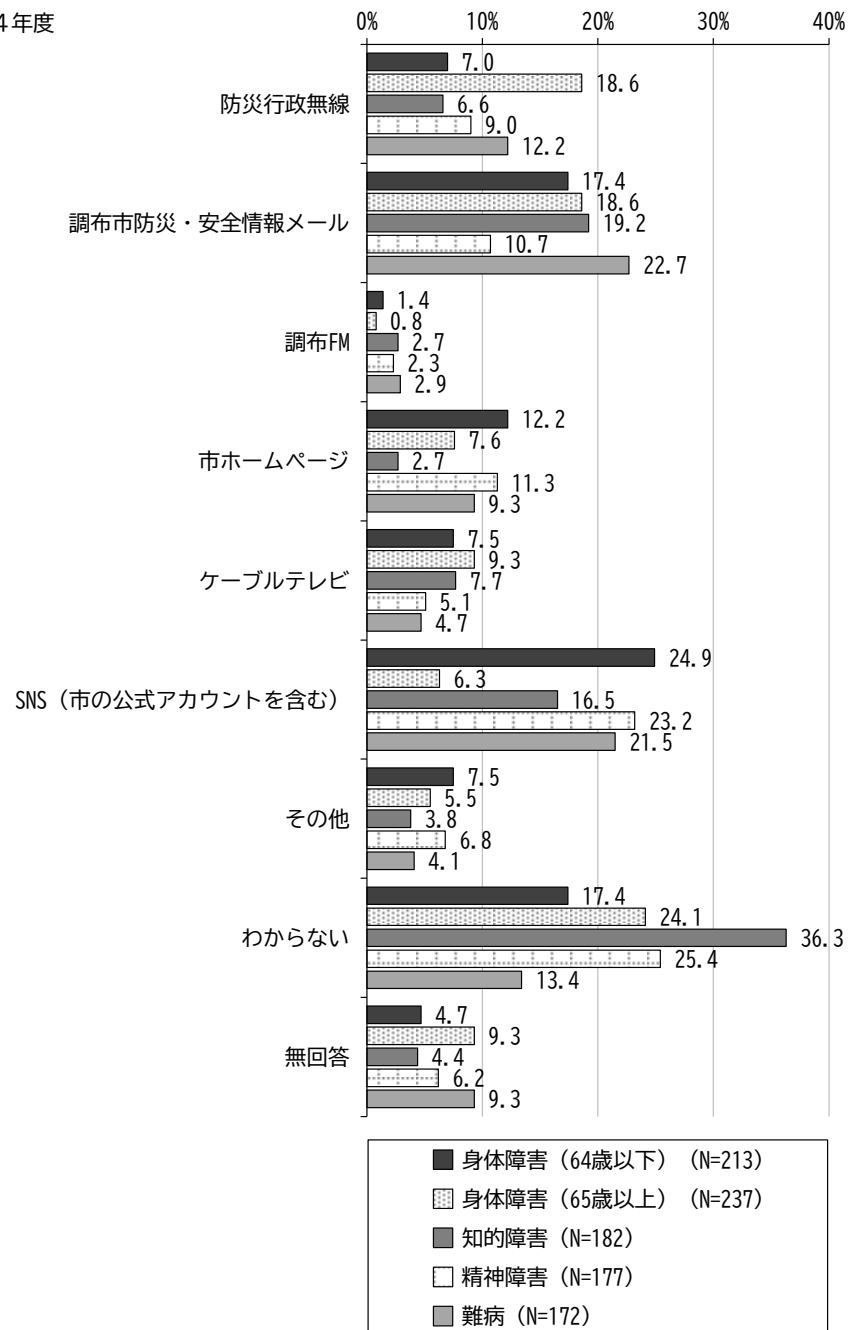
問 15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)

- 緊急時の避難情報の入手先は、身体障害（64 歳以下）、難病は「調布市防災・安全情報メール」が最も多く、それぞれの割合は 23.1%，26.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が最も多く、それぞれの割合は 22.6%，34.6%，28.8%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「調布市防災・安全情報メール」が 5.7 ポイント高く、「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 6.0 ポイント低くなっている。知的障害で「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 5.2 ポイント低くなっている。難病で「市ホームページ」が 5.1 ポイント高くなっている。

【単数回答】



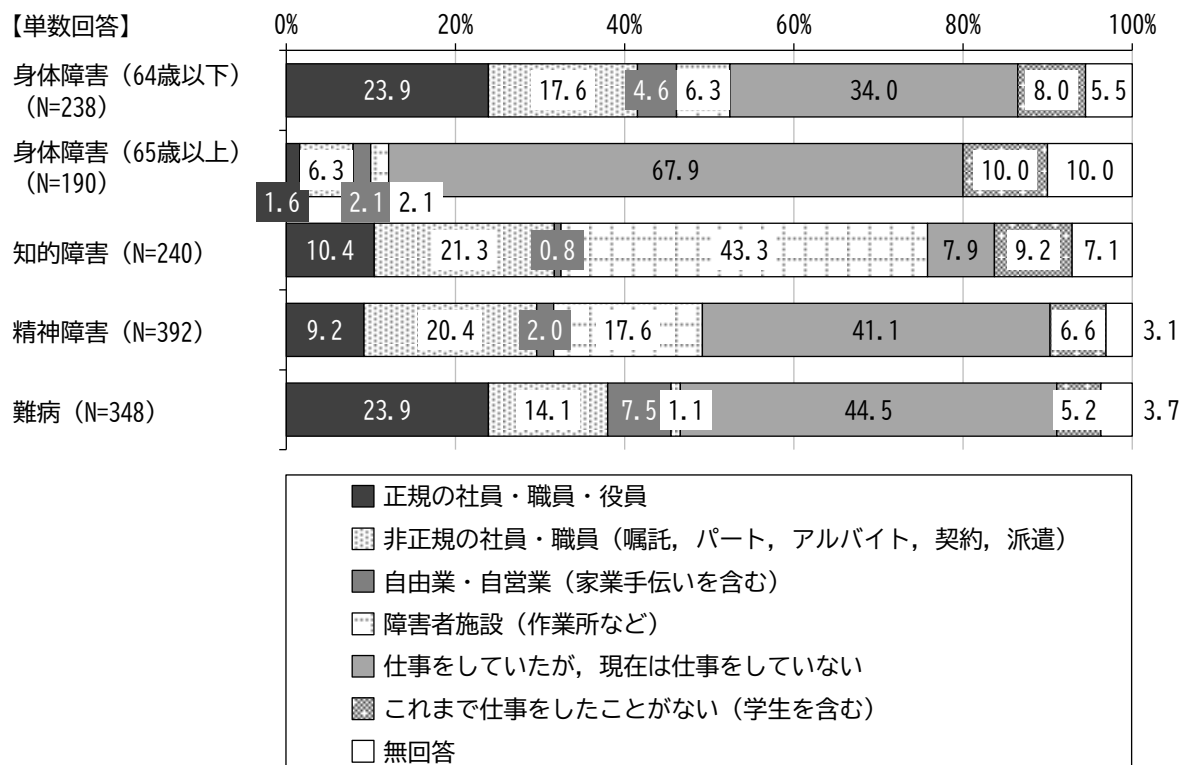
【単数回答】 令和4年度



5 暮らしについておたずねします

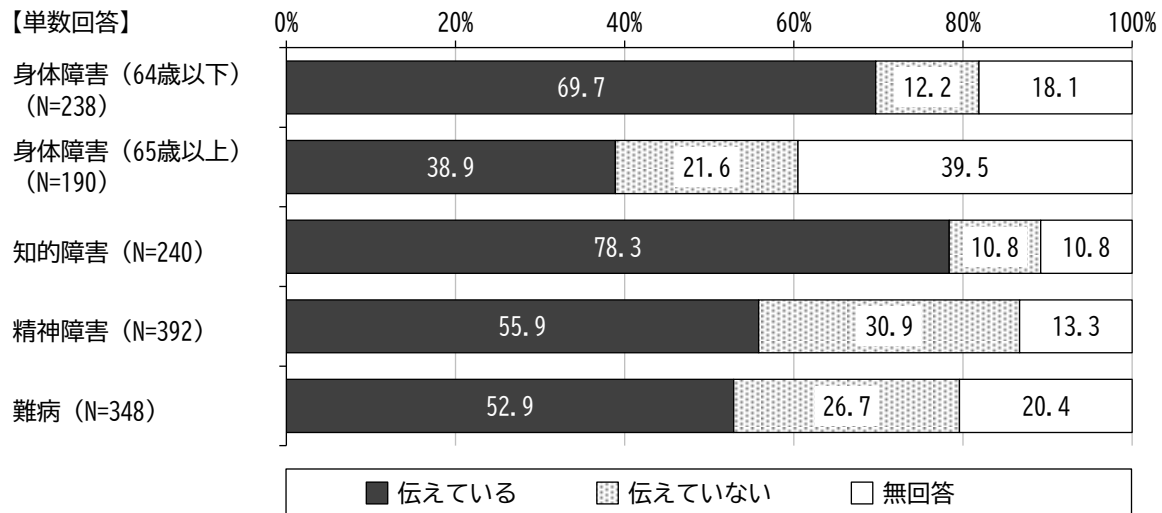
問 16 現在、給料や工賃を伴う仕事をしていますか。(1つに○)

- 現在の就労状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が最も多く、それぞれの割合は34.0%、67.9%、41.1%、44.5%となっている。
- 知的障害は「障害者施設（作業所など）（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」を除いた就労状況をみると、身体障害（64歳以下）、難病は「正規の社員・職員・役員」が多く、それぞれの割合はともに23.9%となっている。身体障害（65歳以上）は「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）（10.0%）」、精神障害は「非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）（20.4%）」が多くなっている。



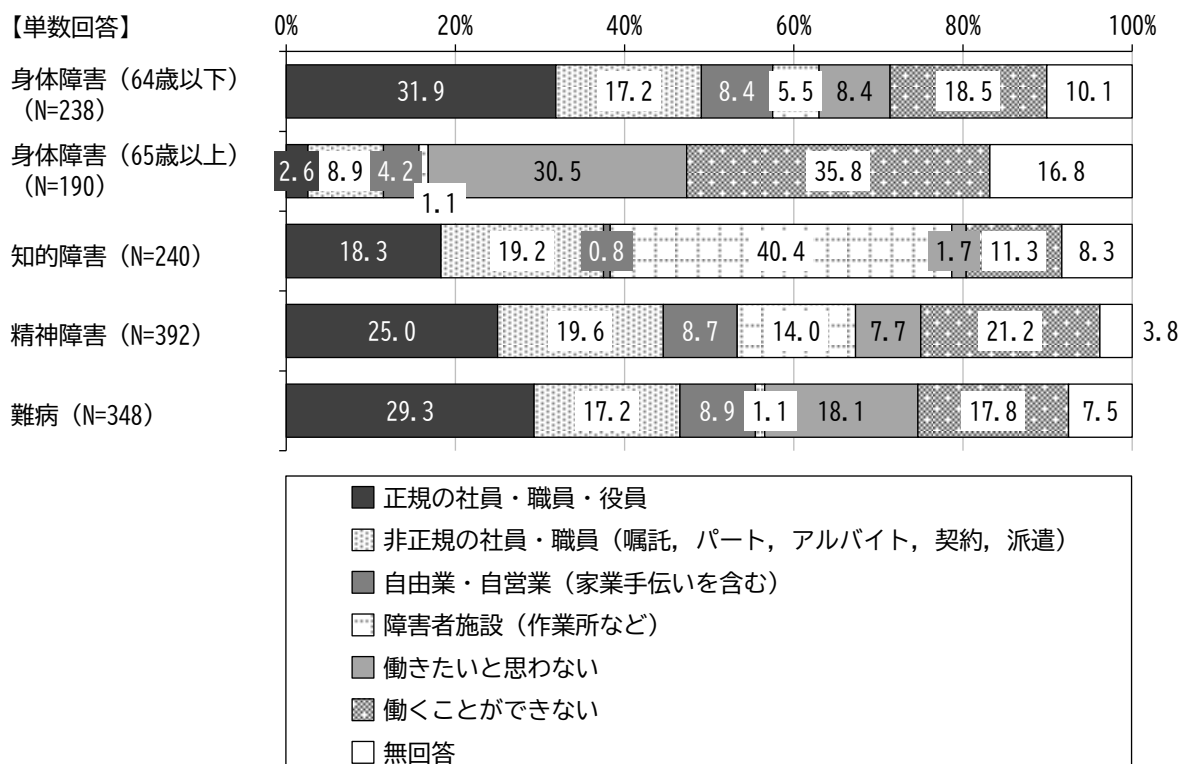
問 17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていますか。(1つに○)

- 職場や学校の人に障害や病気のことを伝えているかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「伝えている」が多く、それぞれの割合は69.7%、38.9%、78.3%、55.9%、52.9%となっている。



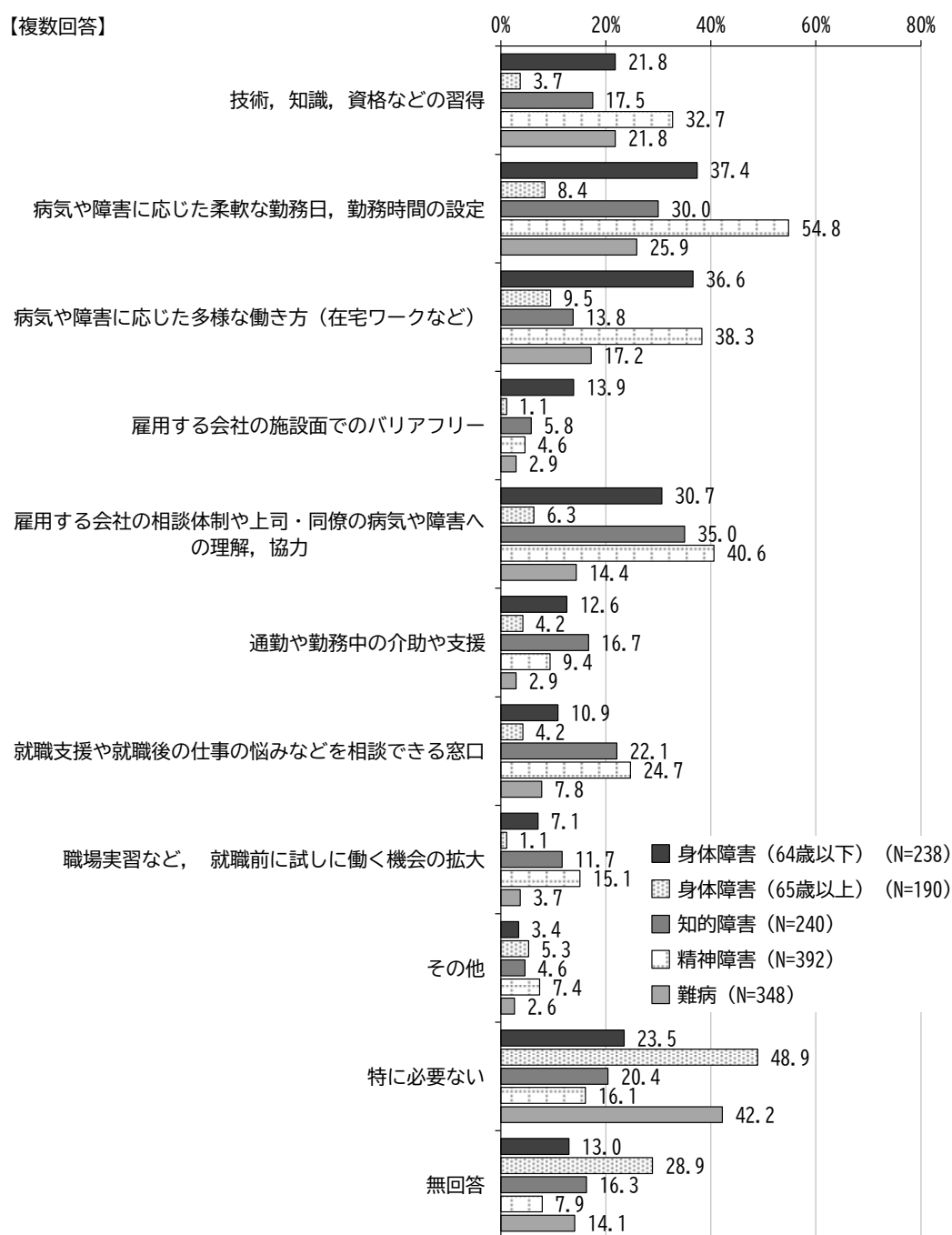
問 18 あなたは、どのような形で働きたい（続けたい）ですか。(1つに○)

- 就労の希望は、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「正規の社員・職員・役員」が最も多く、それぞれの割合は31.9%、25.0%、29.3%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「働くことができない（35.8%）」、知的障害は「障害者施設（作業所など）（40.4%）」が最も多くなっている。



問 19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)

- 仕事をするために必要なことは、身体障害（64 歳以下）、精神障害は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定」が最も多く、それぞれの割合は 37.4%、54.8%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、難病は「特に必要ない」が最も多く、それぞれの割合は 48.9%、42.2%となっている。
- 知的障害は「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解、協力（35.0%）」が最も多くなっている。

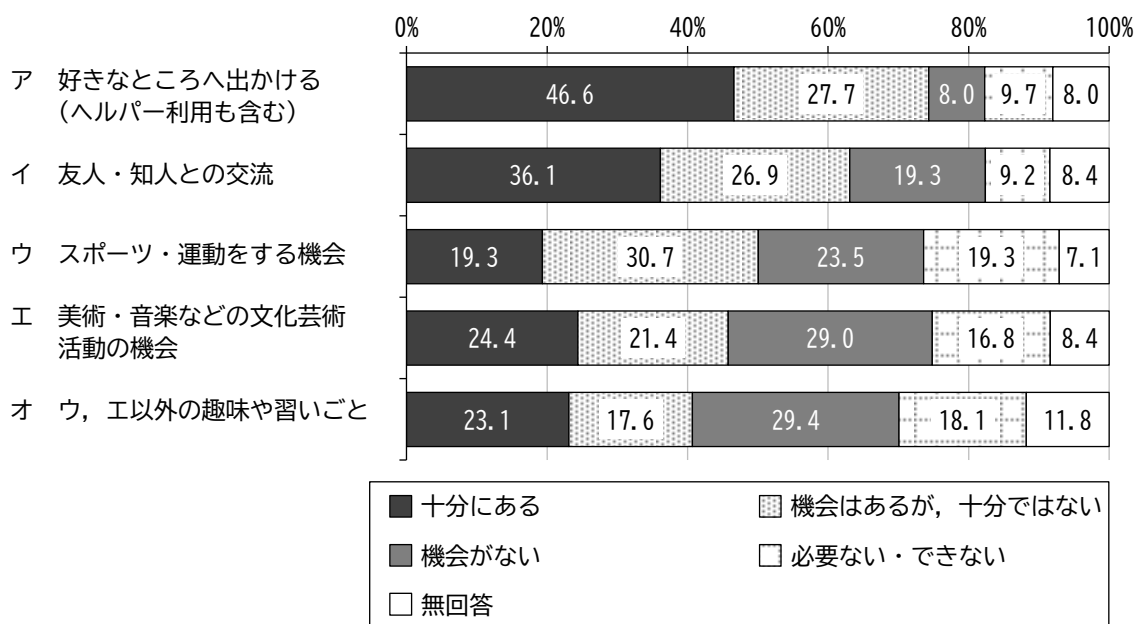


問 20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

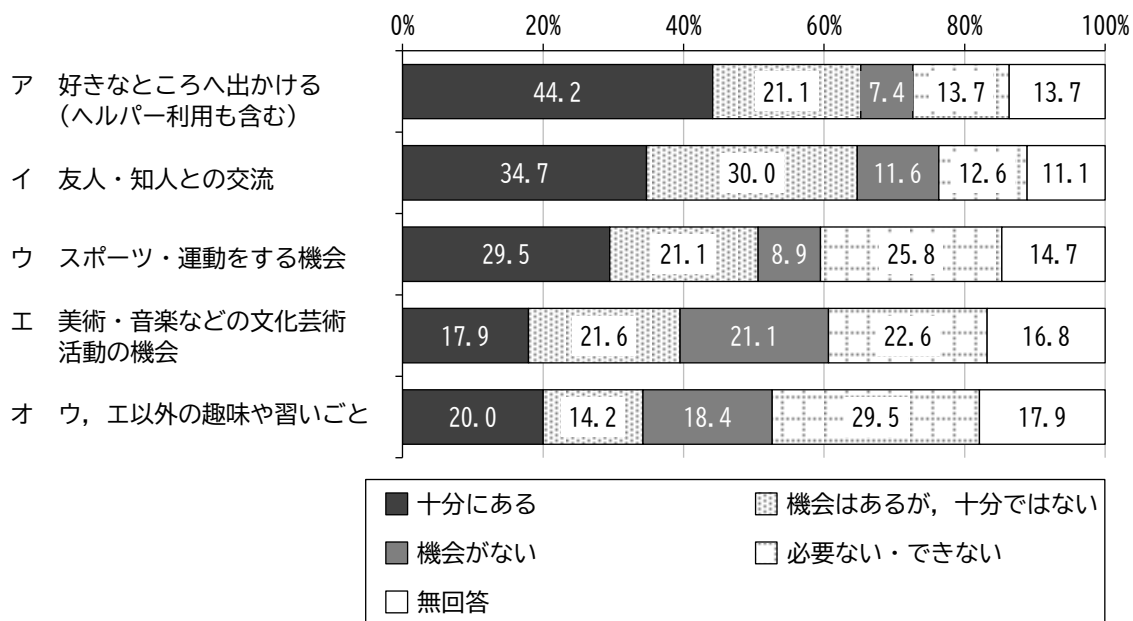
- 生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多く、それぞれの割合は 46.6%，44.2%，44.6%，45.7%，54.0%となっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「イ 友人・知人との交流」「ウ スポーツ・運動※をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動※の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」、難病は「ウ スポーツ・運動をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

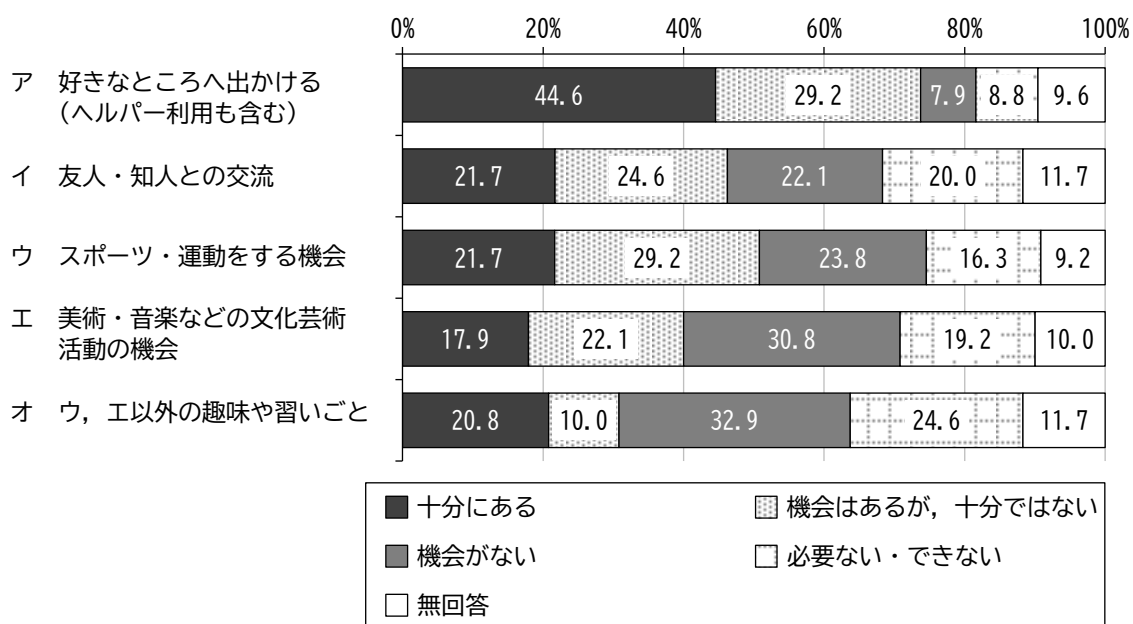
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



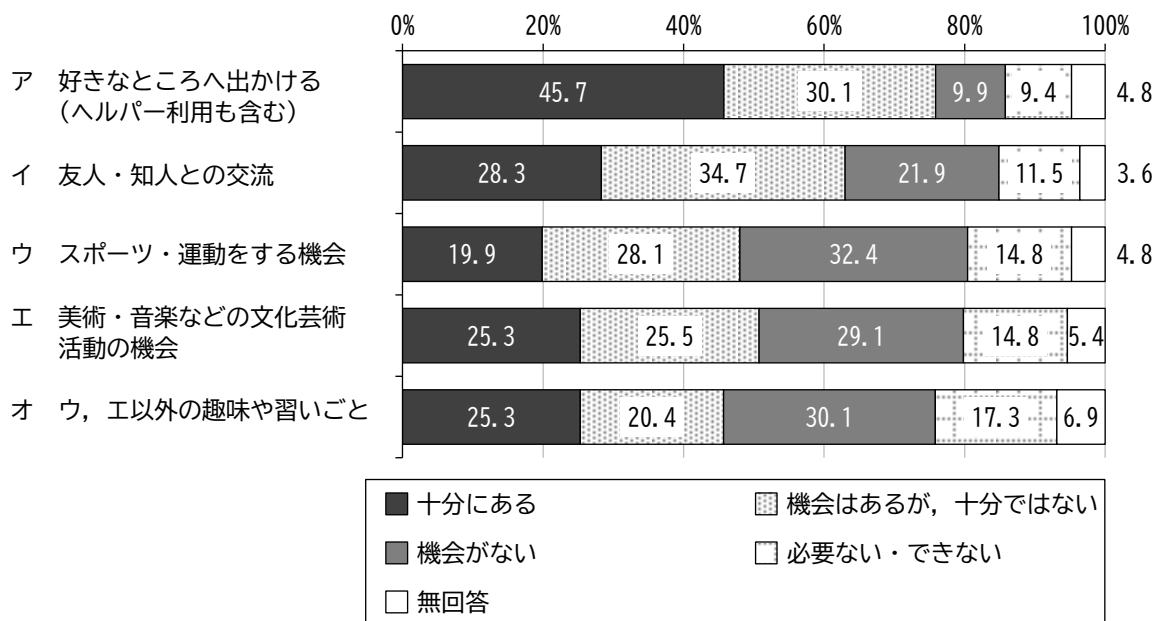
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



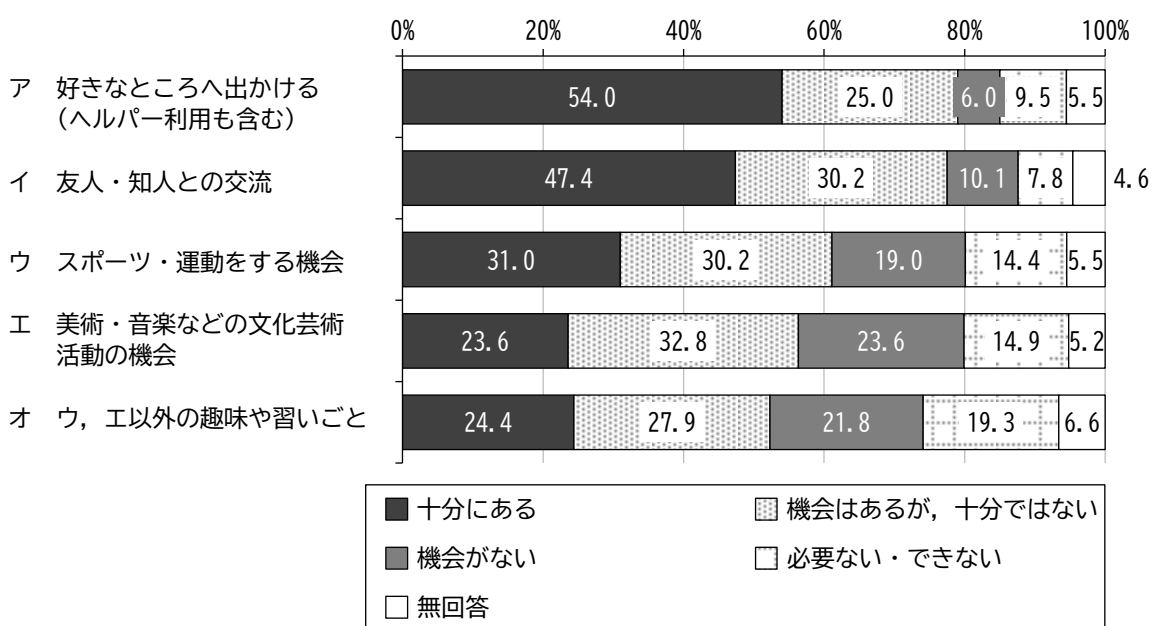
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害 (N=392)

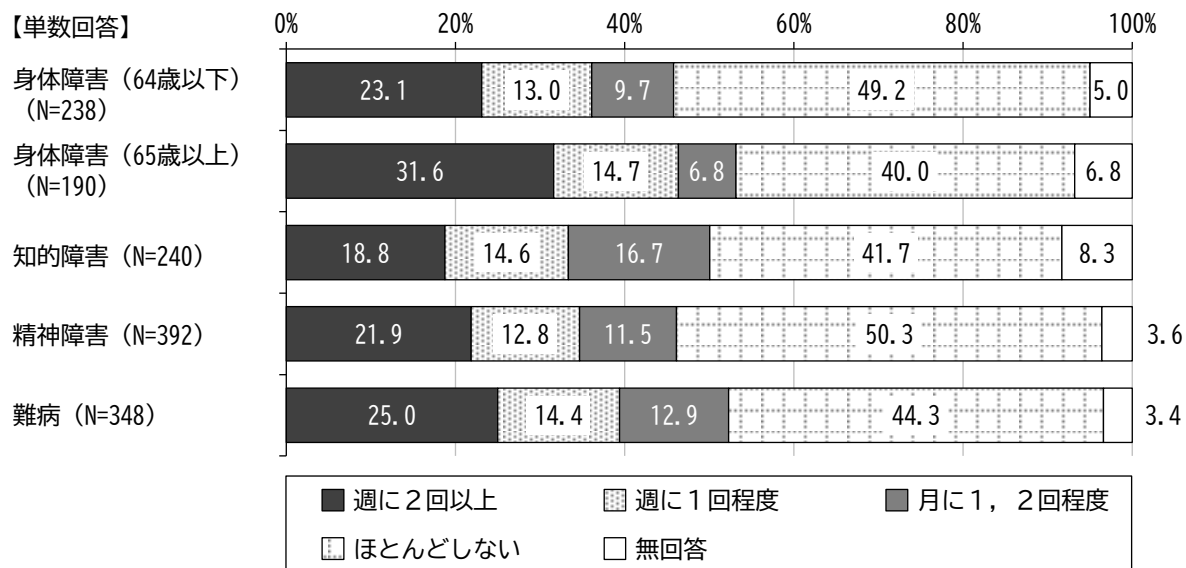


【単数回答】難病 (N=348)



問 21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

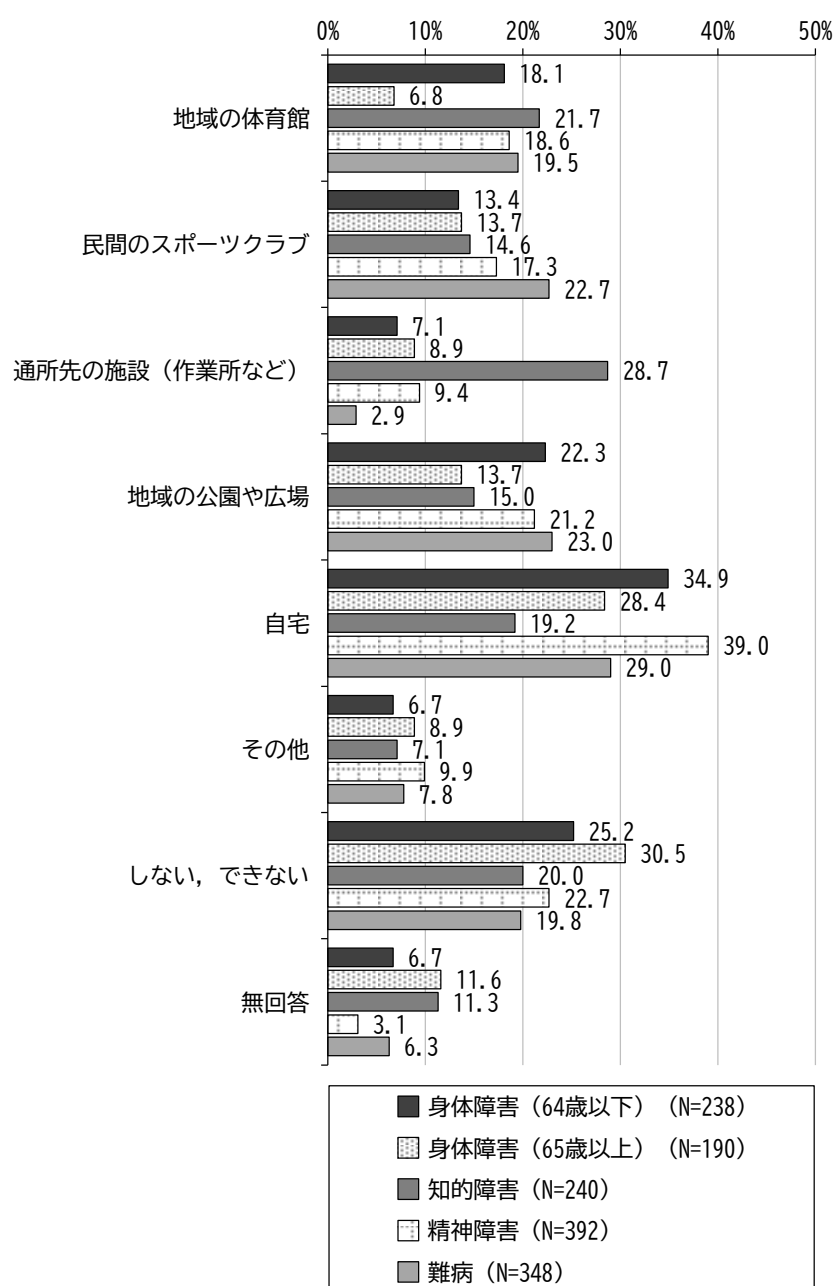
- スポーツ・運動をする頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ほとんどしない」が最も多く、それぞれの割合は 49.2%，40.0%，41.7%，50.3%，44.3%となっている。
- また、「ほとんどしない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「週に2回以上」が多く、それぞれの割合は 23.1%，31.6%，18.8%，21.9%，25.0%となっている。



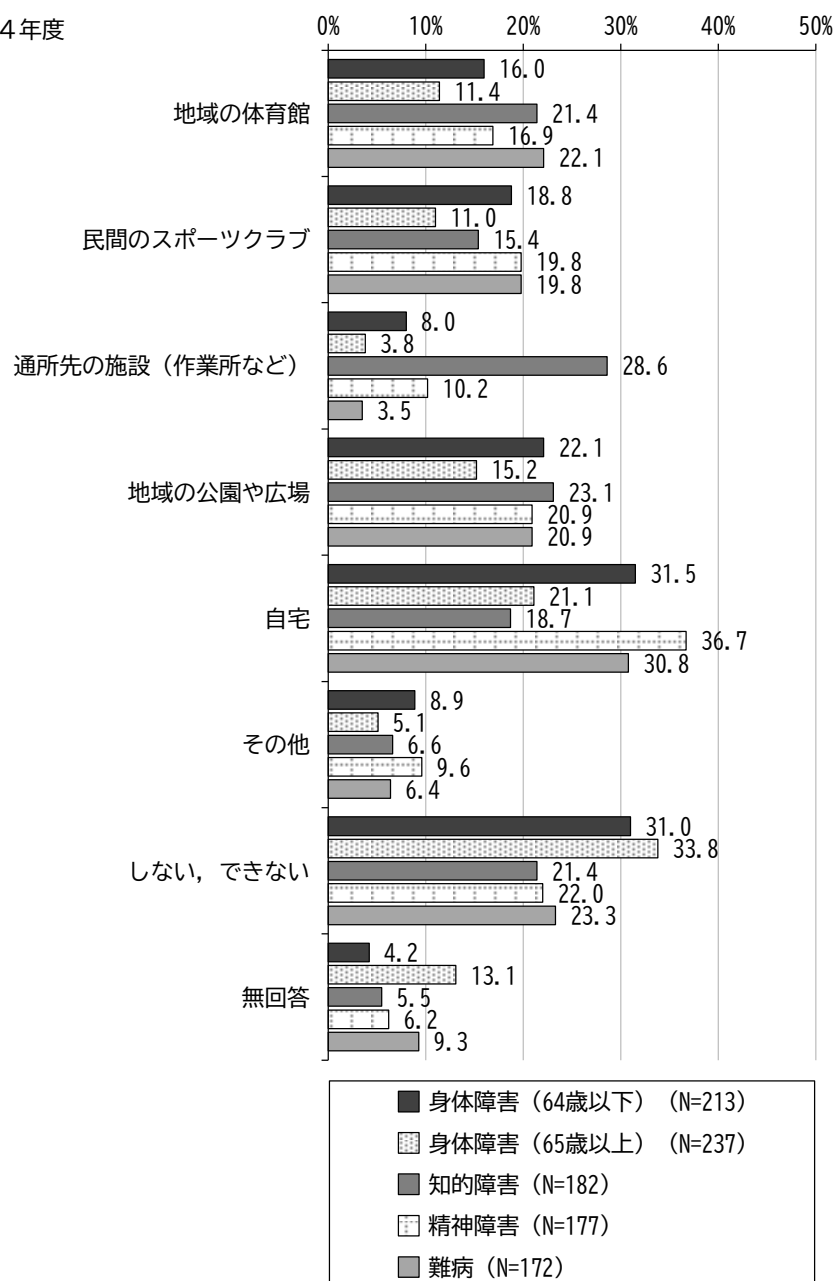
問 22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をどこでしたいかは、身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病は「自宅」が最も多く、それぞれの割合は 34.9%，39.0%，29.0%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「しない，できない（30.5%）」，知的障害は「通所先の施設（作業所など）（28.7%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「しない，できない」が 5.8 ポイント、「民間のスポーツクラブ」が 5.4 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「自宅」が 7.3 ポイント、「通所先の施設（作業所など）」が 5.1 ポイント高くなっている。知的障害で「地域の公園や広場」が 8.1 ポイント低くなっている。

【複数回答】



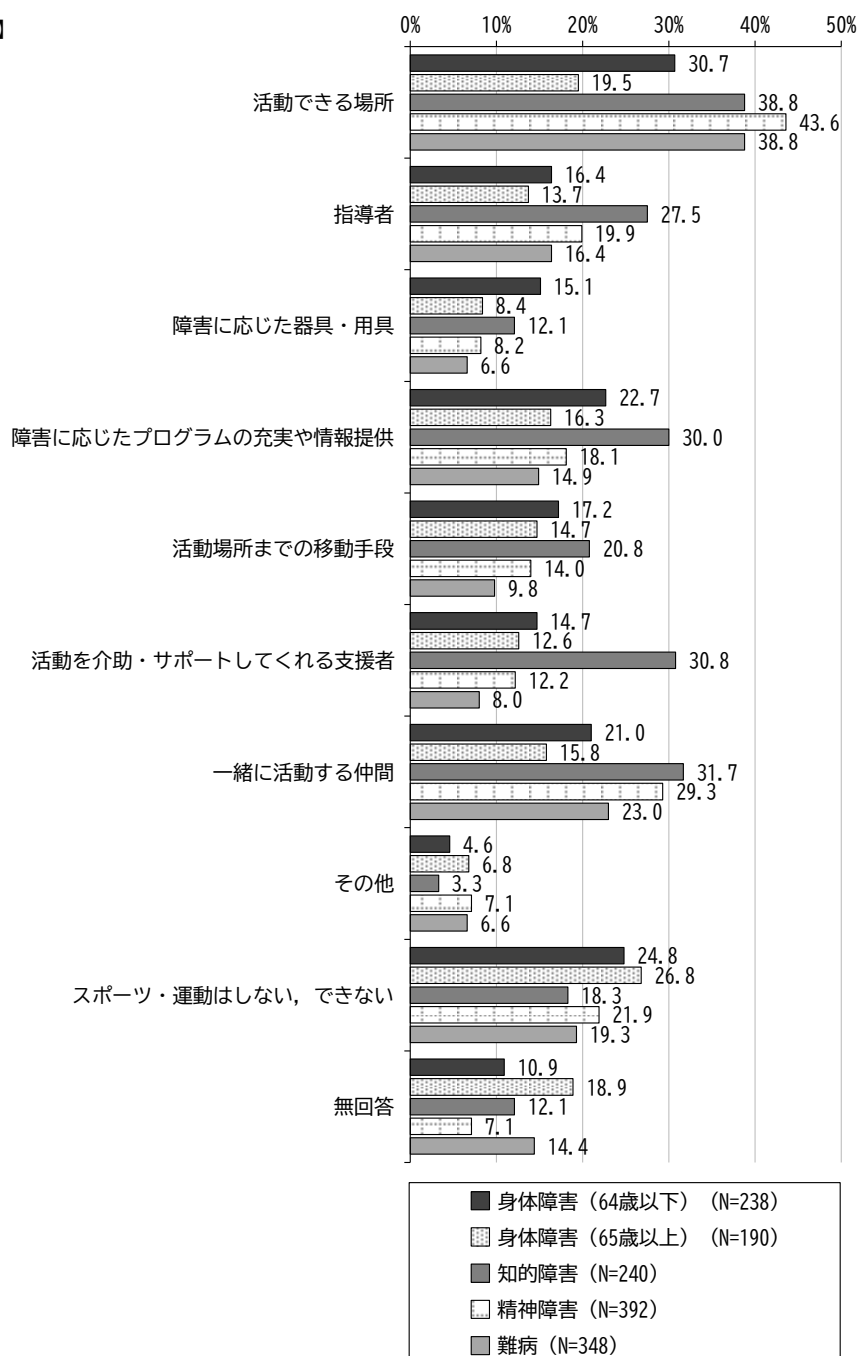
【複数回答】令和4年度



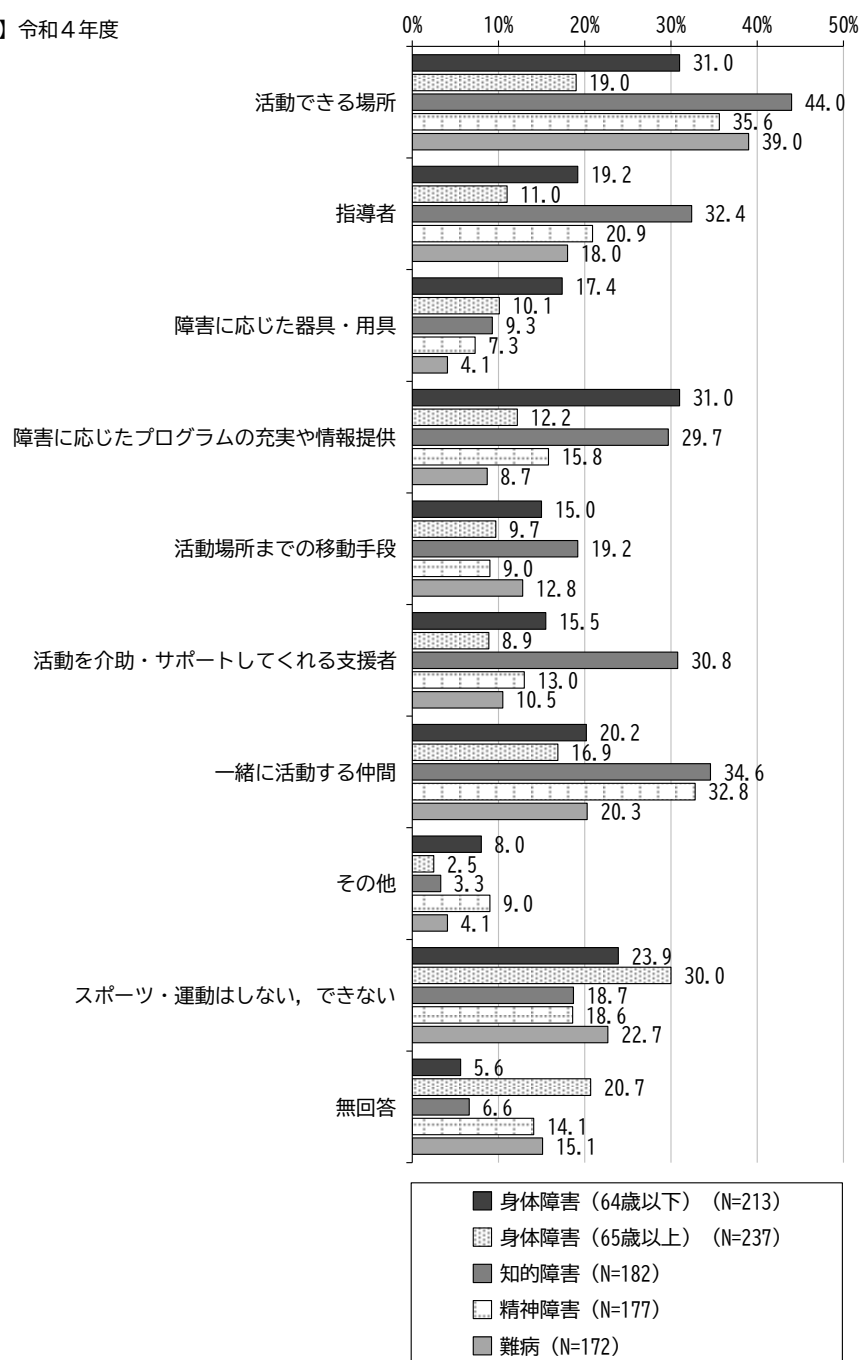
問 23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をするために必要な支援は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「活動できる場所」が最も多く、それぞれの割合は 30.7%, 38.8%, 43.6%, 38.8%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「スポーツ・運動はしない、できない（26.8%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 8.3 ポイント、知的障害で「活動できる場所」が 5.2 ポイント低くなっている。精神障害で「活動できる場所」が 8.0 ポイント、難病で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 6.2 ポイント高くなっている。

【複数回答】

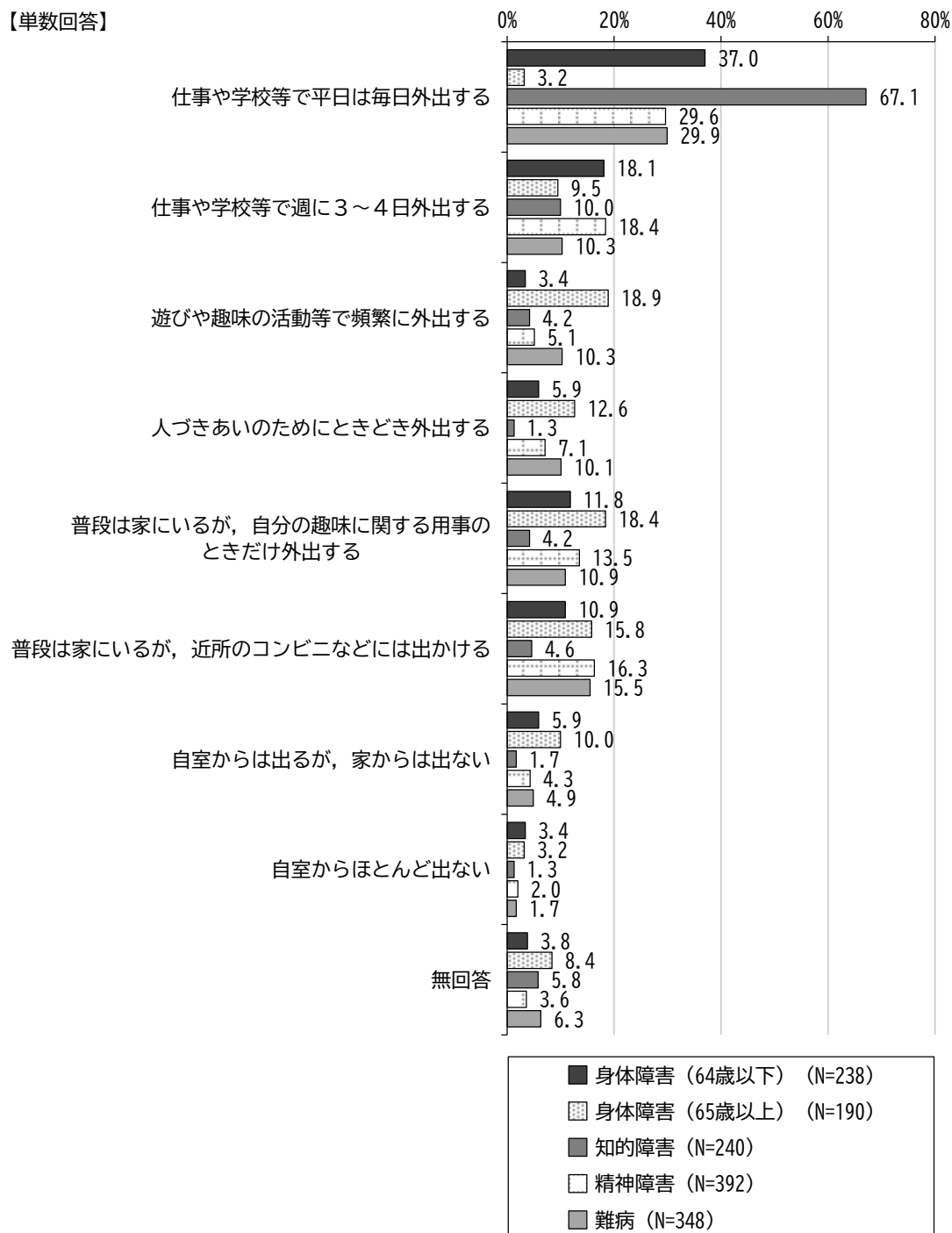


【複数回答】令和4年度



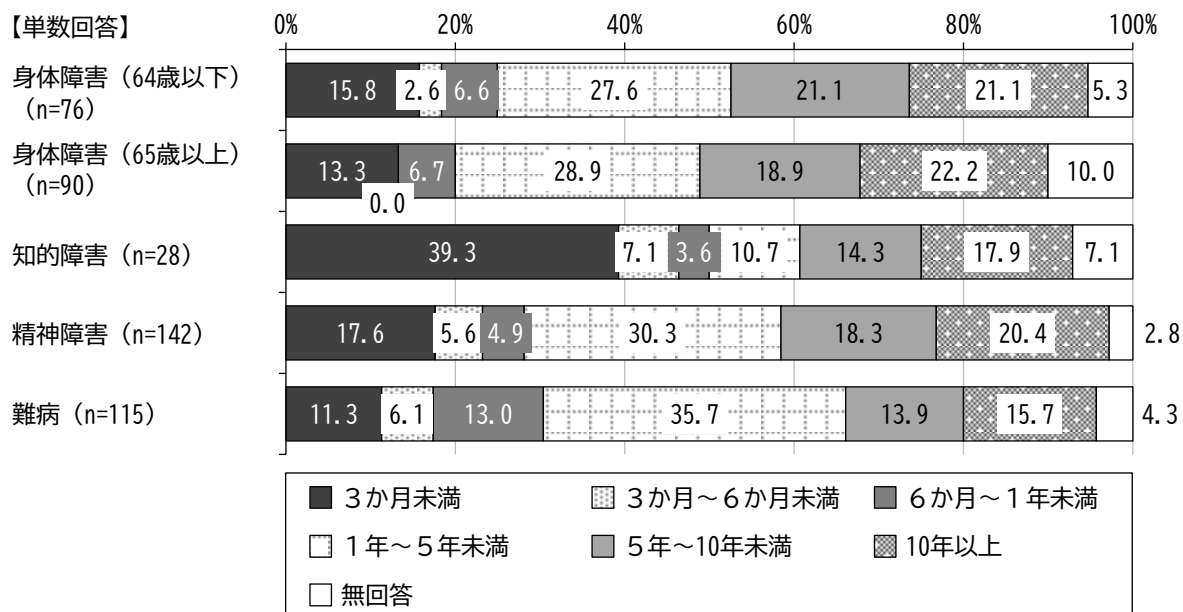
問 24 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」が最も多く、それぞれの割合は 37.0%，67.1%，29.6%，29.9% となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（18.9%）」が最も多くなっている。



付問1 問24で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」が最も多く、それぞれの割合は27.6%、28.9%、30.3%、35.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満（39.3%）」が最も多くなっている。

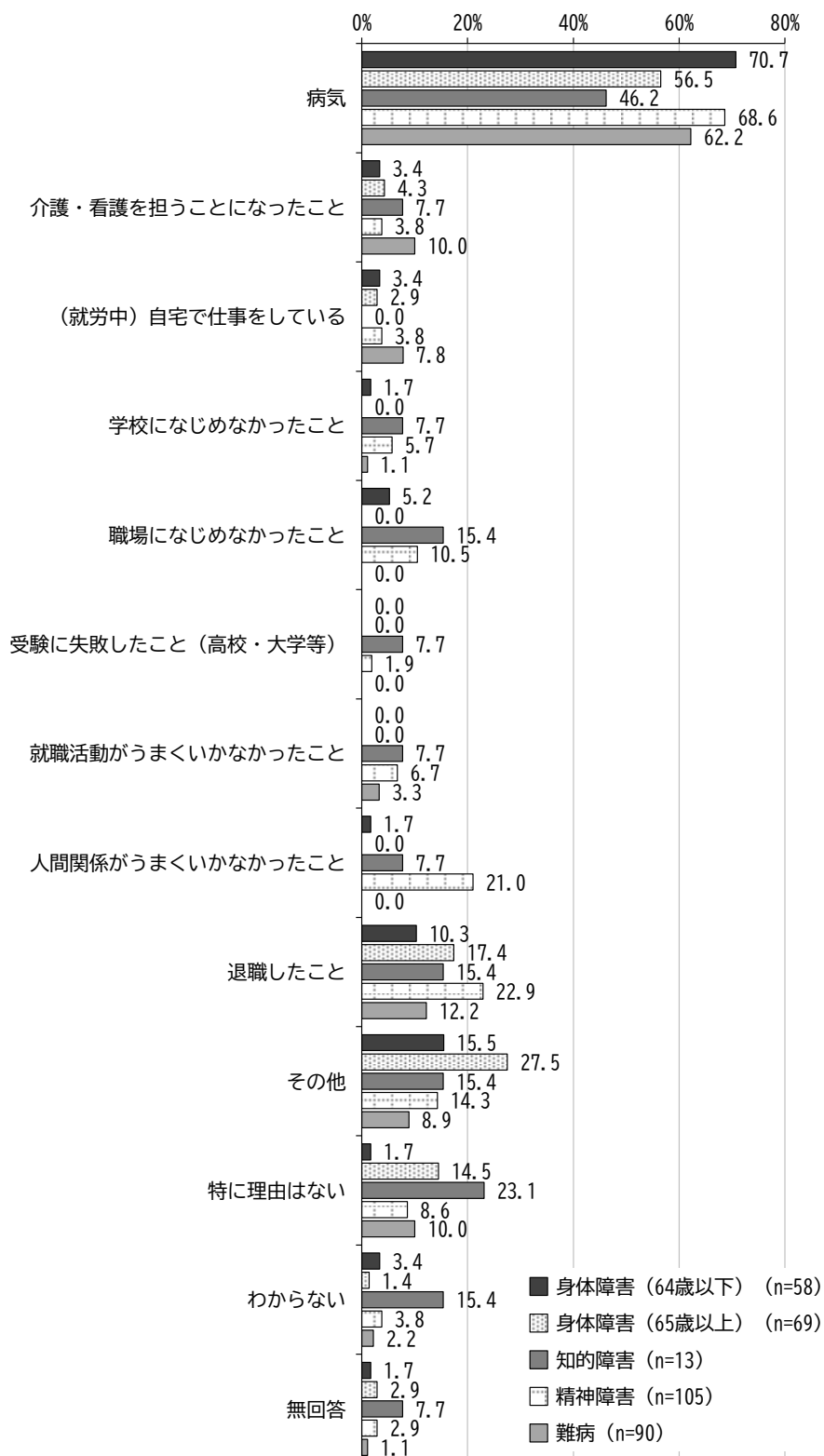


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

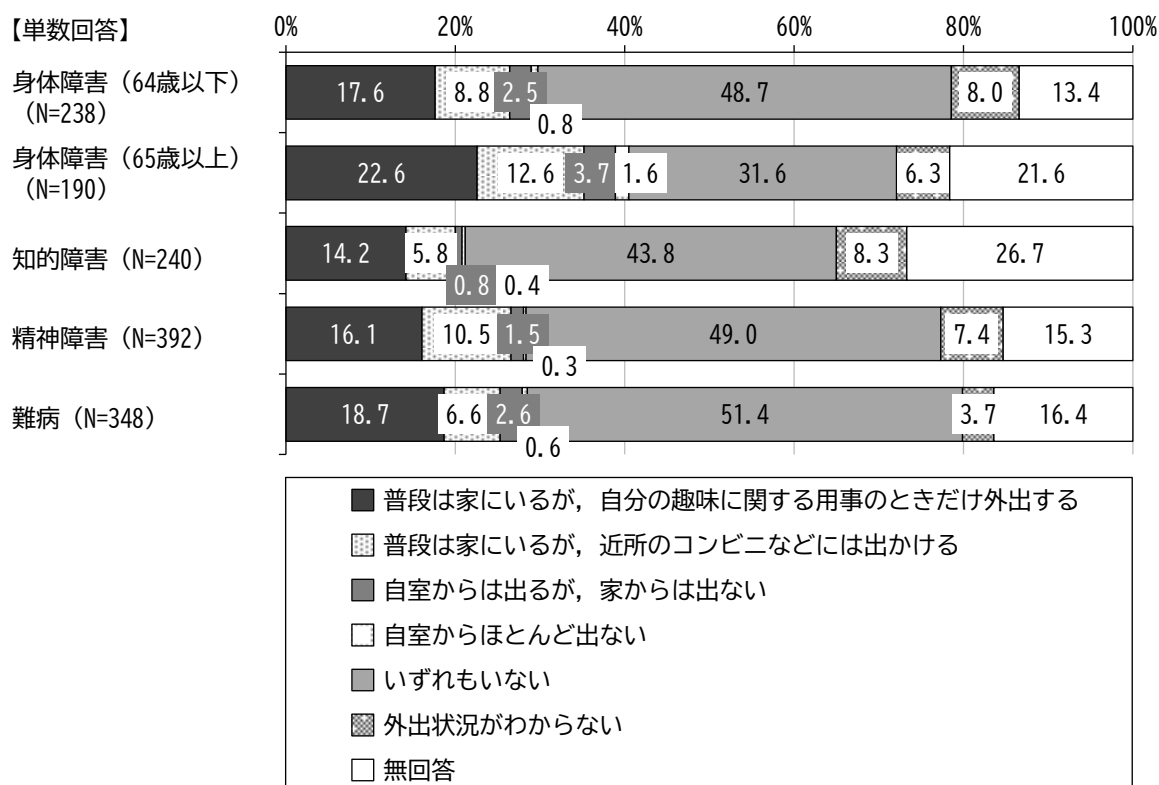
- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「病気」が最も多く、それぞれの割合は70.7%、56.5%、46.2%、68.6%、62.2%となっている。

【複数回答】



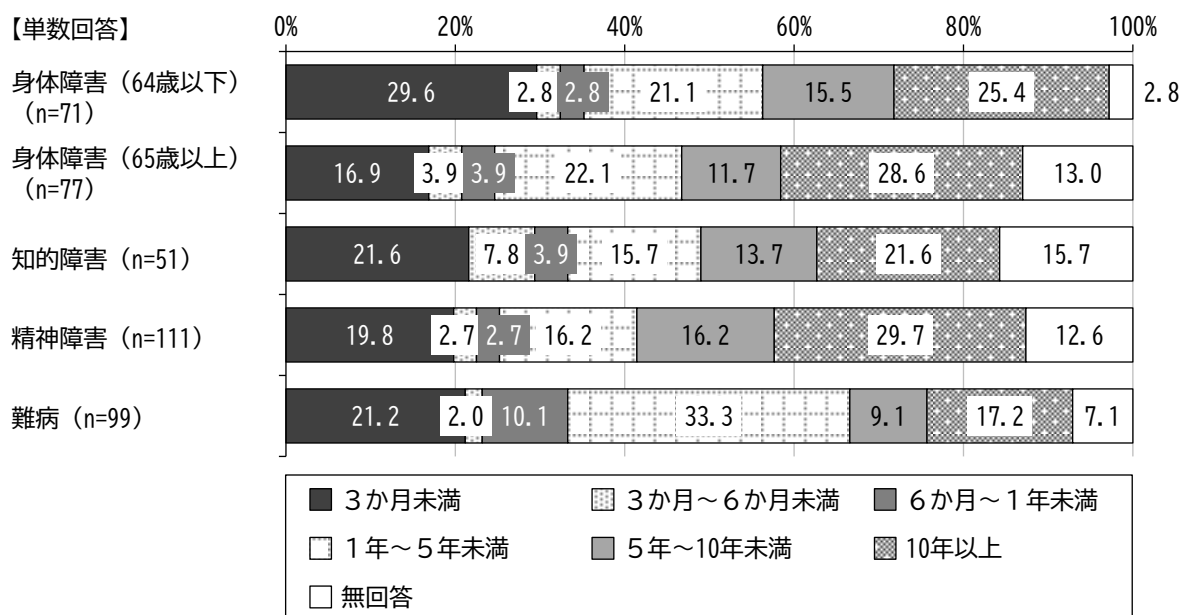
問 25 あなた以外で，市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「いずれもない」が最も多く，それぞれの割合は48.7%，31.6%，43.8%，49.0%，51.4%となっている。
- また，「いずれもない」を除くと，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「普段は家にいるが，自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」が多く，それぞれの割合は17.6%，22.6%，14.2%，16.1%，18.7%となっている。



付問1 問25で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）は「3か月未満（29.6%）」、難病は「1年～5年未満（33.3%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、精神障害は「10年以上」が最も多く、それぞれの割合は28.6%、29.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満」「10年以上」（21.6%）が同率となっている。

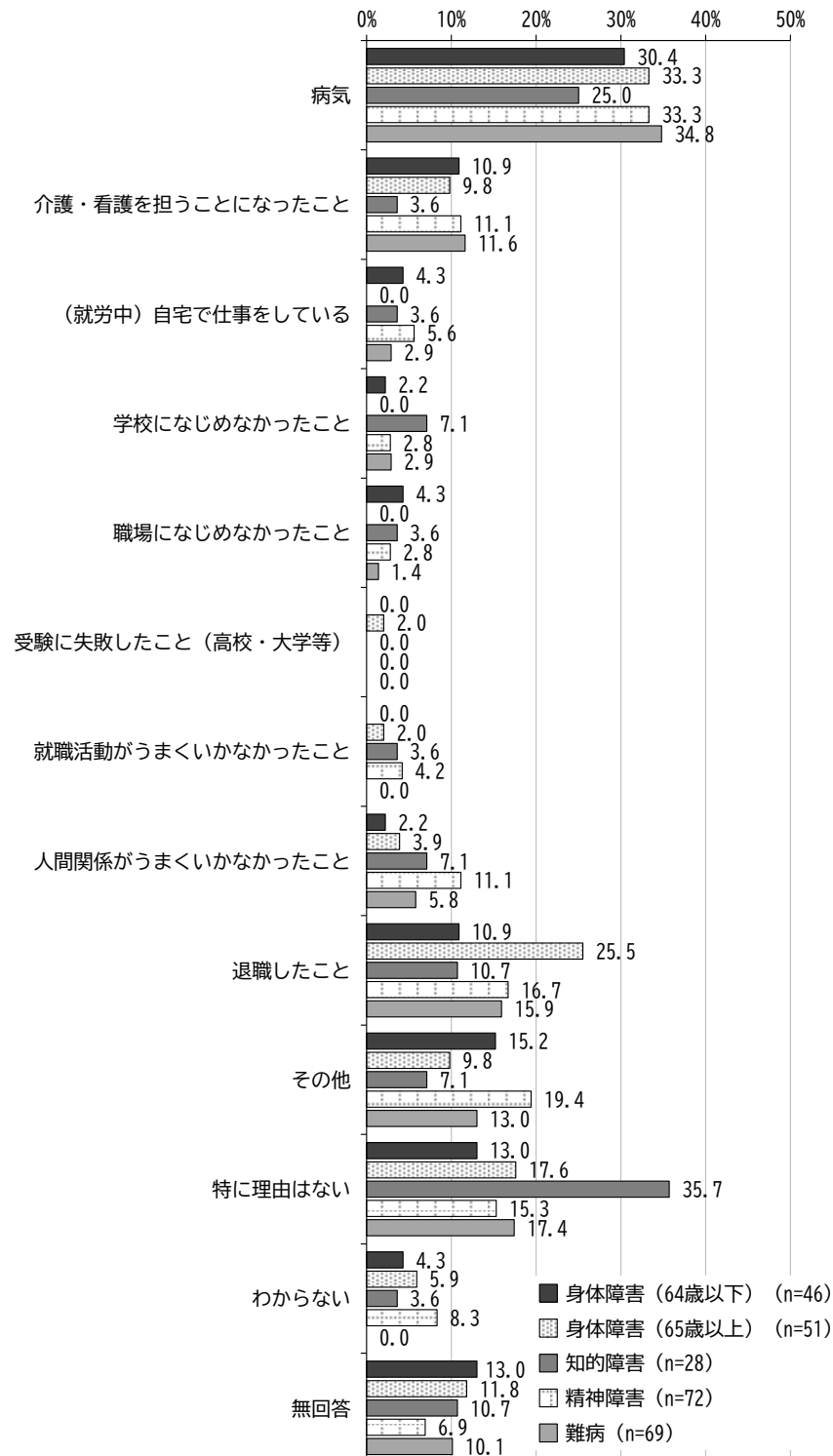


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「病気」が最も多く、それぞれの割合は30.4%、33.3%、33.3%、34.8%となっている。
- 知的障害は「特に理由はない（35.7%）」が最も多くなっている。

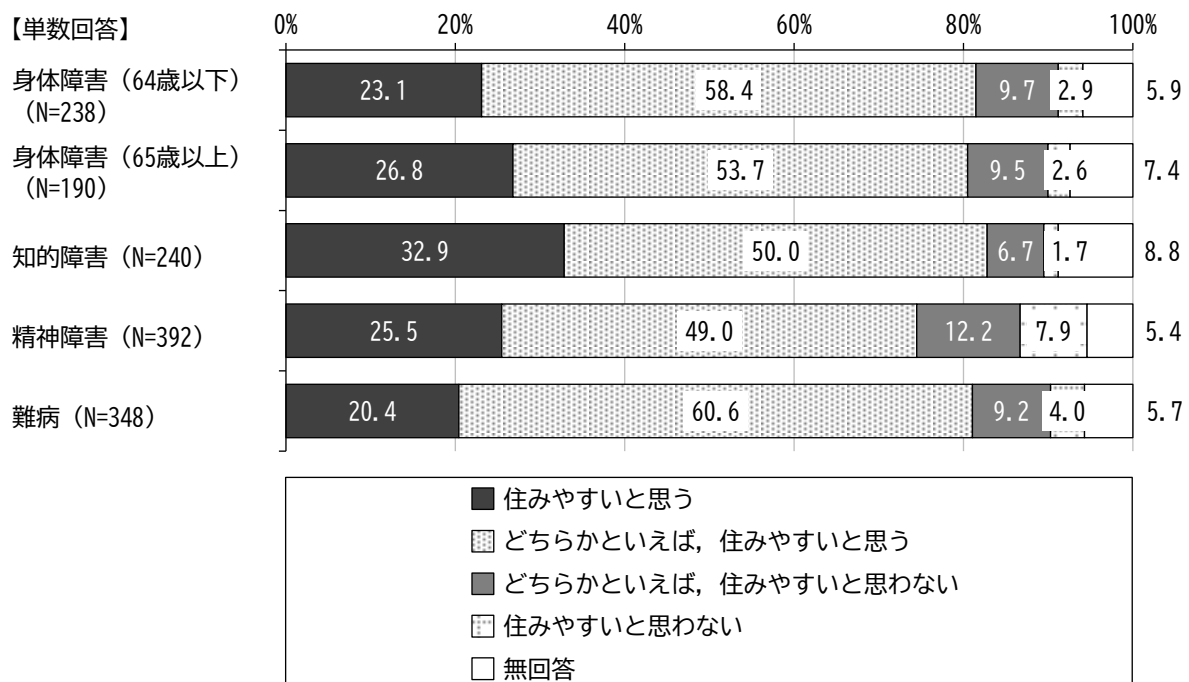
【複数回答】



6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 26 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

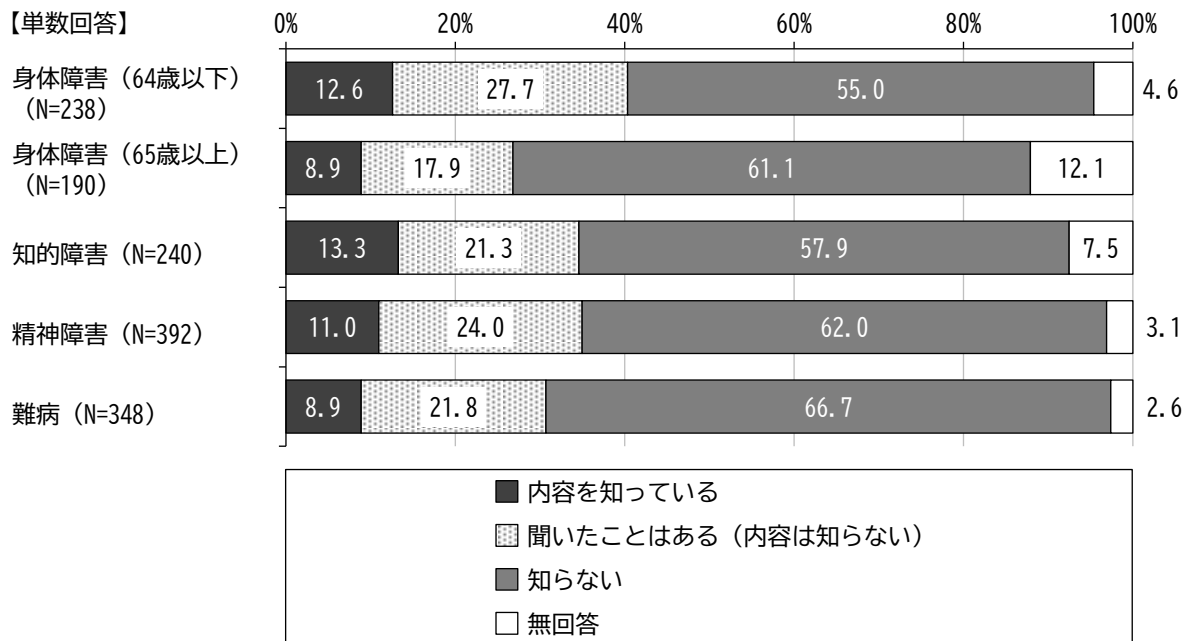
- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合が多く、それぞれの割合は 81.5%、80.5%、82.9%、74.5%、81.0%となっている。



問 27 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例
 を知っていますか。（それぞれ1つに○）

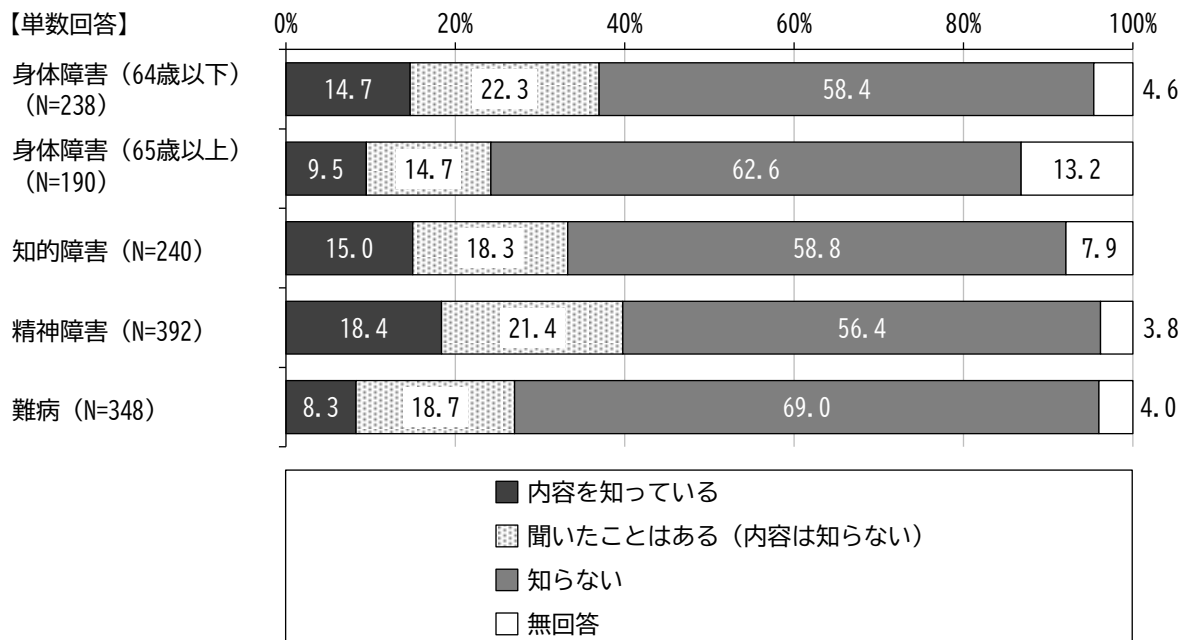
ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は12.6%，8.9%，13.3%，11.0%，8.9%となっている。



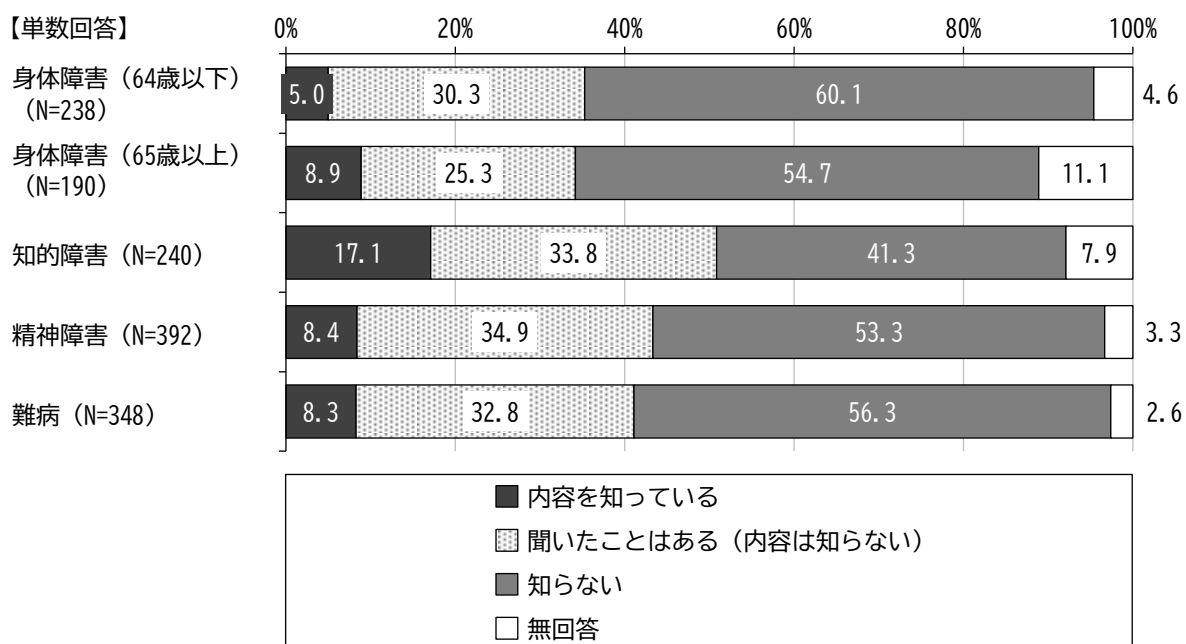
イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は14.7%、9.5%、15.0%、18.4%、8.3%となっている。



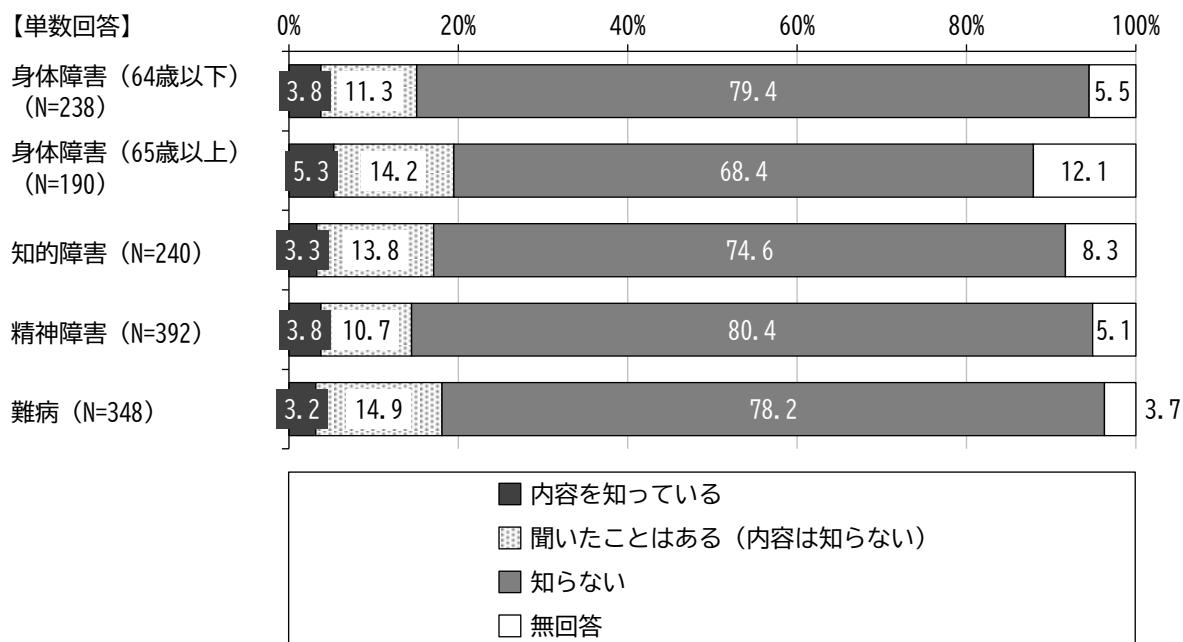
ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は5.0%、8.9%、17.1%、8.4%、8.3%となっている。



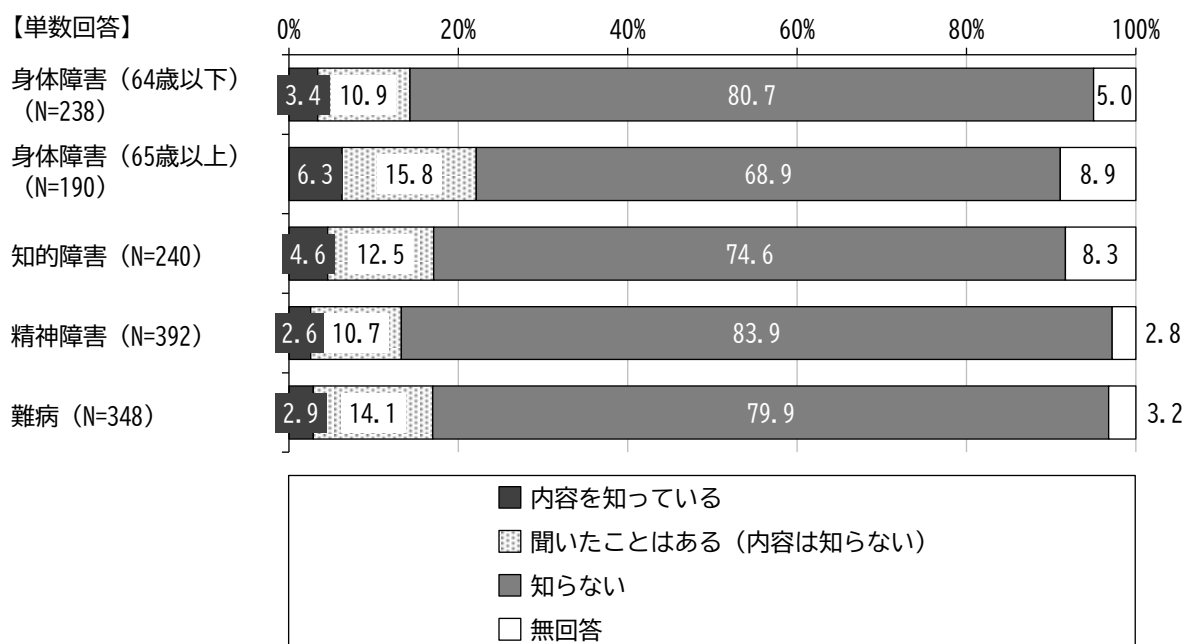
工 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.8%、5.3%、3.3%、3.8%、3.2%となっている。



オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

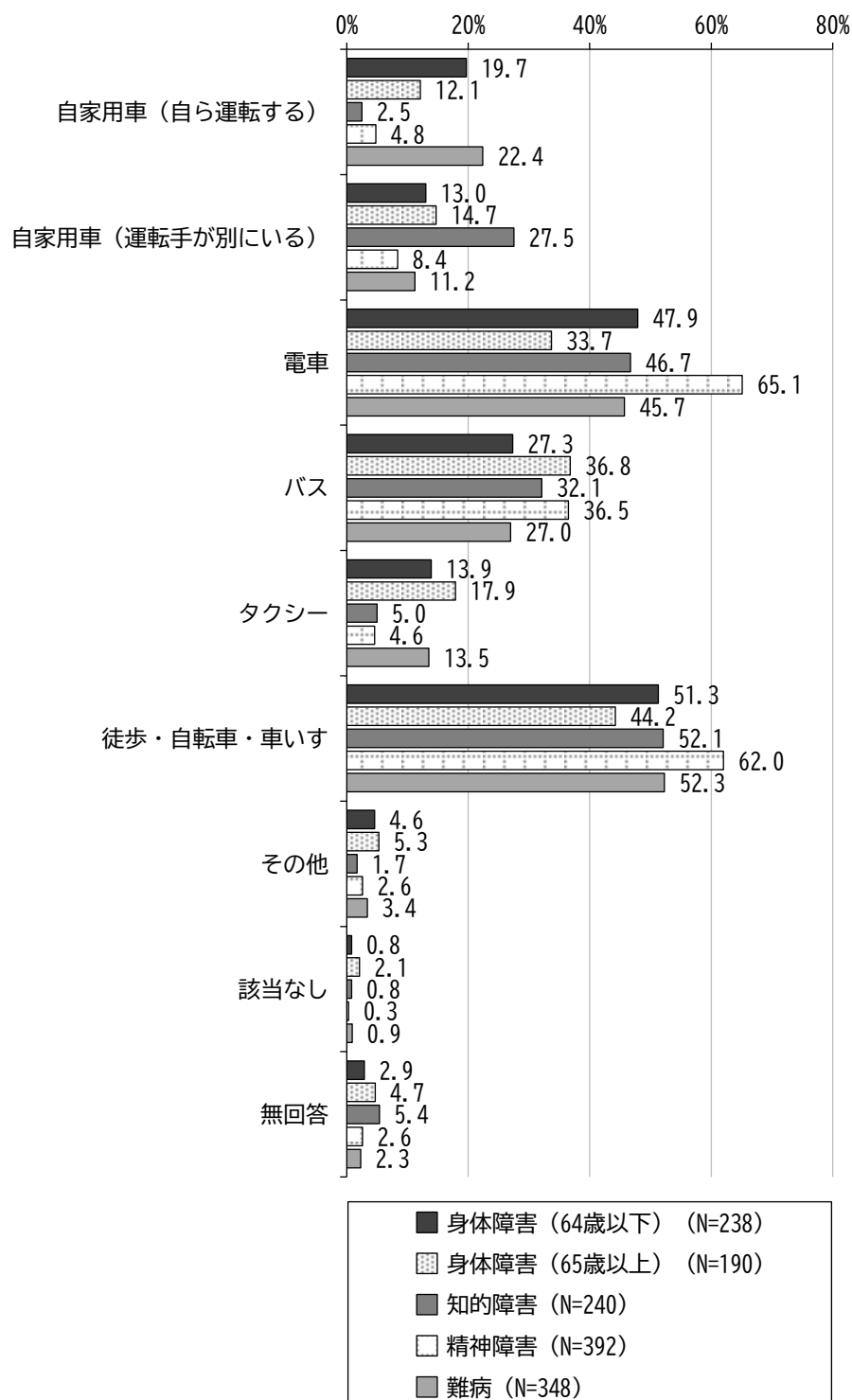
- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.4%、6.3%、4.6%、2.6%、2.9%となっている。



問 28 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

- 外出時に使用している主な移動手段は、身体障害(64歳以下), 身体障害(65歳以上), 知的障害, 難病は「徒歩・自転車・車いす」が最も多く, それぞれの割合は 51.3%, 44.2%, 52.1%, 52.3%となっている。
- 精神障害は「電車(65.1%)」が最も多くなっている。

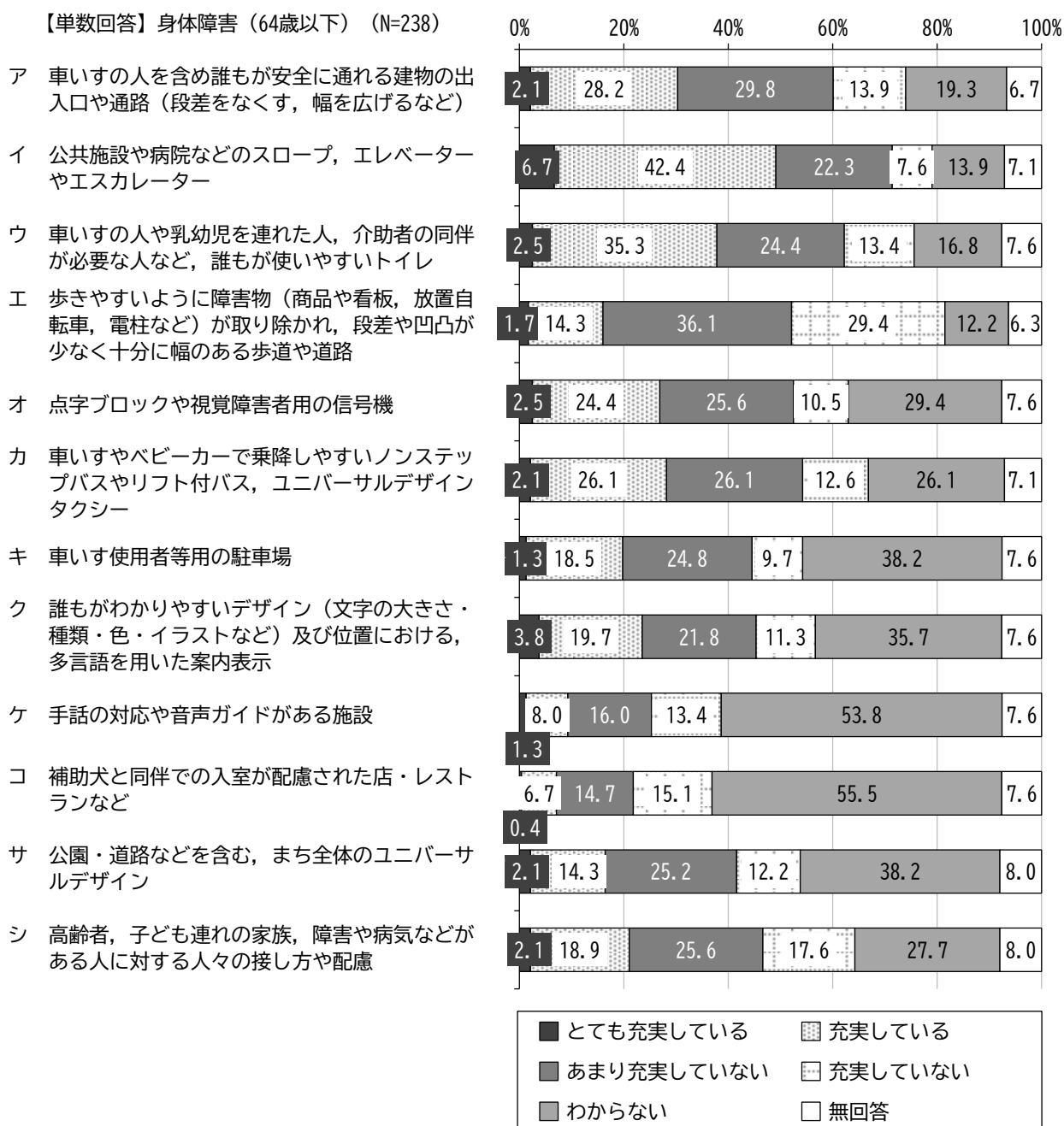
【複数回答】



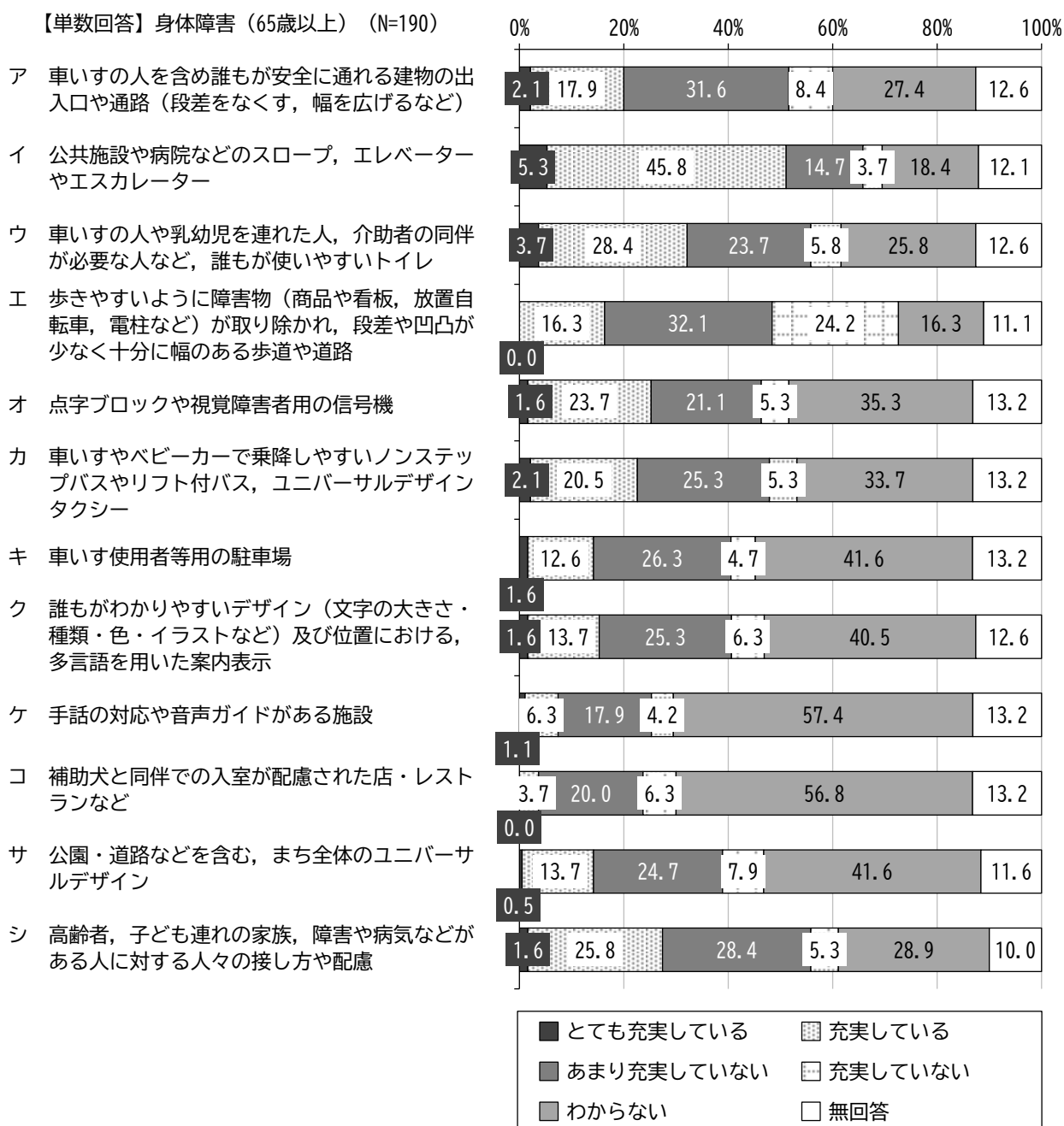
問 29 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合をみる。
- 身体障害（64 歳以下）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（49.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（37.8%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（65.5%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（43.7%）]が多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（51.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（32.1%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（56.3%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（40.0%）]が多くなっている。
- 知的障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（47.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（45.0%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（30.1%）]が多くなっている。
- 精神障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（46.9%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（44.7%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（37.0%）]が多くなっている。
- 難病で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（50.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（34.2%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（62.1%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（44.8%）]が多くなっている。

【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



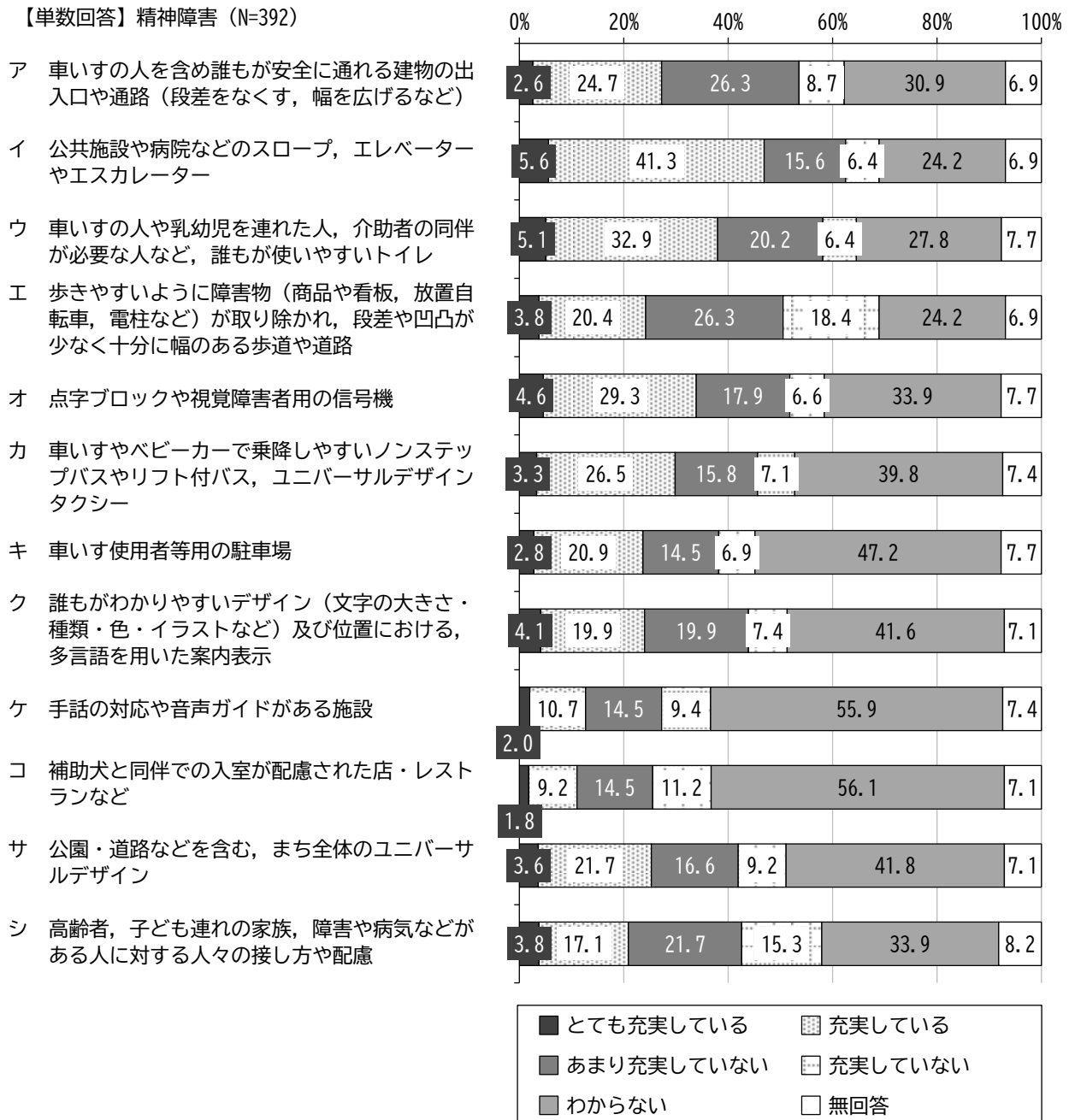
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



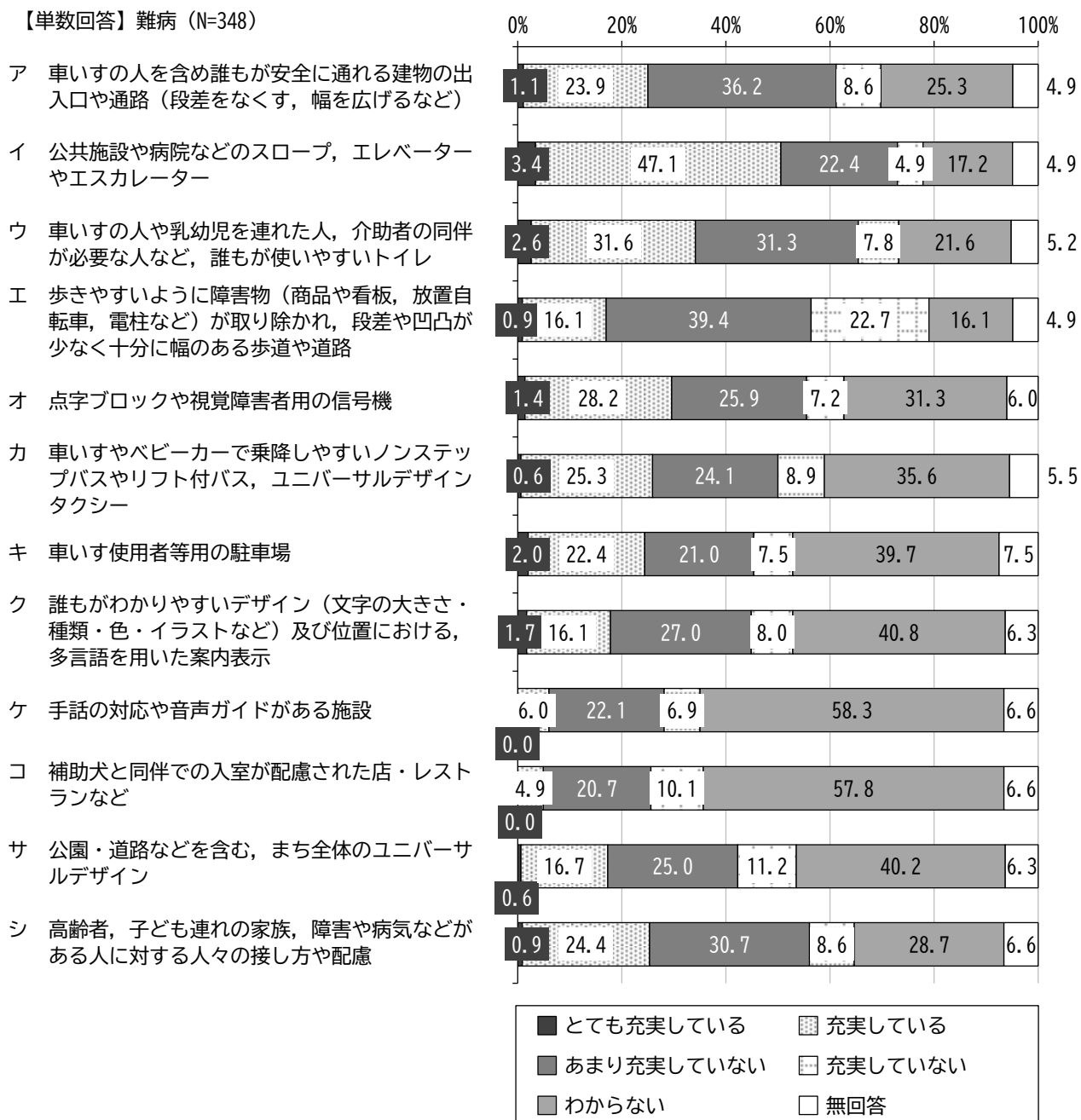
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



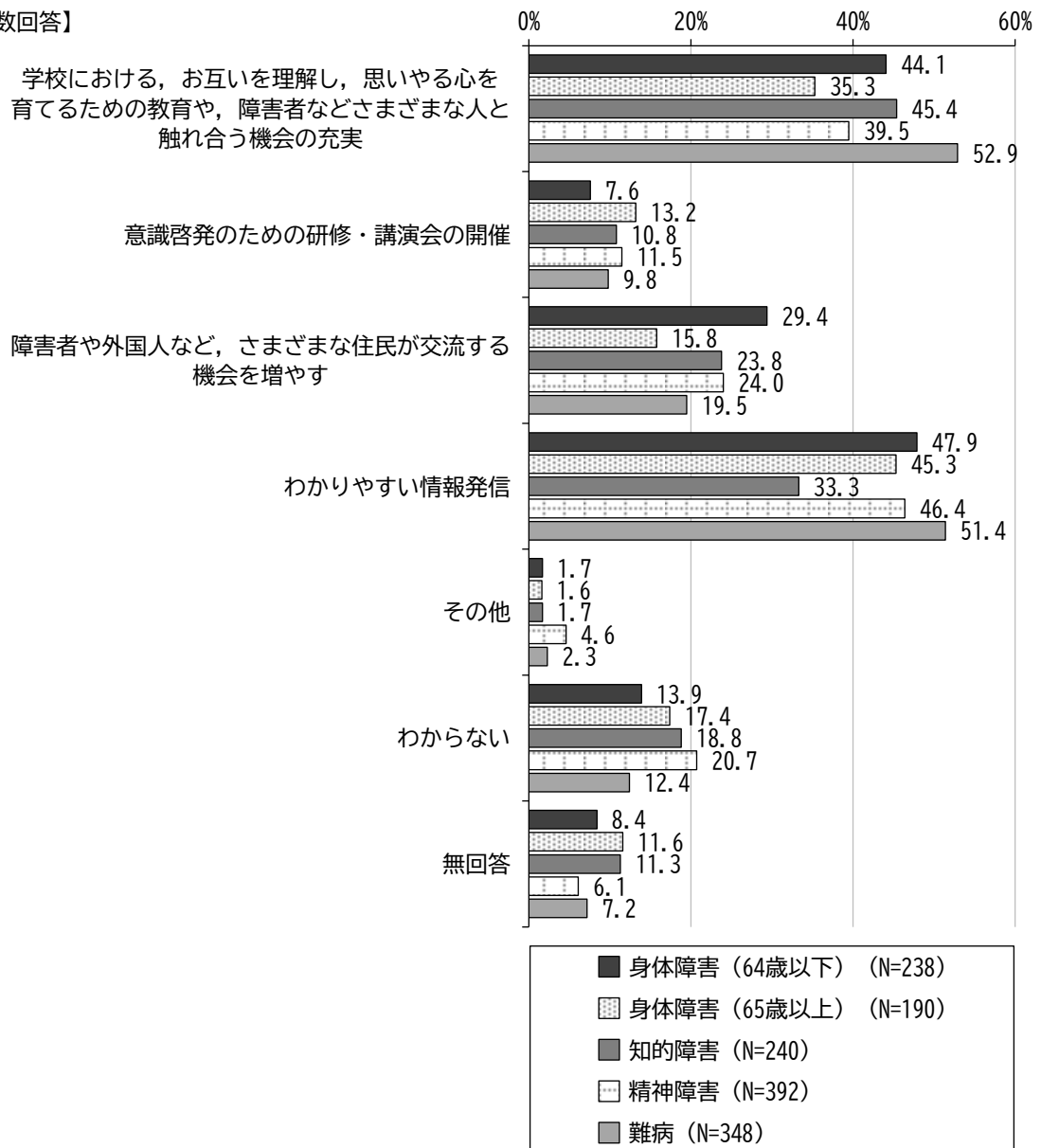
【単数回答】難病（N=348）



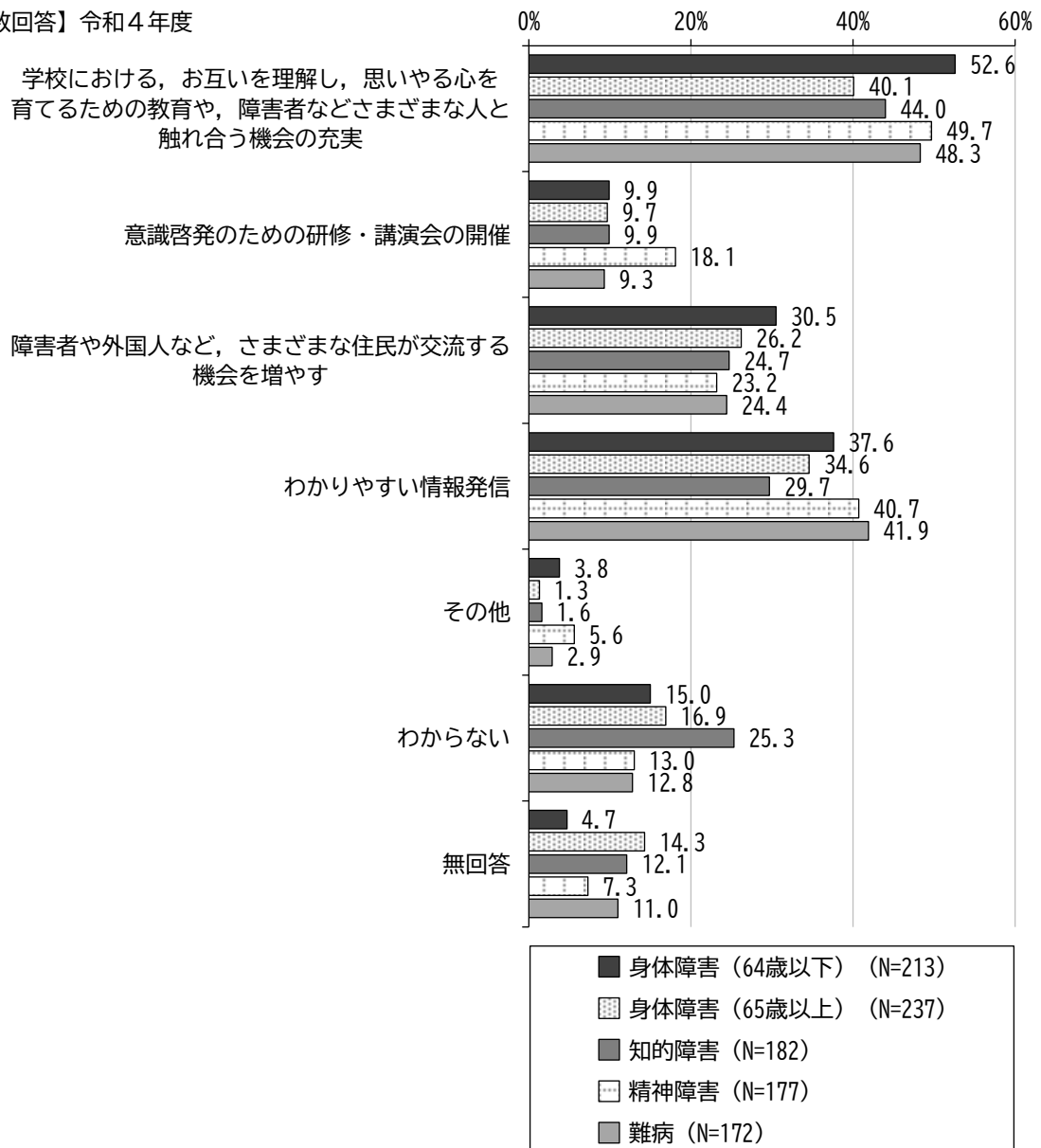
問 30 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害は「わかりやすい情報発信」が最も多く、それぞれの割合は 47.9%、45.3%、46.4%となっている。
- 知的障害、難病は「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多く、それぞれの割合は 45.4%、52.9%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「わかりやすい情報発信」が 10.3 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 8.5 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「わかりやすい情報発信」が 10.7 ポイント高く、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす」が 10.4 ポイント低くなっている。知的障害で「わからない」が 6.5 ポイント低くなっている。精神障害で「わからない」が 7.7 ポイント、「わかりやすい情報発信」が 5.7 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 10.2 ポイント、「意識啓発のための研修・講演会の開催」が 6.6 ポイント低くなっている。難病で「わかりやすい情報発信」が 9.5 ポイント高くなっている。

【複数回答】



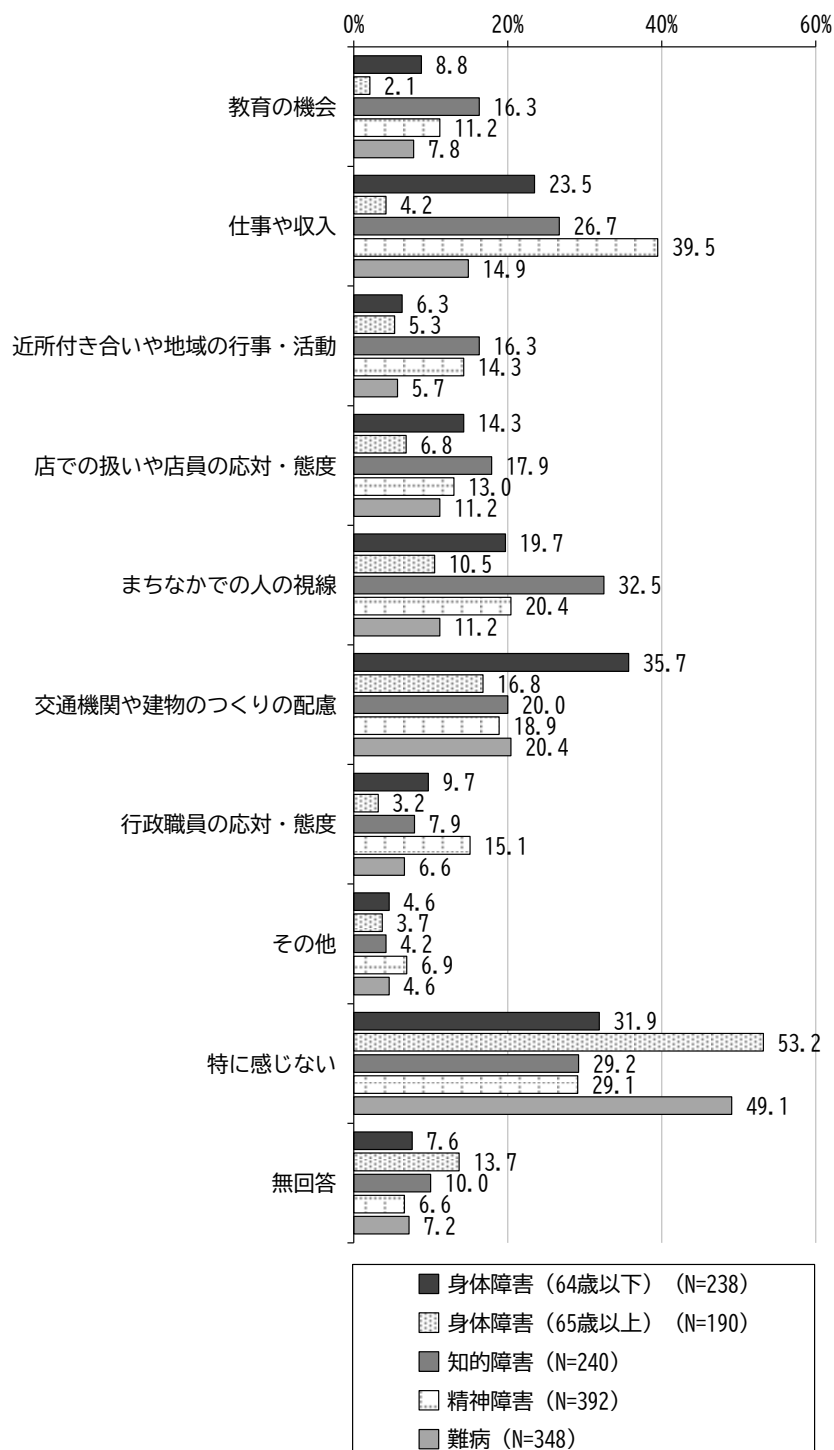
【複数回答】令和4年度



問 31 普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64 歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮（35.7%）」，知的障害は「まちなかでの人の視線（32.5%）」，精神障害は「仕事や収入（39.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上），難病は「特に感じない」が最も多く，それぞれの割合は 53.2%，49.1%となっている。

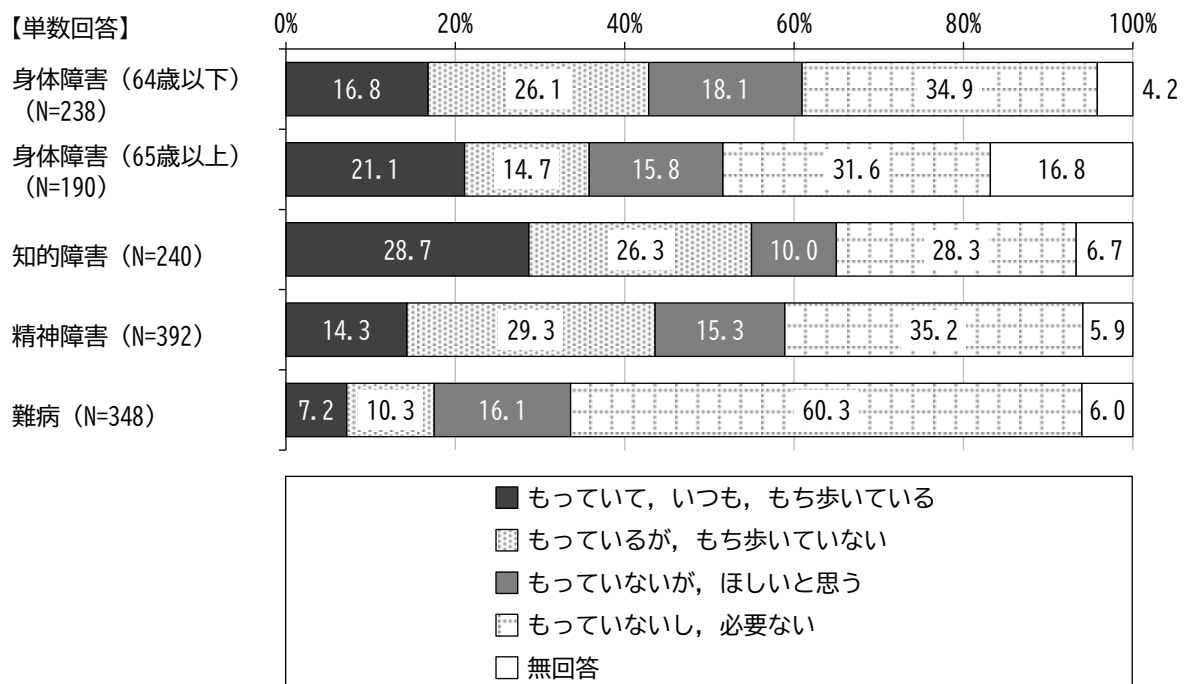
【複数回答】



問 32 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

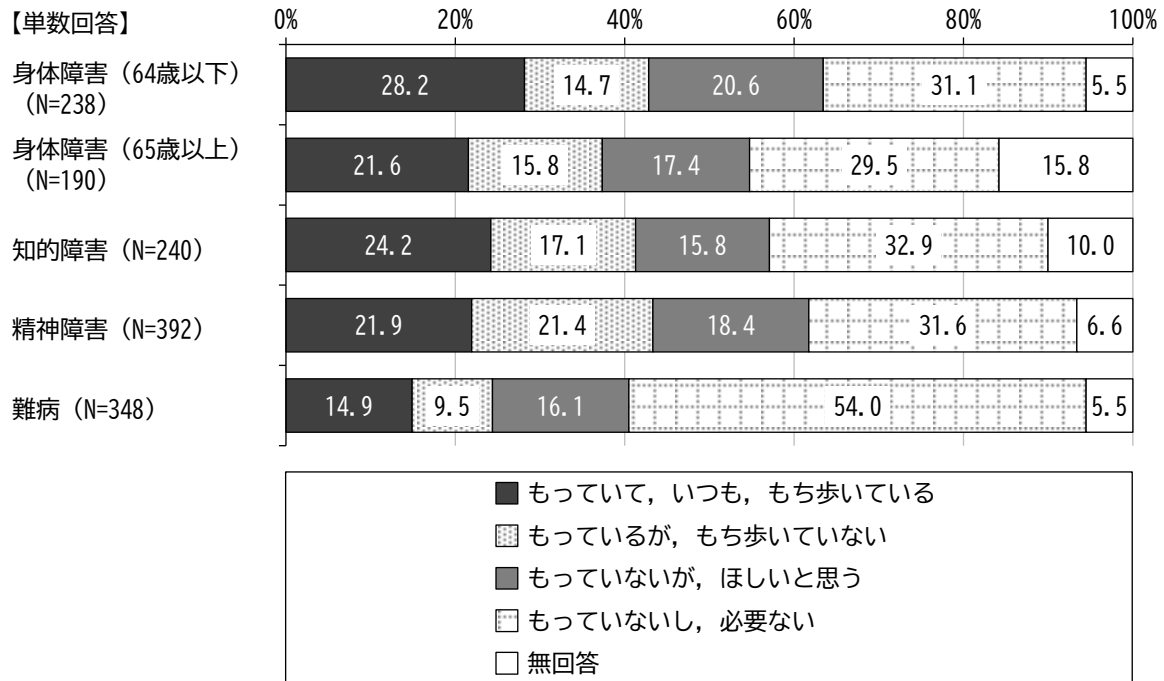
①ヘルプカード

- ヘルプカードの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では6割を超えている。
- 知的障害は「もっていて、いつも、もち歩いている（28.7%）」が最も多くなっている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、61.0%、51.6%、65.0%、58.9%、33.6%となっている。



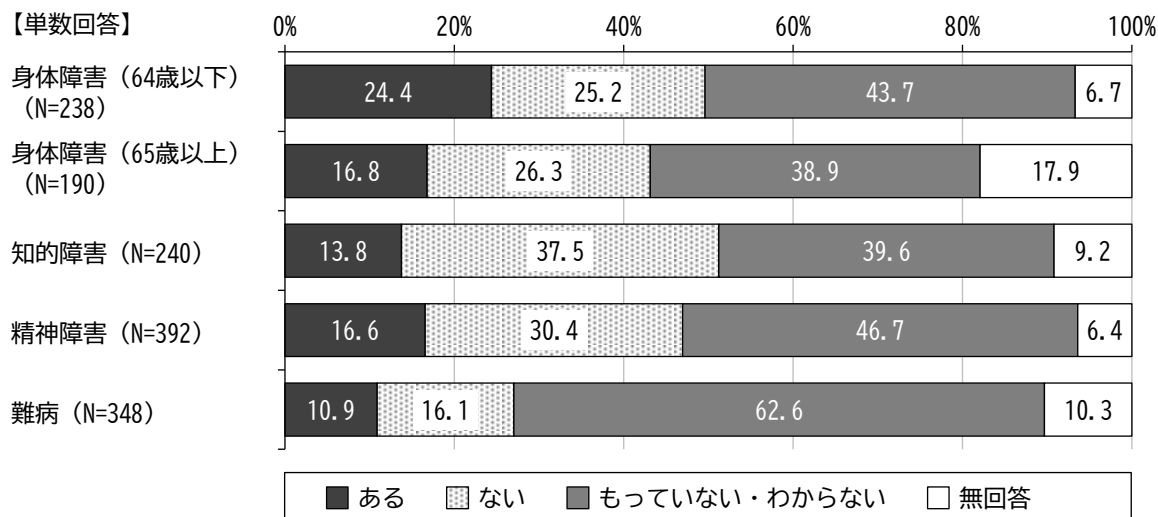
②ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では5割を超えている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、63.5%、54.8%、57.1%、61.7%、40.5%となっている。



問 33 ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていない・わからない」が最も多くなっている。「ある」について、それぞれの割合は 24.4%，16.8%，13.8%，16.6%，10.9%となっている。

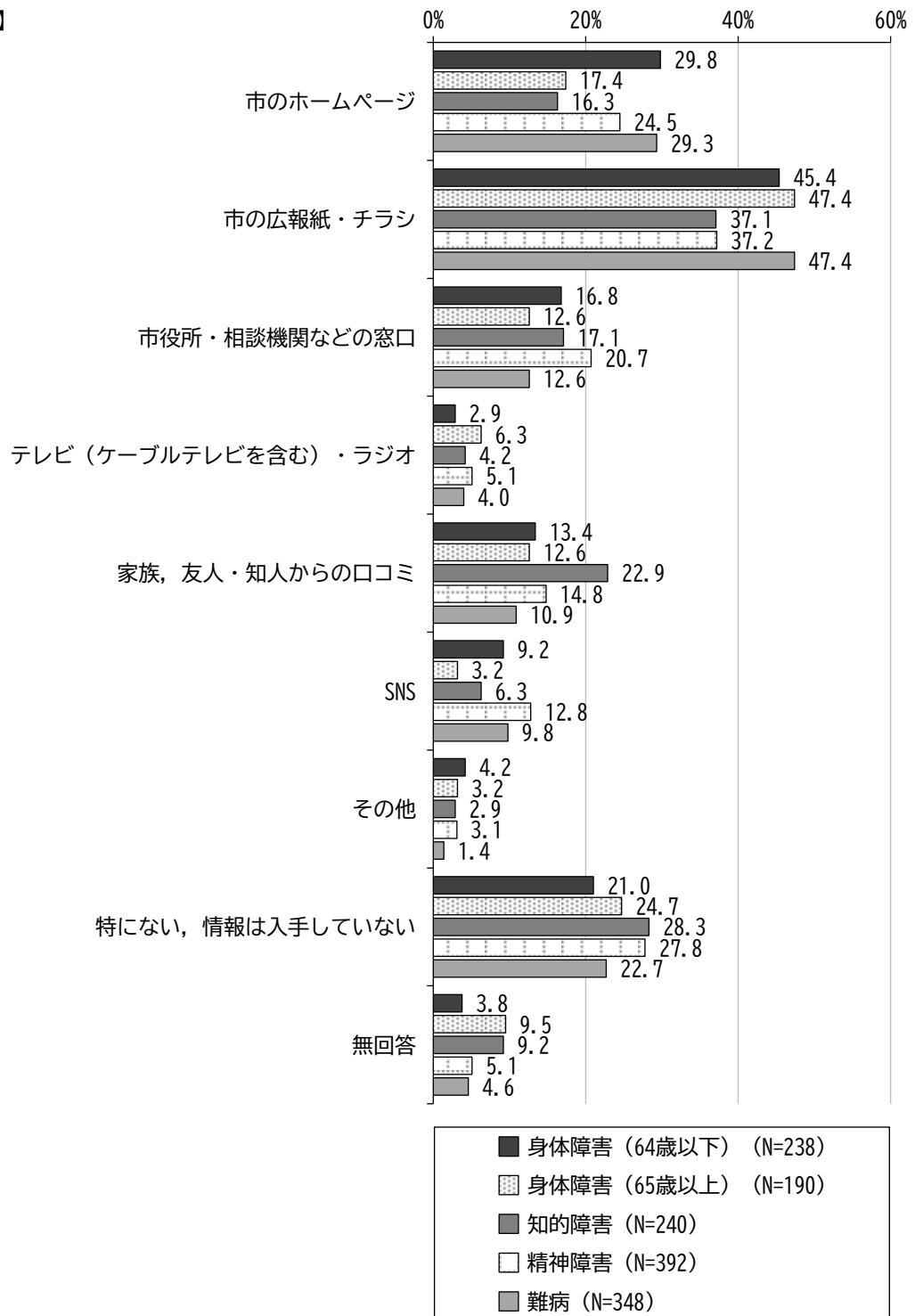


7 デジタルの活用についておたずねします

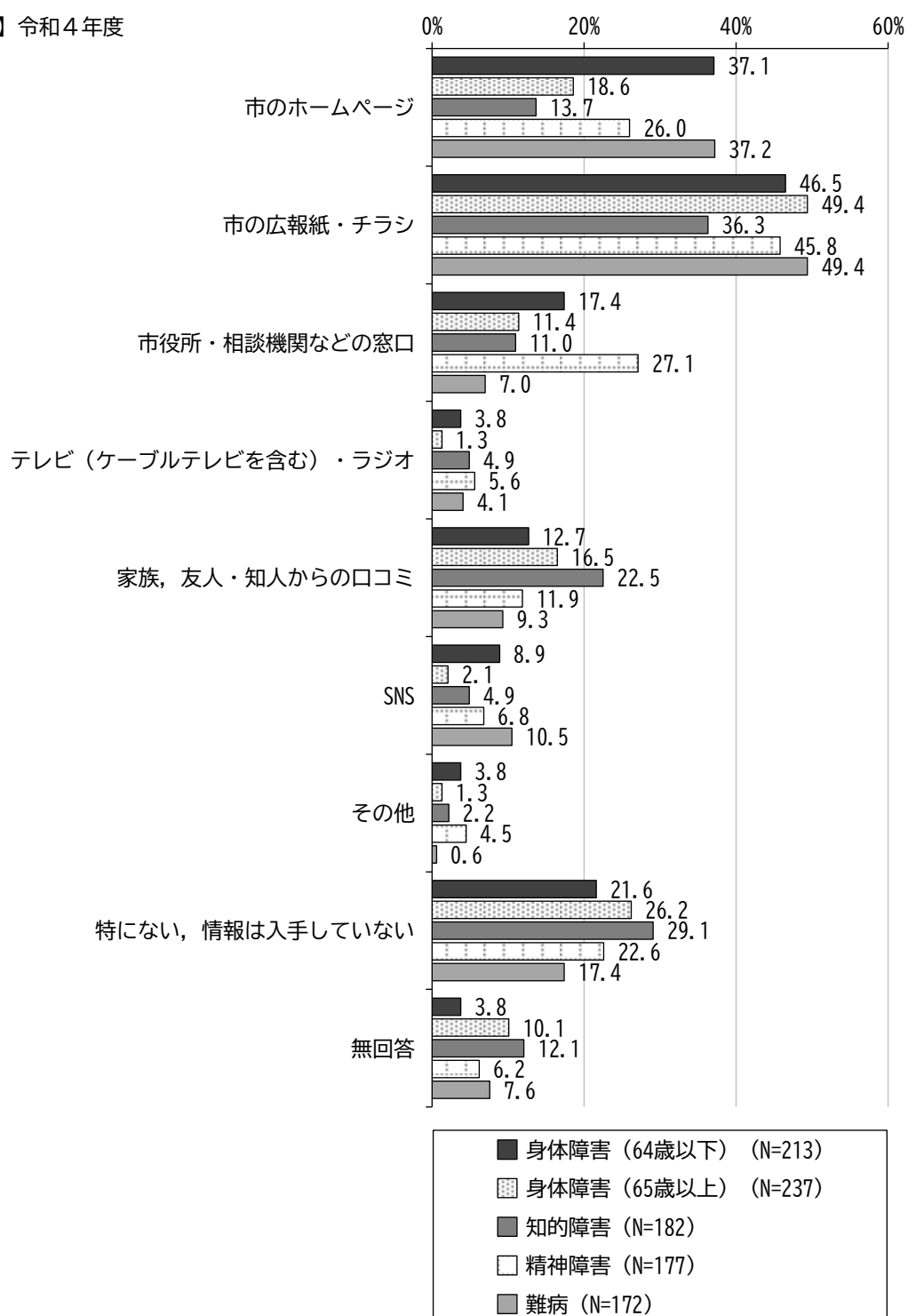
問 34 調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。
（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「市の広報紙・チラシ」が最も多く，それぞれの割合は 45.4%，47.4%，37.1%，37.2%，47.4%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると，身体障害（64 歳以下）で「市のホームページ」が 7.3 ポイント低くなっている。知的障害で「市役所・相談機関などの窓口」が 6.1 ポイント高くなっている。精神障害で「SNS」が 6.0 ポイント，「特にない，情報は入手していない」が 5.2 ポイント高く，「市の広報紙・チラシ」が 8.6 ポイント，「市役所・相談機関などの窓口」が 6.4 ポイント低くなっている。難病で「市役所・相談機関などの窓口」が 5.6 ポイント，「特にない，情報は入手していない」が 5.3 ポイント高く，「市のホームページ」が 7.9 ポイント低くなっている。

【複数回答】

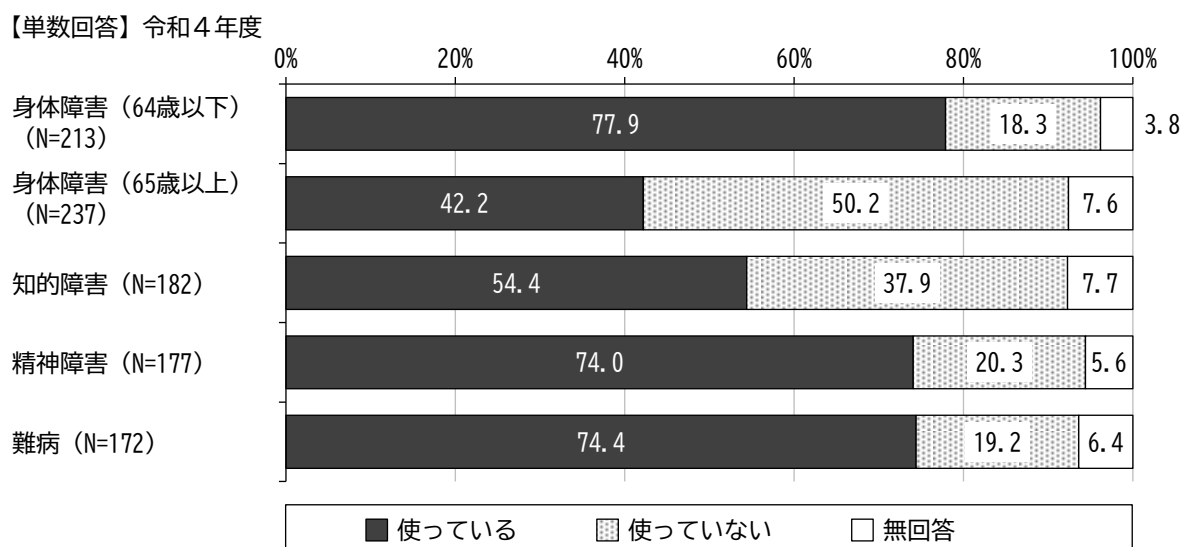
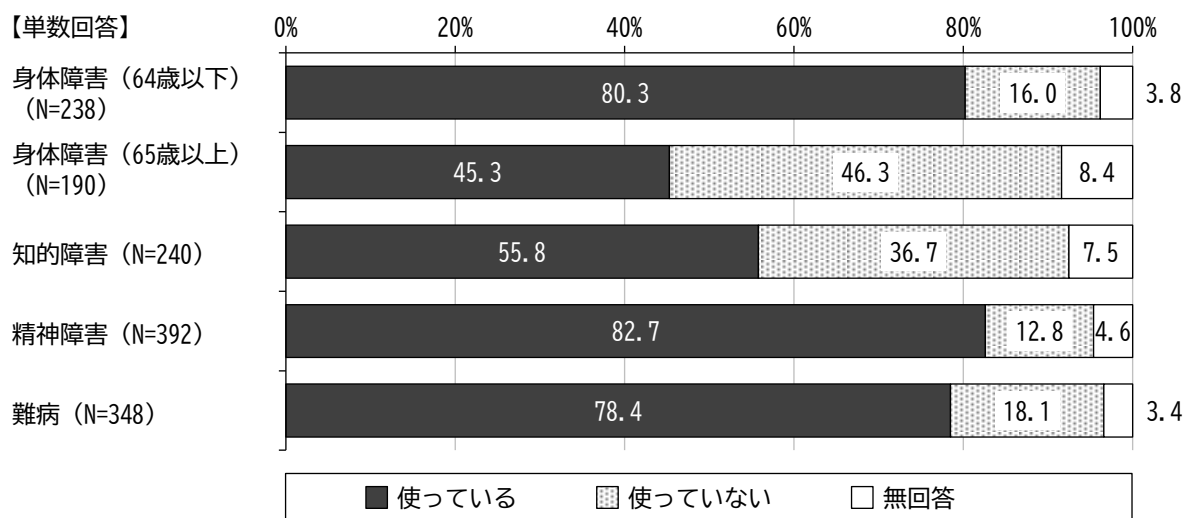


【複数回答】令和4年度



問 35 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。
(1つに○)

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどの使用状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「使っている」が多く、それぞれの割合は 80.3%，55.8%，82.7%，78.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「使っていない（46.3%）」が多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、精神障害で「使っている」が 8.7 ポイント高くなっている。



問 36 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、155 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア デジタルの活用	①イベント、講演等のオンライン化 ②デジタル化への対応 ③障害者同士の交流、働き方 ④情報収集 ⑤アプリの活用	70
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②市の情報提供の充実 ③防犯・防災情報の充実	58
ウ その他	①デジタル化の懸念	27
合計		155

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア デジタルの活用

①イベント、講演等のオンライン化

- LINE の機能で障害者、子育て、などそれぞれの属性登録ができるならそれを使って各人にあった情報を発信してもらえたらわかりやすくいい。図書館の読書記録帳みたいなのがあるといいなと思っています。（他自治体であるらしい）図書館のスタンプラリーのような催しに楽しく参加しているので、もう少し予算を回してほしいです。土日ワンオペ民にはおはなし会や児童館のオープンパークなどとてもありがたいです。（女性、30 歳代）
- たとえば、Web 上で俳句や川柳や和歌、小説、絵画、音楽、プログラミングなどのコンテストなどを開いて、障害者が誰でも応募できるようにする。それにより、障害者の生活の充実やモチベーションを高めることにつなげる。それが病気や障害の克服へとつながり、生きる意欲も湧くのではないかと思います。（男性、50 歳代）

②デジタル化への対応

- 口頭では伝えづらいこともスマートフォンなら伝えやすいかなと思ったりはする。ただスマートフォンが使えなくなった時の対処法も知りたいです。（故障したり、WiFi が使えないときなど。）（女性、50 歳代）
- 利便性を高める前の前提で使いこなせる勉強会みたいな機会をもっと増やしてほしい。（女性、60 歳代）
- スマートフォンやパソコンなど使用が（デジタル社会が）必然的になった。個々の状況に合わせた利用方法の講習、必要であれば出張講習なども必要かと思う。介助や介

護支援や種々サポートと合わせて行う事で効率化出来るのではと考える。(女性, 70 歳代)

③障害者同士の交流, 働き方

- 調布市内や多摩地域などで, 障害持っている方用の SNS を作る。ライングループや質問, スポーツなど全体的に色々な事が話せたり情報発信できる SNS。(女性, 30 歳代)
- 在宅ワークの種類が増えたら活用して仕事をしたい。(女性, 50 歳代)
- このアンケートのようにネット上でできる手続きが増えると, 対面や電話, 書類の郵送などを負担に感じる人の選択肢が増えていいと思った。また, 私は人とのコミュニケーションが苦手なので, 市内で共通の趣味をもつ人でつながれるなど, ネットでのやりとりから人とのつながりをつくることができればよいと思った。(男性, 20 歳代)

④情報収集

- 市政やサービスの確認に使いたいと思います。(女性, 80 歳以上)
- 障がいがある人に有益な情報を調べる。(女性, 40 歳代)

⑤アプリの活用

- スマホで障害手帳所有者と提示できる画面表示が欲しい。(男性, 60 歳代)
- 医療機関の受診などのサービスをスマートフォンやパソコンで受けたい。そのための安全なアプリ, プラットフォームを作って欲しい。(男性, 30 歳代)
- ・玄関ドアの開閉/施錠がスマホでできる(賃貸物件)・介護事業所(障害福祉)の空き, 受け入れ状況がウェブで見える・訪問系事業所のサービスの質やスタッフの評判が事前にウェブで見れる(民間の店舗の口コミがウェブで見れるのと同じように)
(女性, 40 歳代)
- スマートフォンにヘルプカード的な機能があればありがたい。(男性, 50 歳代)
- 障害者本人が簡単に福祉相談窓口にアクセスできたり, 医療機関の予約や診察などができるような機能があると嬉しいです。親亡き後も軽度知的障害者が地域で安心して暮らしていけるような分かりやすいもの。(女性, 20 歳代)

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 行政の手続き。(男性, 40 歳代)
- 住民票や課税証明書の取得をネットで出来るようになれば良いと思います。料金やクレジット, ペイペイなどで払えるようにして書類は郵送など(もしくはペーパーレス)。指定のメールアドレスにデータ送信など。難病の医療証の更新などもネットで手続きが出来るようになると助かります(写真を撮ってデータ送信など)。(女性, 40 歳代)
- 手帳のアプリ化(女性, 20 歳代)
- 福祉関連手続きのデジタル化。マイナンバーカードを活用するなどしてオンラインで完結できる手続きが増えると良い。(男性, 50 歳代)

②市の情報提供の充実

- 調布市の子育て、福祉で必要な情報を LINE 等の SNS で届ける。お店のバリアフリー、子連れ OK な所、子供の療育も民間でどんな所が有るか知りたい。療育はセンターに行っているが民間に有る事を知らなかった。(女性, 30 歳代)
- 歯科, 眼科, 耳鼻科, 皮膚科, 床屋など知的障害に理解のあるところを調べられるホームページ。(男性, 20 歳代)
- 施設のエレベーターなどの設置がわかるといいですね。(男性, 40 歳代)
- 少なくとも調布市の HP は昔から見づらい。過去のアーカイブが残っているのはいいことだと思うが検索性が低すぎる故に欲しい最新の情報が取捨しにくい。(女性, 50 歳代)

③防犯・防災情報の充実

- 緊急時にすぐ通知がくるようにしてほしい。(男性, 10 歳代)
- わかりやすい言葉で書かれた(小学生低学年～中学年)案内, 災害時の避難経路, どこに行けば良いのか, 誰に連絡を取れば良いのか, 電話が繋がらない時どうすれば良いのか, 困った時にどうしたら良いか(ここへ行って下さいなど)の発信を市民に向けにしてほしい。(男性, 20 歳代)

ウ その他

①デジタル化の懸念

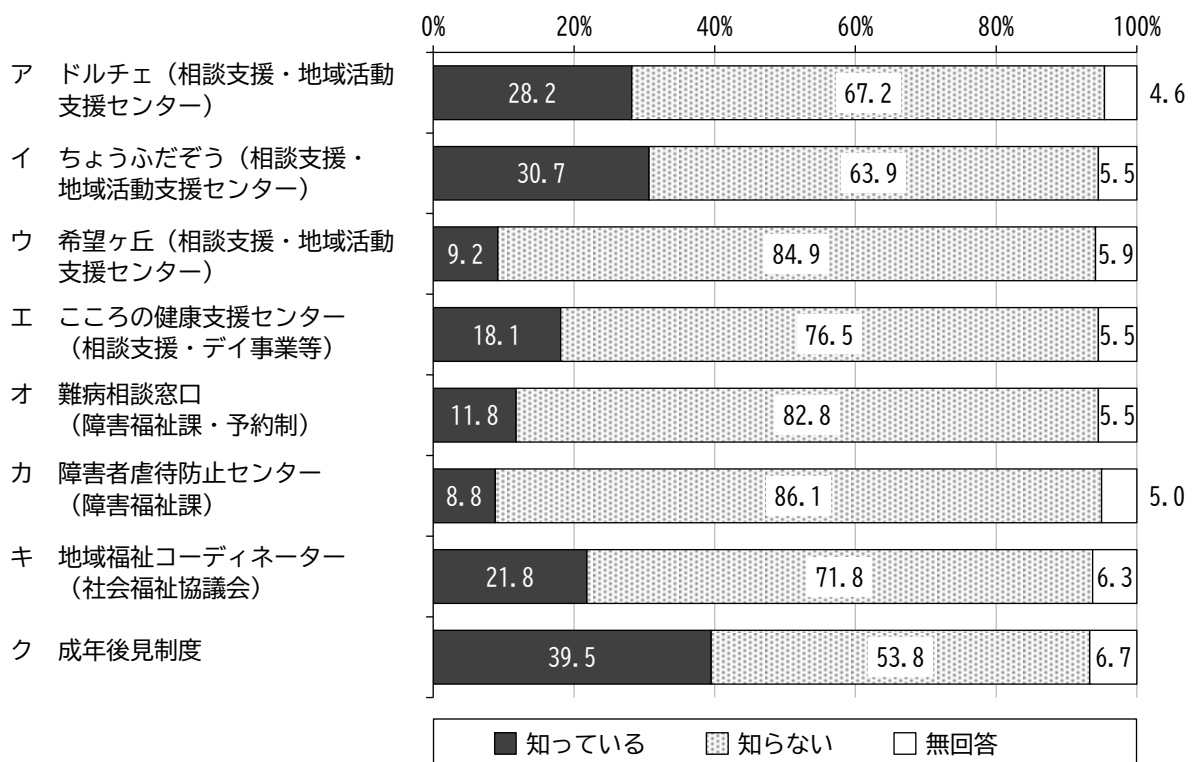
- 高齢になってくると, スマートフォンなどが難しくなってくる。やはりペーパーなど, 冊子なども必要だと思う。(女性, 60 歳代)
- スマートフォン, パソコンの使い方がよくわからない。冊子での情報提供を続けてほしい。(女性, 60 歳代)

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

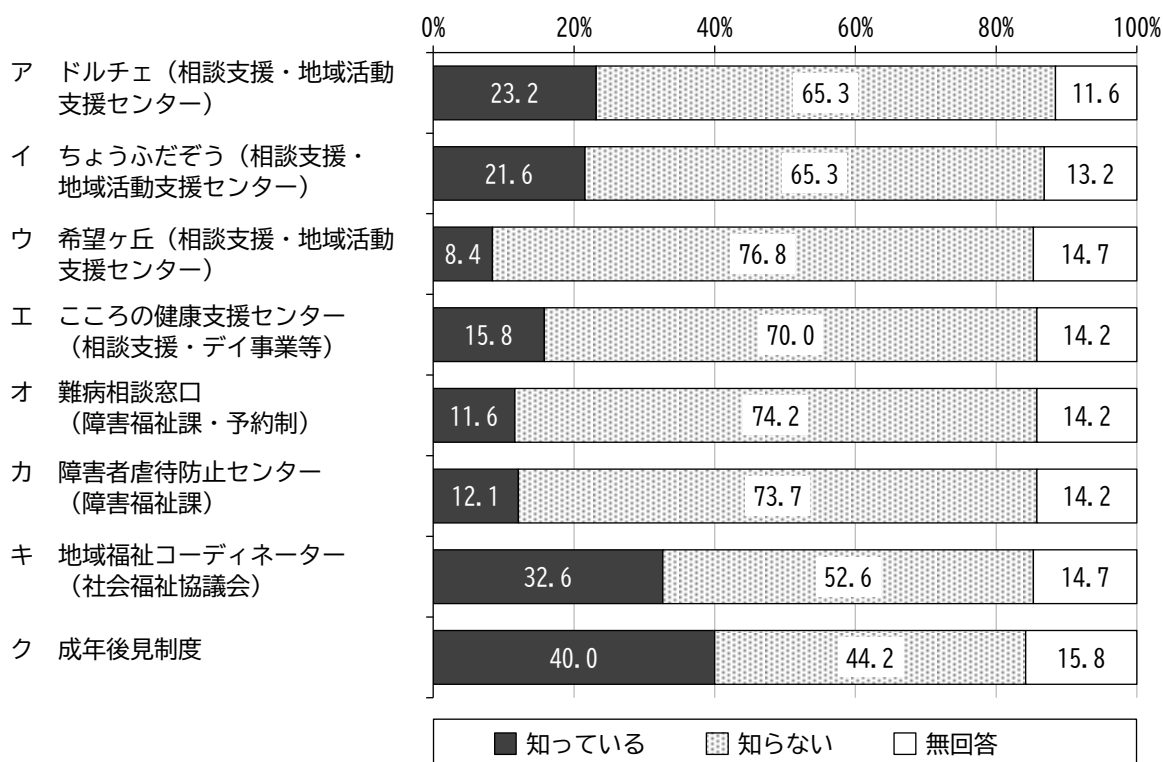
問 37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口や制度の認知度について、身体障害（64 歳以下）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が最も多く、〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（30.7%）〕,〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）（28.2%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が7割を超えている。
- 身体障害（65 歳以上）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（40.0%）〕が最も多く、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）（32.6%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 知的障害で「知っている」の割合は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（83.8%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（35.4%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 精神障害で「知っている」の割合は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）（48.0%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 難病で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（47.7%）〕が最も多く、〔オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）（40.8%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。

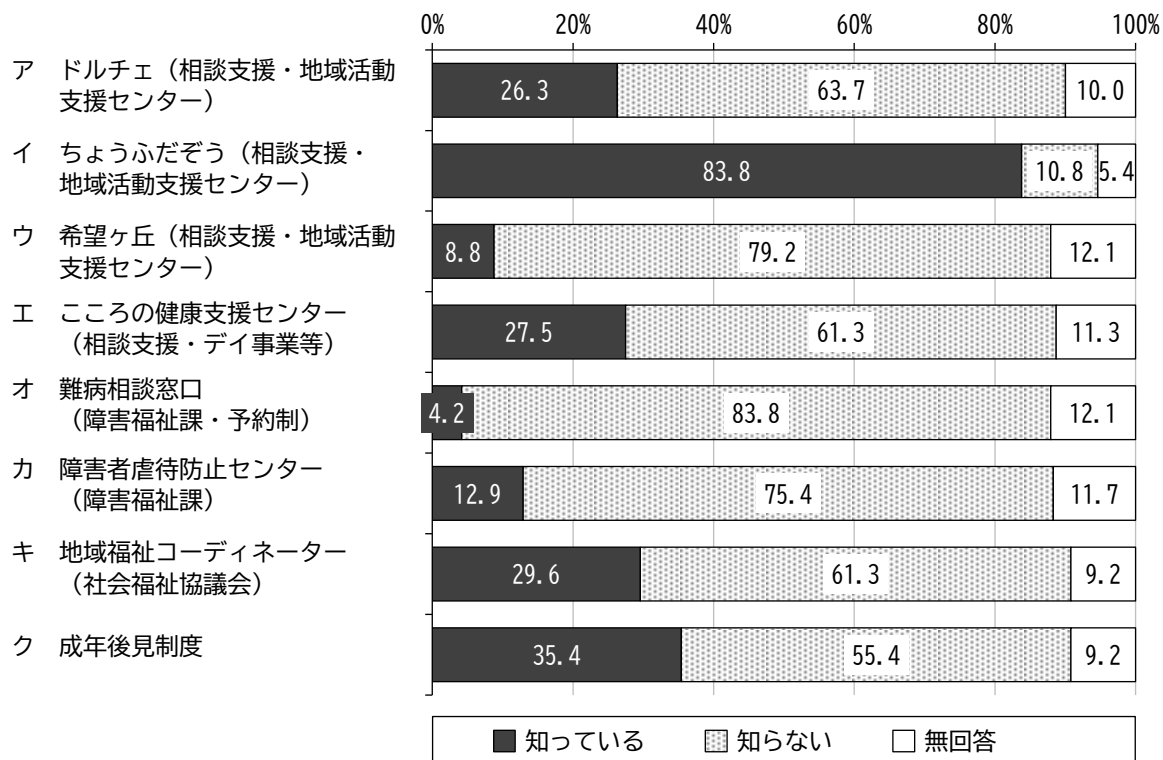
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



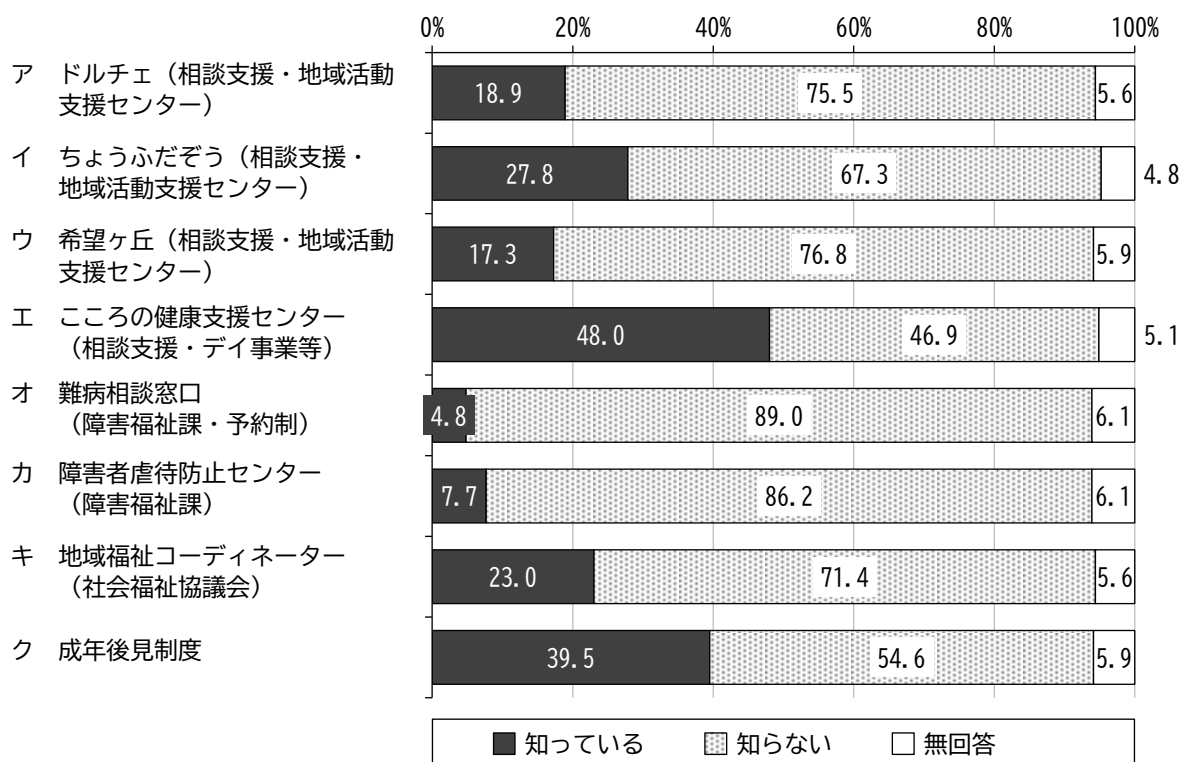
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



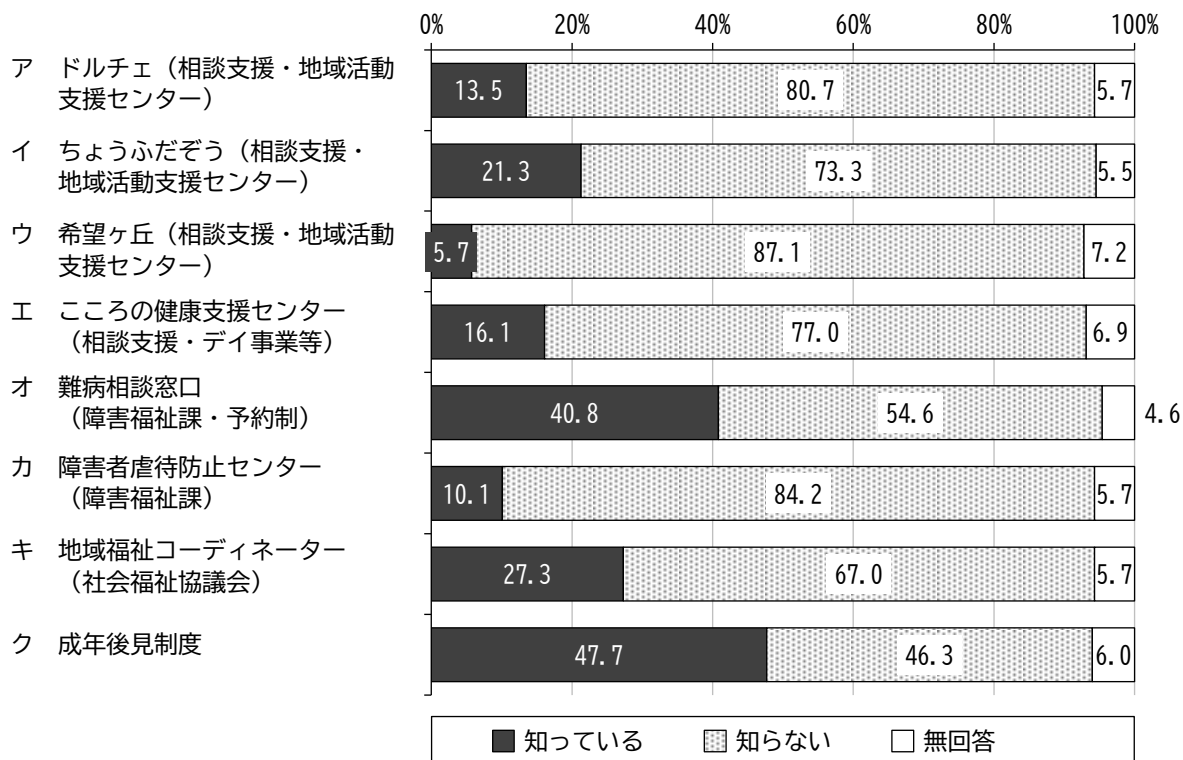
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害 (N=392)

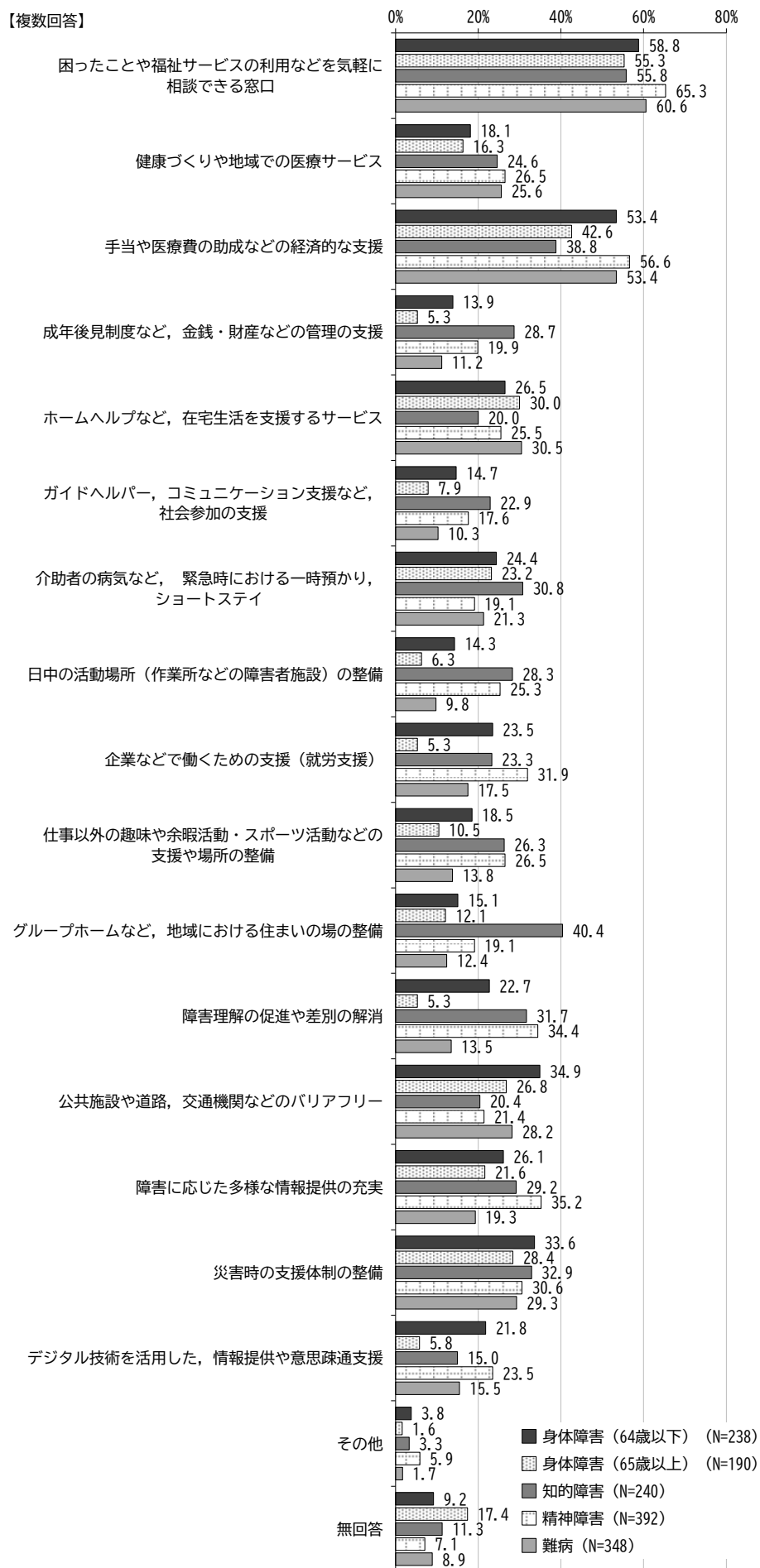


【単数回答】難病 (N=348)



問 38 調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多く、それぞれの割合は 58.8%，55.3%，55.8%，65.3%，60.6%となっている。また、「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病で 5 割を超えている。



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、429 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会、地域活動の活性化 イ 近所付き合い、支え合い ウ 障害への理解 エ イベント・交流	68
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実 エ 就労等への支援	140
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災・防犯の強化	73
取組番号の選択なし		32
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境・環境美化 イ 市の施策 ウ 共生社会の推進	116
合計		429

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会、地域活動の活性化

- 高齢の為に自治会役員が出来ないので自治会を脱退しました。もう少し自治会に入り易い方法を考えれば入会する人も多くなり各町内の自治会も活発化していくのではと思います。（女性，80 歳以上）
- 例えば町内会のイベントに参加したら α ポイント，企画側に参加すれば 3α ポイント付与される。知人をイベントに紹介したら $+\alpha$ ポイント付与されるなどの動機づけが良いかも。近隣との交流を求めていると思いますがそのきっかけがなく“他人”のままになっている。田舎では近所とのつながりがないと生活していけないが，やや都会ではそれが必須ではないから交流しない。（男性，60 歳代）
- 自治会役員が固定化しており，民主的な運営がなされていないため，自治会活動が活性化しない。（男性，40 歳代）

イ 近所付き合い、支え合い

- このような地域での支え合いが実現できるのなら大変嬉しいことです。普段から顔を知り、かけつけてくれるような仕組みを作るのにどうしたらいいか、密に話し合っていくような場が必要だと思います。ボランティアでなく、報酬が受け取れるようにしないと続かないです。(男性, 20 歳代)
- 「支え合い」は、助ける側と助けられる側を固定化しがちです。そうではなく、誰もが「助けることも助けられることもある」関係性を前提とした地域づくりが大切だと思います。たとえば、スマートフォンや LINE などを使って、「ちょっとした困りごとを地域で共有・頼み合える仕組み」(ミニマッチングアプリなど)を市がサポートすれば、孤立防止にもなります。(男性, 40 歳代)
- 障害の有無だけではなく、今後、高齢者が増えていく中で、家族だけで介護の問題を抱え込むのではなく、地域でうまく支え合う何かが必要になるように感じます。うまい提案が思いつきませんが、漠然と将来への不安を感じます。(女性, 40 歳代)

ウ 障害への理解

- 幼少期からの境界のない社会とのつながりが大切だと思います。学齢期のインクルーシブ教育に人的、物的な支援に力を入れてほしいです。健常、障がい問わず全ての人々(教職員、保護者)にも初めからいろいろな子どもがいることが当然という環境が重要だと思います。実際、我が家では、かなり無理を言って交渉し、通常級の小学校へ行きました。行政側の心配をよそに、いじめられることもなく、危険な目にも合わず過ごすことができました。大人が率先して理解し、子どもたちを大事にする姿を児童・生徒たちは見て育ちます。(女性, 20 歳代)
- 障がい者関係のイベント等に活気などが見られない。市民への講演会や学習会などが必要ではないか。(男性, 40 歳代)
- 障害者が参加できる場を増やし、社会活動を通して、自然と障害理解が深まるような社会が望ましいと思います。教育によって障害を理解するなどのやり方では、障害者を特別な種類の人間として扱うことになりがちです。そうではなく、多様性を当たり前とする社会の方が自然でバリアフリーな社会だと感じます。(女性, 30 歳代)

エ イベント・交流

- 誰でも参加しやすいイベント。(女性, 10 歳代)
- 誰でも相談できない。独立になりがち。同じ病気の人達のコミュニティーがあるなら紹介して欲しい。同じ状況にいる人達の情報があれば、様々な情報交換をしてみたい。(男性, 50 歳代)
- 障害者の問題にとどまらず、調布市は、一般の市民サークル等をさらに充実させてほしい。また、精神障害者が交流できる機会を増やしてほしい。(男性, 50 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- オンライン窓口を充実させてください。(男性, 30 歳代)
- 申請の仕方が毎年変わって分かりづらい。色々の方をパターン化して必要書類を明確にしてほしいです。(女性, 70 歳代)

- 目に見える障害の支援ばかりが充実している。(男性, 20 歳代)
- 親が元気なうちは何とかなっているが, 一人になった時に仕事や生活面で立ち行かなくなることが予想できます。特に軽度知的障害の女性を取り巻く環境はとても厳しいです。そのような時に安心して相談, 支援できるようなサービスを充実させて欲しいです。(女性, 20 歳代)
- 精神障害者にももっと配慮(タクシー券配布など)してほしい。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- もっと気軽に相談出来る場所や判りやすいサービスがあると良いと思う。予約や時間の確保が大変。知らないサービスとかもあると思う。知る機会もない。(女性, 40 歳代)
- 市報の内容に, 福祉サービスの事をもう少し情報を詳しく早く伝えてほしい。問い合わせ初めて知るサービスが多いです。事前に知る方法を考えてほしいです。よろしくお願いします。(男性, 60 歳代)
- 市内のサービスだけでなく, 都や国の補助やサービスをわかりやすく一覧表にしてもらえば, 障害者自らそのサービスにアクセスすることもできるかもしれない。経済的負担も減るかもしれない。自分に使えるサービスがあっても知らないことは結構あった。(女性, 50 歳代)

ウ 相談体制の充実

- LINE などでも気軽に文字入力でも相談できるようになれば相談する人も増えそうだと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談がしにくい状態なので, もっと人手をふやしてほしい。(女性, 80 歳以上)
- 障害者の相談に親身になってくれる窓口, 相談員が必要だと思います。社会福祉法人, 障害福祉課など多々ありますが相談内容によっては聞いているだけで, 問題解決にはならないのが現実です。(男性, 40 歳代)
- 障害福祉課の窓口がいつも混んでいてかなり待つ。長くなりそうな「相談」と書類関係の提出のみの窓口を別にして欲しい。(女性, 20 歳代)
- ワンストップで相談ができる所が欲しい。全てまるっとまとめて相談できたらいいのに。何が困っているのか自分ですらわかっていない事もある。障害がある事を特別な事として扱わないで, 困ってる事を普通に聞いて欲しい。(女性, 50 歳代)

エ 就労等への支援

- 障害者として働くと, 賃金の安さに不安がとてもあります。一人で生活するとなるとかなり苦しいのではないかな? 物価は上昇している現在, 障害者の賃金は低いままでは不安しかありません。(男性, 10 歳代)
- 障がいのために以前のように働けなくて困っている人の相談や具体的な支援をお願いしたい。(女性, 40 歳代)
- こころの健康支援センターを利用したことはあるが, 面談が主であり長期離職から復職をしようとしたときに再就職支援機関としての役割としては心もとない感じを受けている。民間の就職支援サービスを利用しようとするとならず就労移行支援所への通所を確認される故, 調布市内に支援所が少ない点を改善してほしい。(男性, 40 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 狹隘道路の拡幅を含め、市内のインフラを強化して欲しい。(男性, 30 歳代)
- 歩道の幅が狭く、車椅子の移動が難しい場所があり、やむなく車道を使うことがあり、危険を感じる。駅前に介護タクシーの駐車(駐車場)が無く乗り降りが難しく、不便。(女性, 60 歳代)
- 歩道幅員の拡張(男性, 60 歳代)

イ バリアフリー化

- 一般に歩道の幅員が十分ではない。基本的には道路全体の幅を拡げるべきであろうが時間と費用が掛かる。車道を一方通行化して用地を生み出し歩道を拡げる事も考えて良いのでは？特に旧甲州街道の改善を望む。但し歩道が広くなった場合は自転車の暴走対策が重要。グリーンホールをしばしば利用するがバリアフリーが考慮されていない。特に 2 階席へのアクセス。建て替えるしかないのかと思うが計画を具体化して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 駅のホームにホームドアをつけていただければ、目が見えない人も安心して通勤できると思います。(女性, 30 歳代)
- 駅前などの乗り継ぎ拠点のバリアフリー化は進んでいると思うが、市街地や居住地のユニバーサルサービスはまだ途上。幹線道路の整備を急ぎ、ネットワークとして移動のしやすい空間づくりを進めてほしい。都市防災上も重要なので、急ぐべき。(男性, 60 歳代)

ウ 防災・防犯の強化

- 問 38 で 15 を選択しましたが、災害時避難所の障害者用のスペース、部屋の確保や配慮をして欲しいです。(女性, 50 歳代)
- 災害時の避難場所が不安である。車いすでそこまでたどりつけるか、支援物資があったところで必要なものが手に入るのか(介護食・オムツ等)。心にバリアがある人もない人も同じ空間で同様に避難するのは精神的にきついと思う。(男性, 30 歳代)
- 災害時の対応方法がよくわからない。(障害者向けの案内資料。) 障害者向けの案内冊子を充実してほしい。(女性, 60 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境・環境美化

- だれでもトイレの増設希望。(男性, 60 歳代)
- バスで主に行動しているが、本数が減ったこと。(女性, 80 歳以上)
- 市内の道路工事の進行が遅過ぎる。(男性, 10 歳代)

イ 市の施策

- 作業所の数が少ないと思ってます。工賃も少ないのでこのようなサービスだけを利用しているのは不安です。当事者同士の交流も有って無いようなものなので孤立する人は多いと思います。楽しく自信が持てる場というのはハードルが高いのかもしれないが一人一人が生きていて良いと思えるような場が入り易い所に有れば救いになる人もいるかもしれないと思います。(女性, 20 歳代)

- 障害者手帳カードタイプを更新する際、申請は 3 ヶ月前からの受付にも関わらずカードの発行に 4 か月も掛かってます。手帳の空白期間が出来る事で不利益を受けてます。常識的に考えて申請を前倒しするかカード発行を早めるべきだと思いますが窓口でその旨を伝えても障害者は不利益を受けて当然という対応をされますので是正願います。(女性, 40 歳代)
- 病気により就労できない為に常に経済不安があります。お互いに支え合う事や安心して暮らす為に精神的余裕を持てるように経済的支援をお願い致します。生活に困っている状況では人に優しくする事も他の人を考えて支える余裕が持てません。病気になってから本当に生きて行く事が大変です。(男性, 40 歳代)
- 住み慣れた家でできるだけ長く快適に暮らすために、介助者の負担を減らすための用具等の補助やサービスを充実してほしい。障害者が安全安心に暮らすためには、それを支える周囲の人や環境を整えなければ無理である。(男性, 30 歳代)
- 手続等がスマホや PC に代わり、少し取り残された様に感じます。丁寧なやり方を教えてほしいと思います。(女性, 60 歳代)

ウ 共生社会の推進

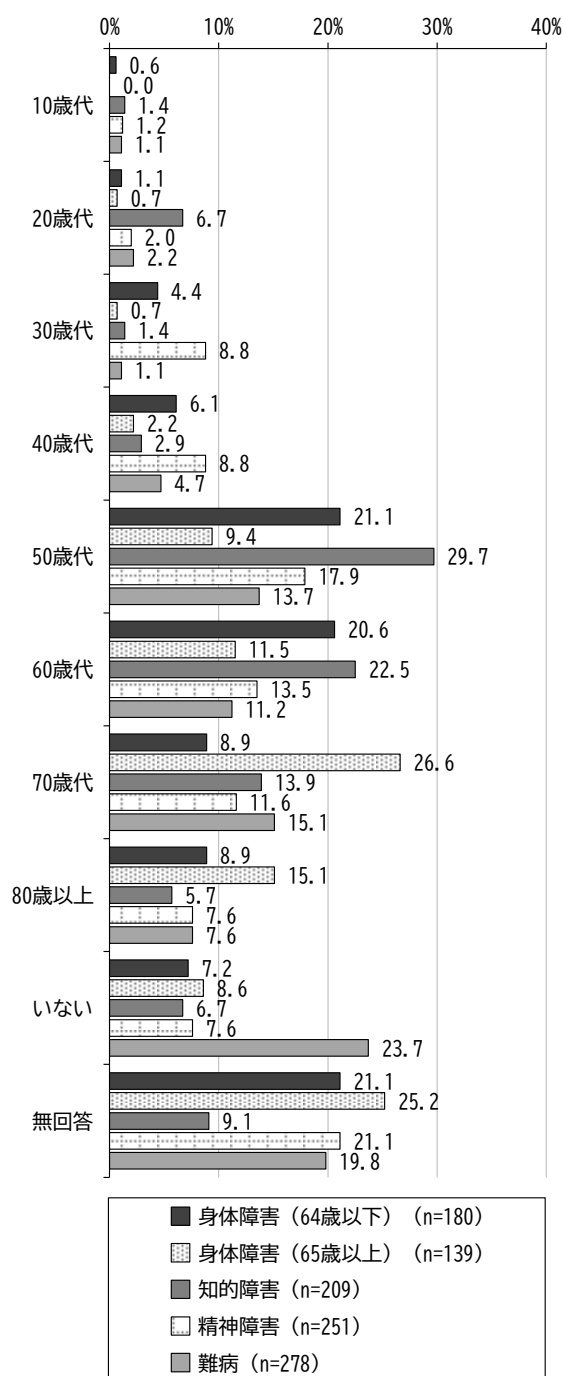
- 親亡き後の住まい、暮らしに重点を置いて欲しいです。既存のグループホームでは限界があります。プライバシーが守られ、尚且つ暮らしや健康が守られる新しい仕組みが必要です。サテライト型のグループホームをもう少し変化させながら、グループホームを出ていなくてすむように障害者個人個人に合わせた住まいが必要です。(男性, 20 歳代)
- 作業所の製品を調布パルコ、「福祉おり」で見たりふれたりする機会がありますが、もっと作業所の存在を市民の方々に知っていただけたらと思います。(女性, 20 歳代)
- もっと心のバリアフリー、ユニバーサルデザインが世の中に広がってどんな立場の人でも生きやすい社会になってほしいです。(女性, 40 歳代)

9 ご家族におたずねします

問 40 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。（1つに○）

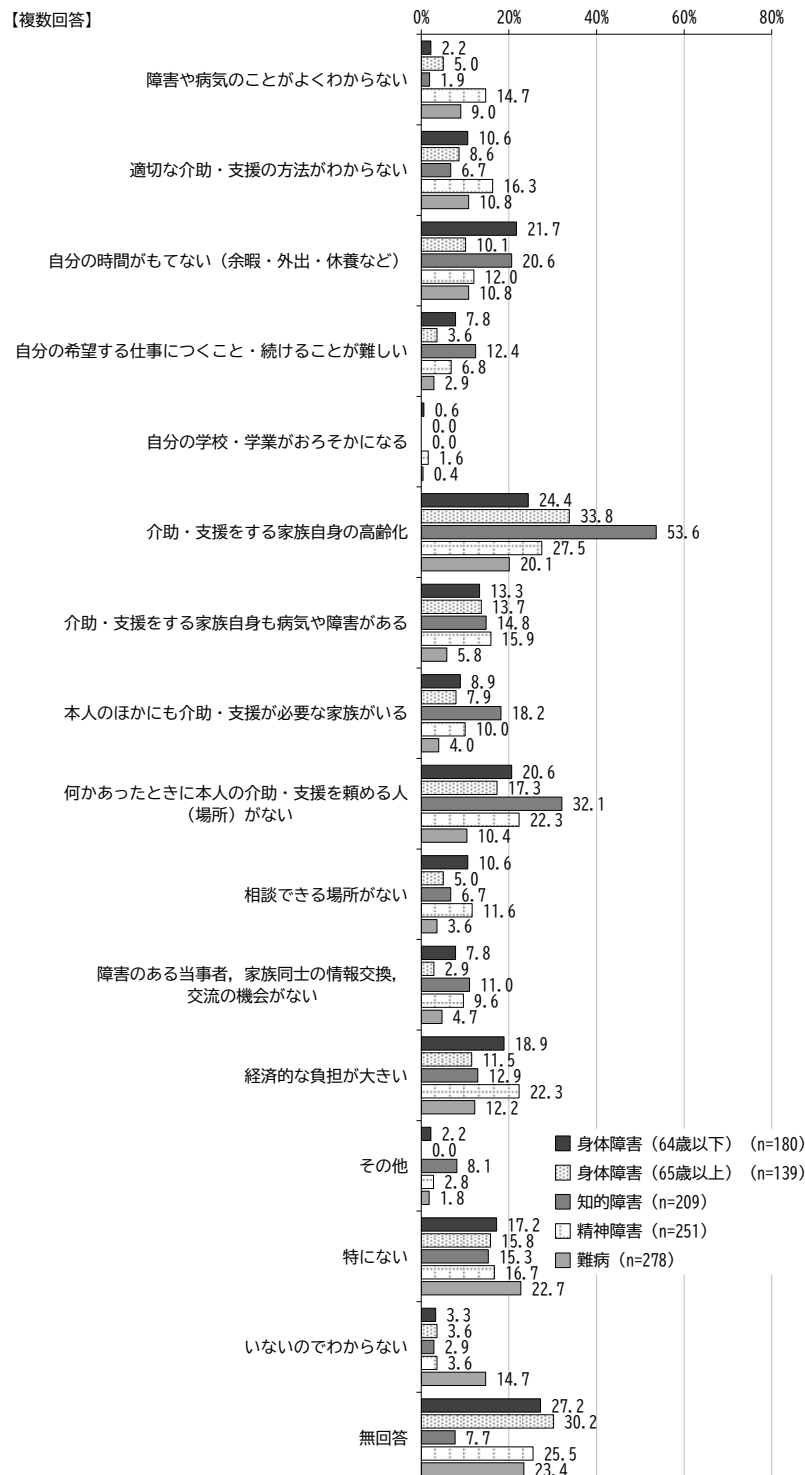
- 主に介助や支援をしている人の年齢は、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害は「50歳代」が最も多く、それぞれの割合は21.1%，29.7%，17.9%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「70歳代（26.6%）」，難病は「いない（23.7%）」が最も多くなっている。

【単数回答】



問 41 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

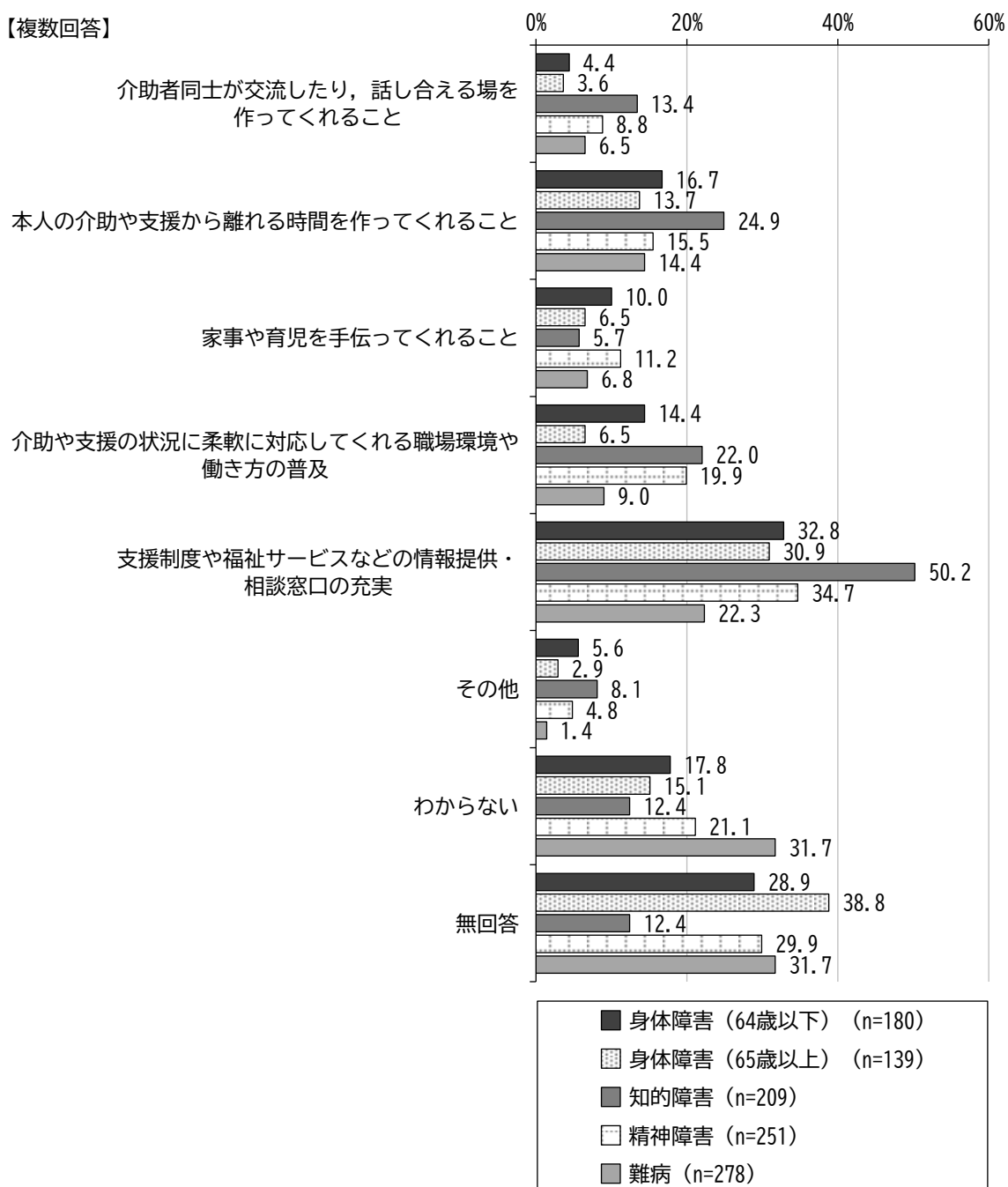
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く、それぞれの割合は 24.4%，33.8%，53.6%，27.5%となっている。
- 難病は「特にない（22.7%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が3割を超えている。



問 42 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

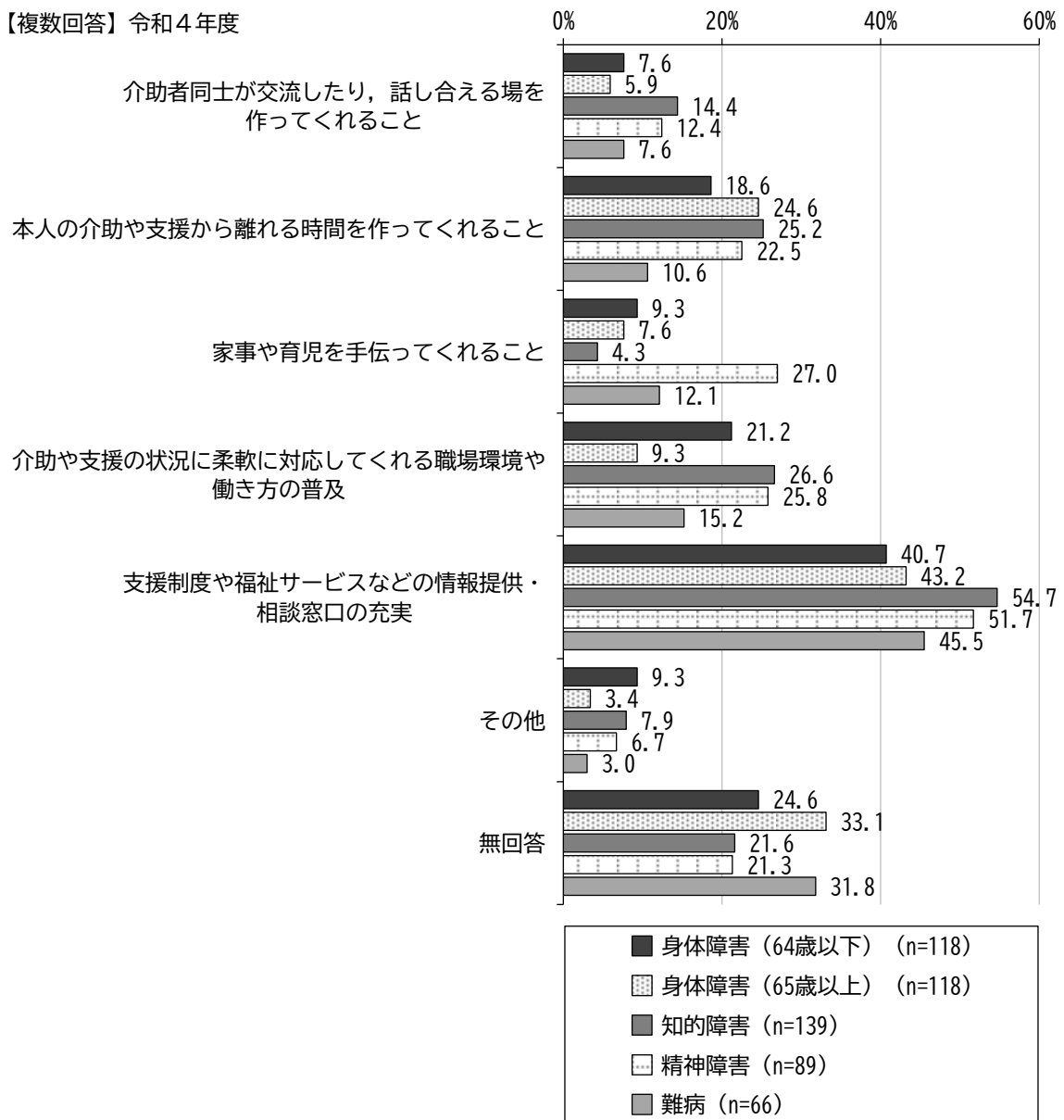
- 介助する人への支援として力を入れてほしいことは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多く、それぞれの割合は 32.8%、30.9%、50.2%、34.7%となっている。
- 難病は「わからない（31.7%）」が最も多くなっている。

【複数回答】



※「わからない」は今回調査のみの選択肢

【複数回答】 令和4年度



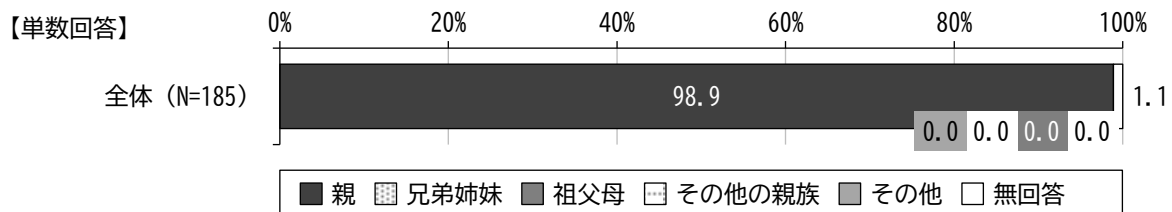
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします

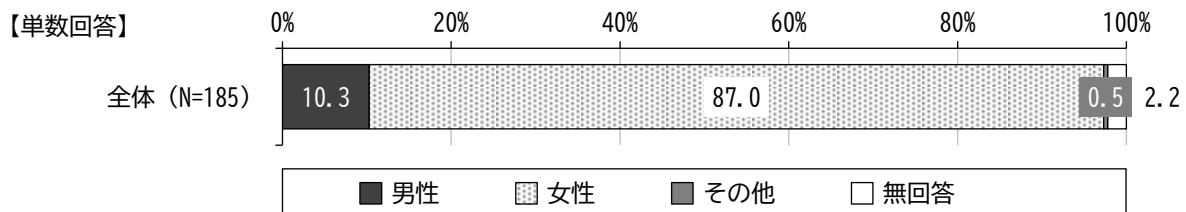
問1 あて名のお子さんからみて、保護者（回答者）はどなたですか。（1つに○）

○ 回答者は、「親（98.9%）」が最も多くなっている。



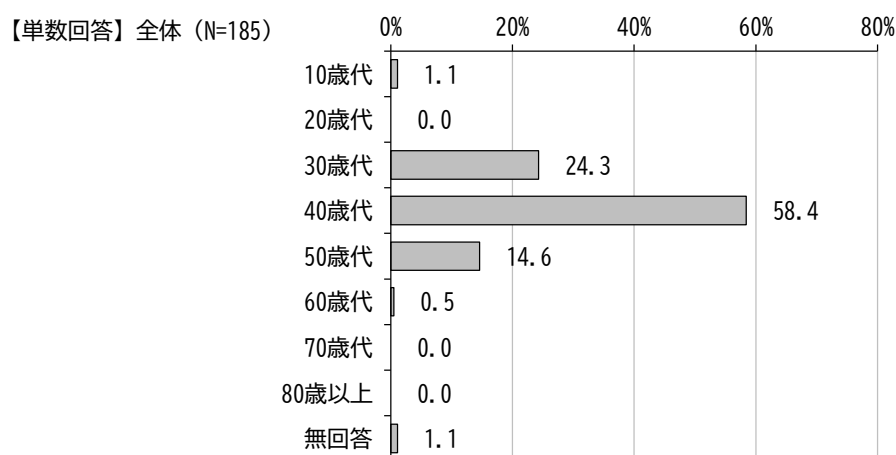
問2 保護者の性別を教えてください。（1つに○）

○ 保護者の性別は、「男性（10.3%）」、「女性（87.0%）」、「その他（0.5%）」である。



問3 保護者の年齢を教えてください。（1つに○）（令和7年10月1日現在）

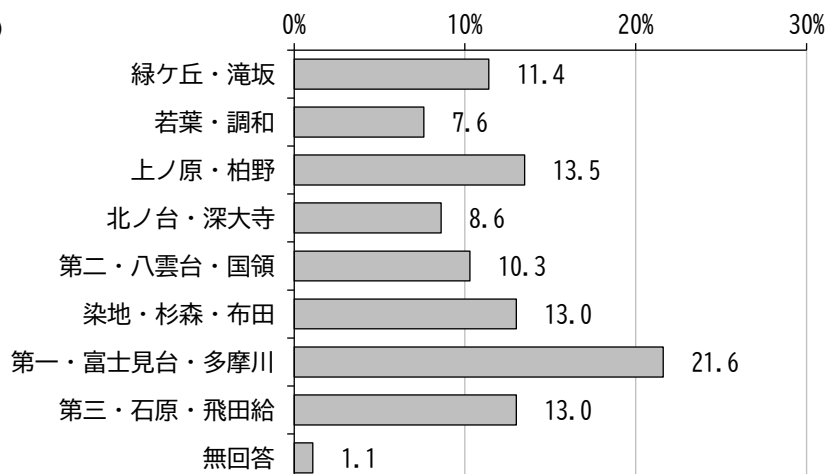
○ 保護者の年齢は、「40歳代（58.4%）」が最も多く、「30歳代（24.3%）」、「50歳代（14.6%）」が続いている。



問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地(福祉圏域)は、「第一・富士見台・多摩川(21.6%)」が最も多く、「上ノ原・柏野(13.5%)」、「染地・杉森・布田(13.0%)」「第三・石原・飛田給(13.0%)」が続いている。

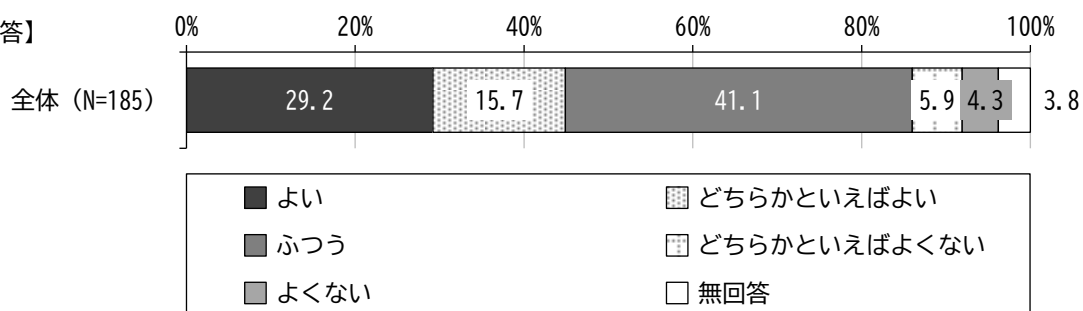
【単数回答】全体(N=185)



問5 あなた(保護者)は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

- 保護者の健康状況は、「ふつう(41.1%)」が最も多く、「よい(29.2%)」、「どちらかといえばよい(15.7%)」が続いている。

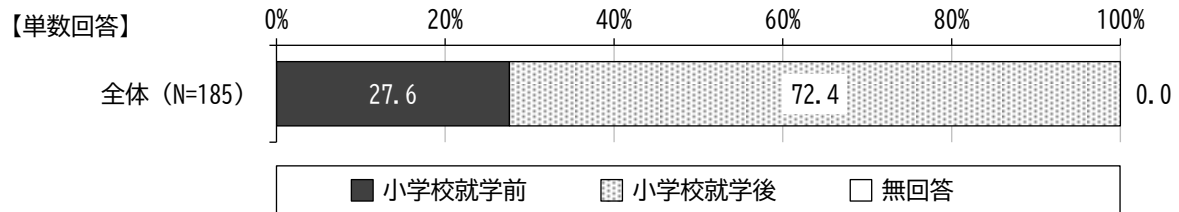
【単数回答】



2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

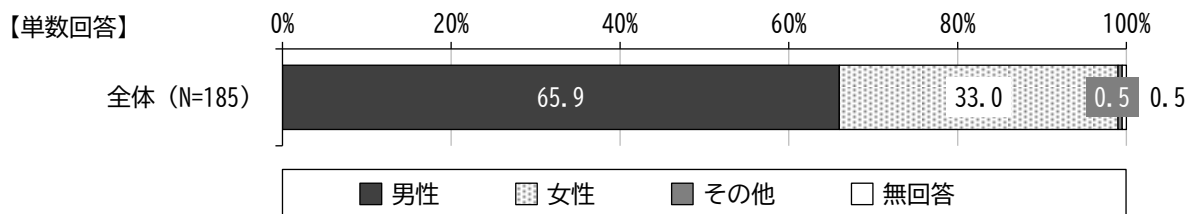
問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

○ お子さんの就学状況は、「小学校就学前 (27.6%)」、「小学校就学後 (72.4%)」である。



問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

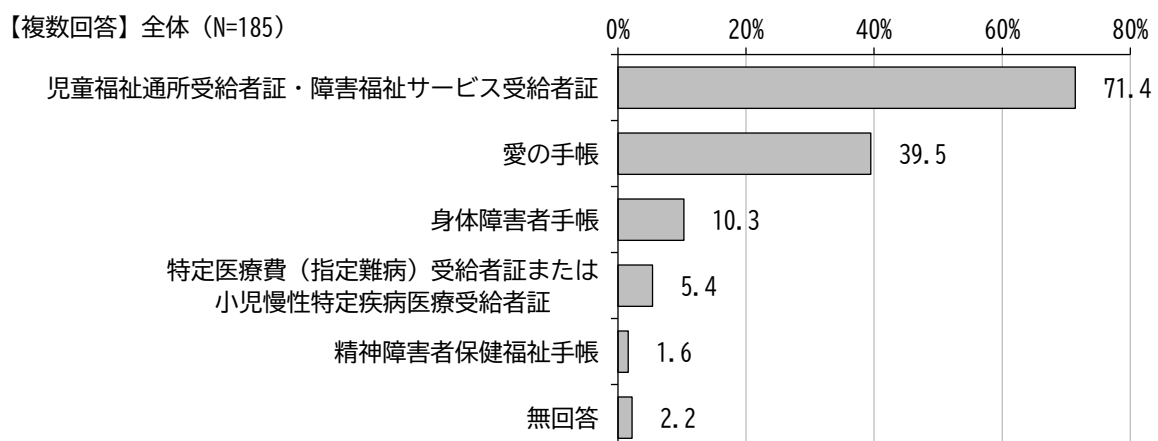
○ お子さんの性別は、「男性 (65.9%)」、「女性 (33.0%)」、「その他 (0.5%)」である。



問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①持っている手帳の種類

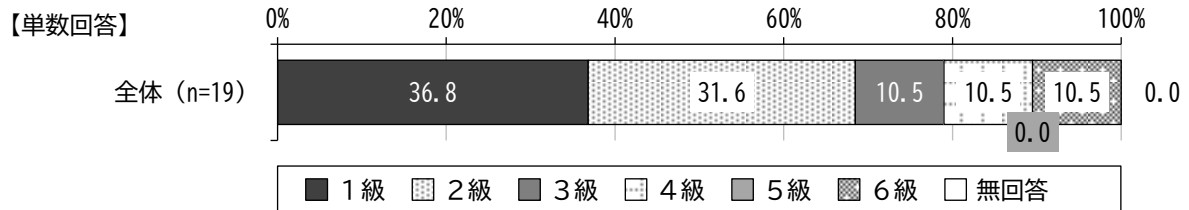
○ お子さんの持っている手帳の種類は、「児童福祉通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (71.4%)」が最も多く、「愛の手帳 (39.5%)」、「身体障害者手帳 (10.3%)」が続いている。



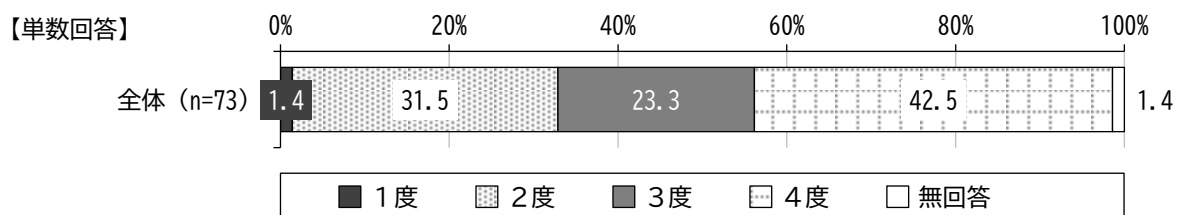
②持っている手帳の等級

○ お子さんの手帳の等級は、身体障害者手帳で「1級（36.8%）」、愛の手帳で「4度（42.5%）」、精神障害者保健福祉手帳で「3級（66.7%）」が最も多くなっている。

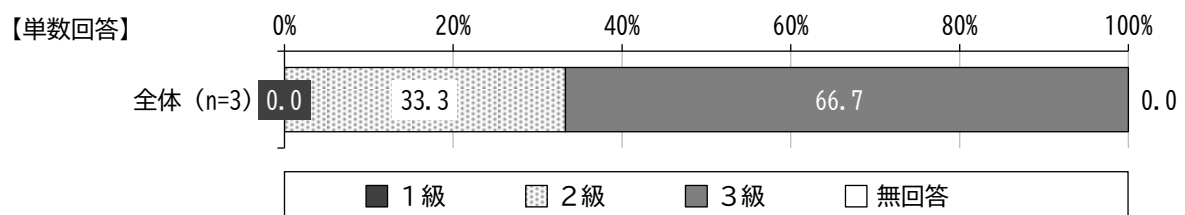
・身体障害者手帳



・愛の手帳

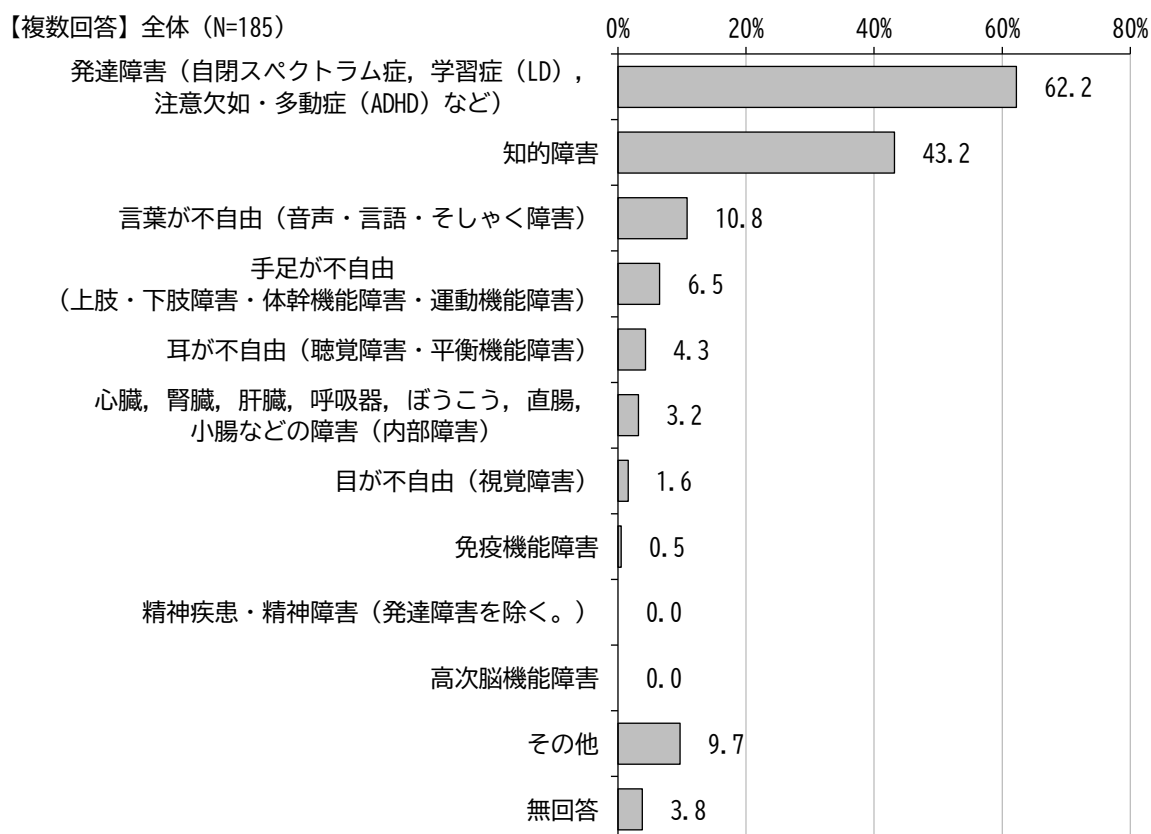


・精神障害者保健福祉手帳



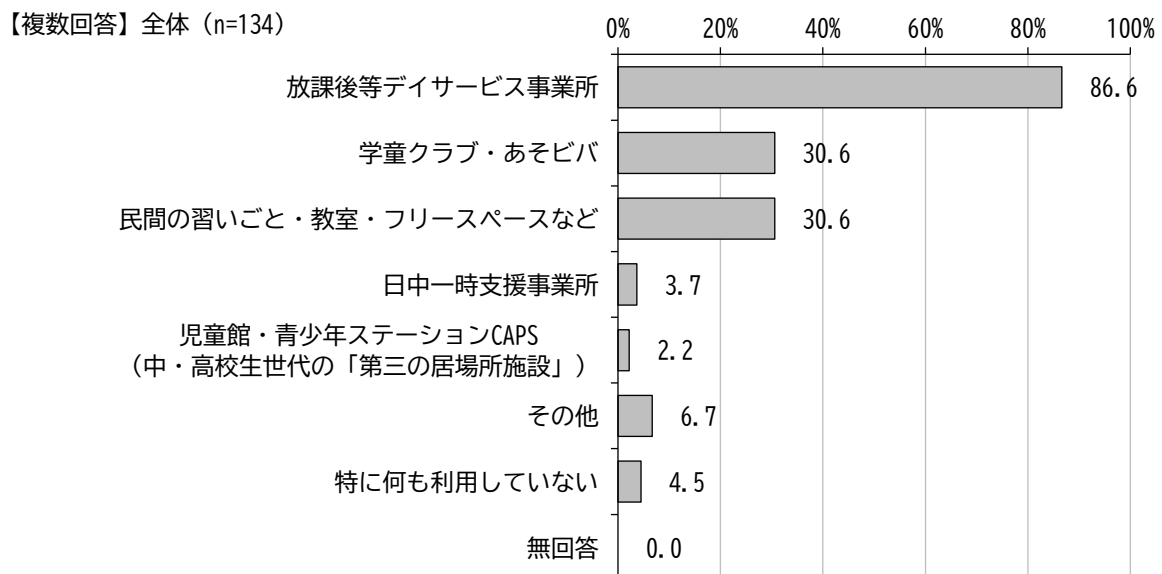
問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
 ※特定医療費(指定難病)受給者証, 小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は,
 「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

- お子さんの病気や障害の種類は、「発達障害(自閉スペクトラム症, 学習症(LD), 注意欠如・多動症(ADHD)など)(62.2%)」が最も多く, 「知的障害(43.2%)」, 「言葉が不自由(音声・言語・そしゃく障害)(10.8%)」が続いている。



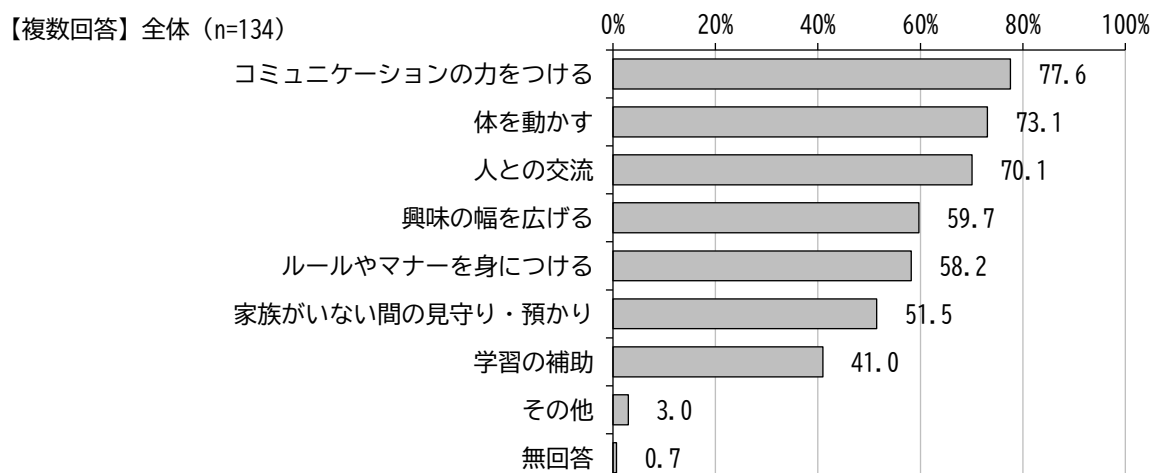
問 10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過ごしていますか。(いくつでも○)

- 学校以外のサービス、施設等の利用状況は、「放課後等デイサービス事業所 (86.6%)」が最も多く、「学童クラブ・あそびバ (30.6%)」「民間の習いごと・教室・フリースペースなど (30.6%)」が続いている。



問 11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。(いくつでも○)

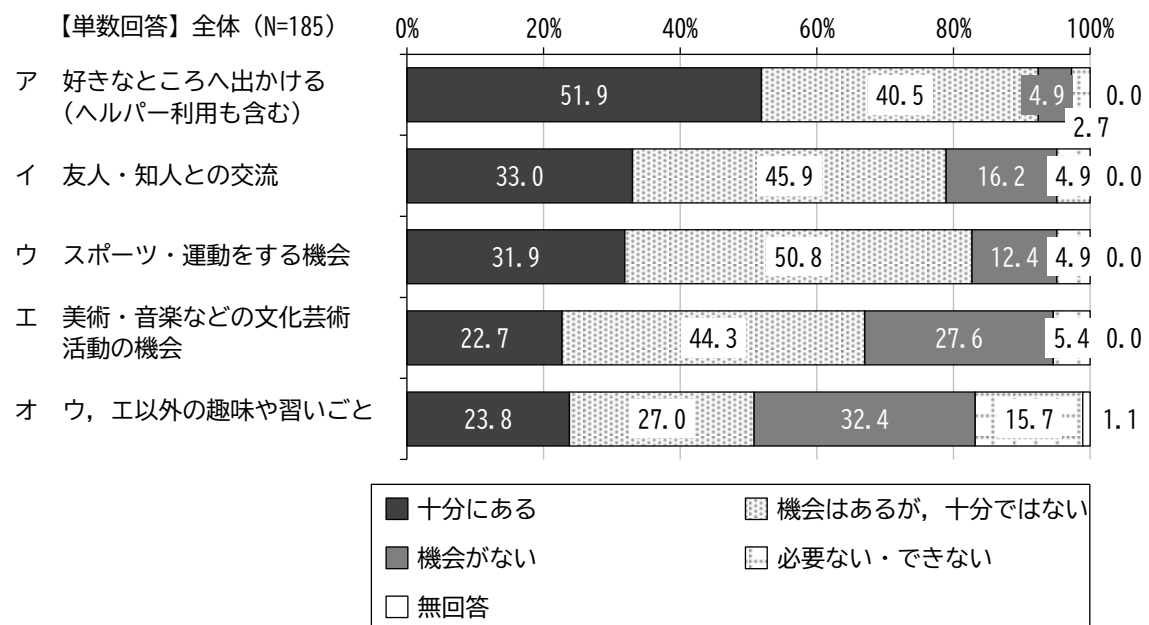
- 保護者がお子さんの放課後活動に求めていることは、「コミュニケーションの力をつける (77.6%)」が最も多く、「体を動かす (73.1%)」,「人との交流 (70.1%)」が続いている。



問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
(それぞれ1つに○)

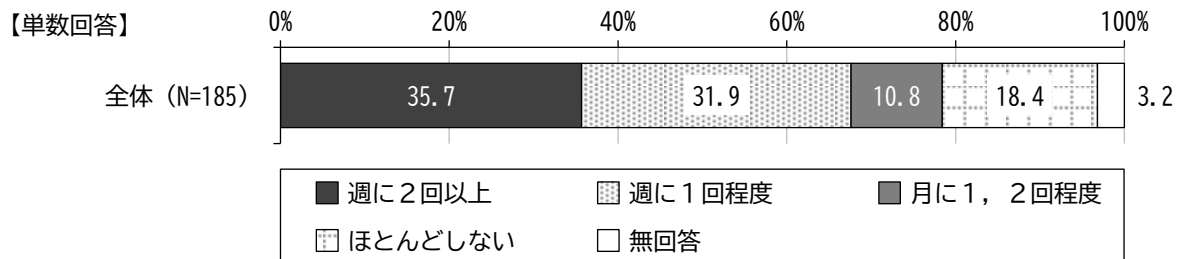
- お子さんの普段の生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、[ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（51.9%）] が最も多くなっている
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、[イ 友人・知人との交流] [ウ スポーツ・運動*をする機会] [エ 美術・音楽などの文化芸術活動*の機会] [オ ウ、エ以外の趣味や習いごと] となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。



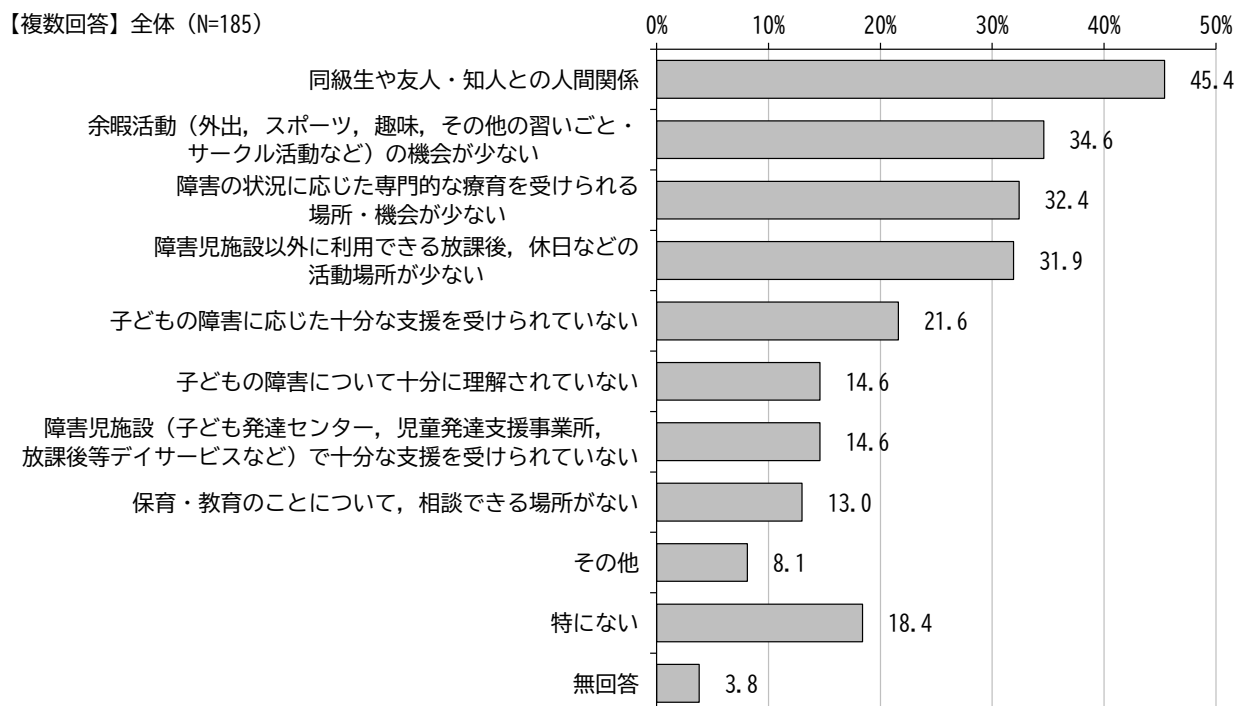
問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。
(1つに○)

- お子さんのスポーツ・運動をする頻度は、「週に2回以上 (35.7%)」が最も多く、「週に1回程度 (31.9%)」、「ほとんどしない (18.4%)」が続いている。



問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

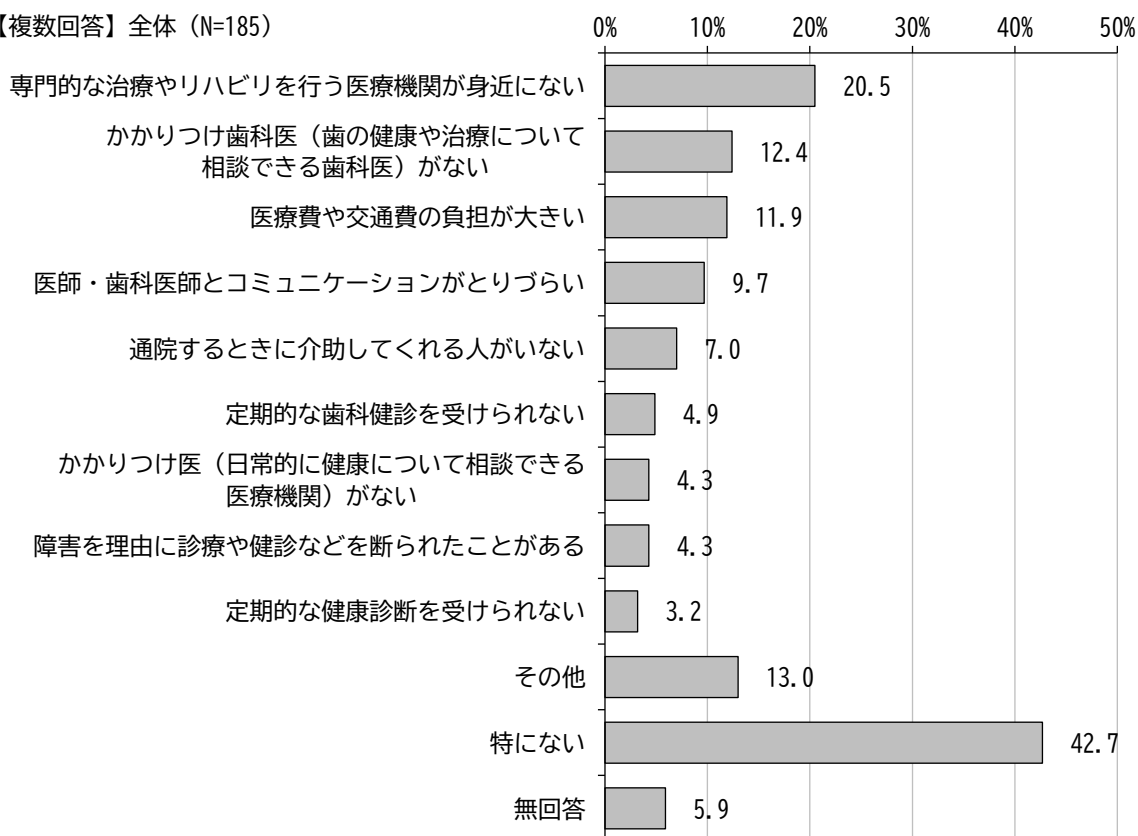
- お子さんの日常生活で不安や課題と感じていることは、「同級生や友人・知人との人間関係 (45.4%)」が最も多く、「余暇活動 (外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など) の機会が少ない (34.6%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない (32.4%)」が続いている。



問 15 あて名のお子さんについて、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

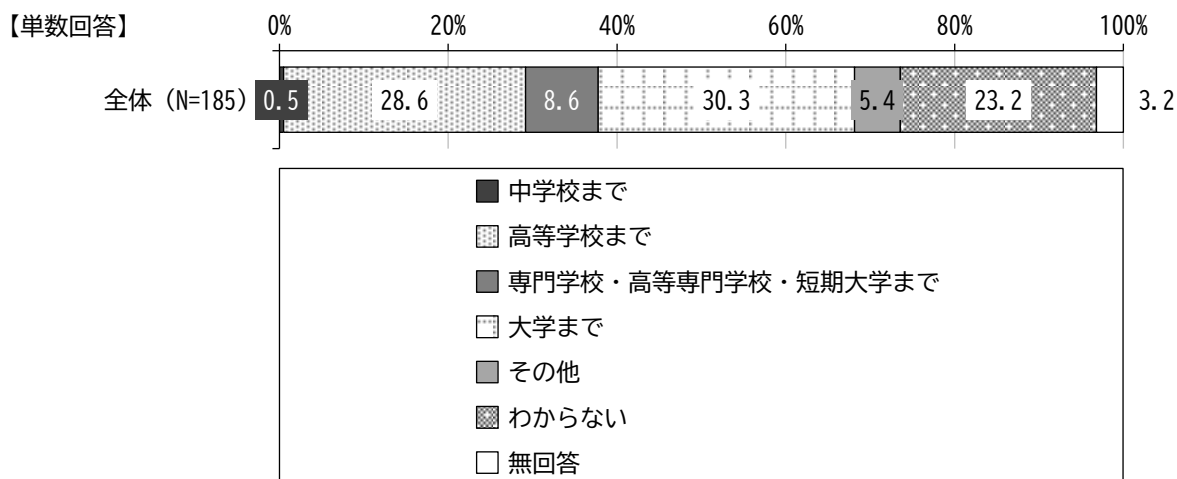
- お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（42.7%）」が最も多く、「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（20.5%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



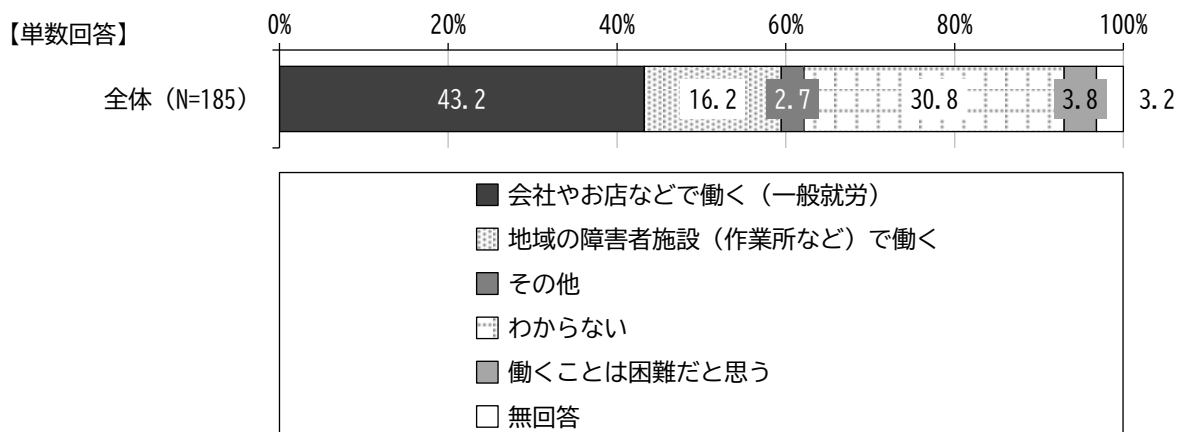
問 16 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの進学先は、「大学まで (30.3%)」が最も多く、「高等学校まで (28.6%)」,「わからない (23.2%)」が続いている。



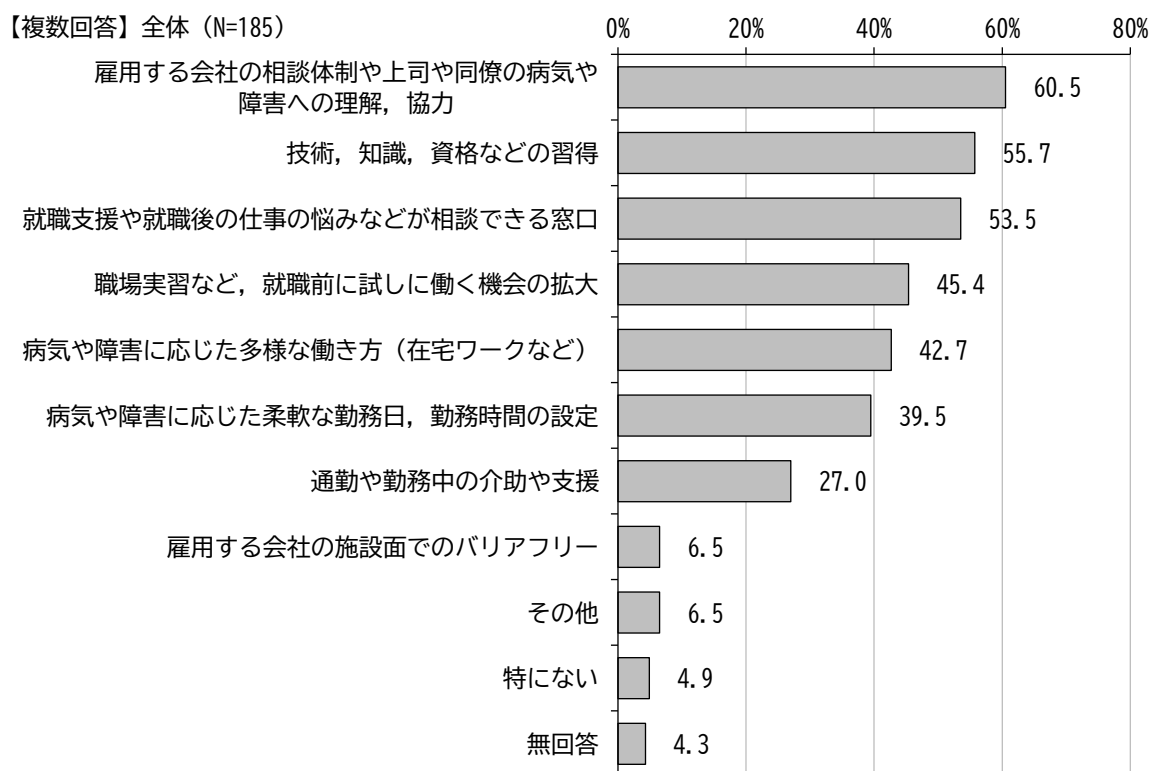
問 17 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの働き方は、「会社やお店などで働く (一般就労) (43.2%)」が最も多く、「わからない (30.8%)」,「地域の障害者施設 (作業所など) で働く (16.2%)」が続いている。



問 18 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。
(いくつでも○)

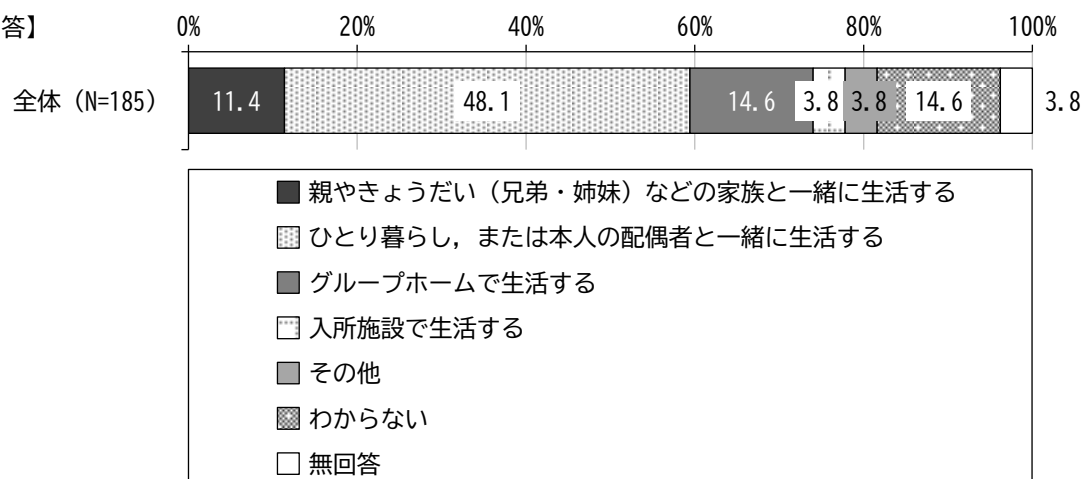
- お子さんが仕事をするために必要なことは、「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解，協力（60.5%）」が最も多く，「技術，知識，資格などの習得（55.7%）」，「就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口（53.5%）」が続いている。



問 19 将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。（1 つに○）

- 希望するお子さんの暮らし方は、「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する（48.1%）」が最も多く、「グループホームで生活する（14.6%）」「わからない（14.6%）」が続いている。

【単数回答】

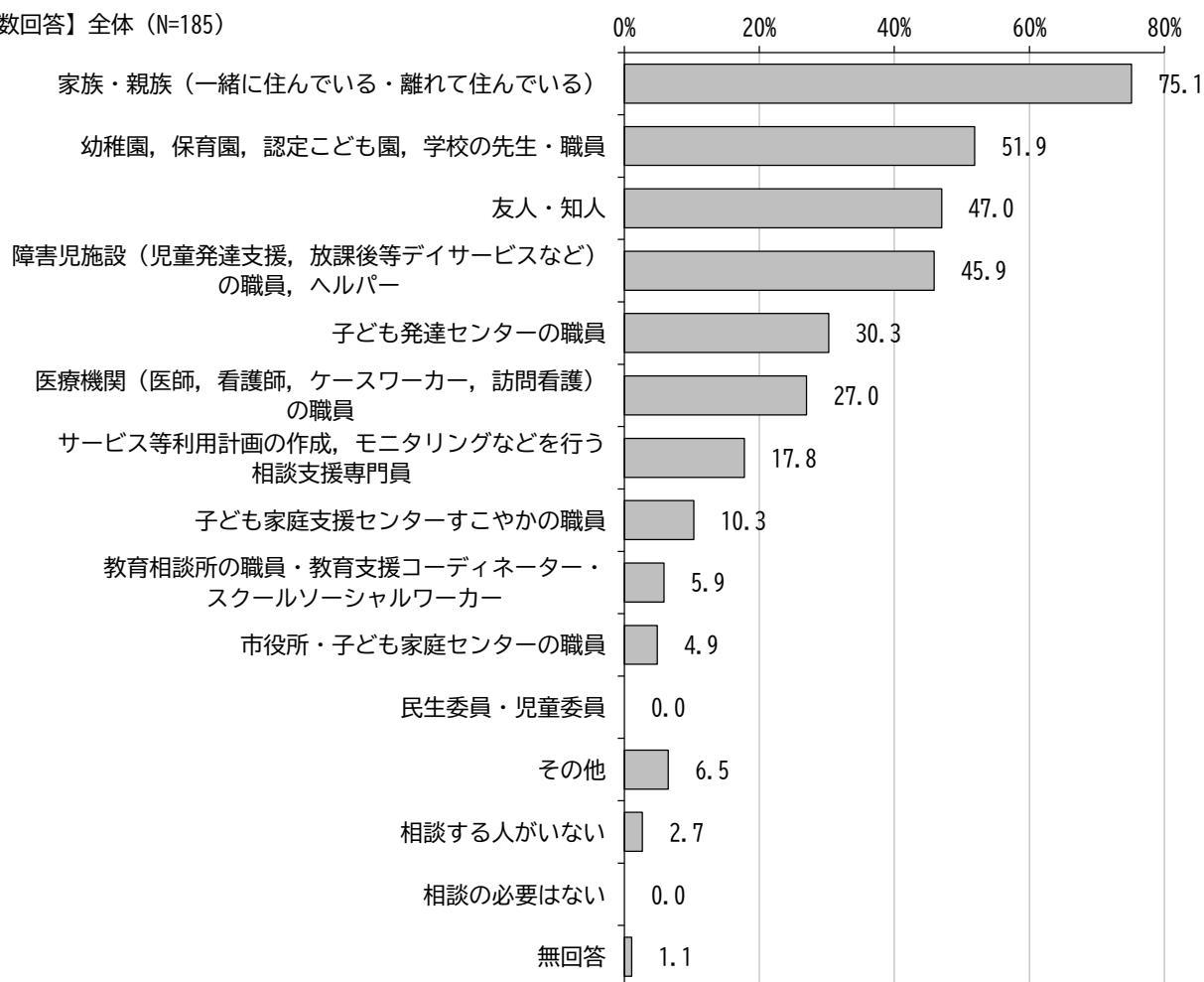


3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問 20 あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。
（いくつでも○）

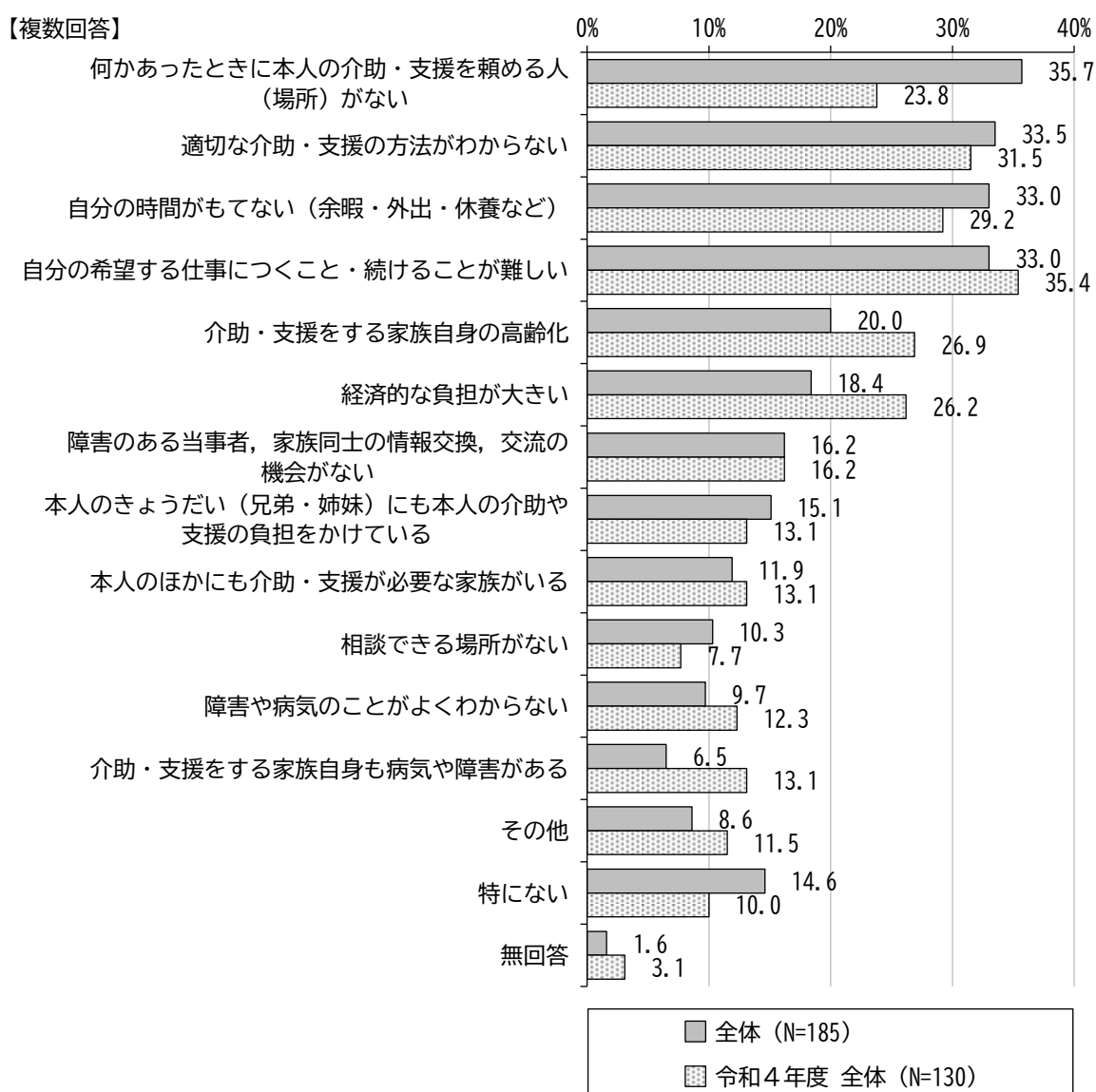
- 保護者が悩みや困りごとを相談できる人や機関は、「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（75.1%）」が最も多く、「幼稚園，保育園，認定こども園，学校の先生・職員（51.9%）」、「友人・知人（47.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



問 21 あなた（保護者）は、介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

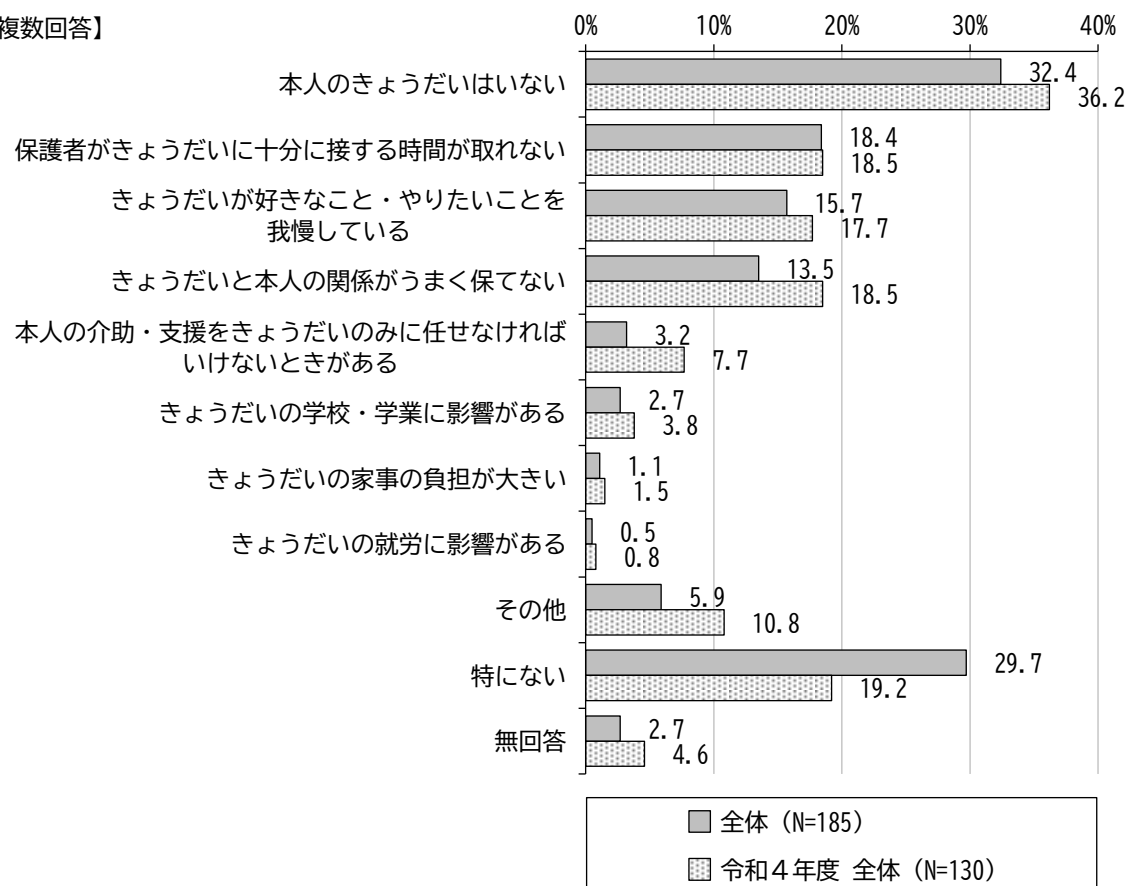
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない（35.7%）」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない（33.5%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（33.0%）」「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が 11.9 ポイント高く、「経済的な負担が大きい」が 7.8 ポイント、「介助・支援をする家族自身の高齢化」が 6.9 ポイント、「介助・支援をする家族自身も病気や障害がある」が 6.6 ポイント低くなっている。



問 22 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）についての不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない（32.4%）」が最も多く、「特にない（29.7%）」、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない（18.4%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「特にない」が10.5ポイント高くなっている。

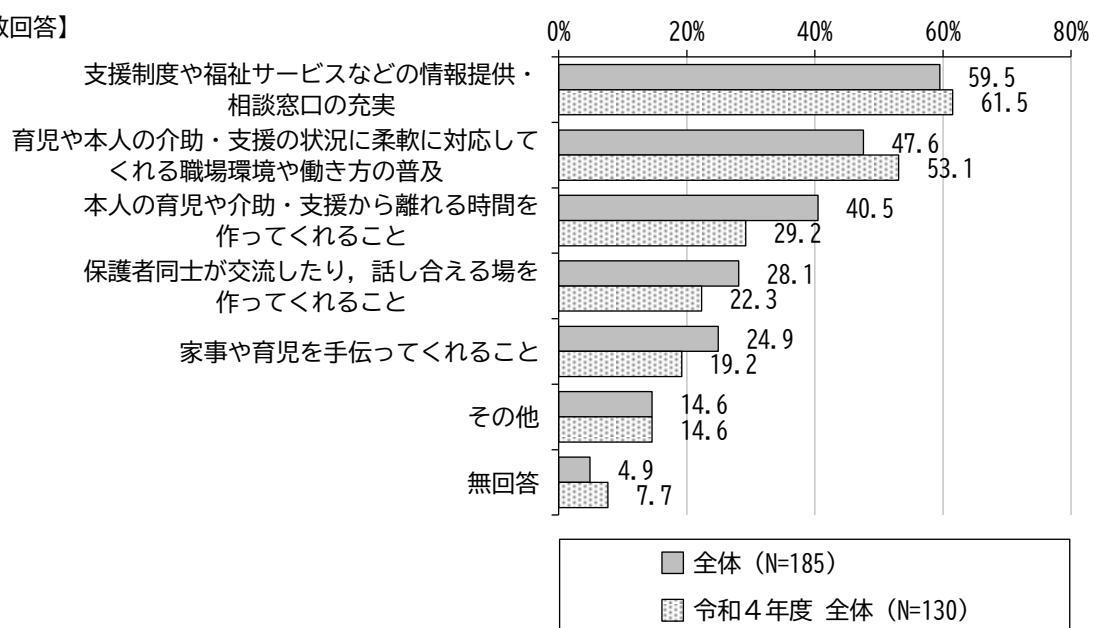
【複数回答】



問 23 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- 保護者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実 (59.5%)」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及 (47.6%)」、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること (40.5%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること」が 11.3 ポイント、「保護者同士が交流したり，話し合える場を作ってくれること」が 5.8 ポイント，「家事や育児を手伝ってくれること」が 5.7 ポイント高く，「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及」が 5.5 ポイント低くなっている。

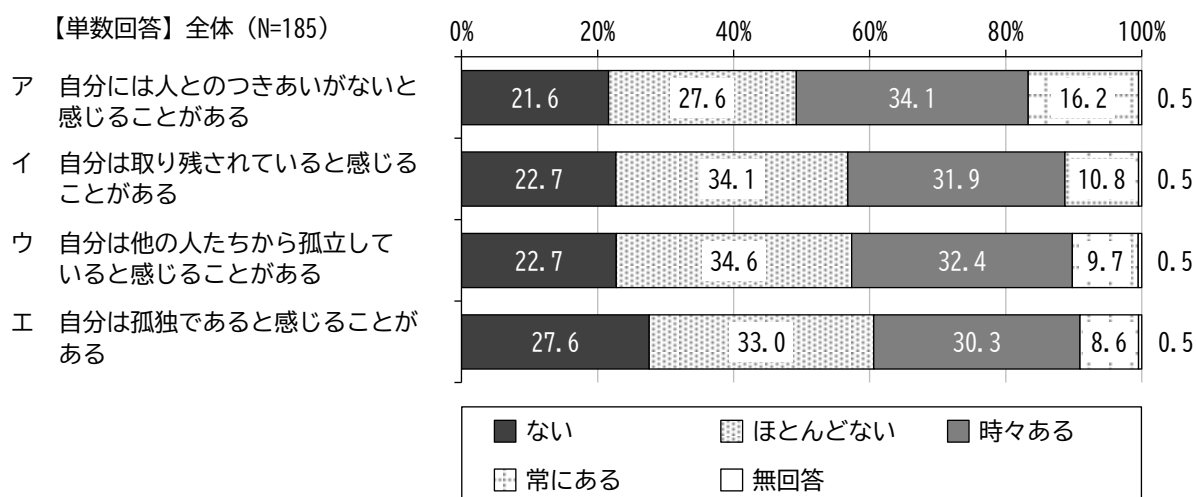
【複数回答】



4 保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします

問 24 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある (50.3%)] が最も多く、[イ 自分は取り残されていると感じることがある (42.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある (42.1%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA 孤独感尺度 (日本語版の3項目短縮版)」(本編 26 ページ参照) による間接質問のスコア化の結果は以下の表のとおりです (サンプル (n) 数が少ないため、コメントは割愛)。

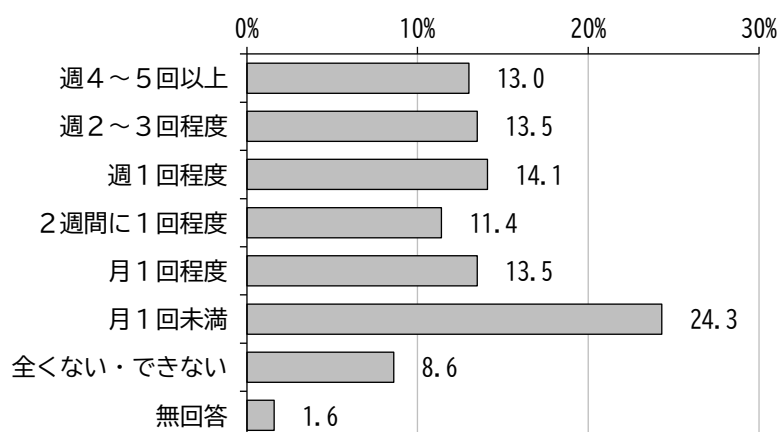
単位：%		ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=185)		15.1	25.9	41.1	17.3	0.5
年代別	10歳代 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=45)	15.6	26.7	42.2	15.6	0.0
	40歳代 (n=108)	16.7	23.1	41.7	18.5	0.0
	50歳代 (n=27)	11.1	25.9	40.7	18.5	3.7
	60歳代 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 25 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ
居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月1回未満（24.3%）」が最も多く、「週1
回程度（14.1%）」、「週2～3回程度（13.5%）」「月1回程度（13.5%）」が続いている。

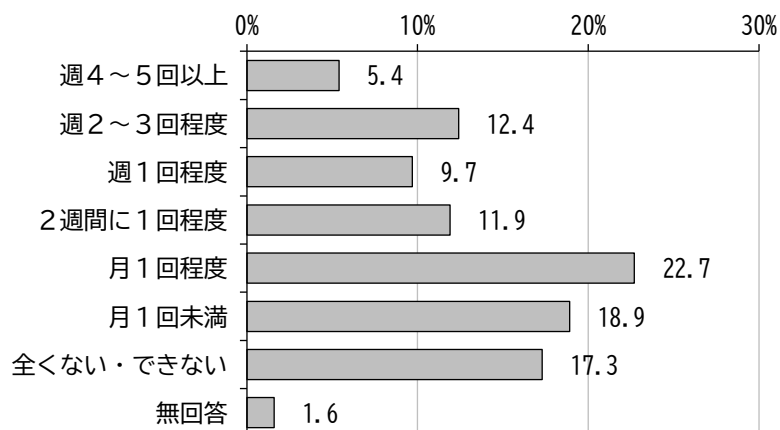
【単数回答】全体（N=185）



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（22.7%）」が最も多く、「月1回未満
（18.9%）」、「全くない・できない（17.3%）」が続いている。

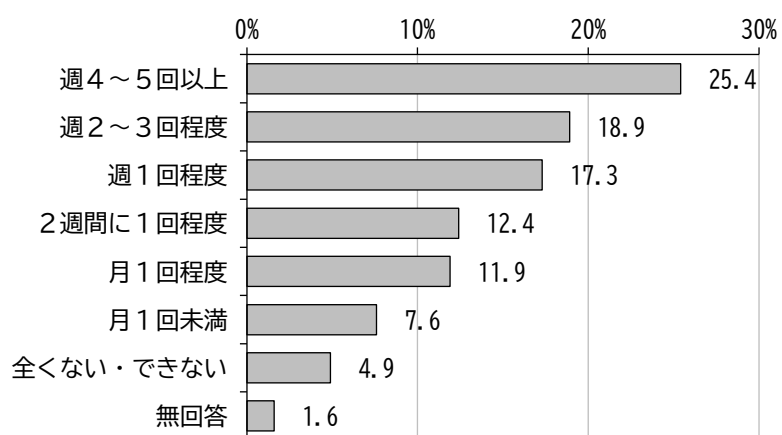
【単数回答】全体（N=185）



ウ SNS や電子メールなど

- SNS や電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（25.4%）」が最も多く、「週2～3回程度（18.9%）」、「週1回程度（17.3%）」が続いている。

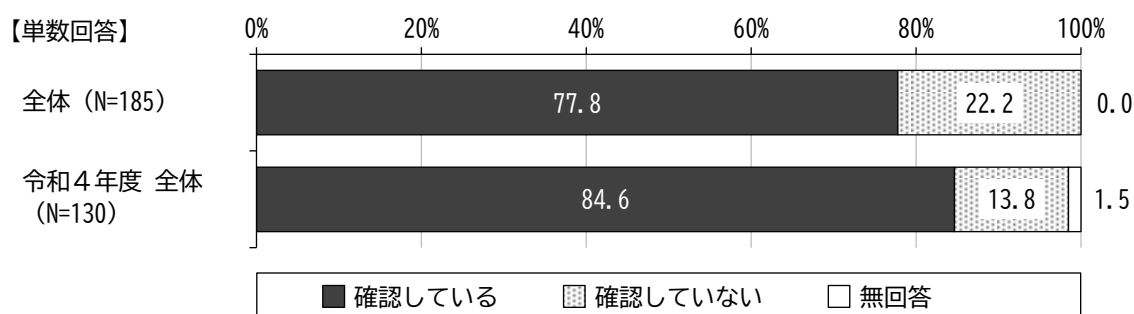
【単数回答】全体（N=185）



5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

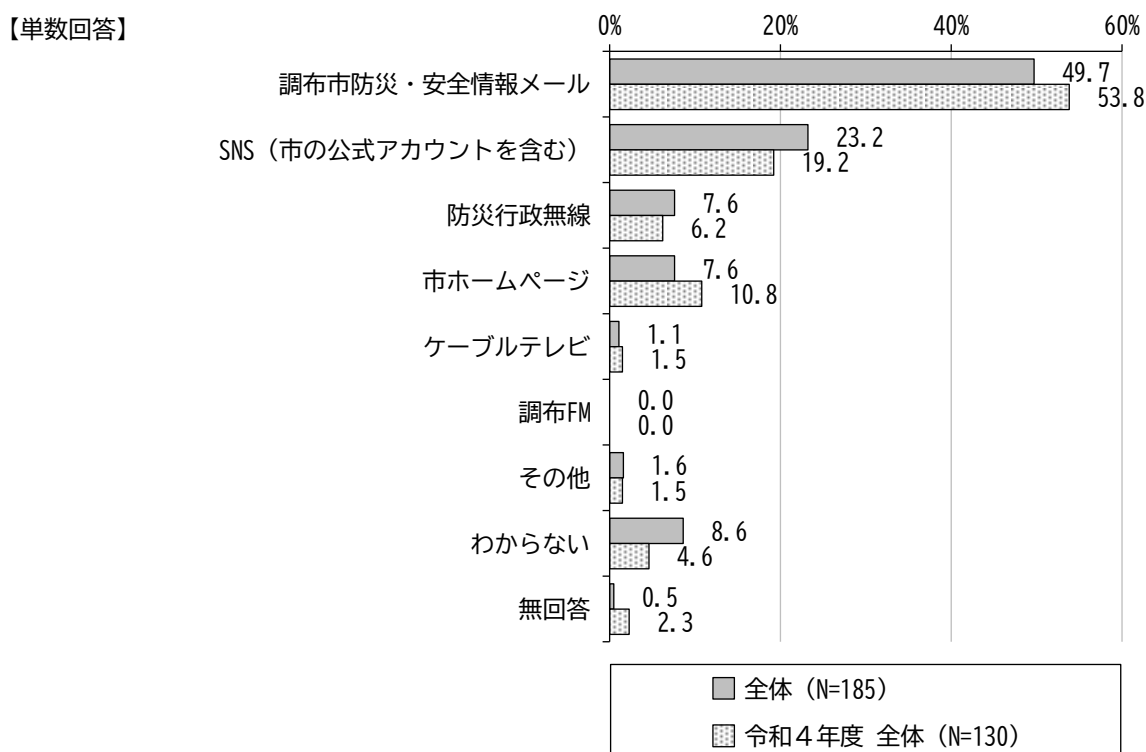
問 26 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、「確認している（77.8%）」、「確認していない（22.2%）」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認していない」が8.4ポイント高くなっている。



問 27 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

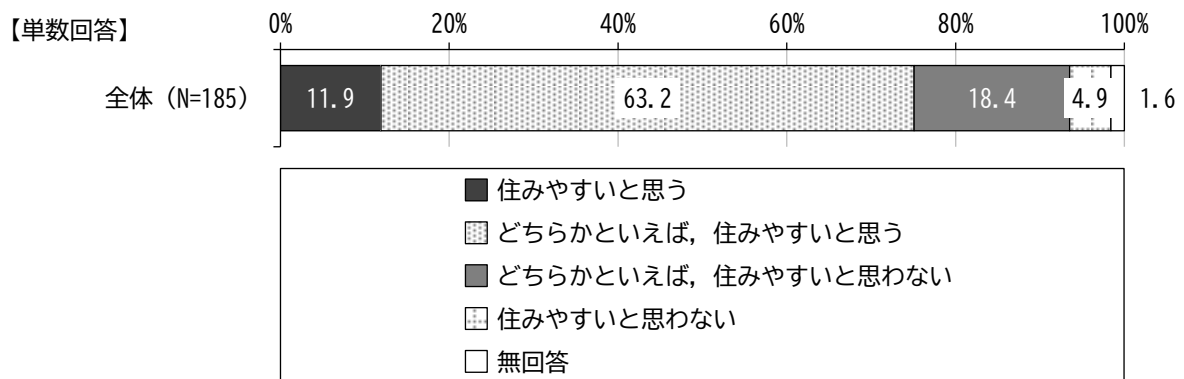
- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（49.7%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（23.2%）」、「わからない（8.6%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

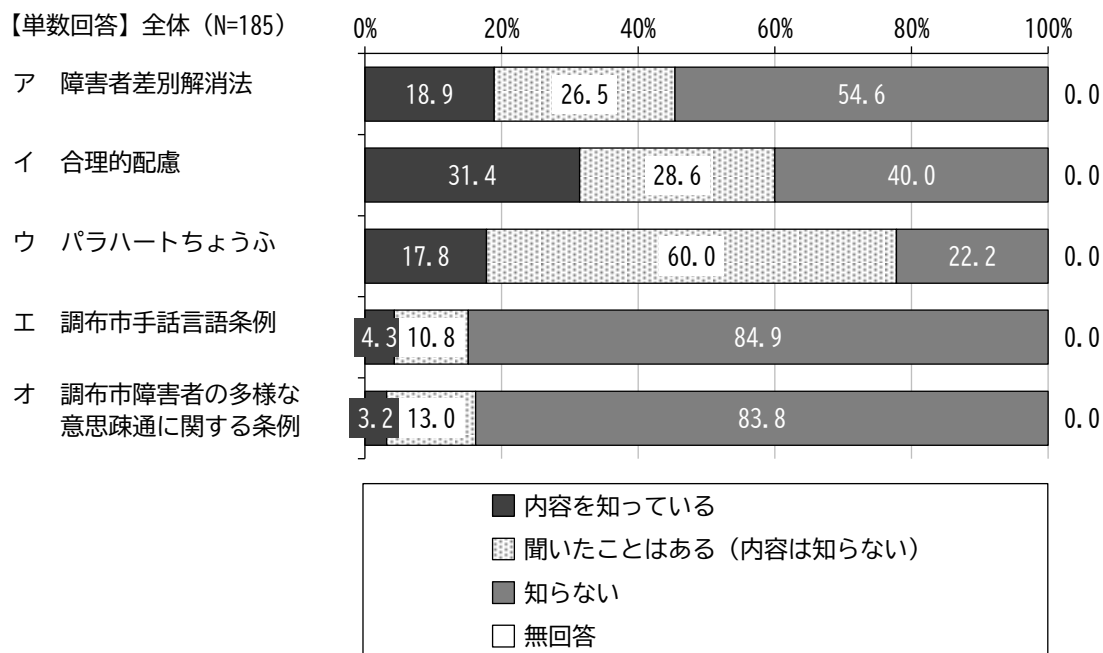
問 28 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合は75.1%となっている。



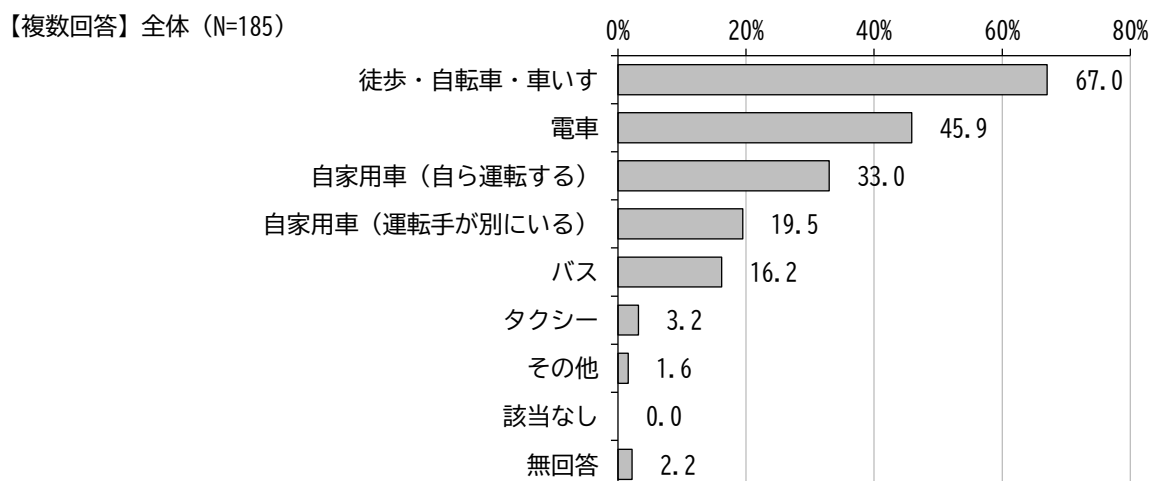
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方，市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（31.4%）]が最も多く，[ア 障害者差別解消法（18.9%）]，[ウ パラハートちょうふ（17.8%）]が続いている。
- 一方，「知らない」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（84.9%）]が最も多く，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（83.8%）]が続いている。



問 30 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。（2つまで○）

- 外出時に使用している主な移動手段は，「徒歩・自転車・車いす（67.0%）」が最も多く，「電車（45.9%）」，「自家用車（自ら運転する）（33.0%）」が続いている。



問 31 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

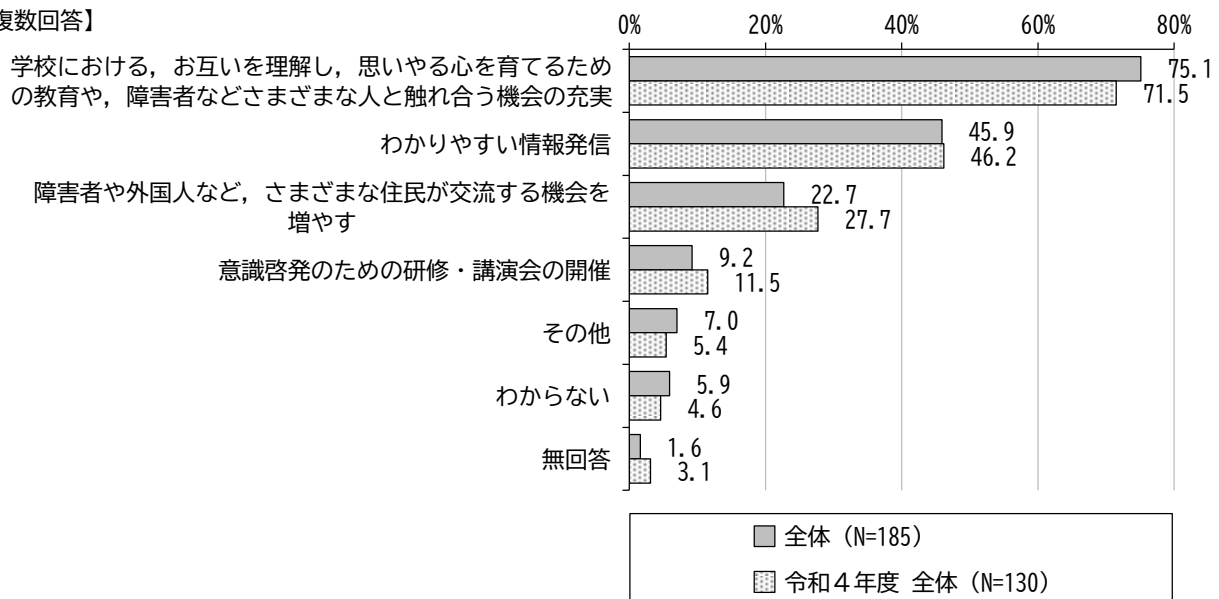
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (42.7%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ (33.0%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路 (65.4%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど） (46.0%)] が続いている。



問 32 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（75.1%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（45.9%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（22.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

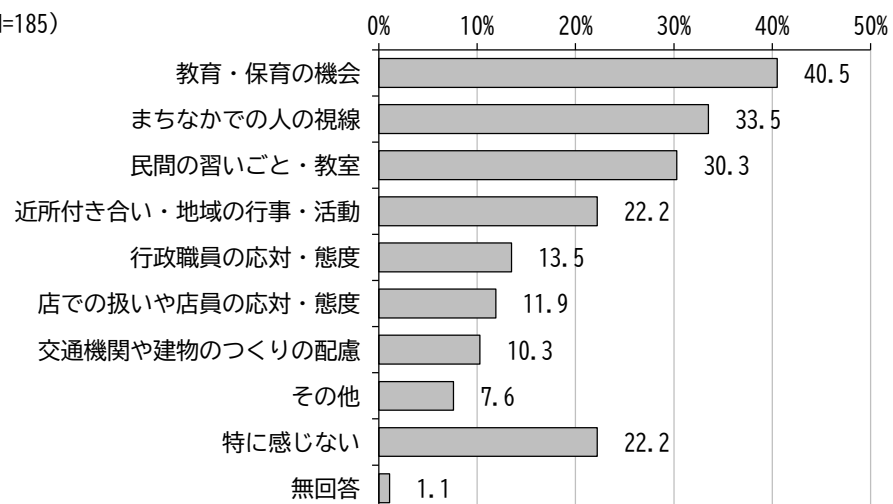
【複数回答】



問 33 あなた（保護者）は、お子さんが生活する中で、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会（40.5%）」が最も多く、「まちなかでの人の視線（33.5%）」、「民間の習いごと・教室（30.3%）」が続いている。

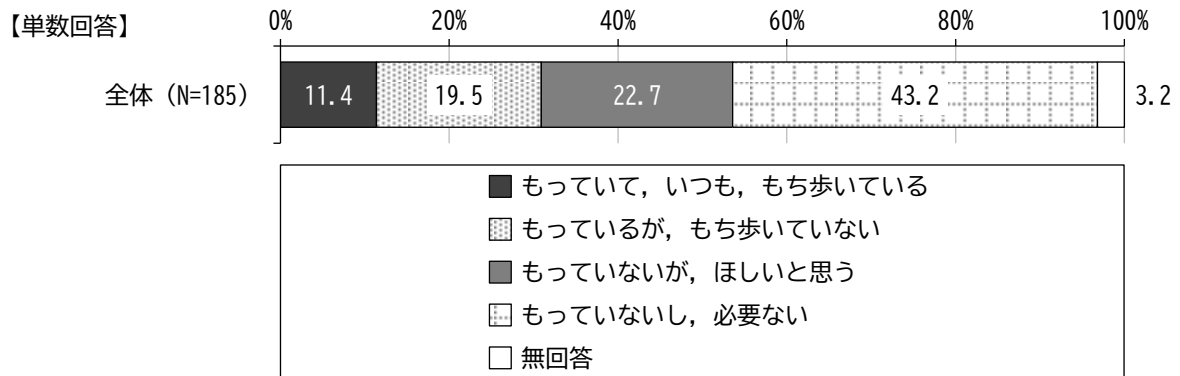
【複数回答】全体 (N=185)



問 34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

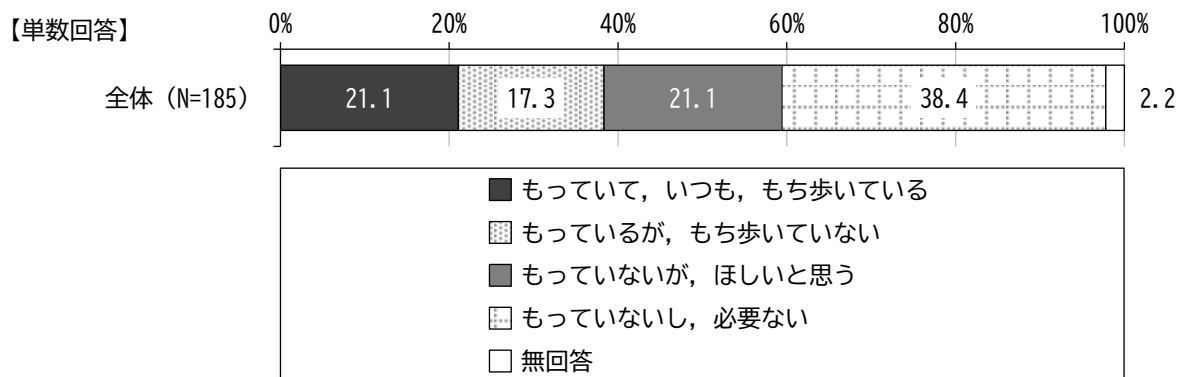
①ヘルプカード

- ヘルプカードの所持状況は、「もっていないし、必要ない (43.2%)」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う (22.7%)」、「もっているが、もち歩いていない (19.5%)」が続いている。



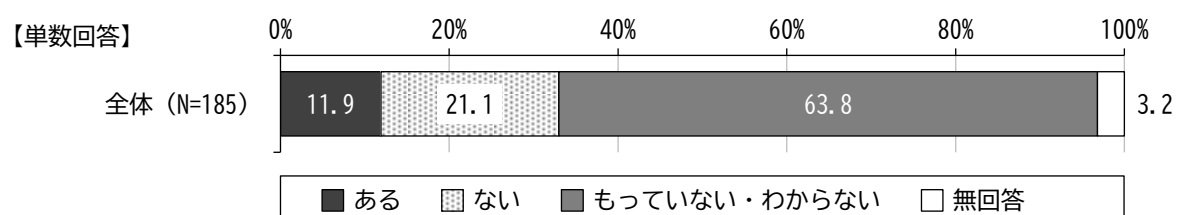
②ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持状況は、「もっていないし、必要ない (38.4%)」が最も多く、「もっていて、いつも、もち歩いている (21.1%)」「もっていないが、ほしいと思う (21.1%)」が続いている。



問 35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、「もっていない・わからない (63.8%)」が最も多く、「ない (21.1%)」、「ある (11.9%)」が続いている。

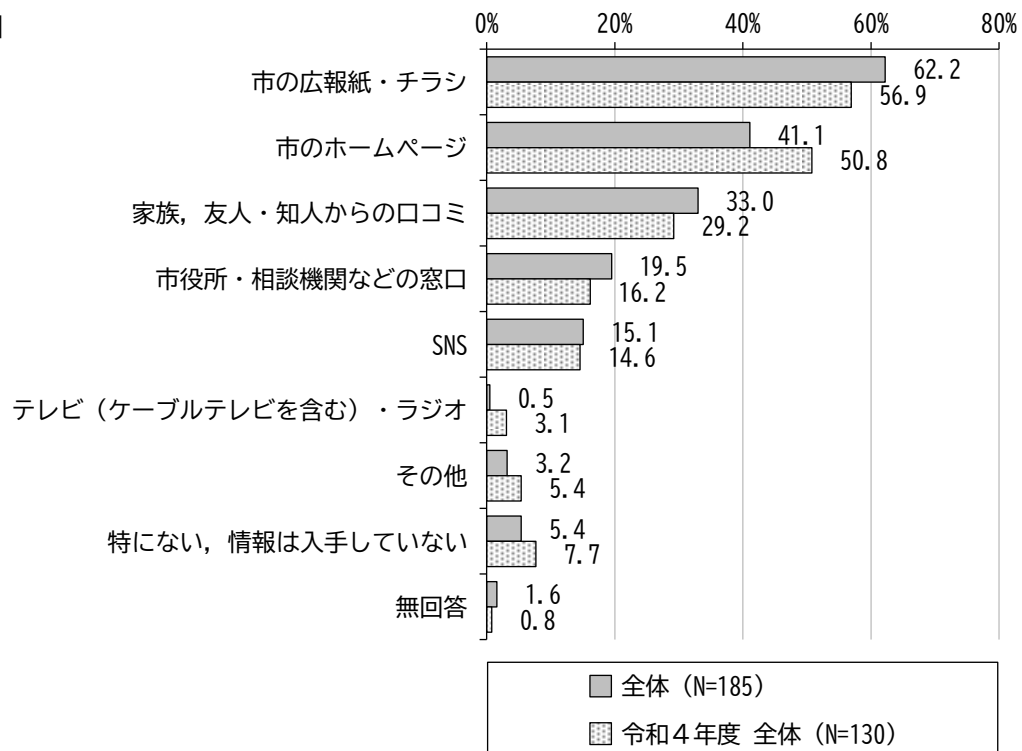


7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問 36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（62.2%）」が最も多く、「市のホームページ（41.1%）」、「家族、友人・知人からの口コミ（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「市の広報紙・チラシ」が5.3ポイント高く、「市のホームページ」が9.7ポイント低くなっている。

【複数回答】



問 37 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、31 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア 教育のデジタル化		8
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②情報提供の充実	21
ウ その他		2
合計		31

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別は **お子さん**

ア 教育のデジタル化

- 生活の中で使える絵，そういうカードがあるのは知っているのですが，使ったことはなく，スマホで見せることができれば便利だと思う。（男性，小学校就学前）
- 就業施設の募集人数，空き一覧の提示や，空きが出た際に登録をしていれば通知が来るアプリがあれば良い。とにかく高校入学後はずっと進学先があるのかと不安に思う日々なので。口コミもあると良い。「みんなの高校」みたいな…。（男性，小学校就学後）
- 障害がある子どもの利用できる学習支援機関（塾・教室・習い事・放課後デイなどで）が少ないと感じる。日常生活におけるルール（横断歩道の渡り方などの交通ルール，困ったときにどうすればよいか，買い物の仕方など）や特性のあることもが理解できるような学習支援教材などを配信してほしい。調布市の小学校特別支援学級では，理科・社会の授業がない。英語の授業も少ない。何かに興味を持つ可能性があるため，例えば都道府県，生物や動物，宇宙や歴史，ローマ字など，一般的な知識について学習動画などを配信してほしい。（女性，小学校就学後）
- 情報端末を使って，障害を持つ本人の情報を，本人の日常生活を支援してくれる人々が共有できるとよいと思う。本人の体調，最近の健康状態，配慮事項，これまでの経緯はもちろん，支援する上での意思疎通の方法を共有することで，本人も混乱せずさらに表出手段やコミュニケーション能力を伸ばしていけると思う。一定の踏み込んだ情報に関してはパスワード等でしっかり情報開示の管理をしつつ，本人をサポートする人々の認識を揃えるための情報共有ツールとできたらよいと思う。（女性，小学校就学後）

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 子供の手帳・等級・年齢を登録すると行政上実施する申請や手帳更新のスケジュールや申請書がメール・LINEなどで送られてくるサービス。(男性, 小学校就学前)
- ヘルパーさんが利用できるとしたら定期利用に加えてスマホなどで臨時利用の希望が出せて、ヘルパーさんとのマッチングができたら便利だと思う。介護タクシーなども同じく。1件1件予約ができるか電話していかなければならない。(男性, 小学校就学後)

②情報提供の充実

- SNSを使って、障害者の方はどんな支援をしてもらえたら嬉しいのか、そして、生きやすく、住みやすくなるのかを視覚的に伝えていく。障害のある方の職場や作業内容を映像で伝える。決して不幸ではなく、幸せである状態を見せる。仕事情報なども発信して地域を活性化させる。見える化しないため、勝手な憶測が進み、不合理に態度をされることに繋がる可能性もあるので、どんどん情報発信していき、同時にファン化へ繋げられたらいいと思う。(男性, 小学校就学後)
- 愛の手帳（またはミライロ ID）を活用した割引情報の共有(男性, 小学校就学前)
- 療育や放課後デイに関しては市内で不足があるのであれば、周辺区市の情報もまとめて欲しい。支援やイベントの一覧にアクセスできるアプリ等があったら助かる。(女性, 小学校就学前)
- 受給者証や愛の手帳で受けられるサービスの一覧が欲しい。発達への悩みに対しての攻略チャートのような支援や進路の全体がわかりやすい物が欲しい。(男性, 小学校就学前)

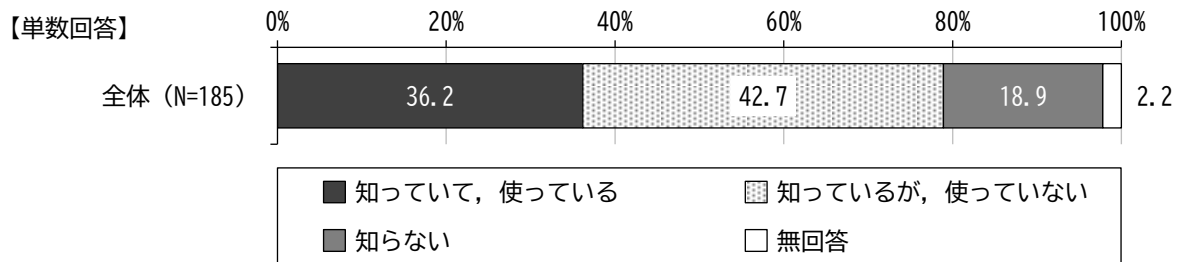
ウ その他

- 同じような悩みを持つ親同士のオンラインコミュニティサイトなどがあったら嬉しい。(男性, 小学校就学後)

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

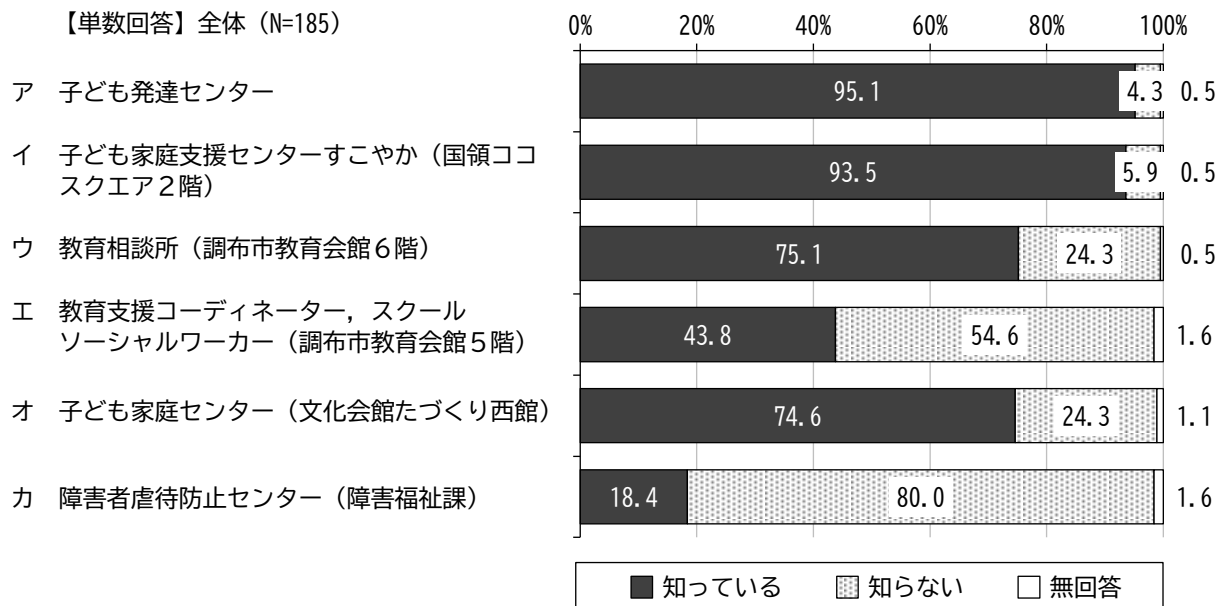
問 38 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「i（あい）-ファイル」をご存知ですか。（1つに○）

- i（あい）-ファイルについて、「知っていて、使っている」と「知っているが、使っていない」を合わせた『知っている』の割合は78.9%となっている。



問 39 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

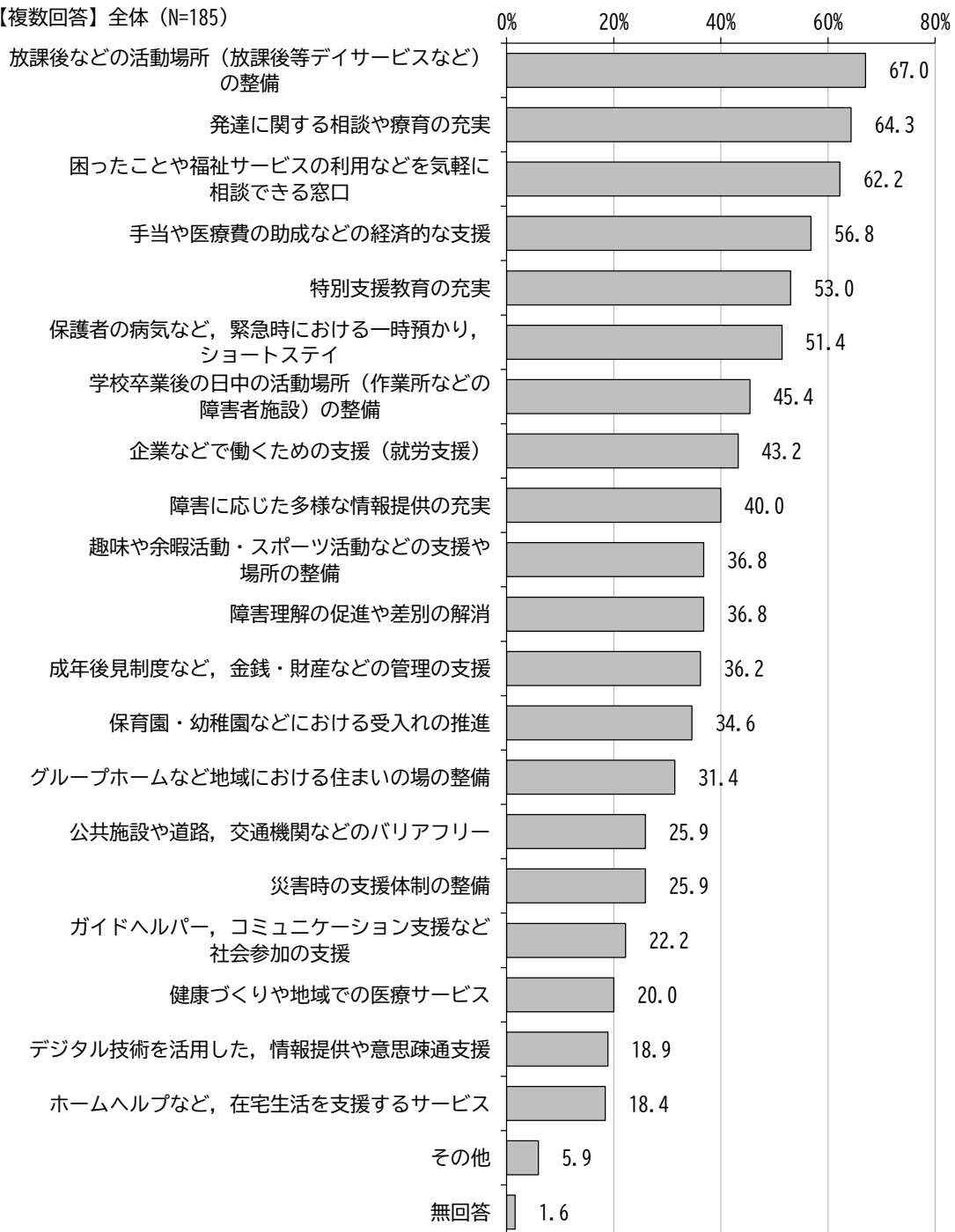
- 市の相談窓口について、「知っている」の割合は、[ア 子ども発達センター (95.1%)] が最も多く、[イ 子ども家庭支援センターすこやか (国領ココスクエア2階) (93.5%)], [ウ 教育相談所 (調布市教育会館6階) (75.1%)] が続いている。



問 40 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備（67.0%）」が最も多く、「発達に関する相談や療育の充実（64.3%）」、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（62.2%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



問 41 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、105 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 障害への理解 イ 交流 ウ 行政・その他	14
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ 相談体制の充実 ウ サービス等の情報提供	42
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ 防犯・防災の強化 ウ 暮らし	18
取組番号の選択なし		5
3つの取組以外で気になっていること	ア 教育・保育の充実 イ 障害者支援 ウ 共生社会の推進	26
合計		105

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別は **お子さん**

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 障害への理解

- 親の会はとても重要な役割を果たしていると思います。PTA と親の会がもっと連携していけると良いと思います。（男性、小学校就学後）
- 様々な人が同じまちで一緒に暮らしていくためには、お互いを知ることが何よりも重要だと思う。そしてお互いを知るためには、多様な人々の接点が日常生活の中に当たり前にうまれるまちづくりという視点が欠かせないのでは、という思いも強い。人々の多く集まる場所に福祉サービスの拠点を構えることで、お互いを支え合い、誰にとっても安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すという調布市の姿勢が体现されるのではないだろうか。支援を必要とする人々が暮らしやすいということは、誰にとっても暮らしやすい環境であるということを根底に置いたまちづくりを進めていただけるよう心から願っている。（女性、小学校就学後）

イ 交流

- せっかく調布ヶ丘に地域福祉センターがあるのに選挙の時と特定の集団のイベント（赤ちゃんと母のすこやかなイベント、ヨガ、シニアの集まり）でしか行くことが無

い。年1回のわくわく広場だけでなく、普段から「第3の居場所」的な使い方や、多世代交流、異文化交流、インクルーシブな居場所、誰でもカフェ、みたいな試みがあったら面白いと思うし、同じ地域住民同士が顔見知りになれる場所になると思います。(女性、小学校就学後)

- 市民同士の支え合いを否定するものではないが、当事者でないと理解できないことが多いため、まずは、直接的な支援の充実(療育先の拡充や、学童の障害児枠の増加)を希望する。子どもが生活していく場としては、長期的には、子どもが成長するにしたがって学校に適応し自分の居場所を見つけて周りに頼りながらもそれなりに快適に過ごせるよう、支援級や支援学校に閉じた枠組みだけでなく日常的な交流機会が必要だと感じる。行事のみの参加ではお客様扱いになってしまい特別扱いという概念がなくなる。(女性、小学校就学後)

ウ 行政・その他

- 調布市への年齢層の若い転入者が増えていき、市全体で自治会参加率や地域活動への参加率等が低下しているのではないかと危惧しています。これらの地域活動が、支え合いの土台になっていると思うので、継続的に自治会や地域活動の呼びかけを続けていたり、それぞれの活動、団体の課題を吸い上げて解決していく仕組みづくりを市役所の方々も巻き込みながらしていただければと思います。(男性、小学校就学後)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- グループホーム(知的など障害者向け)がとても少なく、子供の将来が心配。A型事務所(就労支援)が調布市内になく、入所したい要望は沢山あるのに困っている。B型事務所(就労支援)も少ない。希望の職に就けない。この3つの施設が増えるよう、何か対策をしてほしい。(男性、小学校就学後)
- 療育をもっと充実してほしい。3歳児検診で療育が必要となっても、なかなかすぐに開始できなかったり、開始できても月1回など数が少なかった。療育はなるべく早く開始して定期的に行えると効果的だと思うので、そういった場所をもっと充実してほしいです。よろしくお願いします。(男性、小学校就学前)
- 言語聴覚士や作業療法士をもっと増やしてサービスの充実をお願いしたいです。調布市は他の市や区と比べると少ないそうです。発達障害児は多いと思うので、より多くの人が発達支援を受けられるように言語聴覚士や作業療法士、あと心理士も増やしてほしいです。(男性、小学校就学前)
- 親が働き続けるためには、少なくとも8~19時で預かってもらえる場が必要です。子供が大きくなればなるほどその場はなくなります。収入がなくては子供を育てられませんし、施設利用が高額だと家計を圧迫します。ひとり親の家庭などはなおさらです。親の就労支援のサービスを充実させてほしいです。(男性、小学校就学後)

イ 相談体制の充実

- 未就学児までは調布子供発達センターで色々な相談や療育を受けられる機会があるが、小学生になったらもうゼロになってしまう。通級教室など学校にはあるが療育専

門の先生ではないのでどうなのかなと思う。通級教室とことばの教室、両方通えない今のシステムにも疑問がある。発達特性がある子でことば発音についても不明瞭な子は多いと思うので片方しか通えないのは不便。知的能力に問題が無く、発達特性がある子(グレー)については特に公的支援もなく、見た目が普通なので困りごともしっかりにくく、理解されにくいのでやはり専門の先生を学校に配置してもらえたら嬉しいなと思います。(男性、小学校就学後)

- 子供発達センターを利用していますが就労している親にとっては平日の通所が厳しいです。最初の面談のみでなく、土日に対応していただけると助かります。グレーゾーンと呼ばれる子供も近年増加。働く親も増え続ける今、そのような取り組みをしていただければより充実した支援が受けられると感じます。(男性、小学校就学前)
- 相談や問い合わせ等をした際にはきちんとご対応していただける窓口等がありますが、個々に対しての提案(市報やチラシ、SNS で発信される福祉系のイベントや講義等ではなく)があっても良いかと思う。なかなか忙しい生活の中で、気付かない、知らないことも沢山あるかと思うので、市が1人1人の障害児に対応するのは困難かとは思いますが、それに近い取り組みをして頂けると助かることもあるかと思います。(男性、小学校就学後)

ウ サービス等の情報提供

- 発達障害グレーの子がいますが、最初の子で放課後デイサービス等の施設もよくわからず、途方に暮れました。また、発達センターを利用するにもかなりの待ち時間を要しました。市役所の方でも情報(民間療育や発達専門病院等も)あったら教えて欲しかったです。(女性、小学校就学後)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 歩行者道路の狭い所が多々ある。自転車用の道路も整備してほしい。車道を走っていると車との距離が近いので怖い。息子には言葉がまだ通じないので車道側に身を乗り出したり、手を出したりするので毎回ヒヤヒヤしています。(男性、小学校就学前)
- 通学路など、普段子供達がよく利用する箇所において、安全対策を徹底してほしいと思います。道路にはみ出してきている木々などは、所有者に対して積極的に行政から働きかけを行って欲しいです。(男性、小学校就学後)

イ 防犯・防災の強化

- 障害によっては自宅から失踪・行方不明になる方もいます。我が家も2回程自宅から出ていってしまい、とても慌てました。交番で聞き取りをしていただいている間にどんどん遠くに行ってしまうのではと不安でした。ヘルプマークを手に入れた時点で予め市内の交番や駅に(希望する場合は)情報提供しておいて、いざという時に間髪入れず捜索してもらえると安心です(一度でも行方不明になるとそのような情報共有は市内の警察間であるのでしょうか?知らないので書きました)。避難所において、障害のある方が居づらいという報道をよく見ます。障害のある方、配慮の必要な方のブース(というかフロアや部屋)を予め区分しておくと思えば安心して居続けられると思います。お互いさま、と思えるもの同士なら厳しい状況でも気配りできると思うか

らです。周りに「申し訳ない」と思うことがとても負担なので。(男性、小学校就学後)

- 昨今、支援者による虐待や性的虐待のニュースが目立ち親としても簡単に預け先を決めることができません。人手不足は、どの業界でも共通問題ではありますが、教師のように過去の犯罪履歴等を確認いただける機能があると有り難いです。(女性、小学校就学後)
- 災害時に薬を含む医療の受け方がどうなるのか調べてもわからない。子供の粉薬など、普段から近くの薬局では手に入らないものもあり、不安に思っている。(男性、小学校就学前)

ウ 暮らし

- 重度知的障害者に対応できる入所施設やグループホーム、そして行動援護サービスが不足していると感じています。グループホームの数は増加傾向にあると認識していますが、重度知的障害者(特に強度行動障害を伴う方)を受け入れられる施設は依然として少なく、利用が困難です。実際に、私の息子は重度知的障害ですが、過去に小規模ショートステイの利用さえ断られた経験があり、グループホームが増えても「行き先がない」という切実な問題に直面しています。また、行動援護の提供事業者や対応できる人材も不足しており、必要な支援を受けられていません。【要望事項】1. 重度知的障害者を安全かつ安心に受け入れられる施設(入所施設、グループホーム、短期入所施設を含む)の整備拡充をお願いします。「住み慣れた地域での生活」を実現するため、居住地域内でサービスを利用できるよう、地域偏りのない施設整備を推進していただきたいです。2. 行動援護サービスの提供体制の強化。(男性、小学校就学後)

3つの取組以外で気になっていること

ア 教育・保育の充実

- 保育関連になりますが障害児も含め健常児も受け入れしてもらえる年末(年始)の保育を再開してもらいたいです(保育園)。近隣の市では受け入れがありますが、調布市ではここ数年とりやめているので周りからも不便という声をよく聞きます。(男性、小学校就学前)
- 調布市の小学校に子どもを通わせているが、インクルーシブ教育が遅れていると感じる。通常級と支援級には隔たりがある。隣の川崎市では、インクルーシブ教育が進んでいると聞く。通常級支援級と隔たりがなく、当該児童は特性に合わせて授業を行き来しており、それが子ども達にとって通常であり、当たり前のように捉えているとのこと。このように子どもの時から、色んな人がいるということを当たり前を感じることで、差別や偏見をなくすことができるのではないかと思う。調布市もインクルーシブ教育が進んで欲しいと思う。(女性、小学校就学後)
- 調布市の小学校の支援級はなぜ知的級しかないのでしょうか。発達障害があると通常級では生活が難しい児童もたくさんいます。情緒級の設置をお願いします。(女性、小学校就学前)

イ 障害者支援

- 発達について受診できる病院が少ない。他の市に行くしかないのが現状です。(男性, 小学校就学後)
- 就労後の生活です。現在両親ともフルタイム勤務ですが(公務員の為時差利用)作業所就労となると時間が短く, それ以外の時間は家庭にいるため, フルタイムは諦めなければならないかと残念な気持ちです(専門職でもある為…)。ヘルパーさんも慢性的に不足しているとのことで, 夕方の時間の過ごし方が課題です。(男性, 小学校就学後)
- A 型 B 型の拡張や補助金, 障害者年金などの保障を充実させて経済的安定できるようになればと思います。(男性, 小学校就学後)

ウ 共生社会の推進

- このようなアンケートの実施に感謝します。ありがとうございます。年々インクルーシブ, 多様化が世の中の的に進み, 素晴らしいと思いますが, まず障害児の子育て中の親世代は, 毎日を生きるのに精一杯です。私は特別支援学校, 放課後デイ, ショートステイと多くの福祉サービスを利用できており, 恵まれている方ですが, 人手不足や新規の受付取りやめ中とか, 利用できない方も多く, 私もこれらのサービスがなくなると, 途端に全ての負担が自分に来ることが不安です。まずは福祉サービスに就いてくださる人材確保, 雇用促進, 給料アップ, そして誰でもできることではないので, 研修や育成など, このあたりもお願い致します。(男性, 小学校就学後)

第6章 調査間での共通質問

1 日頃のコミュニケーション

①近所付き合いの程度【市民，高齢者】

ご近所付き合いは、どの程度していますか。（主なもの1つに○）

- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は、市民 28.2%，高齢者 46.9%となっている。

単位：％	親家 しく を行 き来 する など ，	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	い ご 近 所 付 き 合 い を し て	無 回 答
市民（N=924）	5.7	22.5	55.3	14.2	2.3
高齢者（N=633）	12.5	34.4	43.6	7.1	2.4

②近所付き合いの必要性【市民，高齢者】

どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。（それぞれ1つに○）

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、市民，高齢者ともに「ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき」が最も多く、「エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り」が続いている。

<『感じる』の割合>

単位：％	ア 合 緊 急 が 必 要 な 時 の 助 け	イ た 日 常 生 活 で あ る と き	ウ 安 子 全 ど 確 も た ち の 見 守 り ・	エ の 高 人 齢 者 の 支 援 ・ 見 守 り	オ 必 要 な 相 手 や 相 談 相 手 が
市民（N=924）	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
高齢者（N=633）	79.6	44.9	50.0	65.2	44.6

③孤独・孤立の状況【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 孤独・孤立の状況について，「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は，市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病，障害児保護者は「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」，精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある」が最も多くなっている。

<『ある』の割合>

単位：％		ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	イ 自分は取り残されていると感じることがある	ウ 自分とは他の人たちから孤立していると感じる	エ 自分はある程度孤独であると感じる
市民（N=924）		41.1	16.4	15.2	17.6
高齢者（N=633）		31.7	10.1	10.8	12.7
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	45.0	31.9	30.2	34.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	35.7	23.2	20.5	23.7
	知的障害（N=240）	43.7	30.8	28.8	29.2
	精神障害（N=392）	56.4	60.8	59.2	58.9
	難病（N=348）	34.8	24.7	22.4	25.0
障害児保護者（N=185）		50.3	42.7	42.1	38.9

④コミュニケーションの頻度【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について，お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

○ 直接会って話す（手話等を含む）頻度は，市民，障害児保護者は「月1回未満」，高齢者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病は「週4～5回以上」，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		16.6	13.9	12.7	10.8	17.2	18.3	6.6	4.0
高齢者（N=633）		11.7	17.9	17.9	7.7	19.7	11.2	7.6	6.3
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.6	8.4	8.4	4.6	14.3	17.6	11.3	9.7
	身体障害（65歳以上）（N=190）	17.9	10.0	14.2	8.4	11.6	11.1	11.1	15.8
	知的障害（N=240）	26.7	7.1	4.2	6.7	10.0	15.8	17.9	11.7
	精神障害（N=392）	15.1	10.5	9.9	7.7	13.0	16.1	19.9	7.9
	難病（N=348）	22.1	9.5	12.6	10.6	13.2	16.7	6.9	8.3
障害児保護者（N=185）		13.0	13.5	14.1	11.4	13.5	24.3	8.6	1.6

イ 電話（ビデオ通話含む）

○ 電話（ビデオ通話含む）の頻度は，市民，難病は「月1回未満」，高齢者，障害児保護者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		7.8	11.0	12.3	10.9	17.9	20.7	14.7	4.7
高齢者（N=633）		8.4	11.8	16.3	10.4	16.9	14.7	10.6	10.9
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	11.8	7.6	10.1	5.9	13.4	17.6	21.0	12.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.0	10.0	13.2	10.0	8.9	8.9	15.8	23.2
	知的障害（N=240）	5.4	4.6	3.3	3.3	7.9	14.2	43.8	17.5
	精神障害（N=392）	12.5	7.1	8.2	5.4	11.0	18.4	28.6	8.9
	難病（N=348）	11.2	8.9	17.0	9.2	13.8	19.5	9.5	10.9
障害児保護者（N=185）		5.4	12.4	9.7	11.9	22.7	18.9	17.3	1.6

ウ SNS や電子メールなど

- SNS や電子メールなどの頻度は、市民、身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病、障害児保護者は「週 4 ～ 5 回以上」、高齢者、身体障害（65 歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週 4 ～ 5 回 以上	週 2 ～ 3 回 程度	週 1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月 1 回 程度	月 1 回 未 満	全 く な い ・ で き な い	無 回 答
市民（N=924）		27.8	14.8	12.7	9.7	9.7	8.2	11.4	5.6
高齢者（N=633）		14.8	13.1	11.7	7.6	9.5	8.2	22.1	13.0
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.2	8.8	11.8	4.6	8.8	9.2	19.7	11.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.5	9.5	9.5	4.7	5.8	2.6	28.4	28.9
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	2.9	1.3	4.2	7.1	44.2	20.4
	精神障害（N=392）	24.0	9.2	9.7	7.1	7.1	10.7	21.2	11.0
	難病（N=348）	24.1	16.1	12.1	7.8	6.6	9.5	12.1	11.8
障害児保護者（N=185）		25.4	18.9	17.3	12.4	11.9	7.6	4.9	1.6

2 市民同士の支え合い、地域活動

①手助けを「してほしい」事柄，手助けを「できる・してもいい」事柄【市民，高齢者】

あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

- 家族以外のまわりの人から手助けを「してほしい」事柄の上位は、市民で〔ア 安否確認の声かけ〕，〔イ ちょっとした買い物やごみ出し〕，〔キ 災害時避難の手助け〕，高齢者で〔キ 災害時避難の手助け〕，〔ア 安否確認の声かけ〕，〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕となっている。
- また、手助けを「できる・してもいい」事柄の上位は、市民で〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕，〔カ 話し相手や相談相手〕，〔キ 災害時避難の手助け〕，高齢者で〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕，〔ア 安否確認の声かけ〕，〔キ 災害時避難の手助け〕となっている。

<「してほしい」の割合>

単位：％	ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手 伝 い	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手 助 け	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く に 連 絡 す る に
市民（N=924）	53.4	45.1	10.8	34.7	9.7	28.4	40.8	40.7
高齢者（N=633）	44.7	23.5	11.1	23.2	6.2	27.6	53.4	43.6

<「できる・してもいい」の割合>

市民（N=924）	43.4	37.6	20.5	35.2	44.9	63.9	55.7	66.5
高齢者（N=633）	52.9	36.7	17.2	22.7	22.1	48.7	52.6	58.8

②家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組
【市民，高齢者】

家族以外のまわりの人に，手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり，どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組は，市民，高齢者ともに「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が最も多く，「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み」が続いている。

単位：％	手助けしてほしい人をコーディネートする仕組み	手助けしてほしい人との手助けを知ることのできる人柄や事柄	手助けを知ることのできる人柄や事柄	その他	取組は必要ない（できる時はする）	わからない	無回答
市民（N=924）	48.3	44.5	33.8	2.1	13.0	14.5	5.4
高齢者（N=633）	39.0	33.5	26.1	2.2	17.2	22.3	5.8

③地域活動・ボランティア活動の取組状況と今後の取組意向【市民，高齢者】

あなたは地域での活動に参加したり，地域のために日頃から心掛けていますか。①現在の状況，②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

- 地域での活動等で「取り組んでいる」活動をみると，市民は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（20.9%）〕が最も多く，〔キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動〕が続いている。高齢者は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多く，〔ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動〕が続いている。
- 関心のある（「取り組みたい」，「興味がある」）活動をみると，市民は〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多く，〔イ 高齢者を支える行動や活動〕が続いている。高齢者は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多く，〔キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動〕が続いている。

<「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）※1」の割合>

単位：％	ア P T A の や 活 動 ※ 2	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 り お 統 工 祭 や ー り 文 シ や ヨ 運 化 を ン 動 活 会 え 動 な ど の 活 域 レ の ク	オ 地 交 通 の 安 全 や 犯 罪 防 止 な ど ，	カ 支 援 を 訓 練 す る や 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 の 清 掃 の 自 然 ， ご み 拾 い な ど の 自 活 動 境 周	ク 自 治 会 な ・ 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ご と ・ ス ポ ー ツ ・ 健 康 づ く
市民（N=924）	8.7	7.5	9.2	9.2	8.9	8.2	15.6	10.5	20.9
高齢者（N=633）	5.7	18.0	10.2	17.4	8.8	16.5	25.5	26.1	32.1

<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

市民（N=924）	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
高齢者（N=633）	19.9	22.4	24.2	20.5	26.0	27.8	36.3	30.0	48.9

※1 高齢者アンケートでは「週1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「月1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「年数回程度取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の合計割合

※2 高齢者アンケートの項目は〔ア 子育て世帯・青少年を支える行動や活動〕

④地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件【市民，高齢者】

どのような条件であれば，地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。
(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は，市民，高齢者ともに「時間や期間にあまりしばられない」が最も多く，「身近なところに活動できる場がある」が続いている。

単位：％	子ども世話や介護を代	活動や団体に関する情報	友人・知人と一緒に参加できる	時間や期間にあまりしばられない	身近なところに活動できる場がある	世話人やリーダーがいる	参加することでのメリットがある（報酬など）	活動資金の補助や援助がある	その他	わからない	条件によらず，参加したくない	無回答
市民（N=924）	8.4	22.9	25.1	56.7	43.5	15.8	18.7	13.2	3.5	11.3	8.1	5.3
高齢者（N=633）	2.1	17.7	16.1	43.4	38.2	15.5	5.2	6.5	5.1	21.3	9.5	6.8

3 相談支援

①困ったときの相談相手（人・機関）

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）※1

- 困ったときの相談相手（人・機関）の1位は、市民、高齢者は「同居の家族」、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者は「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」となっている。
- 一方、「身近に相談できる人や機関はない」または「相談する人がいない」は、精神障害で7.7%と最も多くなっている。

単位：％

		1位	特定項目
市民（N=924）		同居の家族（62.4）	身近に相談できる人や機関はない（5.0）
高齢者（N=633）		同居の家族（58.1）	身近に相談できる人や機関はない（3.8）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（65.5）	相談する人がいない（5.9）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（70.5）	相談する人がいない（3.7）
	知的障害（N=240）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（70.4）	相談する人がいない（3.3）
	精神障害（N=392）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（59.9）	相談する人がいない（7.7）
	難病（N=348）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（69.5）	相談する人がいない（2.9）
障害児保護者（N=185）		家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（75.1）	相談する人がいない（2.7）

※1 障害者（18歳以上）アンケートの設問は「悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。（いくつでも○）」
障害児保護者アンケートの設問は「あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）」

②医療機関（歯科を含む）の受診で困ること【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「特にない」が最も多くなっている。
- 「特にない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「医療費や交通費の負担が大きい」、知的障害は「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」、障害児保護者は「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない」が多くなっている。

単位：％		医療機関（歯科を含む）がいて相談できる医療機関	かかりつけの歯科医師がいない	かかりつけの歯科医師（歯の健康）がない	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	通院するときに介助してくれない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	8.4	8.4	3.8	2.9	5.5	4.6	2.9	19.7	7.6	8.0	47.1	9.7	
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.8	2.6	2.6	2.6	2.1	0.5	5.8	11.6	4.2	4.7	62.6	8.9	
	知的障害（N=240）	9.6	9.2	5.8	4.2	2.9	6.7	1.7	3.8	14.6	5.8	52.9	5.4	
	精神障害（N=392）	8.4	6.9	7.1	6.6	4.1	3.3	4.3	21.4	9.9	7.7	51.0	5.6	
	難病（N=348）	8.6	4.6	2.3	3.2	4.6	1.1	3.2	21.0	2.9	7.2	57.8	6.0	
障害児保護者（N=185）		4.3	12.4	3.2	4.9	20.5	4.3	7.0	11.9	9.7	13.0	42.7	5.9	

③今後の居住形態の意向【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

今後、どのように生活したいですか。（1つに○）※1

- 今後の居住形態の意向は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」、知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」が最も多くなっている。
- 障害児保護者が希望するお子さんの暮らし方は「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。

単位：％		に親や兄弟など ※2の家族と 一緒に	※3のひとり暮らし 配偶者と一緒、 または自分	グループホームで 生活する	入所施設で生活する	その他	わからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	29.4	46.6	3.8	2.9	2.5	11.3	3.4
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.6	50.0	0.0	6.3	3.7	12.6	5.8
	知的障害（N=240）	43.3	17.9	16.3	3.8	2.9	13.8	2.1
	精神障害（N=392）	25.8	47.4	4.1	2.0	3.3	14.8	2.6
	難病（N=348）	24.7	52.6	0.3	5.2	1.4	13.5	2.3
障害児保護者（N=185）		11.4	48.1	14.6	3.8	3.8	14.6	3.8

※1 障害児保護者アンケートの設問は「将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。（1つに○）」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する」

※3 障害児保護者アンケートの選択肢は「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」

4 活動機会、スポーツ

①障害者、障害児の活動機会【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

普段の生活の中で、次のような機会がありますか。（それぞれ1つに○）

- 生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多くなっている。

<「十分にある」の割合>

単位：％

		1位	2位
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (46.6)	「イ 友人・知人との交流」 (36.1)
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (44.2)	「イ 友人・知人との交流」 (34.7)
	知的障害（N=240）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (44.6)	「イ 友人・知人との交流」 (21.7) 「ウ スポーツ・運動をする機会」 (21.7)
	精神障害（N=392）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (45.7)	「イ 友人・知人との交流」 (28.3)
	難病（N=348）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (54.0)	「イ 友人・知人との交流」 (47.4)
障害児保護者（N=185）		「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (51.9)	「イ 友人・知人との交流」 (33.0)

- 生活の中の活動機会について、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計割合は、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害は「ウ スポーツ・運動をする機会」、身体障害（65歳以上）、難病、障害児保護者は「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」が最も多くなっている。

<「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計割合>

単位：％

		1位	2位
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（54.2）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（50.4）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（42.7）	「イ 友人・知人との交流」（41.6）
	知的障害（N=240）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（53.0）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（52.9）
	精神障害（N=392）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（60.5）	「イ 友人・知人との交流」（56.6）
	難病（N=348）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（56.4）	「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」（49.7）
障害児保護者（N=185）		「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（71.9）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（63.2）

②スポーツ・運動をする頻度【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。（1つに○）

- スポーツ・運動をする頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「ほとんどしない」、障害児保護者は「週に2回以上」が最も多くなっている。

単位：％		週に2回以上	週に1回程度	月に1、2回程度	ほとんどしない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	23.1	13.0	9.7	49.2	5.0
	身体障害（65歳以上）（N=190）	31.6	14.7	6.8	40.0	6.8
	知的障害（N=240）	18.8	14.6	16.7	41.7	8.3
	精神障害（N=392）	21.9	12.8	11.5	50.3	3.6
	難病（N=348）	25.0	14.4	12.9	44.3	3.4
障害児保護者（N=185）		35.7	31.9	10.8	18.4	3.2

5 外出、ひきこもりの状況

①外出の移動手段【高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

利用している移動手段は何ですか。（いくつでも○）※1

- 利用している移動手段は，高齢者は「徒歩」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病，障害児保護者は「徒歩・自転車・車いす」，精神障害は「電車」が最も多くなっている。

単位：％	徒歩	自転車	分 自 家 用 車 等 （ 自 分 で 運 転 ）	分 自 家 用 車 等 （ 自 分 以 外 が 運 転 ）	送 介 護 事 業 所 等 の 迎 接	施 病 院 の ・ 送 迎 ハ ビ リ	バ ス	タ ク シ ー	福 祉 タ ク シ ー	電 車	そ の 他	無 回 答
高齢者（n=621）	77.6	38.5	23.3	12.6	5.5	3.2	54.9	15.6	0.8	53.9	1.6	0.3

単位：％		運転する （自家用車・自ら）	自家用車 （別の手が いる）（運転）	電車	バス	タクシー	徒歩・自転車・ 車いす	その他	該当なし	無回答
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	19.7	13.0	47.9	27.3	13.9	51.3	4.6	0.8	2.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	12.1	14.7	33.7	36.8	17.9	44.2	5.3	2.1	4.7
	知的障害（N=240）	2.5	27.5	46.7	32.1	5.0	52.1	1.7	0.8	5.4
	精神障害（N=392）	4.8	8.4	65.1	36.5	4.6	62.0	2.6	0.3	2.6
	難病（N=348）	22.4	11.2	45.7	27.0	13.5	52.3	3.4	0.9	2.3
障害児保護者（N=185）		33.0	19.5	45.9	16.2	3.2	67.0	1.6	0.0	2.2

※1 高齢者アンケートの設問対象者は外出をする方のみ。
障害者（18歳以上）アンケート，障害児保護者アンケートの設問は〔外出時に使用している主な移動手段は何ですか。（2つまで○）〕

②外出の状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、身体障害（65歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」が最も多くなっている。

単位：％		外仕事 出する ※1 学校等 で週に 5日 以上	外仕事 出する 学校等 で週に 3～4 日	外遊び 出する や趣味 の活動 等で頻 繁に	外人づ 出する きあい のため にとき どき	出味普 する段 は家に いる 用事 のと、 き自 分の 外趣	ン普 ビ段 は家 に い る が か、 近 所 の コ	出自 室 な い か ら は 出 る が 、 家 か ら は	自室 から ほと んど 出 な い	無 回 答
市民 (N=924)		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2
高齢者 (N=633)		21.0	13.3	19.7	10.0	11.8	14.5	3.2	1.1	5.4
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=238)	37.0	18.1	3.4	5.9	11.8	10.9	5.9	3.4	3.8
	身体障害（65歳以上） (N=190)	3.2	9.5	18.9	12.6	18.4	15.8	10.0	3.2	8.4
	知的障害 (N=240)	67.1	10.0	4.2	1.3	4.2	4.6	1.7	1.3	5.8
	精神障害 (N=392)	29.6	18.4	5.1	7.1	13.5	16.3	4.3	2.0	3.6
	難病 (N=348)	29.9	10.3	10.3	10.1	10.9	15.5	4.9	1.7	6.3

※1 障害者（18歳以上）アンケートの選択肢は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」、知的障害は「3か月未満」が最も多くなっている。

単位：％		3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 以 上	無 回 答
市民 (n=154)		11.0	8.4	7.8	37.7	13.6	17.5	3.9
高齢者 (n=194)		11.9	2.6	7.7	39.2	12.9	22.2	3.6
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (n=76)	15.8	2.6	6.6	27.6	21.1	21.1	5.3
	身体障害（65歳以上） (n=90)	13.3	0.0	6.7	28.9	18.9	22.2	10.0
	知的障害 (n=28)	39.3	7.1	3.6	10.7	14.3	17.9	7.1
	精神障害 (n=142)	17.6	5.6	4.9	30.3	18.3	20.4	2.8
	難病 (n=115)	11.3	6.1	13.0	35.7	13.9	15.7	4.3

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「病気」が最も多くなっている。

単位：％		病気	介護・看護を担ったこと	（就労中）自宅仕事をしていない	学校になじめなかったこと	職場になじめなかったこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
市民（n=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
高齢者（n=159）		32.7	12.6	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	21.4	20.1	20.8	3.1	3.8
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=58）	70.7	3.4	3.4	1.7	5.2	0.0	0.0	1.7	10.3	15.5	1.7	3.4	1.7
	身体障害（65歳以上）（n=69）	56.5	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	27.5	14.5	1.4	2.9
	知的障害（n=13）	46.2	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4	15.4	23.1	15.4	7.7
	精神障害（n=105）	68.6	3.8	3.8	5.7	10.5	1.9	6.7	21.0	22.9	14.3	8.6	3.8	2.9
	難病（n=90）	62.2	10.0	7.8	1.1	0.0	0.0	3.3	0.0	12.2	8.9	10.0	2.2	1.1

③市内に住む家族の外出状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、「いずれもいない」を除くと、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が最も多くなっている。

単位：％		出味普 すに段 るは 関は す家 に 用事 の が と、 き自 だ 分 け の 外趣	ン普 ビ段 は二 は家 に に は 出 が か、 近 所 の コ	出 自 室 か ら は 出 る が 、 家 か ら は	自 室 か ら ほ と ん ど 出 な い	い ず れ も い な い	外 出 状 況 が わ か ら な い	無 回 答
市民（N=924）		11.1	6.5	1.3	0.5	58.4	7.3	14.8
高齢者（N=633）		12.6	11.4	3.0	0.3	42.5	8.2	22.0
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	17.6	8.8	2.5	0.8	48.7	8.0	13.4
	身体障害（65歳以上）（N=190）	22.6	12.6	3.7	1.6	31.6	6.3	21.6
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	0.8	0.4	43.8	8.3	26.7
	精神障害（N=392）	16.1	10.5	1.5	0.3	49.0	7.4	15.3
	難病（N=348）	18.7	6.6	2.6	0.6	51.4	3.7	16.4

ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、難病は「1年～5年未満」、身体障害(64歳以下)は「3か月未満」、身体障害(65歳以上)、精神障害は「10年以上」が最も多く、知的障害は「3か月未満」と「10年以上」が同率となっている。

単位：％		3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 以 上	無 回 答
市民 (n=180)		12.2	3.3	8.3	31.1	10.0	29.4	5.6
高齢者 (n=173)		12.7	4.6	4.6	28.9	12.7	28.3	8.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=71)	29.6	2.8	2.8	21.1	15.5	25.4	2.8
	身体障害 (65歳以上) (n=77)	16.9	3.9	3.9	22.1	11.7	28.6	13.0
	知的障害 (n=51)	21.6	7.8	3.9	15.7	13.7	21.6	15.7
	精神障害 (n=111)	19.8	2.7	2.7	16.2	16.2	29.7	12.6
	難病 (n=99)	21.2	2.0	10.1	33.3	9.1	17.2	7.1

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害(64歳以下)、身体障害(65歳以上)、精神障害、難病は「病気」、知的障害は「特に理由はない」が最も多くなっている。

単位：％		病 気	介 護 ・ 看 護 を 担 う こ と	を し て い る (就 労 中) 自 宅 で 仕 事	こ 学 校 に な じ め な か つ た	こ 職 場 に な じ め な か つ た	受 験 に 失 敗 し た こ と (高 校 ・ 大 学 等)	就 職 活 動 が う ま く い か な か つ た こ と	人 間 関 係 が う ま く い か な か つ た こ と	退 職 し た こ と	そ の 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
市民 (n=142)		21.1	7.0	5.6	0.7	1.4	0.0	3.5	0.7	23.2	16.2	19.7	6.3	8.5
高齢者 (n=129)		26.4	12.4	2.3	0.0	0.8	0.0	0.8	2.3	24.0	7.0	23.3	4.7	10.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=46)	30.4	10.9	4.3	2.2	4.3	0.0	0.0	2.2	10.9	15.2	13.0	4.3	13.0
	身体障害 (65歳以上) (n=51)	33.3	9.8	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	3.9	25.5	9.8	17.6	5.9	11.8
	知的障害 (n=28)	25.0	3.6	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	7.1	10.7	7.1	35.7	3.6	10.7
	精神障害 (n=72)	33.3	11.1	5.6	2.8	2.8	0.0	4.2	11.1	16.7	19.4	15.3	8.3	6.9
	難病 (n=69)	34.8	11.6	2.9	2.9	1.4	0.0	0.0	5.8	15.9	13.0	17.4	0.0	10.1

6 市民の権利を守る取組

①市民の権利を守る制度や事業の認知度【市民，高齢者】

市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は、市民，高齢者ともに〔ア 成年後見制度〕が最も多く，〔イ 法定後見制度〕が続いている。

<「知っている」の割合>

単位：％	ア 成年 後見 制度	イ 法定 後見 制度	ウ 任意 後見 制度	エ 市民 後見 人	オ 専門 職紹 介制 度	カ 事地 業域 福祉 権利 擁護	キ 事あ 業ん しん 未来 支援
市民 (N=924)	39.3	25.9	19.4	6.3	4.0	5.3	1.8
高齢者 (N=633)	42.0	21.6	20.1	6.0	4.3	3.9	3.0

②市民の権利を守る制度や事業の利用意向と利用しない理由【市民，高齢者】

あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、いずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。
(1つに○)

- 市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、市民，高齢者ともに「利用を検討する」が最も多くなっている。

単位：％	既 に 利 用 し て い る	利 用 を 検 討 す る	利 用 し な い	わ か ら な い	無 回 答
市民 (N=924)	1.8	61.4	5.8	26.1	4.9
高齢者 (N=633)	1.3	47.1	10.3	29.5	11.8

制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、市民は「制度の内容や利用方法がわからない」、高齢者は「家族などに支援してもらいたい」が最も多くなっている。

単位：％	ない制度の内容や利用方法がわからない	事務手続きが難しい	後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せると不安	経済的な理由や身寄りがいないため、申立てが難しい	家族などに支援してもらいたい	その他	無回答
市民（n=295）	53.6	14.9	21.7	4.7	36.9	7.8	5.1
高齢者（n=252）	41.7	14.7	26.6	4.4	59.1	7.1	3.2

7 誰もが暮らしやすいまちづくり

①住みやすさの評価【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「どちらかといえば、住みやすいと思う」が最も多くなっている。

単位：％		住みやすいと思う	やどすちらかと思えば、住み	やどすちらかと思わなば、住み	住みやすいと思わない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	23.1	58.4	9.7	2.9	5.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	26.8	53.7	9.5	2.6	7.4
	知的障害（N=240）	32.9	50.0	6.7	1.7	8.8
	精神障害（N=392）	25.5	49.0	12.2	7.9	5.4
	難病（N=348）	20.4	60.6	9.2	4.0	5.7
障害児保護者（N=185）		11.9	63.2	18.4	4.9	1.6

②市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター」が最も多くなっている。

<『充実している』の割合>

単位：％

		1 位	2 位
市民（N=924）		〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (48.9)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (35.0)
高齢者（N=633）		〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (40.6)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (28.7)
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (49.1)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (37.8)
	身体障害（65歳以上）（N=190）	〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (51.1)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (32.1)
	知的障害（N=240）	〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (47.5)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (38.0)
	精神障害（N=392）	〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (46.9)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (38.0)
	難病（N=348）	〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (50.5)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (34.2)
障害児保護者（N=185）		〔イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター〕 (42.7)	〔ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ〕 (33.0)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」が最も多くなっている。

<『充実していない』の割合>

単位：％

		1位	2位
市民（N=924）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（64.3）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（49.5）
高齢者（N=633）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（57.7）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（43.0）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（65.5）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（43.7）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（56.3）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（40.0）
	知的障害（N=240）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（45.0）	「シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮」（30.1）
	精神障害（N=392）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（44.7）	「シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮」（37.0）
	難病（N=348）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（62.1）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（44.8）
障害児保護者（N=185）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（65.4）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（46.0）

③心のバリアフリーの普及に必要な取組【市民，障害者（18歳以上），障害児保護者】

誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて，病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために，特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は，市民は「わかりやすい，使いやすい情報の提供」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害は「わかりやすい情報発信」，知的障害，難病，障害児保護者は「学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多くなっている。

単位：％

		1 位	2 位
市民（N=924）		わかりやすい，使いやすい情報の提供（56.5）	学校において，お互いを理解し，思いやる心を醸成するための教育（50.0）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	わかりやすい情報発信（47.9）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（44.1）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	わかりやすい情報発信（45.3）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（35.3）
	知的障害（N=240）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（45.4）	わかりやすい情報発信（33.3）
	精神障害（N=392）	わかりやすい情報発信（46.4）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（39.5）
	難病（N=348）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（52.9）	わかりやすい情報発信（51.4）
障害児保護者（N=185）		学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（75.1）	わかりやすい情報発信（45.9）

④障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面

【障害者（18歳以上），障害児保護者】

普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）※1

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮」，身体障害（65歳以上），難病は「特に感じない」，知的障害は「まちなかでの人の視線」，精神障害は「仕事や収入」，障害児保護者は「教育・保育の機会」が最も多くなっている。

単位：％		教育の機会※2	仕事や収入	民間の習いごと・教室	近所・付き合いや地域の行事・活動	店での扱いや店員の対応・態度	まちなかでの人の視線	交通機関や建物のつくりの配慮	行政職員の対応・態度	その他	特に感じない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	8.8	23.5	-	6.3	14.3	19.7	35.7	9.7	4.6	31.9	7.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	2.1	4.2	-	5.3	6.8	10.5	16.8	3.2	3.7	53.2	13.7
	知的障害（N=240）	16.3	26.7	-	16.3	17.9	32.5	20.0	7.9	4.2	29.2	10.0
	精神障害（N=392）	11.2	39.5	-	14.3	13.0	20.4	18.9	15.1	6.9	29.1	6.6
	難病（N=348）	7.8	14.9	-	5.7	11.2	11.2	20.4	6.6	4.6	49.1	7.2
障害児保護者（N=185）		40.5	-	30.3	22.2	11.9	33.5	10.3	13.5	7.6	22.2	1.1

※1 障害児保護者アンケートの設問は「あなた（保護者）は，お子さんが生活する中で，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じることがありますか。（いくつでも○）」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「教育・保育の機会」

⑤ヘルプカード，ヘルプマーク【障害者（18歳以上），障害児保護者】

あなたは，調布市が配布しているヘルプカード，ヘルプマークを持っていますか。
（それぞれ1つに○）

ヘルプカード

- ヘルプカードの所持について，「もっていて，いつも，もち歩いている」の割合をみると，身体障害（64歳以下），精神障害，障害児保護者は1割台，身体障害（65歳以上），知的障害は2割台，難病は1割未満となっている。

単位：％		ももち歩 ていて い， るい つも ，	いも てつ いて ない が ， もち 歩	いも とつ て う い ない が ， ほ し	なも い つ て い ない し ， 必 要	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	16.8	26.1	18.1	34.9	4.2
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.1	14.7	15.8	31.6	16.8
	知的障害（N=240）	28.7	26.3	10.0	28.3	6.7
	精神障害（N=392）	14.3	29.3	15.3	35.2	5.9
	難病（N=348）	7.2	10.3	16.1	60.3	6.0
障害児保護者（N=185）		11.4	19.5	22.7	43.2	3.2

ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持について，「もっていて，いつも，もち歩いている」の割合をみると，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，障害児保護者は2割台，難病は1割台となっている。

単位：％		ももち歩 ていて い， るい つも ，	いも てつ いて ない が ， もち 歩	いも とつ て う い ない が ， ほ し	なも い つ て い ない し ， 必 要	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	28.2	14.7	20.6	31.1	5.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.6	15.8	17.4	29.5	15.8
	知的障害（N=240）	24.2	17.1	15.8	32.9	10.0
	精神障害（N=392）	21.9	21.4	18.4	31.6	6.6
	難病（N=348）	14.9	9.5	16.1	54.0	5.5
障害児保護者（N=185）		21.1	17.3	21.1	38.4	2.2

ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験について、「ある」の割合をみると、身体障害（64歳以下）は2割台、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者は1割台となっている。

単位：％		ある	ない	わも かつ て ない い ない	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	24.4	25.2	43.7	6.7
	身体障害（65歳以上）（N=190）	16.8	26.3	38.9	17.9
	知的障害（N=240）	13.8	37.5	39.6	9.2
	精神障害（N=392）	16.6	30.4	46.7	6.4
	難病（N=348）	10.9	16.1	62.6	10.3
障害児保護者（N=185）		11.9	21.1	63.8	3.2

⑥共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度

【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は，市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病，障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある） （内容は知らない）	知らない	無回答
市民（N=924）		8.1	18.8	70.1	2.9
高齢者（N=633）		5.4	23.1	64.1	7.4
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	12.6	27.7	55.0	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	8.9	17.9	61.1	12.1
	知的障害（N=240）	13.3	21.3	57.9	7.5
	精神障害（N=392）	11.0	24.0	62.0	3.1
	難病（N=348）	8.9	21.8	66.7	2.6
障害児保護者（N=185）		18.9	26.5	54.6	0.0

イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。
- 障害児保護者は「内容を知っている」が3割を超えている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		9.3	18.2	69.5	3.0
高齢者（N=633）		3.8	13.3	75.0	7.9
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	14.7	22.3	58.4	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	9.5	14.7	62.6	13.2
	知的障害（N=240）	15.0	18.3	58.8	7.9
	精神障害（N=392）	18.4	21.4	56.4	3.8
	難病（N=348）	8.3	18.7	69.0	4.0
障害児保護者（N=185）		31.4	28.6	40.0	0.0

ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「知らない」、障害児保護者は「聞いたことはある（内容は知らない）」が最も多くなっている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		5.6	26.8	64.5	3.0
高齢者（N=633）		5.1	24.5	63.3	7.1
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	5.0	30.3	60.1	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	8.9	25.3	54.7	11.1
	知的障害（N=240）	17.1	33.8	41.3	7.9
	精神障害（N=392）	8.4	34.9	53.3	3.3
	難病（N=348）	8.3	32.8	56.3	2.6
障害児保護者（N=185）		17.8	60.0	22.2	0.0

エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っ てい る	（聞 いた こと はあ る）	知 ら な い	無 回 答
市民（N=924）		1.5	7.7	87.7	3.1
高齢者（N=633）		2.1	8.4	82.3	7.3
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.8	11.3	79.4	5.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	5.3	14.2	68.4	12.1
	知的障害（N=240）	3.3	13.8	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	3.8	10.7	80.4	5.1
	難病（N=348）	3.2	14.9	78.2	3.7
障害児保護者（N=185）		4.3	10.8	84.9	0.0

オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っ てい る	（聞 いた こと はあ る）	知 ら な い	無 回 答
市民（N=924）		0.9	7.6	88.3	3.2
高齢者（N=633）		1.3	7.7	83.6	7.4
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.4	10.9	80.7	5.0
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.3	15.8	68.9	8.9
	知的障害（N=240）	4.6	12.5	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	2.6	10.7	83.9	2.8
	難病（N=348）	2.9	14.1	79.9	3.2
障害児保護者（N=185）		3.2	13.0	83.8	0.0

8 災害時の対策

①避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病、障害児保護者は「確認している」、知的障害、精神障害は「確認していない」が多くなっている。

単位：％		確認している	確認していない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	52.1	45.0	2.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	60.5	31.1	8.4
	知的障害（N=240）	45.8	52.9	1.3
	精神障害（N=392）	45.9	51.3	2.8
	難病（N=348）	64.9	31.3	3.7
障害児保護者（N=185）		77.8	22.2	0.0

②緊急時の避難情報の入手先【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

- 緊急時の避難情報の入手先は、身体障害（64歳以下）、難病、障害児保護者は「調布市防災・安全情報メール」、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が最も多くなっている。

単位：％		防災行政無線	調布市防災・安全情報メール	調布FM	市ホームページ	ケーブルテレビ	SNS（市の公式アカウントを含む）	その他	わからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	9.7	23.1	1.7	11.3	5.5	18.9	6.3	19.7	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	15.8	21.6	4.7	7.9	5.3	5.8	6.8	22.6	9.5
	知的障害（N=240）	9.6	21.7	0.8	6.7	6.3	11.3	4.6	34.6	4.6
	精神障害（N=392）	9.7	15.1	1.5	9.7	5.6	22.2	5.1	28.8	2.3
	難病（N=348）	10.1	26.4	0.9	14.4	4.9	19.0	3.4	17.2	3.7
障害児保護者（N=185）		7.6	49.7	0.0	7.6	1.1	23.2	1.6	8.6	0.5

9 デジタルの活用

①市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先

【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。

（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「市の広報紙・チラシ」が最も多くなっている。

単位：％		市のホームページ	市の広報紙・チラシ	市役所・相談機関などの窓口	テレビ（ケーブル・デジタルを含む）	家族、友人・知人からの口コミ	SNS	その他	特になく、情報は入手していない	不明・無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	29.8	45.4	16.8	2.9	13.4	9.2	4.2	21.0	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	17.4	47.4	12.6	6.3	12.6	3.2	3.2	24.7	9.5
	知的障害（N=240）	16.3	37.1	17.1	4.2	22.9	6.3	2.9	28.3	9.2
	精神障害（N=392）	24.5	37.2	20.7	5.1	14.8	12.8	3.1	27.8	5.1
	難病（N=348）	29.3	47.4	12.6	4.0	10.9	9.8	1.4	22.7	4.6
障害児保護者（N=185）		41.1	62.2	19.5	0.5	33.0	15.1	3.2	5.4	1.6

10 市の障害者福祉施策

①市の相談窓口や制度の認知度【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 市の相談窓口や制度の認知度について、「知っている」の割合をみると、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は〔ク 成年後見制度〕、知的障害は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）〕、精神障害は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）〕が最も多くなっている。
- 障害児保護者の「知っている」の割合は〔ア 子ども発達センター〕、〔イ 子ども家庭支援センターすこやか（国領ココスクエア2階）〕で9割を超えている。

<「知っている」の割合>

単位：％		ア 動 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	イ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	ウ 希 望 ヶ 丘 （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	エ こ こ ろ の 健 康 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ デ イ 事 業 等 ）	オ 予 約 制 （ 難 病 相 談 窓 口 （ 障 害 福 祉 課 ）	カ 障 害 者 虐 待 防 止 セ ン タ ー （ 障 害 福 祉 課 ）	キ 地 域 福 祉 コ ー デ ィ ネ ー タ ー （ 社 会 福 祉 協 議 会 ）	ク 成 年 後 見 制 度
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	28.2	30.7	9.2	18.1	11.8	8.8	21.8	39.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	23.2	21.6	8.4	15.8	11.6	12.1	32.6	40.0
	知的障害（N=240）	26.3	83.8	8.8	27.5	4.2	12.9	29.6	35.4
	精神障害（N=392）	18.9	27.8	17.3	48.0	4.8	7.7	23.0	39.5
	難病（N=348）	13.5	21.3	5.7	16.1	40.8	10.1	27.3	47.7

<「知っている」の割合>

単位：％		ア 子 ど も 発 達 セ ン タ ー	イ こ ろ の 健 康 支 援 セ ン タ ー （ 国 領 コ コ ス ク エ ア 2 階 ）	ウ 教 育 相 談 所 （ 調 布 市 教 育 会 館 6 階 ）	エ こ こ ろ の 健 康 支 援 セ ン タ ー （ 調 布 市 教 育 会 館 5 階 ）	オ 予 約 制 （ 難 病 相 談 窓 口 （ 障 害 福 祉 課 ）	カ 障 害 者 虐 待 防 止 セ ン タ ー （ 障 害 福 祉 課 ）
障害児保護者（N=185）		95.1	93.5	75.1	43.8	74.6	18.4

②市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組

【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」、障害児保護者は「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備」が最も多くなっている。

単位：％		困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー参加の支援	介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ※1	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	58.8	18.1	53.4	13.9	26.5	14.7	24.4	-	-	-	-
	身体障害（65歳以上）（N=190）	55.3	16.3	42.6	5.3	30.0	7.9	23.2	-	-	-	-
	知的障害（N=240）	55.8	24.6	38.8	28.7	20.0	22.9	30.8	-	-	-	-
	精神障害（N=392）	65.3	26.5	56.6	19.9	25.5	17.6	19.1	-	-	-	-
	難病（N=348）	60.6	25.6	53.4	11.2	30.5	10.3	21.3	-	-	-	-
障害児保護者（N=185）		62.2	20.0	56.8	36.2	18.4	22.2	51.4	64.3	34.6	53.0	67.0
単位：％		日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備※2	企業などで働くための支援（就業支援）	仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備※3	グループホームなど地域における住みやすい場の整備	障害理解の促進や差別の解消	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	デジタル技術を活用した、情報提供や意思疎通支援	その他	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	14.3	23.5	18.5	15.1	22.7	34.9	26.1	33.6	21.8	3.8	9.2
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.3	5.3	10.5	12.1	5.3	26.8	21.6	28.4	5.8	1.6	17.4
	知的障害（N=240）	28.3	23.3	26.3	40.4	31.7	20.4	29.2	32.9	15.0	3.3	11.3
	精神障害（N=392）	25.3	31.9	26.5	19.1	34.4	21.4	35.2	30.6	23.5	5.9	7.1
	難病（N=348）	9.8	17.5	13.8	12.4	13.5	28.2	19.3	29.3	15.5	1.7	8.9
障害児保護者（N=185）		45.4	43.2	36.8	31.4	36.8	25.9	40.0	25.9	18.9	5.9	1.6

※1 障害児保護者アンケートの選択肢は「保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備」

※3 障害児保護者アンケートの選択肢は「趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備」

11 介助者のこと

①介助や支援の不安や困りごと【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「介助・支援をする家族自身の高齢化」、難病は「特にない」、障害児保護者は「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が最も多くなっている。

単位：％		か障害や病気のことがよくわ	適切な介助・支援の方法が	自分の外出・時間がもてない（余暇・外・時間・休養など）	自分の続けられることが難しい	自分の学校・学業がよろそ	介助・支援をする家族自身の高齢化	介助・支援をする家族自身も病気や障害がある	本人のほかに介助・支援が必要な家族がいる	本人のきょうだい（兄弟・姉妹）にも本人の介助や支
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（n=180）	2.2	10.6	21.7	7.8	0.6	24.4	13.3	8.9	-
	身体障害（65歳以上）（n=139）	5.0	8.6	10.1	3.6	0.0	33.8	13.7	7.9	-
	知的障害（n=209）	1.9	6.7	20.6	12.4	0.0	53.6	14.8	18.2	-
	精神障害（n=251）	14.7	16.3	12.0	6.8	1.6	27.5	15.9	10.0	-
	難病（n=278）	9.0	10.8	10.8	2.9	0.4	20.1	5.8	4.0	-
障害児保護者（N=185）		9.7	33.5	33.0	33.0	-	20.0	6.5	11.9	15.1
単位：％		（介助・支援を頼める人（場所）がない	相談できる場所がない	機会がない情報交換、交流、家族	障害者の負担が大きい	経済的な負担が大きい	その他	特にない	いないのでわからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（n=180）	20.6	10.6	7.8	18.9	2.2	17.2	3.3	27.2	
	身体障害（65歳以上）（n=139）	17.3	5.0	2.9	11.5	0.0	15.8	3.6	30.2	
	知的障害（n=209）	32.1	6.7	11.0	12.9	8.1	15.3	2.9	7.7	
	精神障害（n=251）	22.3	11.6	9.6	22.3	2.8	16.7	3.6	25.5	
	難病（n=278）	10.4	3.6	4.7	12.2	1.8	22.7	14.7	23.4	
障害児保護者（N=185）		35.7	10.3	16.2	18.4	8.6	14.6	-	1.6	

②介護者支援策への意向【高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。（いくつでも○）※1

- 必要だと思う介護者支援策は、高齢者は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」、難病は「わからない」、障害児保護者は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多くなっている。

単位：％	介護者に対する定期的な情報提供	介護者が気軽に休息がとれる機会づくり	電話や訪問による相談サービス	本人や介護者が集まって話せる場づくり	仕事と介護の両立支援	介護者の経験をいかした発言の場づくり	その他	特にない	無回答
高齢者（N=633）	47.2	49.0	38.7	30.0	37.4	17.5	1.1	11.8	6.8

単位：％	支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	わからない	無回答
障害者（18歳以上）	4.4	17.8	28.9
身体障害（64歳以下）（n=180）	4.4	17.8	28.9
身体障害（65歳以上）（n=139）	3.6	15.1	38.8
知的障害（n=209）	13.4	12.4	12.4
精神障害（n=251）	8.8	21.1	29.9
難病（n=278）	6.5	31.7	31.7

単位：％	本人の育児や介護を支援してくれること	無回答
障害児保護者（N=185）	28.1	4.9
本人の育児や介護を支援してくれること	40.5	
家事や育児を手伝ってくれること	24.9	
状況や本人の状況に柔軟に対応し、よく理解する	47.6	
育児や本人の状況に柔軟に対応し、よく理解する	59.5	
支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	14.6	
その他		

※1 障害者（18歳以上）アンケートの設問は「ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）」
 障害児保護者アンケートの設問は「保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）」

Ⅲ 住民懇談会の結果

1 緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●安心感 ●見守り ●顔の見える関係	●疑心暗鬼 ●世帯の縮小 ●多忙 ●閉鎖性の助長 ●困る人の増加	●メリットを知る ●支える人 ●連絡先を知る ●空家対策 ●システム構築
グループ B	●自治会 ●イベント・サークル等 ●効果	●後継者不足組織の弱体化 ●プライバシー個人情報 ●相談先がわからない	●あいさつ情報提供 ●行政、企業との連携役割を頼む ●イベント・まつり
グループ C	●子ども ●活発な地域のつながり ●ゆるやかなつながり	●見えづらさ ●プライバシー ●つながりいらない?? ●情報 ●タイミング	●楽しむ！ ●場所づくり ●あいさつが大事！！（きっかけ） ●情報の届け方
グループ D	●情報 ●仲間／気持ち ●共通のわだい	●居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない ●災害 ●知らないことによる不安 ●気持ち ●つながらなくても OK	●災害 ●情報発信のツール ●情報／行政への要望 ●すぐ取りかけられること ●そうなこと

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
安心感	疑心暗鬼	システム構築
・ひとり暮らしになられた方が困った時に、昔からのつながりで助けられたこと。 ・苦しくても解決しなくても、だれかがみていてくれる ・専門家から専門家を紹介していただけた！！ ・分からないこときける！！ ・近所を犬をつれての散歩 ・犬の散歩している方みるとうれしい ・日々生きる理由ができる ・困っていて自分で解決できないこと。相談できる ・色々な方がいることでほっとする ・まだまだ制度知らない方多いことに気付かされるもったいない ・子育ての大変さ。（働く世代） ・子どもたちが安全に暮らせる未来にしたいと思える ・中学生と朝のゴミ拾いをする事で年代をこえた顔みしりが増えたこと ・高齢者会食に参加、設立 ・高齢者配慮への意識↑	・年金受給への引け目 ・生活保護受給への引け目。 ・病人扱いされたくない ・世代による価値観がマイナスになる。→辛さ、苦しさを表出させてはならない。恥とを感じる ・好奇の目にさらされたくない ・相談先が分からない ・誰とも話したくない ・周囲の視線がこわい ・偏見にさらされて生きてきた ・他者の介入を嫌う。介護に疲れて誰にも助けを求めれない例 ・誰かにたよることが自分自身ゆるせない ・他者に自分のことを伝えたくない。 ・周囲への不信感が大きくなっている ・噂話の種にされるのではない ・不審者だと思われたくない ・誰も信用できない	・ヤングケアラーと公共ネットワーク等のシステム構築 ・生活保護者とつながるネットワークシステムの構築 ・IT 世代他(福祉)アプリを通じてダイレクトにつながるシステムの構築 ・行政への不信感↓ ・情報発信の工夫 ・同じ不安をもっている人がどうやって解決、ふんとうしてるか知る ・市の広報紙での宣伝⇒こんなイベントあるよ！アナログなのでアクセスしやすい ・ケアマネ、好事例共有 ・大人版子ども食堂もうやってる？ ・学校をつかってイベント⇒懐かしさもあって参加者増？ ・どこかが介入。どこかへつながったことで良くなった例を！！ ・自治会の入り方を知る！！（若い世代）
見守り	困る人の増加	支える人
・震災の時に情報交換ができたこと ex:お店開いている電気いつから復旧… ・大雪の時、車を駐車場から出す時助けてくれた ・東京都消防庁の災害ボランティアを 20 年以上やり、地域の方と接点を持つ ・地域のおまつりに参加できた⇒自分も楽しめたし、大人や子どもたちもたのしそだった	・災害時に連携できない⇒情報交換、相互救助… ・社会的貧困⇒必要な情報、支援が得られない ・地域の非活性⇒イベントやおまつりが無くなる。経済的、文化的活動の減少、衰退 ・高齢化してつながりがない ・外国籍の方で言葉が通じない、通じにくい。文化、風習がわからない	・IT になじまない方々への対応（人とのつながりが1番か？） ・ネグレクトを察する人材の強化。（思いやり、やさしさ、経験者）

顔の見える関係	多忙	連絡先を知る
・地区協や色々な団体に属することで多くの学びをえられたこと ・自治会の設立近所の顔が良く知れた。 ・自治会 75 才以上(1 人)の会員にみまもりに加入 ・大型マンションの理事になって、多くの住民と知り合いになれた。 ・子どもたちの通学見守り運動⇒この町なら安心して子育てできるという安心感が生まれた ・子ども食堂を通し、多くの子ども達の成長をみるのができたくさんのスタッフと仲間になれた。	・今の生活を守りたい大事にしたい ・仕事が忙しい ・余裕がない ・パートでいそがしい。 ・忙しくて家には寝にかえるだけ	・医療関係者と民生委員さん、ボランティア、自治会等とのつながり。 ・本人申請以外の連絡が生きるネットワーク作り ・通報 ・東京ウィメンズプラザ連絡 ・こころの健康センターへつなげる。 ・地域包括支援センターへつなげる ・若ナビα連絡
(枠外・テーマなし)	閉鎖性の助長	メリットを知る
・うつ状態を発症⇒病院、医療関係者との連携・善意のある方々とのつながり ・長期ネグレクトによる自殺未遂・多くの方々が間に入り連携を取って下さった。・孤立しない様にして下さった。 ・提案を出す事で物事を改善するきっかけとなった事 ・年賀状や贈りものを通じて、つながり続ける楽しみ。(年を重ねる程)	・ネグレクト⇒親:逃げ場がない、子:抵抗する意志が存在しない ・治安悪化⇒見守りが無くなる。条件は目に付きにくい所で発生 ・ネグレクト他・大人の ADHD が影響を及ぼす。 ・閉ざされた家庭になかなかはいっていけない	・1 人で抱えこまず複数人で対応 ・嫌／苦手な話題のかわし方も周囲と相談し持続可能な繋がり ・数年単位解決に要すること覚悟する ・つながりをもつメリットを知る。 ・ペットを飼っている高齢者と、保護犬保護猫団体とのつながり。(飼いたい方々も含む)
	世帯の縮小 ・空家がふえた。 ・1 人ずまいが多い	空家対策 ・空家対策 ・空き家の活用を市が援助 ・高齢者の名前、住所が判る様に書いてあっても昔の様に住所表示されていない所が多く、つながりや、どこのだれか判らない。

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
自治会	後継者不足組織の弱体化	行政、企業との連携 役割を頼む
・自治会の班長になり近隣だけでなく顔見知り、あいさつちょとした話をする人ふえた ・老人会の副会長会計をしていること大変です。 ・自治会の防災訓練に参加することで、近所の人の顔が分かった。	・老人会で毎月会報を配りサークル活動がわかるようにしているが参加者は同じ人たち ・男性のサークル参加が少ない。 ・後継者不足 ・イベントの縮小・中止(コロナの時期から)	・企業や商店との連携 ・防災訓練を地域の防災倉庫の用具を使ってみんなでためしてみる。大人も子供も参加する。 ・(行政)活動の費用(簡単なもの) ・一人ぐらしで身よりない人でこまり事のかかえている人については専門職とも連絡して近隣も役割はたす ・自治会と行政がつながり、一緒に考える。
イベント・サークル等	プライバシー個人情報	あいさつ情報提供
・夏まつりにボランティアとして参加 ・仙川オレンジカフェのスタッフ参加したこと。 ・地域センターでの10の筋力トレーニング代表者になったこと ・夏まつり(小学校)を手伝ったことで、つながりできた人増えた ・市で行っている10筋体操に参加することで、地域住民とつながった。 ・マンションに住んでいる高齢夫婦、趣味(麻雀)を通して地域のサークルに参加 ・「ふれあい給食」のスタッフ参加をして高齢者の方といろいろお話しが出来たこと。	・ひっこして来た人はゴミ出しの情報がなくて困っていた ・プライバシー重視お互い干渉しない ・個人情報との関係でつながりづくりにくい ・定期的な集会がない。(集合住宅) ・誰が住んでいるかわからない ・あいさつがない	・あいさつ簡単な会話 ・あいさつの声かけから話しをしてゆく ・調剤などお店から通っている所で情報を知ってもらう。 ・地域住民の困り事を考える ・口コミからの情報を流す。 ・あきらめないで何度かアプローチし、きっかけを作る。 ・ちょっとした+αの親切
効果	相談先がわからない	イベント・まつり
・つながりがどんどん広がる→困った時に相談できる人が増える ・社会復帰につながる ・家の前の道デコボコがでていた自治会の役員が写真とり市に申し入れた結果すぐになおしてくれた。 ・地域で知っている人に会うと安心する ・防犯につながる	・相談しづらいどこに相談したらいいかわからない ・人と関わるのがおっくう ・困り事があっても誰に相談したらいいかわからない ・電話でのお話しが難しい。 ・地域の情報を知らない。自治会って何？	・敬老や入学のお祝い ・地域の中の小さい公園に集まり(近くが大切)楽しくすごす会を ・イベントでの出会いから ・地域のイベントおまつりは若い世代も参加しやすい

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
子ども	見えづらさ	あいさつが大事！！（きっかけ）
・子供会活動で地域の子どもとつながった ・孫のお友だちの母親と LINE でつながりできた	・手入れがなく空家みたいだけど住んでいるかも？ ・孤立は見えづらくかわりがむずかしい ・住人の様子が外から見えない	・あいさつ運動 ・給食など食を通じて、本ねが出る
活発な地域のつながり	プライバシー	場所づくり
・地域行事の手伝いをして多くの人と出会った ・地域の清掃活動を通じ、街をきれいにできた。 ・スポーツジムで自然とあいさつや笑い話などでスポーツの継続になり体調が良くなった ・おすすめし楽しまれて活動に参加されている様子 ・長年の活動の中で知り合いが増え自分が楽しい	・近所の人に家の中まで知られたくないプライバシー ・プライバシーのむずかしさ ・守秘義務が多すぎて助けられない	・活動の場所作り ・ブラッと立ちよれる場所があるといい ・センターの利用の仕方が問題
ゆるやかなつながり	つながりいらない??	楽しむ！
・民生委員としてお年よりとのこうりゅうがふえた ・自治会であいさつをした事と、近所の方の困難を知る事になった ・月に1度1人のお年よりと電話	・人間関係を必要としない。 ・他人と口をきくことがおっくう ・外出しない ・話し相手がいない	・天の岩戸が開くような、楽しい行事をする ・家から出てたのいいと思える取組がたくさんあるといい
	情報	情報の届け方
	・相談事など出むかないと情報を取れない ・そもそも情報を取り行く事をしない ・地域の活動について、よくわからない	・学校などトイレに色々な情報をはる
	タイミング	
	・相談する、時間タイミング合わない ・自分にあった活動時間のものがない	

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
情報	災害	災害
・近所の方とつながる事により状態を得るあるいは状態を教えることが出来た。 ・新しい情報にふれることができる。	・災害の時支援すべき人が分からない。 ・災害時の助け合いができない	・大災害が起きたならば地域住民が協働することができる ・大きな災害がないと自分ごとにならない。その時がつながるきっかけに。 ・こまった事が起きた時に社協、市役所がこんな事が出来るというアナウンスをもっと集知するべきだ。 ・困った時に頼る先として”私たち〇〇できます！”としっかり広報してほしい。
仲間／気持ち	つながらなくても OK	すぐ取りかかれることそうなこと
・同じ悩みを共有した上で心おきなく話せる安心できる。 ・仲間と悩み等相談できる。 ・寄り添ってもらえると落ち着ける。 ・知り合いが増えた楽しい！ ・感謝してもらえる ・またやろう！！のモチベーション ・みんなと仲良くなれる。相談できる環境	・心が変わった時、余裕があるその時に ・地域とつながる事がいやな人もいる（対人関係）なんか、気分的に地域につながりたくないなんかめんどくさい。 ・つながらなくてもいい！！OK！自分のことで精一杯	・見回り、声がけ ・近所の人へあいさつ ・時間を掛けて、話しかける。相手の興味がある話しをもちかける ・就労支援等、一緒に探してあげる ・回覧板話さなくてはいけない状況がある。 ・体調悪い？とまったら、気になる。回覧板でつながる！！ ・自治会活動の活動 ・自治会では、会員の方々が集まってくれる用な企画しを、する。（防犯、防災） ・お祭り・地域の住民・行政・企業
共通のわだい	気持ち	情報／行政への要望
・花壇の手入れをすることにより（体を使う）気分がスッキリ（仲間達） ・共通の話題で盛り上がると知り合いになりやすい ・つながりの連鎖スマホ教室→お祭り→防災訓練	・離れていくムリにつながろうとすると ・関わりがなくなる ・信頼関係がきづきにくい ・否定的で（拒絶）話しができない時心が折れる ・親切心がいやだ	・心のわだかまりをほぐす！ひきこもり（家族）について、心理師さんに相談できる（個別に）システムをつくり、市全体に公報する。行政 ・公認心理士の専門相談窓口を作してほしい。つながりたくてもつながれない人家族のために ・専門の窓口知らない、分からない広報が必要、口コミ

	知らないことによる不安	情報発信のツール
	・ どのような人かわからない怖い ・ 防犯がしにくい	・ LINE のオープンチャット・相談先・地域のおまつり
	居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない ・ A と B の地域近いのに何をやっているか分からない・作品展など・花の好きな人がいる	

2 第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●場所 ●情報 ●人 ●出会い	●居場所 ●顔が見えない ●災害 ●近所付き合い	●イベント ●情報誌 ●その他
グループ B	●具体的多世代 ●人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア ●地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと	●個人的 ●地域的	●個人 ●地域イベント ●企業・行政
グループ C	●イベントを通じての出会い ●障がいの理解 ●団体活動 ●あいさつ	●子そだて世代 ●病気、障がい ●防犯、関係が希薄に…	●情報について（行政・地域住民） ●（行政） ●あいさつができるようになるには…（課題）（個人）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
場所	居場所	イベント
・本 絵本の好きなつながり ・”ぬりえ”をはじめています。昔のぬりえと違いすごく色あいなど考えながらぬってみんなで語り合います。 ・コンサート音楽好きのつながり ・地区協議会いっしょうひだまりサロンのつながり ・誰かと会うために外に出る→健康になる ・どのような考えがあるか新しい発見がある。 ・子どもの学校、保育園のつながり ・自治会のつながり ・ひきこもりがちだが外に出るきっかけになる ・地域にこんな人がいると知れる ・福祉センターひだまりサロンのつながり ・新しい活動につながる生まれる	・個人情報だからと標札に名前を出てない ・自治会不用論が出たり役員になりたがらなくなつてつながりかきれい ・学校の連絡網もつくらなくなりどこに住んでいるかも知らせない ・たまり場が必要。年令には関係なく ・相談できる人がいない ・自治会の活動に無関心	・市報に自分の参加できるお知らせを見る ・手伝いたいけど何をすれば良いかわからない→何が必要か教えてほしい。 ・地域イベントに参加して出会う福祉まつり商業まつり等 ・性別、年齢、問わずに、だれでも行けるという場 ・地区協議会に参加する。地区協の活動を活発にする ・地区協議会に参加して活動づくりをする ・ひだまりサロンを増やす。(出会う機会を増やす)
情報	顔が見えない	情報誌
・知らない事を教えてもらえる。 ・地域のちょっとした情報が入る。 ・地域に住んでいる人の顔が思い浮かぶと地域愛になる ・ちょっとしたことを話せる相手がいる ・新しい情報が入る ・地域の子どもを気にかけるようになった。 ・みんなが見守られていると思える ・防犯になる。地域にいろんな目があると伝わる。	・地域の情報がくわしくわからない。 ・どんな人が住んでいるか見えない。 ・じっくりと語りかけることが少なくなった ・地域の情報が入っても、参加のハードルが高く感じる。 ・誰が住んでいるかわからない何となく不安。 ・信頼関係が生まれない ・地域の活動の内容がわからない ・活動の情報がはいらないから外出の機会もへる。	・自分の興味あるところだけを選べるようにする。(情報) ・分野別に情報があるとわかりやすい。 ・地域単位の情報誌。 ・広報誌(市)を見やすくする。 ・自分に関する(エリア)情報だけがほしい多いと困る。

人	災害	その他
・多摩川が近いのでウォーキング仲間とのつながりができた。 ・〇〇さんに誘われたから行ってみようかな、参加につながる ・体を動かす出かける事が増える ・一人で抱えなくて良い安心感 ・信頼が生まれるあいさつから ・顔がわかる人が増える ・近所の方数名とあいさつしていますができる点。	・災害があったとき、助け合えるのか不安。 ・自治会として、避難のときに必要な情報。(お子さんが何人いる)。がわからない。 ・避難訓練にも参加しない参加しづらい。 ・災害等の時が心配。	・「この指とまれ」を言ってくれる人。がいる ・目的・性別・年れいなどの区別なく、自由に(気軽に)出入りできる場所があるとよいかな ・こういうものが必要と、周りに投げかける。 ・住民をつなげるため行政の役割とは住民のつながり ・趣味や興味のあるものでつながる。
出会い	近所付き合い	
・人と会うとエネルギーをもらえる。 ・ちがう年代の方と出会える ・出会いが連鎖する ・若い人と出会える ・顔見知りが出来て”おはよう””元気ですネ”からおしゃべりがはずみます	・家族が少なく、(独居など)出かける機会が少ない ・家にこもりがちで外に出ない。 ・共働きで昼間に顔を合わさない。 ・ご近所に無関心。自分の生活にだけ関心が向いている。 ・働いているとつながりたくてもつながれない ・世代間でつながりがない若い人とつながれない ・考え方がちがうとつながりがなくなる。	

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
具体的多世代	個人的	個人
・子どもの見守り ・子ども会 ・防犯の情報共有 ・健全育成のとりくみ ・情報誌シニア編がいろいろなところにおいてくれておりありがたい ・地区協議会でイベントにとりくみ地域全体で参加できてよいです ・地域の民生委員の方が中心になって、自治会でいろいろなイベントを取組み、他の自治会にも参加を呼びかけてくれており、助かっています。 ・ひだまりサロンで自治会の枠を超えて集まり楽しんでいる。 ・一つの居場所がきっかけで様々な交流が生まれた ・地域での認知症の理解が深まった	・単身で地域活動に参加していない ・生きがいの創出が難しい ・情報判断がしにくい(さぎに合いやすい) ・家族に小学生がいない。孤立世帯 ・引きこもり(健康でなくなる) ・情報格差が生まれる(高齢者) ・新築マンションの住人 ・気軽に話せる人がいない ・ひきこもり(病気による)精神・身体的理由	・単身者への訪問(民生委) ・民生委員の負担をへらしながら地域のボランティアとの連携をできるようにしてほしい ・(個人)あいさつをする
人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア	地域的	地域イベント
・楽しい時間を共有できる ・つながりをまたつなげてやりがい生きがいが増えた ・ボランティア運営のつながり	・自分も高令化になり、ボランティアができなくなってきているコウケイ者づくりがむずかしい。 ・家(屋敷)の外見からではわからない ・お祭りがなくなる ・PTA が活動しなくなっている ・高令化が進みボランティア活動ができない人が多い ・子供会がなくなっている ・地域に関する不満がコミュニの良いきっかけ ・男性も女性がずっと働いているのでボランティアをできない	・おまつりやイベントは大事。よいきっかけ ・自治会の資金不足を改善してほしい ・地域包括支援センターがもっと地域と情報共有できるようにしてほしい ・新しいコミュニティの(今の時代に合った仕組み) ・若い世代の輝ける場所づくり(地域) ・災害時要支援制度が少し進展しましたがもっと進めてほしい
地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと		企業・行政

・飛小で地域の方が、あいさつ運動や、交通せいを毎朝やっている ・新しい友達ができた。 ・最近越して来られたお家。 ・倒れた方への対応。声がけができたこと ・困った時に助けを求められる ・知っている人に会うと安心する ・近所の顔見知り ・お店のお客様例自転車屋	・CSW をもっと人員を増やしてほしい ・地域参加のきっかけ作り(行政、企業地域) ・(行政)連携の舵取りのうまさ ・新しい(企業・行政)地域活動の取り組み(ふるさと納税的な)仕組み
--	--

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
イベントを通じての出会い	子そだて世代	情報について（行政・地域住民）
・西部地域センターで「ふれあいのつどい」を手伝いました ・学校イベントサークルに参加して楽しく生活 ・地域のイベントニテいろんな方と知り合う事ができた ・イベント後も声をかけあう関係性に。 ・まんまる(富士見町)で手づくり教室を始めた。小学生(低学年)	・PTA や子ども会がない小学校にいきたい ・両親働いているとボランティアとかをするようがない	・市報にのせて発信しつづける ・市報に「つながりコーナー」をもうけてほしい。 ・イベントのチラシ→ポスティング(マンション) ・情報が多すぎると見る気になれない→すこししぼる ・掲示板の活用・自治会・学校など ・身近な地域福祉センターで、他の地域の情報もらえると良い。
障がいの理解	病気、障がい	(行政)
・フラットカフェ(青木病院)に参加して二年位。(認知症の勉強会) ・→軽度の認知症があっても、まちで声をかけ合える関係性ができた	・高齢のご夫婦でお奥様が認知症らしいが接点がない ・病気や障がいはかくしたい	・学校の福祉教育 ・子そだて充実させる
団体活動	防犯、関係が希薄に…	あいさつができるようになるには…(課題)(個人)
・ボランティア活動にて仲間がふえた。 ・PTA 後つながり大 ・民生委員としていろんなつながりができた。(相談) ・地区協や民生のグループでの情報大切	・学校では知らない人にあいさつすると言われる ・女性の◎ひとりぐらし→防犯 ・1人ぐらしとみんなに知られたらあぶない ・ひょうさつのない部屋、家が多い	・ワンワンパトロール ・あいさつをする。とにかく知らない人でもする！

・つながりが太くなっていく	・コロナで話さないようになった →今もつづいている ・年代はいっしょだけど、きっかけがない ・隣近所との顔合わせ！ ・マンションでもあいさつをしない人が増えた ・おとなりさんほっとしてくれるのが良い面になってる。	
あいさつ	(枠外・テーマなし)	(枠外・テーマなし)
・朝のあいさつ ・朝夕の登下校の見守り。わんちゃんがいると親しみやすい。	・自治会がへっている ・趣味していると、他のつながり不必要。 ・情報えらべない(多すぎ、スキル) ・親兄弟や友達のいない人→どうやったらつながれるか分からない ・活動に男性が 1 人。どうしていいかわからない。	・自分が楽しくないとつづかない！ ・防災関係→興味をもってもらいやすい ・京王多摩川駅の活用→飲食店などふやす ・小地域交流事業など、ターゲットがかたよらないように多世代交流できるように工夫する ・スポーツをきっかけにつながる ・フラットカフェなどにごあんない
(枠外・テーマなし)		
・LINE や年賀状 ・まわりの人の状況が不明		

3 上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりが ない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域と つながりがない状況”を なくすために、どんなき っかけや取組ができそ う？」
グループ A	●あいさつ・見守り ●ポジティブになる ●サークル ●知りあいできる ●情報が入る	●コロナ ●つながり薄くなる ●情報入らない ●心配な人	●サービス ●地域活動 ●個人でできること
グループ B	●きっかけ ●地域活動 ●気持ち・安心	●孤独「地域とつなが りがない状況」 ●無関心，偏見閉鎖的 ●ギャップで分断 ●⇒結果起きること	●ツール ●学校教育 ●おせっかい，声かけ ●伝える・相手の立場・状 況もふまえて ●ハード面
グループ C	●困った時に助け合う ●防犯	●つながりたいけど難し い状況環境 ●困ってない ●頼るのが苦手 ●学校	（意見区分タイトルなし）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク1	テーブルワーク2	テーブルワーク3
「つながりがあったよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
あいさつ・見守り	コロナ	サービス
・あいさつ運動であいさつをする人がふえた ・朝のあいさつ運動(はたふり) ・朝の見守りで、地域の子供と顔合う	・コロナで、集まるリスクさげている ・コロナ禍でママ友ができない	・ちいきほうかつしえんせんたーみまもっと ・ヤクルトふっかつ ・みまもっとかつようする ・市などの何でも相談窓口の充実
ポジティブになる	つながり薄くなる	地域活動
・元気をもらえる頑張ろうと思える。 ・朝起きるのがつらいときもがんばっていこうと思える ・同じ立場の人に自分の気持ちを話すことで、気持ちが楽になった。	・同じマンションでも、ほとんど顔合わせない。 ・でがみかかなくなりました	・子供食堂等誰でも参加しやすい様に ・こみゅにていーすペースだれかがいるばしょ ・どんなサークルでも、毎回生存確認になる ・情報共有・さそいあい
サークル	情報入らない	個人でできること
・サークル仲間でひまになる事ない ・ドルチェサロン	・くちこみじょうほうがはいらない ・悪天候などで休校になった時学校にきてしまう子供がいる	・あいさつやはたふりをつづける ・LINEでも通報できるとよい
知りあいできる	心配な人	
・よみきかせで現役保護者とつながれた ・こども食堂で知りあいがふえた ・不登校の保護者の会でひとりでないと思えた ・いけさんをしている	・せんたくものほしっぱなし ・さいがいがおおきたときがしんぱい	
情報が入る		
・同じサークルの人に心配な人がいるとご相談があり関係機関と共有して支援することができた ・地域会ギでイベントの情報入る		

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
地域活動	孤独「地域とつながりがない状況」	伝える・相手の立場・状況もふまえて
・ご飯屋でサービスしてくれた。 ・地域の良さ共有できる(愛着) ・休みが充実した。 ・地域でのいろいろな事業に参加してもらって防災訓練等 ・自治会で実施しているじゃがいも掘り ・おち葉雪かき手伝う ・知ってもらえる人が増えた ・ふれあいサロンによる交流 ・地域で実施する交流福祉まつり ・行事に参加しやすくなる ・子ども食堂で子どもたちやパパママ参加、笑顔がいっぱいつながりをみられてうれしい ・人と人とがつながっていくのを見て、喜びを感じる ・ふれあい朝市に子育てに悩みを抱える親子参加→笑顔がみられた ・コロナで家族みんな倒れているときに、食べ物届けてくれたり、Lineで励ましてくれた ・自治会で実施夜間パトロール	・寂しい。 ・孤立したままだったかも ・子のケアや孤立で、親も体調を崩していたかも ・同じ状況の方とも出会えなかったかも ・SOS 出せる出したいと安心して思える人がいない。 ・人と話せない、会えない、ネットでもつながれない。 ・孤独孤立つらい共助しない ・世界中の中でこんなこと悩んでいるのは自分だけだと感じてしまう ・親自身も社会とのつながりがなくなってしまうかも ・お互いを知らない→あいさつできないしてもいいのか… ・大変そうな人がいても声をかけられない ・何か地域でやること、関わること→めんどくさい…時間がない… ・SOS が出せない。 ・コロナ禍以降食事会飲みがなくなった。 ・とにかくさみしくてつらい状況 ・自分は孤独孤立無価値だと感じてしまう ・日常会っても挨拶がない・おはよう・こんばんは	・学校や PTA・地域の協力で、茶話会など情報の発信。 ・知ってほしいだけではなく、自分も相手を知ること大事 ・学校・地域福祉・医療のネットワークゆるやかな ・意識付 ・つながりたい時、タイミングでつながっていいことを伝えていく。 ・活動への参加呼びかける情報提供する ・つながりがないデメリット伝える。 ・地域のおまつり学校関係、PTA イベント→すっごく楽しいよ！！と子どもの友だちとかママ友に伝える。 ・使い方を利用方法を(共有する) ・地域活動や地域情報を各支援機関や地域住民に CSW として伝える ・悩んでいる人の声をキャッチしたら合いそうな情報をさりげなく伝える ・今あるものを(伝える) ・様々な場、環境(知らせる)
きっかけ	無関心、偏見閉鎖的	学校教育
・地域の楽しいイベントなどママ友からの情報！！ ・防犯危険に気づく ・学校や学童の係をやってみることで、今まで関わったことない地域の人とつながることができた。 ・防災意識テーマについて話せ	・誤った情報で周囲に伝わっていたかも ・無知無関心から傷つける ・おせっかいがない ・偏見でうわさを広める ・地域活動の情報提供不足 ・個人プライバシーを意識しすぎで話しかけない	・人権教育・多文化共生 ・自分ごとにしない。⇒その意識をもつために学校教育 ・小さい頃から教育 ・SOS 出してよいと学校教育で教える

・ 近所のことを教えてくれた。 ・ 普段の生活では知ることができない情報をキャッチできた。	・ 対人への心づかいがない。 ・ 良い情報を得られない。 ・ どうして学校に行けていないのかも誰も知らなかったかも ・ 他人に厳しい(年齢とれず)	
気持ち・安心	ギャップで分断	おせっかい, 声かけ
・ 同じ状況の方と出会えた ・ 困っていること気づく ・ 視野が広がった。 ・ 一緒に考えてくれる人にも出会えた。 ・ 大変な時に支援ができた。 ・ 毎日の通勤や休日のお散歩で挨拶をすることで、最近の近況や今、困っていることをお互いに話せる関係の人が増えた。 ・ 他の困り事のある方が、相談しやすくなった ・ 体調くずしたあとに(肺炎)いろんな人からのありがたい、やさしい声かけ ・ 知り合い顔見知りが増えた ・ 話してみることで、「自分だけじゃなかった」「大丈夫かもしれない」と気持ちをきりかえることができるようになった。 ・ 顔見しりになることで地域の親子が安心になる	・ 世代間で分断してしまう ・ 子どもの成長とともににはなれていく。 ・ 年齢層で分断 ・ お互いに理解がない	・ 積極的な声かけ行動を行う ・ おせっかい。 ・ 地域で行う事業への参加をさそう ・ 誰かとつながる、いっしょに何かをやる楽しさを大人が子どもたちに見せる ・ 柔軟な対応(相手にあわせた) ・ 地域のおまつりイベントをまず自分が楽しむ！！ ・ まず自分からさわやかにあいさつ ・ 相手の相談に応じてやる
	⇒結果起きること	ハード面
	・ 元気な時はそれでも良いかもしれないけど、しんどい時は、生きづまる。 ・ 今、笑うことが出来ていなかったかも ・ 汚れた街 ・ 関心なし→犯罪→ゴミ ・ 子ども若者の生きづらさ増えてしまう ・ 活気なし ・ 余裕がない時間的経済的精神的	・ 誰でも道わきで座れるベンチ設置 ・ 子ども食堂大人食堂誰でも来て OK 食堂を地域につくる ・ 知っていただくために自主上映会を開催 ・ 知っていただくために講師をよんでの学ぶ場
		ツール
		・ SNS から広げる ・ つながりやすいツールを使う。

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
困った時に助け合う	つながりたいけど難しい状況環境	(枠外・テーマなし)
・幼稚園のママ友と今でも交流があり困った時に助けあう ・中学校の部活指導をしていて、地域の行事に人手が足りない時手伝ってもらっている ・暑い日にカギを忘れた子を保護してもらった ・PTA で一緒に役員をやっていた人と今で交流がある ・住民の方の力があることを知った	・つながりたいと思う状況にない(精神的・身体的になど) ・ケアラー介護で忙しい ・相談するところがない。わからない ・災害時にとりのこされるかも。 ・結果情報が少なくだまされやすい ・外に出る手段がない外に出れない ・サポートしてくれる人がいない	・相談できる場所を明確に ・幻聴で困られた隣の人が相談に来られた ・共働き世帯が多い ・みまもりした人が口コミで他の人に宣伝してくれる ・調理ができる人(子)を増やす ・IT 化 ・ボランティアを増やす ・学校が状況をはあくしているので、学校に支援できる人を配置したらどうか
防犯	困ってない	
・あやしい事業者の情報をもらった。 ・「押し買」業者撤退させた ・防犯にもなる	・高齢 2 人住い or 家族だとサロンに入られない ・1 人で困っていない	
(枠外・テーマなし)	頼るのが苦手	
・民生委員となり地域の方々と知り合うことができた ・亡くなられた方のご遺体の皆で見送り ・高齢一人住い女性の古い家電製品の更新手続き ・顔を知ってもらい、ちょっとした相談をしあえる ・キツイのは、自分だけじゃないことがわかった ・孤独をかかえていた人に気づく ・不登校の子どもが多いことがわかった ・助成金の手続きがきびしい ・関係機関とつながった ・さまざまな困難があることがわかった。 ・買物通院の交通手段に悩んでいることがわかった	・人好きあいが好きじゃない ・アイサツに無回答言い続けたら小声で「おはよう」 ・外に出る人と話すのが苦手 ・高齢男性にサロン参加願しても「オレはいいよ」 ・人に助けを求めるのが苦手 ・他人の言うことをきき入れたくない。	
	学校	

	・学校が手いっぱいでは不登校児に対応できてない ・卒業していなくなれば、問題がなくなったと思っている。 ・たぶん10年以上すれば自立の道を見つけられる。	
	(枠外・テーマなし)	
	・生ゴミをあちこちに置き放し ・家の樹の枝がのびていても切っ て欲しいと言えない ・金銭的な余裕がない ・サポートの手をのばせない ・個人情報のかべ	

4 第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●きっかけ ●安心 ●広がり	●孤立 ●ひま ●出かけない ●会話 ●心配 ●情報	●おせっかい・声かけ ●手段 ●情報相談 ●発信
グループ B	●日常と非日常 ●活動＆そこからの広がり ●地域 ●行政，社協 ●趣味・境遇	●拒否 ●危機感ない ●情報 ●孤立	●情報・知る ●生きる基本（食・からだ・コミュニケーション） ●地域・コミュニティ ●施策・行政 ●一時的な困りごと ●リスク
グループ C	●趣味余暇 ●情報共有 ●相談支援 ●交流	●心の栄養不足 ●SNS ●孤独・孤立	●意識啓発 ●居場所づくり ●情報発信・きっかけづくり
グループ D	●出会い ●助け合い ●情報 ●気持ち ●お土産	●情報 ●気持ち ●モチベーション低下 ●助け合い ●災害編 ●お土産 ●ポジ ●機能低下	●情報 ●助け合い ●地域イベント ●ピンチをチャンスに！ ●出会い ●あいさつ ●居場所（お土産）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
きっかけ	孤立	手段
・小学校のPTA から地域のおまつりに参加したり人脈が広がった ・子供食堂を2ヶ月に1回することで、地域の方たちの知っている顔が増えた ・高令者会食で各地域に住んでいる方と話す、キッカケができた ・友人を通じて趣味が更に広がった ・友人が増えた ・自分の地域外の方と交流が持てた。 ・小学校の登校の見守りをしていることによって、児童たちとの交流が持てた ・趣味が生きがいになった ・あいさつされてうれしかった ・知りあいが増えた。 ・柿をもらえた ・学校区内でも自分のまわりの方以外と交流が増えた。 ・家族も参加する、きっかけができた（PTA、おまつり、防災くんれん） ・趣味が深掘りできる様になった	・孤立感 ・話し相手がない ・しゅみをやめてしまった！！何でも自分でできると人を寄せつけない人をよせつけない ・気持ちが落ち込む ・男性：退職すると活動の場、友人が周囲にいない。	・スマホ教室に参加年令関係なし ・会食をするだけでも（昼）参加OK ・ごみひろいをスポーツ化する（他地域で行っている） ・eスポーツの場の種類を増やす ・参加しやすい場を作る。（地域、行政） ・防災活動等意義を感じられる活動への参加をうながす。 ・子供たちとの交流会を行う昔遊びや手作り（万げ鏡） ・ゲーム（遊びを通じた交流） ・日帰り旅行会、散歩会。 ・散歩のようなもの ・バーベキュー
安心	情報	おせっかい・声かけ
・あぶない工事業者について教えてくれた ・近所の目に見守られて。 ・自分の住んでいるマンションでは”あいさつ”をすることで仲良くおしゃべりができて、顔がわかる ・子どもを助けてもらった（カギを失くし暑い外にいたところ） ・心配な人の安否確認が自然にできる ・災害のとき心強かった	・情報が入ってこない。 ・地域に（男性）溶けこめない ・情報が入ってこない ・地域の活動を全く知らない。しろうとしない！！ ・災害時にとりのこされるかも？ ・地域にとけこまない、顔をあわさない	・まず挨拶声をかけて顔見知り ・顔を合わす機会にはあいさつ等声をかける ・知りあいの知りあいは知りあい！？ ・声かけの声かけ運動 ・意識を変える（家族のススメ） ・返事がなくてもめげずにあいさつ。

・プチ家出をした保育園児を保護してくれた		
広がり	出かけない	情報相談
・年齢層が色々な人達と出会えた友達になった ・自分から好きなサークルに参加できるようになった。 ・災害があった時に社協とのつながりがあって、手伝ったり、安心した ・地域活動に参加することで必要とされる意識が持てた	・出かける用が無くなり、フレイルになりそう。 ・高齢になるにつれて、外に出ないため交流がへる	・気になる人がいたら、知り合いの民生委員に伝える ・近所の気付きほんの少し感心を持つ新聞がたまってるけど～ ・地域包括を頼りにしている。
	会話	発信
	・会話の機会が減ると認知症になりそう ・だんだん会ったり、話しをする人がへってきた ・会社時代の友人は離れていく。	・回覧板やめずに続ける ・活動のチラシを入れる掲示する ・広報イベント等出かけて行くきっかけになる。
	心配	
	・洋服がよごれていた、本人気がつかない周りからいってもらえない ・変化にきづいてもらえない ・本人は独りがよい(人もいる)	
	ひま	
	・暇自分の生活以外何も無い。 ・暇を潰せない寂しい	

【グループB】

<u>テーブルワーク 1</u>	<u>テーブルワーク 2</u>	<u>テーブルワーク 3</u>
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
日常と非日常	拒否	生きる基本(食・からだ・コミュニケーション)
・ご近所同士の気づかい合い、支え合いが生活を支えている特に多摩川住宅 ・子どもの習い事保育園保護者の人 ・防災への意識を自治会などが啓発したり防災訓練を実施することで持ち続ける ・災害時の声かけ ・家から出られない方と電話でコ	・近所付き合いを嫌う人がいる ・顔を会わせても挨拶しない人 ・近所づきあいわずらわしい ・1人ぐらしの人の見守りを好まない人 ・自治会の役をやりたくない ・自治会に入っていない人が増加(孤立)自治会だけがもりあがっているのでは？ ・プライバシー	・食は大事に関するイベント ・まずあいさつからコミュニケーションのとり方方法 ・お茶会にきそう(食べること大事) ・高齢者を10の筋肉体操にきそう(動くこと大事) ・近所づきあい ・シルバーパスは外出を後押し

・ ミュニケーション年の違う友人 ・ 近所の人との挨拶 ・ 買い物特に知り合いに出会う (バス、電車 etc) ・ 名前は知らないけど挨拶する近所の人 ・ 近所の方との情報交換(防犯など) ・ 緊急時の安否確認(命を救う) ことにもつながる		
活動&そこからの広がり	危機感ない	施策・行政
・ ひだまりサロン長い間会食サービスはかかわってきて会員が高齢になり認知症ぽくなった時社協支援センターとつながり助かった ・ サロンなど人と会うことを楽しみにしている活力にしている高齢者が多い ・ ボランティア活動をしている仲間と他の活動にも連けいして他の活動にも広がっている	・ 地域のこと災害のこと自分事にならないといけない ・ 訪問者のサギ？近所につなぐ方法	・ 高齢者対策を具体的に示す ・ 支援機関が世代の枠をこえて働きかける。縦割りをなくす
地域	孤立	地域・コミュニティ
・ 開放活動での(少年サッカー) 夏祭り参加 ・ 地域行事への参加(防災訓練) ・ 染地、すぎもり、布田それぞれの地区協議会がつながりの大きな軸になっている ・ 自治会活動 ・ 染地マルシェ、布田わくわくひろばまつりなど地域のおまつりを通じ様々な団体の横のつながりがある ・ 今日のような会への参加 ・ 地区協活動への参加 ・ 市主催の行事への参加	・ 1 人暮らしの人のお風呂での死。何日も風呂場の電気がついたまま。気がついても誰も動かず。連絡先は？ ・ 子育てのこと介護のこと(孤立) 相談できる人がいない相談先がわからない ・ 地震や台風が来ても孤立する助けられない(孤立) ・ 悩みごと・状況がかなり悪化してからようやくつながる(先手が打てない)(孤立) ・ 自宅にひきこもる 8050 問題 多問題(孤立) ・ 引越しをして近所に知りあいがない状況 ・ 自治会からの声かけ待ちになってしまう	・ 他の人の見習うところ学ぶ ・ 多世代交流の居場所やイベントおまつり染地・布田・国領 ・ 子供を介しての行事開催 ・ 祭、運動会などの地域の行事を行なう ・ 空き家・店舗を使った居場所 ・ 施設、学校のスペースを開放した場
行政、社協	情報	情報・知る
・ 日々の活動で知り合い夫が介護状況になった時すぐ支援センターにつながり助かった ・ 困っている(困っていそうな)高齢者等を包括など支援機関につなげてもらう ・ 一人暮らしの方引越して来た方をあたたかく受け入れてくれるボランティアコーディネーター	・ 情報過多で本当？信用ある情報 ・ オンライン情報の発信が面倒 ・ オンライン情報一方通行	・ 若い世代に地域活動を PR できる SNS の活用

が		
趣味・境遇		一時的な困りごと
・つながり多摩川土手散歩での友達になって時々食事会する ・校友会活動 ・同じ境遇のつながり子育て、ひきこもり退職後シニア ・趣味を通じての出会い・会話 ・毎日散歩の途中で寄るカフェでの常連さんとの出会い ・同じ趣味関心の人たちライオンズファン… ・登校の見守りボランティア子ども・保護者・シニア		・エレベーターの箱から全部取り替え工事の予定、高齢者への助け合いなどに期待感あり。(10日間) ・急に認知症認めたくない人へつながる
		リスク
		・身体に手をかけてのヘルプに不安。転んだり、ケガさせたり、怖い面あり。 ・ボランティアのリスクケガさせる食中毒…

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
趣味余暇	心の栄養不足	意識啓発
・近所のことを教えてもらえた。 ・ひだまりサロンで、同じ趣味の仲間ができて嬉しかった ・共通の趣味を楽しめた。 ・近所のウクレレカフェでウクレレを習って同じ趣味の人と楽しめて良かった	・喜びとかのプラス感情が湧きにくくなる ・前向きな考え方ができなくなりそう ・行動半径がせまくなる(外出が減る) ・孤独を感じる(会話が少なくなる) ・不健康につながる。	・行事に参加してみる。 ・つながりはなんかの会に参加してみる ・意欲を持つきっかけを作る。 ・知り合いができたらい。 ・興味を示すような声かけ、情報チャリン
情報共有	SNS	居場所づくり
・近所のご飯屋でサービスしてもらえた。 ・インスタ自分の欲しい情報が入ってくる。 ・子どもの忘れ物が減った。 ・スグに会えない人でも、SNSでつながることができて、交流できてうれしい。	・困らない、SNSがあるから。特に現役時代は。	・年代を超えた居場所 ・悩み相談の窓口をもうける同じ悩みの人が集まって語り合う機会・場をもうける ・不登校の居場所づくり ・子ども、外国の方障害者、高齢者といった多様な世代と一緒に取り組める娯楽をしたい
相談支援	孤独・孤立	情報発信・きっかけづくり

・夫がいて、妻が入院した時に手続きや家庭の事などやってもらえた ・地域包括や社協の人達と顔見しりになれたこと ・心センターに通っているのに、身近に同じ悩みを持った人がいて、話をきいてもらえる。 ・入院の時色々とお世話になった。 ・中学校時代の親友と LINE でつながってることで、人生の悩みごとを聞いてもらえ支えてもらえること ・大変な時に支援ができた。	・寂しい。 ・悩みをひとりでかかえてしまう。ひとりで苦しい。 ・話し相手がいないさみしい孤独 ・相談ができにくい ・困った時に相談できない支援してもらえない ・家族以外のつながりが無い。 ・地域のことが何もわからない。情報が入ってこない。 ・SOS が出せない。 ・人とのつながりがへった。 ・引っ越して友人がいない。	・回らん板の復活 ・相談窓口を知る。 ・仕事をしてる人でも参加できる場や同世代で集まれる機会を増やす。 ・学校関係以外のつながりを増やすために、勉強会やこんだん会をもうける。 ・町ごとの SNS 発信 ・バス停にけい示板 ・調布市の情報をもっとInstagramなど、SNS で発信してもらう(紙じゃなくて) ・仕事がお休みの日でも、趣味のサロンなどがあるときっかけになる ・児童館や若者サポートステーションがあるのに、昔のような敬老館がないので高齢者の居場所が充実してない
交流		
・たまに会ってたのしい。 ・顔と名前が覚えられる。 ・安心できる。 ・寂しくない。支え合える。 ・PTA 活動→卒業してもつづいてる健康増進 ・平日だけでなく、仕事をしていても、お休みの日に、お話をしたり、一緒に楽しめる人が身近に欲しい ・長く付き合える友達ができた。		

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
出会い	モチベーション低下	あいさつ
・孤独が軽減される ・知り合いが増えた ・道端で会ったときにあいさつできる→安心 ・仲間を集められる ・紹介をしてもらえる。 ・今まで出会えなかったことない人と会えると視野が広がる	・たいくつかも。 ・ひまずきる。 ・出かける用事がなくなるシニアの教育＝今日行く ・出かけない	・あいさつからの会話 ・特に1人世帯の人に話しかける ・ふだんからあいさつや会話を心掛ける ・災害の時のために、ご近所さんとはあいさつする
助け合い	助け合い	助け合い
・水害(多摩川)があった時、声をかけ合って避難した。 ・安心・安全になかの時に助けてもらえる ・急に体調を悪くして、救急車を呼んでもらった。 ・協力を得られる ・編物でお世話になって助かった ・コロナに感染した時に買物をしてもらい助かった。	・困りごとでいきづまる ・助けを求めるのが遅くなる。 ・困った事があっても気軽に話せない頼めない。 ・SOS 出しても助けてもらえない ・家のトラブルをかくしたくなる(助けを求めない) ・スマホがわからない時	・自分ができる事をお手伝いする ・ヘルプを求める。 ・自分からきっかけをつくって友達に声掛けする ・SOS 出して良いことを伝えていく
情報	情報	情報
・地域の情報がキャッチできる ・情報が入る介護など	・地域のことが分からない	・つぶやきやすいツール ・身近な施設に情報掲示(スーパー、コンビニ、病院、銀行、学校、保育園)
気持ち	気持ち	ピンチをチャンスに！
・気晴らしができる ・自分の気持ちを聞いてもらえた ・楽しい ・10 筋体操のメンバーが減らないこと ・家族の入院の時知り合って今もお友達でいます。年令も違いなので	・人に合うのがイヤ ・気持ちが沈んでくる ・知らなかったことで引けめを感じる ・顔を合わせても会話がでない ・地域にどんな人が住んでいるかわからないとあいさつもできない。 ・まわりの様子がわからない不安。 ・孤独感・疎外感	・ちょっとした事件。(救急車を呼ぶ)(水もれ)(排水つまり)
お土産	お土産	居場所(お土産)
・お土産を渡せる ・お土産を選べる。買える。	・お土産を買えない	・公共施設の柔軟な解放(利用条件緩和)

		・お土産でお茶会をする ・エンガワ的な居場所
	災害編	地域イベント
	・災害時孤立無援 ・災害時等助け合いがむずかしい。 ・災害の時に困る助け合えない ・火事の時 ・急病の時	・防災訓練などの地域イベント ・美化活動参加しなきゃ的な ・地域の行事に参加するよう声をかける
	ポジ	出会い
	・わずらわしくない	・つながりを沢山もっている人とつながる
	機能低下 ・話す人がいないと、声が出なくなるかも？	

IV 調査のまとめ

第1章 地区別のまとめ

(作成中)

第2章 アンケート調査から見えた課題

(作成中)

第3章 住民懇談会から見た課題

(作成中)

調布市民福祉ニーズ調査
結果報告書

発行：調布市 福祉健康部 福祉総務課
TEL：042-481-7101（直通）
FAX：042-481-7058

発行年月：令和8（2026）年2月